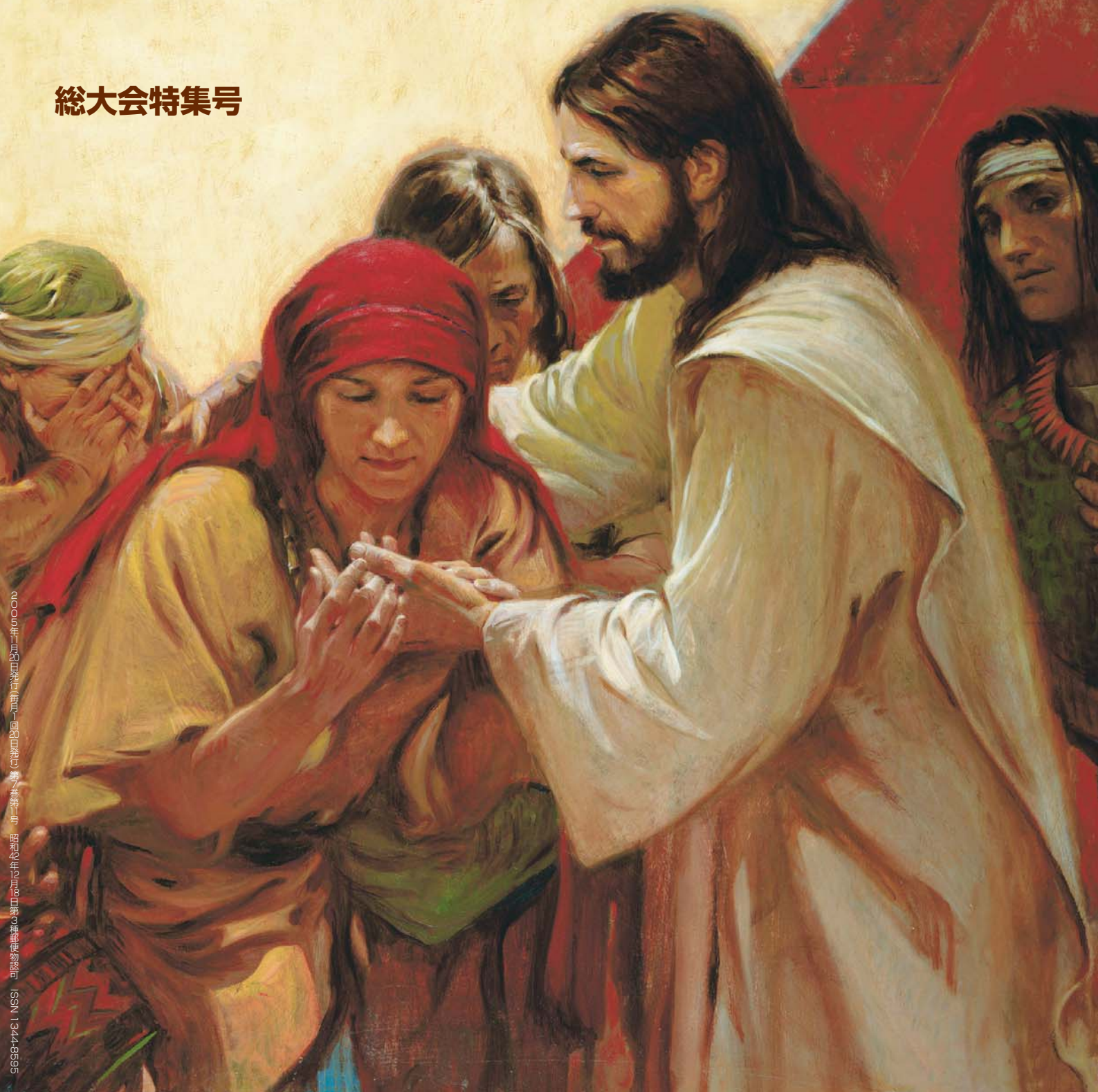


末日聖徒イエス・キリスト教会・2005年11月号

リアホナ

総大会特集号





描写は美しうていまま

「ジョセフのノーブー」アル・ラウンス画

「まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは再びあなたがたに命じる。わたしの名のためにまことにこの場所に一つの家を建てて、わたしから命じられるすべてのことに忠実であることを身をもって示し、また、わたしがあなたがたを祝福し、あなたがたに誉れと永遠の命を冠として与えることができるようにしなさい。」(教義と聖約124:55)

リアホナ

2 第175回半期総大会大会概要

●土曜午前の部会

- 4 開会に当たり
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 モルモン書を読むことから得られる祝福
十二使徒定員会 L・トム・ベリー
- 10 備えなさい。……今から後、強くありなさい
管理監督会第二副監督
キース・B・マクマリン
- 13 肉体の神聖さ
中央若い女性会長 スーザン・W・タナー
- 16 高い所へ向かう旅
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 20 目に宿る光
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

●土曜午後の部会

- 23 教会役員の支持
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 24 家庭と教会における神権の権能
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 28 若い女性の皆さんへ
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 31 真の幸福——意識的な決断
七十人 ベンハミン・デ・オヨス
- 33 「モルモン書——散らされたイスラエルを集める道具」
七十人 C・スコット・グロー
- 35 「キリストだったら……」
七十人 ボール・K・ジブラウスキー
- 37 霊的な備え——
早くから始め、絶えず積み重ねる
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 41 永続するものこそ最も大切なものである
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード

●神権部会

- 44 宣教師になる
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー
- 48 神聖な真理の探求
七十人会長 チャールズ・ディディエ
- 50 総大会の祝福
七十人 ボール・V・ジョンソン
- 53 召され、選ばれた者
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 56 最善を尽くして義務を果たす
第一副管長 トーマス・S・モンソン

- 60 備えていれば恐れることはない
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会

- 67 預言者ジョセフ・スミス——
模範による教師
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 70 シオンの丘
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー
- 74 万人に共通する規範
七十人会長 メリル・J・ベイトマン
- 76 わたしは聖文に喜びを感じる
中央初等協会会長 シェリル・C・ラント
- 78 真理の回復
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット
- 81 赦す^{ゆる}
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会

- 85 イエス・キリスト——偉大な癒し主^{いよ}
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 88 回復と再臨の備え——
「わたしの手はあなたのうえにある」
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 92 犠牲は喜び、そして祝福である
七十人 高 元龍
- 94 福音の聖約は、約束された祝福をもたらす
七十人 ボール・E・コーリカー
- 96 主の羅針盤
七十人 ローウェル・M・スノー
- 98 「わたしの羊を養いなさい」
七十人 ユリシス・ソアレス
- 100 キリストのような属性——
翼の揚力となる風
十二使徒定員会
ディーター・F・ワークトドルフ
- 103 閉会に当たり
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●中央扶助協会集会

- 105 ビデオ
「神の御手に使われる者」^{みこころ}
- 107 すばらしい瞬間
中央扶助協会会長
ボニー・D・パーキン

- 110 わたしたちすべてが
ともに天で座に着けるように
中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ
- 112 自分に対する主の御心を知る^{みこころ}
中央扶助協会第二副会長
アン・C・ビングリー
- 114 神の御手に使われる者
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 118 指導者の言葉——
大会の教えを生活に取り入れるために
- 120 わたしたちの時代のための教え
- 121 扶助協会の「家庭・家族・個人を豊かにする集いおよび活動」のガイド
- 122 アロン神権者および若い女性用リソースガイド
- 125 中央補助組織会長会
- 126 チャーチ・ニュース



第175回半期総大会大会概要

2005年10月1日土曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ハロルド・G・ヒラム長老。閉会の祈り——ダーウィン・B・クリステンソン長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——クレ・クリスチャンセン。「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；「主イエスよ、わが胸」『賛美歌』80番；“He, Watching over Israel”メンデルスゾーン；「導きたまえよ」『賛美歌』41番；「イエス様のように」『子供の歌集』40-41、ブラッドフォード編曲，Nature Sings 刊；「救い主、われ信ず」『賛美歌』72番，ウィルバーク編曲，未刊

2005年10月1日土曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——ジョン・H・グロバー長老。閉会の祈り——F・メルビン・ハモンド長老。音楽——ユタ州バウンティフル，ウッズクロス，およびソルトレーク北ステークの若い女性・若い男性合同聖歌隊；指揮——マイケル・ハフ；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ，ボニー・グッドリッフェ。「目覚めよ，起て」『賛美歌』7番，ハフ編曲，未刊；「光かがやく春の日に」『子供の歌集』57，ハフ編曲，未刊；「山の上に」『賛美歌』2番；“On This Day of Joy and Gladness”『賛美歌』〔英文〕64番，ハフ編曲，未刊

2005年10月1日土曜夜、神権部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——スティブン・B・オープンソン長老。閉会の祈り——アデマール・ダミアン長老。音楽——ユタ州オレム各ステークの神権を持つ父と息子の聖歌隊；指揮——ドナルド・リブリンガー；オルガニスト——ジョン・ロングハースト。“Truth Restored”ベーターベンとジョーンズ，リブリンガー編曲，未刊；「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番，フィエルステッド編曲，未刊；「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番；「シオンの若者，真理を守り」『賛美歌』163番，リブリンガー編曲，未刊

2005年10月2日日曜午前、一般部会

管理・司会——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り——F・バートン・ハワード長老。閉会の祈り——ネッド・B・ローシェイ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット，ジョン・ロングハースト。「夜明けだ，朝明けだ」『賛美歌』1番；「麗しき朝よ」

『賛美歌』18番，ウィルバーク編曲，未刊；「悩める旅人」『賛美歌』15番，ウィルバーク編曲，未刊；「わが神，わが王」『賛美歌』87番；“The Seer, Joseph, the Seer”『賛美歌』〔英文1948年版〕296番，ピーズリー編曲，IRI（テノール独唱——スタンフォード・オルセン）“Ode for Joseph”ブラッドショー，ジャックマン刊；「たたえよ，主の召したまいし」『賛美歌』16番，ウィルバーク編曲，ジャックマン刊

2005年10月2日日曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——H・オールドリッジ・ギレスピー長老。閉会の祈り——デニス・E・シモンズ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ，リンダ・マーゲッツ。「鉄の棒」『賛美歌』176番，ホルスト，ガルブレイス編曲，未刊；「愛あるところ」『子供の歌集』76-77，カードン編曲，未刊（フルート——ジャニー・ゴカリッツ，ハーブ——タマラ・オズワルド）；「来たれ，主の子ら」『賛美歌』31番；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番，ウィルバーク編曲，未刊

2005年9月24日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ボニー・D・パーキン。開会の祈り——パバラ・D・ロックハート。閉会の祈り——リリアン・B・デロン。音楽——ユタ州オレム各ステークの扶助協会聖歌隊；指揮——ダイアン・ライリー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ，ボニー・グッドリッフェ。「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番，マーゲッツとライリー編曲，未刊；“When I

Feel His Love”ベリー，未刊；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番，ウィルバーク編曲，未刊

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したテープ類は，通常，教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより，多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。—— www.lds.org。“Gospel Library”，“General Conference”の順にクリックし，言語を選択してください。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては，訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙の説明

表紙——「一人一人」ウォルター・レーン画，©2003 The Hand of Mormon Foundation，複写は禁じられています。

大会の写真

ソルトレーク・シティで行われた総大会の模様の写真撮影者は以下のとおりです。——クレグ・ダイヤモンド，ウェルデン・C・アンダーセン，ジョン・ルーク，マシュー・ライアー，クリスティーナ・スミス，スコット・デービス，レス・ニルソン，ロッド・ボーム，アンバー・クロウソン，シャノン・ノートン，アドリアノ・ペドビ（ブラジル），デビッド・アンダーソン（フランス），イスラエル・グティエレス（メキシコ），ロッド・フメキ，リー・カケンダーファー（ミシガン），メイソン・ウォー（ペルー），ジュデイス・ジョンストン・ニウエルア（サモア）



リアホナ 2005年11月号

第7巻第11号(25991 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、
ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン

実務運営ディレクター: デビッド・フリッシュニート

企画編集ディレクター: ピクチャー・D・ケーブ

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

機関誌編集ディレクター: リチャード・M・ロムニー

編集主幹: マービン・K・ガードナー

編集スタッフ: コレット・ネベカー・オース、スーザン・バレット、シャナ・バトル、
ライアン・カー、リンダ・ステール・クーパー、ラリー・ポーター、
ガント、ジェニファー・L・グリーンウッド、R・バル・ジョンソン、
キャリー・カستن、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーク、
アダム・C・オルソン、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、
ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリー、
シャネット・トーマス、
ポール・バンデンバーグ、
ジュリー・ワードル、
キンバリー・ウェット

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: ハワード・G・ブラウン、トーマス・S・チャイルド、
レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、
デニス・カービー、
タッド・R・ピーターソン、
ランドール・J・ピクストン、
カリ・A・トッド、
クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

印刷ディレクター: クレグ・K・セウィック

配送ディレクター: クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ
リスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大月号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール: cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の
言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライ
ナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロ
アチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セ
ブア語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デ
ンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、
フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド
語、ポルトガル語、マラガスカ語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト
アニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において
臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。
視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines November 2005.

Japanese. 25991 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

November 2005 no. 11 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-
4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints,
50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is
\$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage
Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days
notice required for change of address. Include address label from a recent
issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub-
scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.
Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,
MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste
Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイリング、ヘンリー・B……………37
ワークトドルフ、ディーター・F 100
オークス、ダリン・H……………24
グロー、C・スコット……………33
高元龍……………92
コーリカー、ポール・E……………94
ジブラウスキー、ポール・K……………35
ジョンソン、ポール・V……………50
スコット、リチャード・G……………78
スノー、ローウェル・M……………96
ソアレズ、ユリシス……………98
タナー、スーザン・W……………13
デ・オヨス、ベンハミン……………31
ディディエ、チャールズ……………48
ネルソン、ラッセル・M……………85
パーキン、ボニー・D……………107
パッカー、ボイド・K……………70
バラード、M・ラッセル……………41
ヒューズ、キャスリーン・H……………110
ピングリー、アン・C……………112
ヒンクレー、ゴードン・B……………4, 60, 81, 103, 105
ファウスト、ジェームズ・E……………20, 53, 114
ベイトマン、メルル・J……………74
ヘイルズ、ロバート・D……………88
ベドナー、デビッド・A……………44
ベリー、L・トム……………6
ホランド、ジェフリー・R……………28
マクマリン、キース・B……………10
モンソン、トーマス・S……………23, 56, 67
ラント、シェリル・C……………76
ワースリン、ジョセフ・B……………16

テーマ別索引

あ愛……………67, 81, 98, 110
あ証……………28, 33
あ証……………74, 78, 81, 85

イエス・キリスト……………10, 31, 37,
70, 74, 78, 81, 85, 100
祈り……………37
癒し……………85
教えること……………67
か改宗・改心……………35, 48, 85, 100
回復……………74, 88, 103
家族……………24, 41
活発化……………35, 98
神の特質……………28, 78
義……………4, 10, 16, 31, 60, 76
犠牲……………92, 94
義務……………56
虐待……………24
教会の発展……………4, 70
キリストの光……………20
勤勉……………67, 96
悔い改め……………37, 81, 85
啓示……………20, 48, 50, 70
結婚……………24, 41
権威・権能……………24
幸福……………20, 31, 41
子供……………41, 76
さ再臨……………88
支持……………53
指導者・指導性……………24, 53
従順……………10, 16, 37, 44, 48, 50,
60, 76, 78, 94, 96, 100, 112
じようぶん
什分の……………37
祝福……………6, 92
正直……………67
女性の務め……………24, 28, 114
自立……………60
シングルアダルト……………24, 114
神権……………24, 44, 53, 56, 60
信仰……………10, 37, 56, 60, 67,
94, 96, 98, 100, 112
神殿・神殿活動……………4, 13, 16, 94
人道支援……………60

真理……………48
救いの計画……………37, 74, 78
スミス、ジョセフ……………67, 88, 103, 105
聖文学習……………6, 37, 41, 48,
70, 76, 88, 92, 112
聖約……………20, 33, 44, 94, 110, 112
聖霊……………16, 20, 48, 78
選択の自由……………16, 31,
78, 100, 112
総大会……………50, 96
備え……………10, 37, 44, 60, 70
た知恵の言葉……………13
慎み深さ……………13, 28
定着……………98
伝道活動……………33, 35, 44, 67, 112
道徳……………13, 41, 78
な肉体……………13, 28
忍耐……………67, 98
は背教……………53, 78, 88
母親の務め……………107, 114
美……………13, 28
負債……………53
扶助協会……………105, 107, 110, 114
平安……………48
奉仕……………16, 35, 56,
60, 107, 110, 114
ボルノグラフィー……………50
ま守り……………60
召し……………53, 56
模範……………33, 67
モルモン書……………6, 33, 70, 74, 76, 88
や勇気……………67
ゆる
救し……………81
預言者……………6, 16, 48, 50, 53
喜び……………92
わ若い女性……………28

開会に当たり

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

ようらん
**揺籃期の教会が現在の規模と評判を得るほどに発展を遂げたのは驚異的です。
しかも、これはさらに大いなる発展のほんの序章にすぎません。**



兄 弟姉妹の皆さん、教会の世界大会によくそいちゃいました。ここソルトレーク・シティーの大きなカンファレンスセンターは満席です。この地域にあるほかの施設も満席です。ここ以外の多くの国々、地域の会場に集っている皆さんに向けてもわたしたちは話します。皆さん一人一人を歓迎します。皆さんを兄弟姉妹として愛しています。

70年以上も前、わたしはイギリスで伝道していました。当時の大英帝国は一部でまだ健在でした。かつてはどの国よりも世界の広範囲にわたって政治勢力を伸ばしていました。大英帝国に日は沈まないと言われていたほどです。イギリスの国旗ユニオンジャックは世界中ではためていました。

この帝国は多くの地域に多大な恩恵をもたらしましたが、同時に甚だしい苦悩をも与えていました。それは、征服や抑

圧、戦争、紛争の結果として生じたものです。イギリスの兵士は世界中の墓に埋葬されました。

今では大英帝国はなくなりました。ラドヤード・キプリングはその詩「退場の歌」(Recessional)の中で大英帝国の衰退について次のように書いています。

はるかかなたに遠征した我らの海軍は
消え去り、
砂丘と岬に戦火はやむ。
見よ、我らの昨日の輝きはすべて
ニネベとツロとともにある。
("God of Our Fathers, Known of Old,"
『賛美歌』[英文]80番)

現在、もう一つの帝国があります。主なるキリストの帝国、回復された福音の帝国、すなわち神の王国です。この王国に日が沈むことはありません。征服や紛争、戦争によってではなく、一人一人に穏やかな言葉で説得し、証し、教えることによって築いてきた王国です。

御存じのとおり、今年教会はジョセフ・スミス生誕200年および教会設立175周年を記念する行事を行っています。

ようらん
揺籃期の教会が現在の規模と評判を得るほどに発展を遂げたのは驚異的です。しかも、これはさらに大いなる発展のほんの序章にすぎません。

神殿の建設はこの発展を示す一つの指標です。現在儀式が執行されている神殿は世界各地に122あります。これらの神殿から教会員は大いに祝福を受けています。神殿推薦状を持つ資格のある人はす



べて、忠実な末日聖徒として認められたことにもなります。じゅうぶん 什分の一を完全に納め、知恵の言葉を守り、家族と好ましい関係を築いており、地域社会においては善良な市民です。神殿の業に携わることは、教会でのあらゆる教えや活動が最終的に目指すところ です。

昨年は3,200万の儀式が神殿で執行されました。これは年間で過去最高の執行



ある部会の開始を目前に控え、聴衆で満席となったカンファレンスセンター。

数です。現在幾つかの神殿は参入を希望する人の数が収容限度を越えています。忠実な聖徒たちの必要と希望に応じられるよう、対策を講じなければなりません。

以前に、ソルトレーク盆地の南東地区に新しい神殿を建てると発表しました。わたしたちはさらに、ソルトレーク盆地の西地区と南西地区に二つのすばらしい建設用地を、造成業者の親切な計らいによ

り、取得しました。今朝公に発表しますが、最初の建設用地は、いわゆる「デイブレーク」開発地域にあります。皆さんは、ユタばかりどうして次々と計画が進むのかと思うかもしれません。神殿活動の活発さの度合いにより、そうせざるを得ないからです。しかし、ほかの地域での新たな神殿の建設も進んでいます。アイダホ州レックスバークとツインフォールズ、カリ

フォルニア州サクラメント、フィンランドのヘルシンキ、パナマのパナマシティー、ブラジルのクリチバです。もう一つ建設が予定されていますが、まだ発表の段階ではないので場所は伏せておきます。間もなく発表します。神殿建設が検討されている地域も幾つかあります。今名前を挙げた神殿は皆、教会がすでに土地を取得しており、建築の様々な段階にあります。

このすべてを可能にした教会員の献身的な働きに感謝しています。

地上の各地に次々に神殿が建設されるにつれ、神殿活動を進めるうえで困難な側面が幾つか現れてきています。その中で最も大きなものの一つに、同一人物に儀式が重複して施されるという問題があります。いろいろな国で同時に同じ家系を調べていくと、同じ名前にたどり着きます。ほかの地域でだれかが同じ作業をしているかどうかは分かりません。このため、時に系図の探求には非常に難しい要素がからんできます。このような儀式の重複を避けるため、コンピューター技術に問題の解決を求めているところです。テスト試行では良い結果が出ています。実用化されれば、世界中の神殿活動で非常に目覚ましい発展が見られることでしょう。

さて、御存じのように、わたしたちは衛星放送によるステーキ大会を開いています。教会は発展して非常に大きな組織となっているため、大管長会と十二使徒定員会の会員、そのほかの中央幹部による各ステーキの訪問はもはや不可能であり、ステーキの再組織と分割のときのみにとどめざるを得なくなりました。中央幹部がソルトレーク・シティで行う説教を世界中の人々がステーキセンターやその他の施設で視聴することが、衛星放送によって可能になりました。これは、目を見張る、すばらしい進歩です。

同じ方法で多くの教会員が今日、この大会に参加しています。わたしたちは全世界に広がる一つの大きな家族となつてともに歌い、祈り、幹部の兄弟たちの教えと証に耳を傾けます。

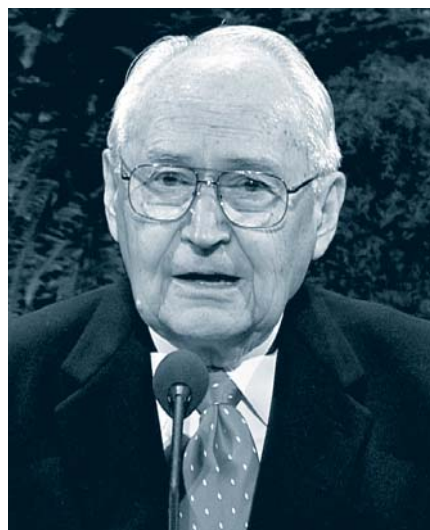
すばらしい末日聖徒の皆さんのすべての行いに感謝しています。地域七十人、監督会、ステーキ会長会、補助組織の指導者、神殿長会、伝道部長会、そのほか、時間、努力、金銭を惜しみなく使って地上に神の王国を築く業を進めている非常に大勢の人々に感謝しています。

わたしの兄弟姉妹である皆さんのうえにえりすぐりの祝福が天から注がれますよう、イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります。アーメン。

モルモン書を読むことから得られる祝福

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

今やモルモン書を研究し、その原則を学び、生活の中で実践するかどうかは、わたしたちにかかっているのです。



毎月このすばらしい機関誌『エンサイン』(Ensign)が届くのを楽しみにしています。毎月掲載される大管長会メッセージにより、わたしは強められています。8月号の『エンサイン』と『リアホナ』には、今年末までにモルモン書を読むように、または読み直すようにというヒンクレー大管長からのチャレンジが載っていました。

なぜ今日モルモン書を読むことがわたしたち一人一人にそれほど有益になると考えているのでしょうか。大管長は次のように述べています。

「モルモン書は永遠の真理であり、全人

類のための書物です。モルモン書にはまた、それが真実であることが神の力によって明らかにされるという約束が記されています。そのような書物はほかにありません。

モルモン書の起源は驚くべきものであり、モルモン書が世に出た経緯を聞く人は、初めはほとんど信じられないかもしれません。しかし、モルモン書は確かに実在し、手に取って読むことができます。だれもその実在自体を否定することはできません。……

民であれ国家であれ、神を畏れ、神の戒めに従うならば、繁栄と発展を享受しますが、神を軽視し、神の言葉に注意を払わなくなると、民は墮落し始め、義をもって食い止めないかぎり、無力になり、滅びに向かいます。この事実をかくも明解に説いた書物は……ほかにありません。」(「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、4-5)

なぜ今日モルモン書を読むことがそれほど大切なのでしょう。それは、そもそもモルモン書が、それが書かれた時代の民よりも、将来の人々のために書かれた書物だからです。モルモン書の主要な記録者はそのことをよく理解していました。モロナイはわたしたちの時代に向けて言いました。「わたしはあなたがたがここにいるかのように語っている。」(モルモン8:35)

預言者ニーファイは次のように言いました。

「さて、このような理由で、主なる神は、わたしが書き記すこれらのものが保存され、残されて、代々わたしの子孫に伝えられると約束してくださった。それによって、ヨセフの子孫は大地のあるかぎり決して滅びることはないという約束が、ヨセフに対して果たされるのである。」(2ニーファイ25:21)

モルモン書は現代の人々への警告の声です。以下のように、モルモン書には今日の地上の状況が鮮明に描かれています。

「だれも、これらの〔記録〕は出て来ることはないと言ってはならない。主が言われたので、これらのものは必ず出て来るからである。これらのものは主の手によって地から出て来る。だれもそれを妨げることはできない。それは、奇跡がやんでしまったと言われる時代に出て来る。あたかも人が死者の中から語るかのようにそれは出て来る。

聖徒たちの血が秘密結社と闇の業のことで主に叫んで訴える時代に、それは出て来る。

まことに、神の力が否定され、もろもろの教会が汚れたものとなり、教会の者たちが高慢な心で高ぶる時代に、それは出て来る。まことに、教会の指導者たちと教師たちが心を高慢にして、彼らの教会に属する者たちが彼らをねたみの目で見えるようになる時代に、それは出て来る。

まことに、ほかの国々の火と暴風雨と立ち込める煙のことを伝え聞く時代に、それは現れ出る。

またそのとき、様々な地における戦争と戦争のうわさと地震のことも伝え聞くであろう。

まことに、地の面にひどい汚れがあり、殺人と強盗と偽りと欺きとみだらな行いとあらゆる忌まわしい行いがある時代に、また、『これを行え。あれを行え。それをしてもかまわない。主は終わりの日に弁護してくださる』と言う者が多くいる時代に、それは出て来る。しかし、このように言う者は災いである。彼らは苦汁の中におり、罪惡の縄目を受けているからである。」(モルモン8:26-31)



エズラ・タフト・ベンソン大管長は、モルモン書が現代にとって特に価値を持つという事実を再確認して次のように言いました。

「モルモン書は現代のために書かれました。この書物の著者は神です。現代人を祝福するために、靈感された人々が編さんした、墮落した民の記録です。当時の人々はこの書物を手にしていません。わたしたちのために書かれたのです。モルモン——この古代の預言者の名にちな

んでこの書物は名付けられました——によって、数世紀分の記録が短くまとめられました。神は初めから終わりを御存じであり、現代人に必要な事柄として何を載せたらいかをこのモルモンにお教えになったのです。」(「モルモン経は神のみ言葉」『聖徒の道』1975年8月号、366参照)

わたしたちはこの書物を、おもに墮落した民の歴史として読むことがどれほど多いことでしょう。預言者たちが人をキリストへ導くために靈感を受けて編さん

したということが忘れられています。モルモン書の主要な記録者たちには、歴史を書く意図はまったくありませんでした。実際、ヤコブは兄ニーファイから「この民の歴史については、少ししか触れてはならない」と命じられたと述べています(モルモン書ヤコブ1:2)。

この書物を読む度に、次のように自問すべきです。「これを書いた人々は、なぜこの話や出来事を記録したのだろうか。今のわたしたちにどんな価値があるのだろうか。」

モルモン書は、戦争の原因と結果、また戦争が正当化されるのはどのような状況においてであるかを教えています。権力と利益を得るために作られた秘密結社の、悪と危険性について教えています。また、サタンが実在し、どのような手段で人を惑わすかについて述べています。富の適切な使い方についても教えています。福音の分かりやすくして貴い真理を教え、イエス・キリストが実在し、神であられ、全人類の贖罪の犠牲となられたことを教えています。終わりの時におけるイスラエルの家の集合についても教えています。伝道の目的と原則についても教えています。さらに、高慢、無関心、引き延ばし、誤った伝統の危険性、偽善、不貞について警告しています。

今やモルモン書を研究し、その原則を学び、生活の中で実践するかどうかは、わたしたちにかかっているのです。

モルモン書の最初の話は、家族が聖典を持ち、活用することの大切さについて教えています。預言者である父リーハイは、民から命をねらわれていると警告されました。それはリーハイが民の悪事についてははっきり述べたからです。それで、リーハイは家族を連れて逃げるように指示されました。

「そして、父は荒れ野へ出て行った。父は自分の家や受け継ぎの地、金や銀、貴重品を後に残して、家族と食糧と天幕のほかは何も持たずに荒れ野へ出て行った。」(1ニーファイ2:4)

しばらく旅をした後、リーハイは夢を見ました。夢の中で主が言われるには、エ

ルサレムへ戻って、^{しんちゅう}真鍮の版に刻まれた先祖の記録を手に入れるまでは、これ以上旅を続けてはならないということでした。その版にはまた、預言者たちの言葉や主の戒めも載っているのです。リーハイの4人の息子たちは、戻ってその記録を手に入れて来るように命じられました。

4人はエルサレムに着くと、だれがラバンの家へ行き真鍮の版を譲ってくれるように頼むか決めるために、くじを引きました。くじに当たったレーマンは、ラバンのもとへ行きました。「そこで見よ、ラバンは、ひどく怒ってレーマンを自分のもとから追い出し、その記録を渡そうとはしなかった。またラバンはレーマンに、『おまえは盗賊だ。殺してやる』と言った。」(1ニーファイ3:13)レーマンは逃げて助かりましたが、真鍮の版は手に入れられませんでした。

この最初の試みについて考えてみると、4人は十分な計画を立てていなかったように思えてきます。これは、聖文の研究にも当てはまる、重要な教訓です。具体的な計画を立てて臨むことにより、モルモン書を読む決意の強さを示しましょう。

ヒンクレイ大管長は、『エンサイン』と『リアホナ』の記事の中で言いました。「全世界の教会員と友人の皆さんに一つのチャレンジをします。モルモン書を読んでください。あるいはもう一度読み直してください。」そして、大管長はそれを達成するための計画を提案しています。「毎日1章半を少し上回るくらい読めば、今年中に全部読み終えることができるでしょう。」(『リアホナ』2005年8月号、6) 8月と9月はもう過ぎてしまいました。ヒンクレイ大管長の計画に従っていれば、今頃アルマ書4章から12章のあたりを読んでいるはずですが、皆さんはスケジュールより先に進んでいますか、それとも遅れていますか。

真鍮の版を手に入れる最初の試みに失敗すると、ニーファイの兄たちはあきらめて、荒れ野にいる家族のところへ戻りたいと思いました。しかし、ニーファイはあきらめないように励まし、記録を得る別の方法を提案しました。「主の命令を忠実に守りましょう。父の受け継ぎの地へ行きましょう。まことに、父は金や銀など、あ

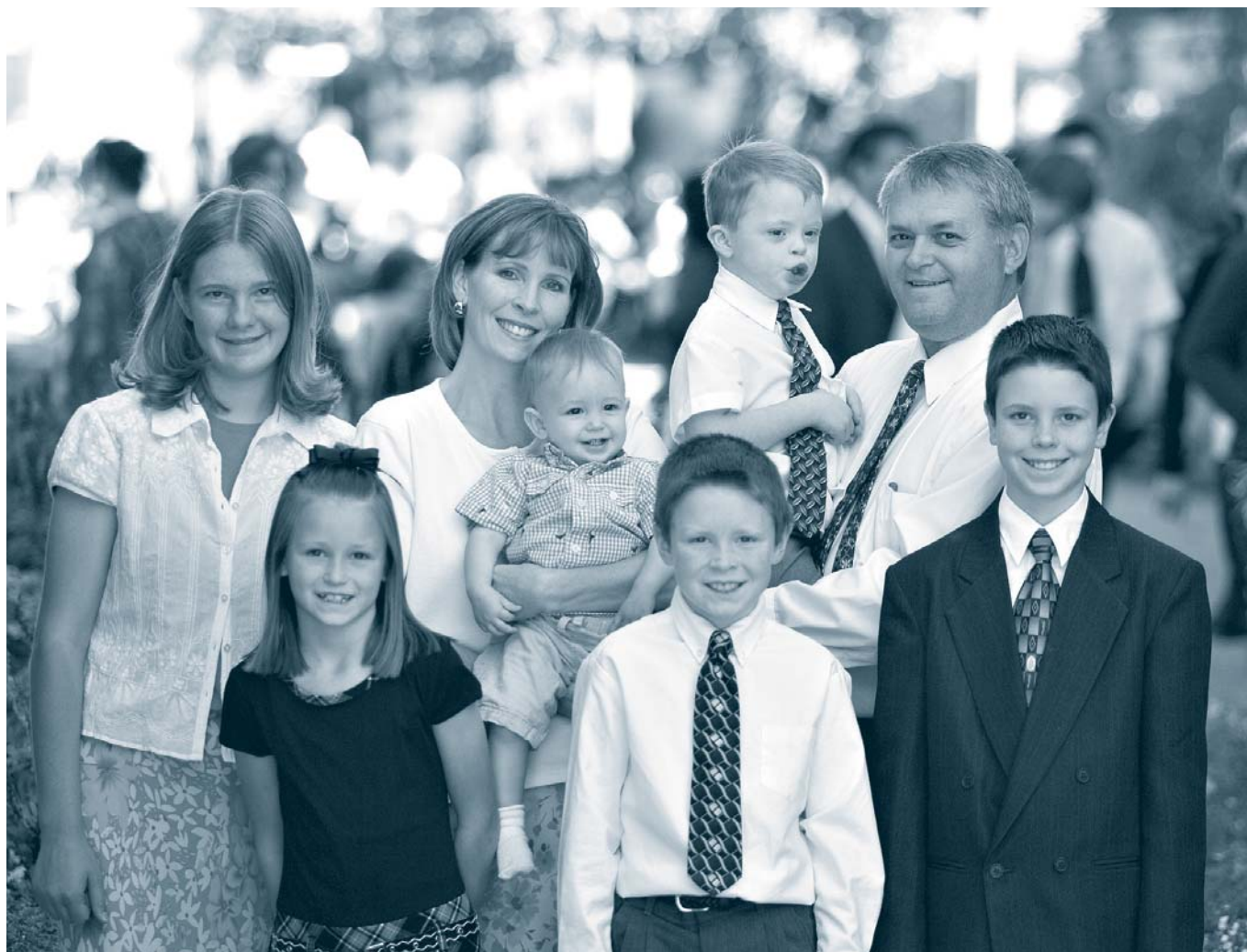
らゆる富を後に残してきているからです。そして父は、これをすべて主の命令によってしたのです。……

さて、わたしたちはラバンのところに行つて、金や銀やすべての貴重品を渡す代わりに、……記録をわたしたちに譲ってくれるように頼んだ。」(1ニーファイ3:16、24)

ニーファイの模範は、聖文の祝福は財産やその他の世俗的なものよりもずっと価値があることを教えてくれます。この世のものからは、一時的な楽しみが得られることはありますが、永続する喜びや幸福は得られません。御霊にかかわる事柄を求めれば、永遠の報いが得られ、人が一生を通じて探し求めている喜びを得ることができるのです。

ヒンクレイ大管長は、モルモン書を読むことにより、この世の事柄を超越し、主にかかわる事柄に喜びを見いだすよう励ましています。大管長はこう述べています。「わたしは皆さんに、何のためらいもなくはっきりと約束します。これまでに何度読んだかに関係なく、皆さん一人一人がこの簡単なチャレンジを実行するなら、皆さんの生活や家庭の中に、さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになるでしょう。」(『リアホナ』2005年8月号、6) これはこの世のどんなものよりもはるかに価値ある祝福です。

ニーファイと兄たちが財宝と交換に真鍮の版を譲ってほしいと頼むと、ラバンは財宝を取り上げ、彼らの命を奪おうとしました。レーマンとレムエルは度重なる失敗に大いに落胆し、このような不可能な任務はあきらめた方がよいと再び思いました。しかし、ニーファイは主の命令に従うという強い決意を曲げることなく、次のように兄たちを説得しました。「わたしたちはまたエルサレムへ上って行きましょう。そして、主の命令を忠実に守りましょう。まことに、主は全地にも増して力ある御方なので、どうしてラバンとその家来の五十人よりも力が劣ることがあるでしょうか。いや、ラバンに何万人あっても主の力にはか



ないません。」(1ニーファイ4:1)

主を信じて再び務めに向かうと、今度は望ましい結果を得ることができました。ニーファイが記録を手に入れるために御霊に導かれて行くと、ラバンがニーファイの手に渡されました。ニーファイは信仰と従順により、自分と家族のために、聖文を持つことによる祝福を確保したのです。真鍮の版を手に入れたニーファイと兄たちは、荒れ野の父のところへ戻り、旅を続けることができました。

もし信仰をもってヒンクレイ大管長のチャレンジにこたえるなら、モルモン書の研究の結果として祝福が得られます。わたしたちはそのことについて預言者から確かな約束を受けています。ニーファイとその家族のように、聖文が「望ましいもの」であり、「わたしたちにとって大きな価値のあるもの」であることが分かるでしょう(1ニーファイ5:21)。また、モロナイが

モルモン書の最後で約束している祝福を受けることができるでしょう。

「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。」(モロナイ10:32)

今年は預言者ジョセフ・スミスの生誕200年を記念する年です。モルモン書は、預言者ジョセフの教導の業とイエス・キリストの教会が回復したことの力強い証拠です。ヒンクレイ大管長は前回4月の総大会でモルモン書についてこう述べました。

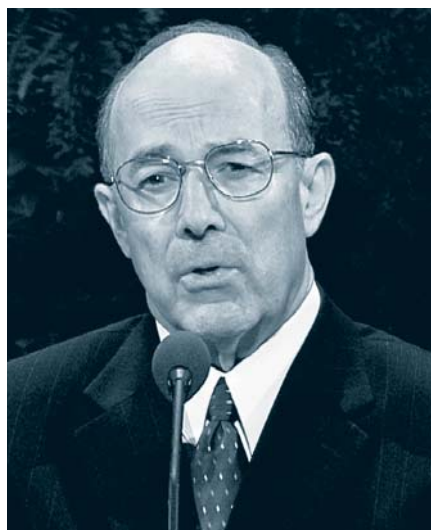
「〔それは〕手に取り、読み、そして試してみることであり、形あるものです。……モルモン書はキリスト教世界のすべての人が手を伸ばし、喜んで受け、信奉したいと思っ^{みこころ}て然るべき、躍動感にあふれた証^{あかし}です。それは預言者ジョセフに啓示として与えられた、もう一つの偉大で根本的な事柄なのです。」(「神が啓示された偉大な事柄」『リアホナ』2005年5月号、82参照)

わたしたち一人一人が、現在の生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長のチャレンジにこたえて、年末までにモルモン書を読み、回復の預言者ジョセフ・スミスに敬意を示すことができるように祈っています。モルモン書に記されている、永遠の価値を持つ神の御言葉を味わい、御言葉によって満たされるように、読書計画を立て、信仰をもってその計画に従うことができますように。イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

備えなさい。 ……今から後、 強くありなさい

管理監督会第二副監督
キース・B・マクマリン

個人の義が確立された人々の間で、悲劇が勝利を得ることは決してあり得ないのです。



会話の中で、言いたいことが誤解され、軽んじられたまま、突然、話を続ける権利を奪われたことはありませんか。約25年前、そのような経験をしました。その会話が中途半端になったことは、今でも残念です。

当時伝道部長だったわたしは招きを受け、数人の教会員とともに、伝道部内に住むある市長を訪問しました。市長はわたしたちを部屋に通し、温かく歓迎してくれました。わたしたちは、当時の関心事について意見を交わしました。しばらくして市長は、教会がその市で伝道している理由を尋ねてきました。

その質問は、ある程度予想してしま

た。市長がそう問いかけることと、わたしがどう答えるべきかについて、数週間前から靈感を受けていたのです。わたしはこう答えました。「イエス・キリストの福音には、この世のあらゆる問題への答えがあります。この市の皆さんが抱えていらっしゃる問題の答えもあります。だからわたしたちはここにいます。」

市長はもっと聞きたがると思い込んでいたのですが、反対に、態度を変えました。懐疑心が、次いで、軽蔑の念が彼の表情から見て取れました。「そんな生易しいやり方が世の中に通用するわけがない」とどなるやいなや、市長はその場で会談を打ち切ったのです。それ以上の説明は許されませんでした。

今朝は、あのときの続きを話します。あの市長の耳に届くよう願っています。混乱する世の中にぜひ必要な事柄だからです。

ここ数年の恐ろしい災害で、わたしたちの心は沈んでいます。災害の頻度も激しさも増えています。自然は怒り狂ったように猛威を振るい、人間は無慈悲な殺戮を続け、歯止めの利かない欲望は性の放縦や犯罪を生み出し、崩壊する家族も異常に増えています。南アジアの津波と合衆国のハリケーンは、甚大な被害をもたらし、最近の災害の中でも特に注目を集めました。深刻な被害を被った人々に、世界中から心と手が差し伸べられまし

た。しばらくの間、対立感情は愛と哀れみに取って代わりました。

被災者たちは、その悲惨な境遇を通して、人が神に依存していることをわたしたちに思い出させてくれました。避難キャンプの母子家庭の母親は、息子たちを失った苦痛の中で「信仰をなくすわけにはいきません」と涙ながらに言いました。カトリナに町を破壊された人々は「わたしたちのために祈ってください!」¹と懇願しました。

災害の原因を探る議論は、延々と続いています。評論家、政治家、科学者など大勢の人が、様々な意見を持っています。

主イエス・キリストは、主の福音の回復についてこう言われました。

「主なるわたしは、地に住む者に下る災いを知っているの、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた。……」

これらの戒めを調べなさい。これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するからである。²

災害が存在する理由や目的に目を向けてみましょう。幸い、この点で議論は必要ありません。よりどころとなるキリストの完全な福音があるからです。モルモン書や聖書の預言者の言葉を調べてください。マタイによる福音書第24章³にあるイエス・キリストの教えを読んでください。教義と聖約⁴にある末日における主の啓示を学んでください。そうすれば、このような災害に関する神の目的が分かります。

災害とは逆境の一つであり、逆境とは神の子供たちが幸福を得られるように、天の御父がお作りになった計画に欠かせないものなのです。

神の御前に正しい心を持てば、逆境を通して学び、肉の性質に打ち勝つ力を得、内なる神聖な特質を養うことができます。逆境がなければ、「より良い方」⁵を選ぶことを学べないでしょう。逆境により、悔い改めるべき点や、抑制すべき卑しい欲望を知り、義を胸に抱き、「良心の安らぎ」⁶を享受できるようになるのです。

義を固く守れば、救い主からさらなる



ゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央)とトーマス・S・モンソン第一副管長(左), ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

守りを受けることができます。主は創造主、全宇宙の主であられます。主は風や波を静め、⁷ その教えと贖いにより、悔い改めた人を癒されます。主はメシヤ、解放者であられ、主のおかげで人は、悲劇に遭ったときでさえ、自分の分を果たすことができるのです。次の真理に耳を傾けてください。

「そして時が満ちると、人の子らを墮落から贖うためにメシヤが来られる。人の子らは墮落から贖われているので、すでにとこしえに自由となり、善悪を知るようになっている。彼らは、神が下された戒めによって、大いなる終わりの日に律法に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。

そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪

魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」⁸

悪魔は破壊者であることを覚えておく必要があります。

この世の自由にも、現世という環境の下で一定の制限があります。遠方での戦争をいつまでも続けることはできないでしょうし、か弱い腕で荒れ狂う嵐を押し戻したり、弱った体で自由に走り回ったりすることはできないでしょう。それでも、最終的に個人をコントロールするのは外的要因ではなく、その人自身なのです。

預言者ジョセフ・スミスは宣言しました。「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり、わたしたちが意図するものである。わたしたちがそこに通じる道に従っていけば、最後に到達できるものである。その道とは、徳、公正、忠実さ、聖さ、そして神のすべての戒めを守ることである。」⁹

ですから敬愛する市長、確かにイエス・キリストの福音は、この世のすべての問題に対する答えなのです。なぜなら、福音はあらゆる人の悩みを解決するから

です。

災害が起きる度に、自分をさらに高めるといふ神聖な義務がわたしたち一人一人に課せられます。こう自問するとよいでしょう。「この懲らしめを心楽しく忍耐できるようになるには、生活のどこを変える必要があるだろうか。」

聖文には、そのような裁きが下ったわたしたちに主が何を望まれるかが明確に示されています。「それゆえ、腰に帯を締めて、備えなさい。見よ。王国はあなたがたのものであり、そして敵は勝利を得ないであろう。」¹⁰

教会と教会員には自立することが求められています。¹¹ まず必要なのは、いかなる波乱をも乗り越える信仰です。現世は備えの旅だと考えるべきです。主とその福音への信仰があれば、恐れに打ち勝ち、霊性がはぐくまれます。

「祈ることと、主の前をまっすぐに歩むこと」¹² により、霊性が増します。そうすることで「自分に打ち勝ち、神と交わることを自覚」¹³ できるのです。

信仰と霊性、そして従順によって、備え、自立していくことができます。什分の一の律法に従うことで、破壊者の力は抑えられ、欠乏から守られます。断食の律法に従い、人のことを気かけ、惜しみなく与えるなら、祈りは聞かれ、家族の忠誠心が増します。同じような祝福は、預言者の勧告に従って収入の範囲内で生活し、不必要な借金を避け、自分と家族のために最低1年分の生活必需品を蓄えることによって、受けることができます。容易ではないかもしれませんが、「最善」¹⁴を尽くすならば、蓄えは尽きるどころか「十分にあり余る」ことでしょう。¹⁵

主はさらにこう言われました。「それゆえ、あなたがたは今から後、強くありなさい。恐れてはならない。王国はあなたがたのものだからである。」¹⁶

義になかった生活により、強さと回復力が備わります。聖徒であるのは日曜だけで、あとは怠けている人は、義とはされません。欲望を放置することは有害です。人が「神聖な物を軽んじ」るようになるからです。¹⁷ プリガム・ヤング大管長はこう教えました。「アダムとエバのすべての子孫に付きまとう一つの罪は、知っているのに行わないということである。」¹⁸

イエス・キリストの福音は義へと続く道です。個人の義が確立された人々の間で、悲劇が勝利を得ることは決してあり得ないのです。ですから使徒パウロの次の勧告に耳を傾けましょう。

「夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。」

そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。

あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。」¹⁹

末日聖徒の務めは、自分自身と、この地球と、地球に住む人々を、主イエス・キリストの再臨に備えることです。福音が教えるように備え、強くなることにより、この世と永遠における幸福を得て、この「福千年における……壮大な使命」が可能に



なります。

愛するヒンクレイ大管長はこう勧告しています。「さて、兄弟姉妹の皆さん、もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、福千年における末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深めるように精神を集中する時が来ました。今は堅固に立つべき時です。自分たちに与えられている使命の意義、大きさ、重要性をよく理解したうえで、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、それをいとわずに、正しいことをなすべき時です。戒めを守るべき時です。悲しみの中にある人々、また暗闇と苦しみの中をさまよっている人々に、愛と優しさを示す時です。すべての人間関係において、お互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なおいっそうキリストに近い生活をする時なのです。」²⁰

主の預言者によるこの勧告は、波乱の時代に進むべき道を示しています。苦しんでいる皆さん、わたしたちは皆さんのことを心にかけています。天の御父が限りない憐れみをもって皆さんの重荷を軽くされ、「人知ではとうてい測り知ることの

できない」²¹ 平安で皆さんが満たされますように。皆さんは孤独ではありません。わたしたちの愛と信仰と祈りは皆さんの愛、信仰、祈りと一つです。義の中を前進すれば、すべてはよし、と言えるときが来るのです。

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. エバン・トーマス “The Lost City,” *Newsweek*, 2005年9月12日付, 44で引用
2. 教義と聖約1:17, 37
3. ジョセフ・スミス—マタイも参照
4. 教義と聖約45章, 88章, 101章, 133章参照
5. “Father in Heaven, We Do Believe” 『賛美歌』(英語) 180番
6. モーサヤ4:3
7. マタイ8:25–27; マルコ4:39参照
8. 2ニーファイ2:26–27, 強調付加
9. *History of the Church*, 第5巻, 134–135
10. 教義と聖約38:9
11. 教義と聖約78:13–14:『主の道にかないて助けをなす——福祉に関する指導者ガイド』5参照
12. 教義と聖約68:28
13. デビッド・O・マッケイ, *Conference Report*, 1969年10月, 8
14. ゴードン・B・ヒンクレイ「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 21参照
15. 教義と聖約104:17
16. 教義と聖約38:15
17. 教義と聖約6:12
18. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットソー選(1954年), 89
19. ローマ13:12–14
20. 「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 76–77;「開会に当たり」『リアホナ』2005年5月号, 4も参照
21. ビリビ4:7

肉体の神聖さ

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

主はわたしたちに変わることを望んでおられますが、わたしたちが受けるべき面影は、世の面影ではなく、主の面影なのです。



つい先日、我が家のかわいい孫娘、エリザベス・クレア・サンドバークを現世に迎えた娘の所から戻って来ました。エリザベスは完璧でした。赤ちゃんが生まれる度に、手足の指、髪、胸の鼓動、我が家の特徴を備えた鼻、あご、えくぼに、畏敬の念を抱きます。エリザベスの兄たちや姉も、小さく、申し分のない妹を眺めては、喜び、魅了されていました。清い肉体と結合したばかりの日の栄えの霊がいることで、家庭が聖められたことを孫たちも感じているようでした。

わたしたちは前世で、肉体が神の偉大な幸福の計画に欠かせないことを学びました。家族の宣言にはこのようにあります。「霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、

また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。」「(家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号、49) 実際、この計画に参加できたことで、わたしたちは「喜び呼ばわ」りました(ヨブ38:7)。

なぜそれほど喜んだのでしょうか。わたしたちは肉体に関する永遠の真理を理解していました。肉体が神の形に似せられることを知っていました。肉体が霊を宿すことを知っていました。また、肉体が苦痛、病気、障害、誘惑を経験することも理解していました。でも、そのような試練を喜んで受けようと考えました。なぜなら、霊と元素が分離しないように結合しなければ、天の御父のようになるために進歩して(教義と聖約130:22参照)、「満ちみちる喜びを受け」られない(教義と聖約93:33参照)ことを知っていたからです。

地上に完全な福音が回復されて、わたしたちは肉体に関するこれらの真理を再び知る特権にあずかっています。ジョセフ・スミスはこう教えました。「わたしたちが地上に來たのは、肉体を得て、それを清い状態で日の栄えの王国にいらっしゃる神の御前に差し出すためです。偉大な幸福の原則は、肉体を得ることから成ります。悪魔に肉体はなく、そこに悪魔の罰があるのです。」「(The Words of Joseph Smith, アンドリュー・F・イーハットとリンドン・W・クック編[1980年], 60)

サタンも肉体に関して同じ永遠の真理を学びましたが、肉体を得られないという

罰を受けました。そこで、わたしたちにこの貴重な賜物を悪用・誤用させようと、あらゆる手を尽くしているのです。サタンは肉体に関するうそと欺きで世を満たしています。不貞、慎みのなさ、放縦、依存症などで、肉体という偉大な賜物を汚すように多くの人を誘惑しています。ある人には体をさげすむように、別の人には体を崇拜するように誘惑します。どちらの場合も、肉体を単なる物として見なすようにそそのかすのです。肉体に関してこれほど多くのサタンの偽りがあるので、今日わたしは肉体の神聖さについて宣言します。肉体は賜物であり、感謝と敬意をもって扱われるべきであることを証します。

聖文には、肉体は神殿であると宣言されています。イエス御自身が最初に自らの肉体を神殿にたとえられました(ヨハネ2:21参照)。パウロは後に、あらゆるみだらで下品な行いが蔓延していた邪悪な町コリントの人々に、こう勧告しました。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊があなたがたのうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」「(1コリント3:16-17)

肉体を真に神殿として扱ったら、どうなるでしょうか。純潔、慎み深さに注意を払い、知恵の言葉に従う人が驚くほど増加し、逆に、ポルノグラフィや虐待の問題は格段に減少することでしょう。肉体を、神殿と同じように、御霊が宿る神聖な場所と考えるからです。いかなる汚れたものも神殿に入れないように、いかなる汚れも肉体という神殿に入り込ませないように注意するでしょう。

さらに、肉体という神殿の外見を清潔で美しく保つことでしょう。これは内側の神聖さを外に表すためであり、ちょうど教会が神殿を美しく保っているのと同じことです。内に秘められた神聖な霊を映し出す服装や行動が必要です。

少し前に世界的な観光都市を訪ね、深い悲しみに押しつぶされそうになりました。あまりにも多くの人がサタンに欺かれ、



肉体は単なる物であり、誇らしげに見せればよいという考えにとらわれていました。ですから、そのあと若い女性の教室に入り、彼女たちが慎み深く適切な服を着ているのを見たとき、この世との差に感銘を受け、大きな喜びを感じました。彼女たちの表情には善良さが輝いていました。「ああ、ここに、体に敬意を表す方法も、そうする理由も理解している美しい少女が8人いる」と思いました。『若人の強さのために』にはこうあります。「あなたの体は神の神聖な創造物です。神からの贈り物としてこれを尊び、決して汚してはなりません。あなたは、自分の体がどれほど尊いか知っていることを、服装と外見を通して主に示すことができます。……身に着ける服によって人柄が示されます。」(14-15ページ)

慎み深さは露出の多い服装を避けることだけにとどまりません。慎み深さとは、スカートやズボンの丈やえりぐりの深さだけでなく、心の状態も指すのです。英語では「慎み深い」(modesty)とは「度を過

ぎない」(measured)という意味で、「節度」(moderate)と同義語です。「慎み深い」という言葉には「思い、言葉、服装、行動が……上品で礼儀正しい」というニュアンスがあります(ダニエル・H・ラドロウ編、*Encyclopedia of Mormonism*, 全5巻[1992年]第2巻, 932)。

肉体的な欲求は節度をもって適切に治めるべきです。愛ある天の御父は「目を楽しませ、心を喜ばせるために」肉体的な美しさや楽しみを与えてくださいました(教義と聖約59:18)。しかし同時にこのように警告しておられます。「[それらは]思慮分別をもって、度を越さず、^{どんよく}貪欲に取ることなく使うように造られた……。」(教義と聖約59:20) わたしの夫は、この聖句を使って子供たちに純潔の律法を教えました。「英語の『貪欲』(extortion)の文字どおりの意味は『曲げる(twist) [または逆らう(against)]』ということです。肉体を……使うときには、神が定められた目的……を曲げて[逆らって]はなりません。肉体的な喜びは適切な時と場所において

は善ですが、それを崇拝してはいけません。」(ジョン・S・タナー “The Body is a Blessing” *Ensign*, 1993年7月号, 10)

肉体的な快樂に取りつかれてしまう人がいるように、外見に注意を向けすぎる人もいます。利己心から、過度な運動やダイエット、化粧や整形手術、流行のファッションにお金を費やす人もいます(アルマ1:27参照)。

手術などで過度に外見を変えることには胸が痛みます。幸福とは、世の理想を追いかけて外見を作り変えることなく、自分の肉体を神からの賜物として受け入れ、本来の特質を磨くことから得られるものなのです。主はわたしたちが変わることを望んでおられますが、わたしたちが受けるべき面影は、世の面影ではなく、主の面影なのです(アルマ5:14, 19参照)。

10代のころ、ひどいにくびに悩まされていたのをよく覚えています。適切な手入れを心がけました。両親は治療も受けさせてくれました。10代の子供が集ってよく食べる、チョコレートや油っこいファ

ストフードを何年もまったく取らないで過ごしました。でも、目に見えて改善されることはありませんでした。当時は深い悲しみの種である自分の体に心から感謝するのは難しいことでした。しかし、母はより高い律法を教えてくださいました。繰り返しながら言ってくれたのです。「外見をできるだけ好ましくすることは必要だけど、玄関を出た瞬間から自分のことは忘れて、ほかの人に思いを向けなさい。」

そうです。母はキリストのような無私の精神を持つよう教えてくださいました。慈愛、すなわちキリストの純粋な愛は、「ねたまず、誇らず、自分の利益を求め」ません(モロナイ7:45)。ほかの人に心を向けて無私の精神を持つと、内なる霊の美しさが増し、外側も輝いてきます。このようにして、主に似せて自分を変え、世ではなく、主の面影を自らの顔に受けるのです。ヒンクレー大管長は、体、心、霊を尊重するにつれて表れてくる美しさについて次のように述べました。

「全能者が創造されたものの中で、徳をまもって道を歩む、神のすばらしい娘ほど、美しく、霊を鼓舞するものはありません。彼女たちは徳の大切さを悟り、肉体を神聖なものとして尊びます。そして知性を磨き、常に理解力のすそ野を広げ、永遠の真理をもって自分自身の霊を養っています。」「わたしたちの天与の特質を理解する』『リアホナ』2002年2月号、24;「若い女性に対するわたしたちの責任』『聖徒の道』1989年2月号、116参照)

すべての男女が、預言者が賛美した美しさ、つまり、体、心、霊の美しさを追求するようになることをわたしは心から願っています。

回復された福音は、肉体、心、霊の間に密接なつながりがあると教えています。例えば知恵の言葉では、霊的な面と肉体的な面が融合しています。肉体の健康のための主の律法を守るとき、霊に知恵が与えられ、頭脳に知識が与えられると約束されています(教義と聖約89:19-21参照)。霊と肉体はまさにつながっているのです。

両親とともに住んでいたころ、母が自分



の肉体を甘やかせたことで、その繊細な霊に影響を受けたことがありました。その日、母は新しいレシピで甘いロールパンを作りました。大きく、濃厚で、おいしく、満腹になるパンでした。10代の兄や弟でさえ1個食べるのが限界でした。その夜の家族の祈りのときに、父は母に祈るよう頼みました。母は頭をかかえて、黙っていました。父は母を軽くつついて尋ねました。「どうかしたの。」しばらくして母は言いました。「今夜はあまり霊的になれないの。あの濃厚で甘いスイートロールを3つも食べたから。」肉体を甘やかして霊を傷つけたことがある人は多いのではないのでしょうか。特に、知恵の言葉で禁じられている物質は、肉体に悪影響を及ぼすと同時に、霊の繊細な感覚をまひさせます。霊と肉体の間のつながりを無視できる人はいません。

わたしたちがとても感謝しているこの神聖な体には、生まれつきの限界があります。ある人は障害を持って生まれ、生涯にわたって病気による苦痛を味わいます。また、年を取ると皆、肉体が少しずつ衰えてきます。そうなると、体が癒されて完全にされる日を待ち望むようになります。イエス・キリストが可能にくださった復活を待ち望むようになるのです。そのときには次のような状態になります。

「霊は体に回復され、体は霊に回復される。そして、手足と関節はことごとくその体に回復される。まことに、髪の毛一筋さえも失われることなく、すべてのものが本来の完全な造りに回復される。」(アルマ40:23) わたしは、キリストを通して、満ちみちる喜びが味わえることを知っています。そしてその喜びは、霊と元素が分離しないように結合するときのみ得られるのです(教義と聖約93:33参照)。

わたしたちの体は神殿です。人に体があるということで、天の御父と人との相違点が広がるわけではありません。そのことによってむしろ、人はもっと神に似ているのです。人は神の子供で、神の形に造られ、神のようになる可能性があることを証します。神聖な賜物である体を細心の注意を払って扱いましょう。いつの日か、ふさわしければ、わたしたちは栄光ある完全な体、生まれたばかりのわたしの孫娘のように純粋で清い体、分離しないように霊と結合した体を受けるでしょう。そして、長く待ち望んだ(教義と聖約138:50参照)その賜物を受けたことで再び喜び呼ばれるでしょう(ヨブ38:7参照)。現世にいる間に肉体の神聖さに敬意を表せますように。そうすることで、主が肉体を聖め、永遠に昇栄させてくださいますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。

高い所へ向かう旅

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

選択が迫られています。自分の力に頼ることもできます。また、高い所へ向かって歩み、キリストのみもとに行くこともできるのです。



2004年12月26日、強烈な地震がインドネシア沖を襲い、巨大な津波のために、20万人以上の人々が命を落としました。実に痛ましい悲劇でした。1日のうちに、数百万という人の生活が永遠に変わってしまったのです。

しかしながら、建物は破壊されたものの、死傷者を一人も出さなかった民が一つありました。

なぜでしょうか。

津波の到来を知っていたのです。

モーケン族と呼ばれる一族がタイとビルマ（ミャンマー）の沿岸に浮かぶ島々に住んでいます。この部族は魚や貝をとる人たちで、海に依存する生活をしています。何百年、恐らくは、何千年にもわたって、先祖は海について様々な経験を通して学習し、その知識を父から子へと伝えてきました。

特に、海の水が一斉に引いたときには、

どう行動すべきかについて注意深く教えられました。言い伝えによれば、その後すぐに「ラブーン」と呼ばれる、人々を食べ尽くす波がやって来るというのです。

村の長老たちが、この恐るべきしるしを見たとき、高い所へ走って逃げるように大声で叫びました。

しかし、皆が素直に従ったわけではありませんでした。

年配の漁師は「若い者たちはだれも信じなかった」と言いました。事実、自分の娘からは、うそつきだと責められたのです。しかし、この年老いた漁師は、全員が村を出て、高い所へ避難するまであきらめませんでした。¹

モーケン族の人々は、確信をもって、次に起きることを警告する人がいて幸いでした。また、村人たちが聞く耳を持っていたことも幸いしました。そうでなければ滅びていたことでしょう。

預言者ニーファイは、エルサレムの滅亡という当時の大惨事について、次のように記録しています。「ユダヤ人の中で一代の人々がすでに罪惡のために滅びたように、代々のユダヤ人も彼らの罪惡のために滅びてきた。彼らの中には、主の預言者たちから予告を受けることなしに滅びた者は、これまでにまだ一人もいない。」²

アダムの時代以来、主は預言者たちに語りかけておられます。そのメッセージは、それぞれの時代特有の必要によって異なりますが、決して変わらないテーマが一つあります。それは罪惡から離れて、より高い地へ向かいなさいということです。

預言者の言葉を聞くときに、主は祝福

してくださいます。しかし、主の御言葉を無視すれば、災害や苦難に度々襲われます。モルモン書はこの大切な教訓を繰り返し教えています。この書物には、義にかなった生活することにより主の祝福を受けて繁栄した、アメリカ大陸の古代の民のことが記されています。しかしながら、その繁栄も、「心をかたくなにし、主なる神を忘れ」³ たために、のろいに変わるのが度々ありました。

繁栄してしまったために、最も悪い性癖が表に出てしまう人々もいます。ヒラマン書の中には、ニーファイ人のある一団が、大きな損失と殺戮を被ったと記録されています。「彼らは非常に富んでいたために心が高慢になり、また飢えている者に食物を与えず、着る物のない者に着る物を与えず、謙遜な同胞の頬を打つなどして貧しい者を虐げ、神聖なものをあざけり、預言と啓示の霊を否定し……た。」⁴

この悲しい出来事は「彼らの中にあった悪事と忌まわしい行いがもしもなかったならば」⁵、起こらずに済んだでしょう。当時の預言者の言葉に聞き従って、高い所へ向かっていれば、民の人生は違ったものになっていたでしょう。

主の道から離れる人々にもたらされる必然の結果は、自分の力しか頼れなくなることです。⁶ 成功に酔いしれていると、自分の力だけで十分だと考えるようになるかもしれません。しかし、肉の腕に頼る人は、程なく、実はそれがどれほど弱く頼りないものかを思い知らされるのです。⁷

例えばソロモンは、最初のうちは主に従い、主の律法を尊びました。そのおかげで繁栄し、知恵だけでなく富と名声にも恵まれました。そして主はソロモンに、もし義にかなった生活が続けるならば「イスラエルに王たる位をながく確保するであろう」⁸ と約束されました。

しかし、天の訪れを受けたにもかかわらず、またあらゆる人に勝って祝福を受けたにもかかわらず、ソロモンは主に背きました。そのために、主は王国をソロモンから取り上げ、その僕に与えるように定められました。⁹

その僕の名はヤラバムといました。



勤勉な若者で、エフライム部族の出身でした。ソロモンは彼に自分の労働者の一部を監督させていました。¹⁰

ある日、旅をしていたヤラベアムに一人の預言者が近づき、主はソロモンから王国を取り去り、イスラエルの12部族のうち10部族をヤラベアムにお与えになると預言しました。

主は預言者を通じ、ヤラベアムに次のように約束されました。もし正しいことを行うならば、「わたしはあなたと共にいて、わたしがダビデのために建てたように、あなたのために堅固な家を建てて、イスラエルをあなたに与えよう。」¹¹

主はヤラベアムを選び、もし戒めを守り、高い所へ向かって歩むならば、驚くような

祝福を受けると約束されました。ソロモンの死後、この預言者の言葉は成就し、イスラエルの12部族のうちの10部族がヤラベアムに従いました。

そのような恵みを受けたこの新しい王は、主に従ったでしょうか。

残念ながら、従いませんでした。金の子牛を造って民に礼拝させました。また、自分の「神権」を作り出し、自分の望む者を選んで、高き所の祭司に任命したのです。¹² つまり主から偉大な祝福を受けながら、ヤラベアム王は、その前に統治したすべての王にも増して悪をなしたのです。¹³ 後の世では、ヤラベアムは、イスラエルの邪悪な王たちの邪悪ぶりを測る基準になったほどです。

そのような邪悪な行いのために、主はヤラベアムから離れられました。ヤラベアム王の邪悪の結果、主は、王と一族が一人残らず滅ぼされるように定められました。この預言は後に文字どおり成就しました。ヤラベアムの子孫は地上から滅ぼされたのです。¹⁴

ソロモンとヤラベアムは、モルモン書の中で繰り返される悲劇のサイクルの見本となりました。民が義にならなくなるときは、主はその民を栄えさせられます。繁栄は高慢を生むことが多く、高慢は罪を生じます。罪は邪悪を生み、霊にかかわることに対してかたくなな心を生みます。結局、このような道の終着点は、心痛と悲しみなのです。



こうしたパターンは、個人の生活だけでなく、町や国、そして世界においてさえも繰り返されています。主とその預言者を無視することから生じる結果は明らかであり、しばしば、大きな悲しみと後悔が伴います。現代でも、主は次のように警告されています。邪悪が最終的に行き着くところは「飢饉と、悪疫と、地震と、天の雷」であり、それは「地に住む者〔が〕全能の神の激しい怒りと憤りと懲らしめの手を感じる」まで続くでしょう。¹⁵

しかし、天災や人災に遭う人の中には、立派で善良な人も大勢いることを理解しておくのは大切です。この神権時代の初

期の聖徒たちは迫害を受け、家から追放されました。命を失った人もいます。しかし、恐らくは、大変な忍耐により内なる強さがはぐくまれ、後に多くのことを成し遂げるのに必要な備えができたのです。

同じことが今日にも起きています。

災害を免れることはできないのですから、災害から学ばなくてはなりません。

聖文には不従順の結果が示されていますが、同時に、主の御言葉に耳を傾け、その勧告に従う人が経験することについても書かれています。

悪の町ニネベに住む人々は、預言者ヨナの警告の声を聞いたとき、大いに主を

呼び求め、悔い改めて、滅びから救われました。¹⁶

エノクの時代の人々も邪悪でした。主はエノクに、民に向かって口を開き、邪悪な行いを捨てて主なる神に仕えるよう警告せよ、と命じられました。

エノクは、恐れを乗り越えて、主に命じられたとおりにしました。民の間を旅して、大きな声で叫び、その行いを責める証を述べました。聖文には、民は皆「彼に腹を立てた」と書かれています。人々は、自分たちの「地に変わったこと」があり「野生の男」が来たと語り合いました。¹⁷

しかし、多くの人がエノクを嫌う中、謙遜な人はその言葉を信じました。そして、罪を捨て、高い所へ向かって歩み始めました。「主はその地を祝福され、彼らは山々の上と高い所で祝福されて、まことに栄えた。」¹⁸ この民にとって、繁栄から生じたのは、高慢と罪ではなく、哀れみと義でした。「主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心をつにし、思いをつにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」¹⁹

救い主は、復活の後、アメリカ大陸を訪れました。主の驚くべき教えにより、民の心は和らげられました。民は罪を捨て、高い所へ向かって歩み始めました。そして、主の御言葉を大切に守り、主の模範に従おうと努めたのです。

義になかった生活をしたために、民の中には論争もなく、互いに公正に接しました。また、互いに持ち物を分け合い、非常に豊かになったのです。

この民については、次のように書かれています。「神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。」²⁰

今日も同じような選択があります。愚かにも、神の預言者を無視し、自分の力に頼って、最終的にその結果を刈り取ることもできます。あるいはまた、思慮深く、神に近づき、その祝福にあずかることもできます。

ベニヤミン王は、それぞれの選択と結果を説明しました。主を捨てる人について、こう述べています。「彼らは自分の罪

と忌まわしい行いの恐ろしい思いに引き渡される。そして、その恐ろしい思いは彼らを主の前からしりごみさせ、決して戻ることのできない、惨めな無窮の苦痛の状態に彼らを陥れる。」²¹

一方、高い所へ向かって歩み、神の戒めを守る人は「物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。」²²

自分がどちらに向かっているのか、どうしたら分かるでしょうか。救い主は、地上におられたとき、最も大いなる戒めとは何かと尋ねられ、ためらうことなく、こう答えられました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

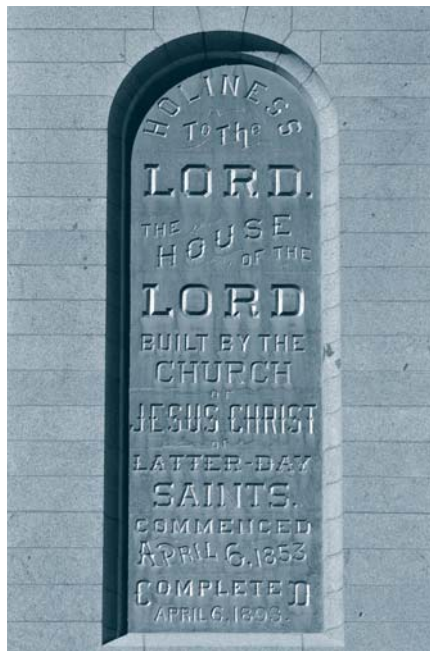
第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。」²³

この聖句の中で、主は、正しい道を歩んでいるかどうかをはっきりと知る方法を示しておられます。高い所へ向かって歩む人は、心を込めて主を愛しています。そのような人の生活を見れば、その愛が明白です。祈りのうちに神を求め、聖なる御霊を懇願します。へりくだり、心を開いて預言者たちの教えを受け入れます。召しを尊んで大いなるものとし、仕えられるよりも仕えることを求めます。神の証人となり、戒めに従って、真理の証を強めるのです。

また、天の御父の子供たちを愛し、その生き方により愛を実践しています。兄弟姉妹たちを世話し、また、伴侶や子供たちを養い、支え、仕えています。愛と思いやりの精神で、周囲にいる人々を強めています。持ち物を進んで人に分け与えています。悲しむ者とともに悲しみ、慰める者を慰めています。²⁴

高い所へ向かうこの旅は、主イエス・キリストの弟子となる旅です。最終的には、家族とともに昇栄して、御父と御子の御



前に至る旅でもあります。ですから、高い所へ向かう旅には、主の宮が含まれていなければなりません。キリストのみもとに来て、高い所へ向かっているならば、主の神殿の中でより多くの時間を過ごしたいと思うようになります。神殿は高い所、聖なる地の象徴だからです。

常に選択が迫られています。自分の力に頼ることもできます。また、高い所へ向かって歩み、キリストのみもとに行くこともできるのです。

すべての選択に、結果が伴います。

すべての結果に、行く末が伴います。

イエス・キリストが人類の贖い主、生ける神の生ける御子であられることを証します。天は開いていて、愛に満ちた天の御父は御言葉に人に啓示してくださいます。預言者ジョセフ・スミスを通じて、福音は地上に回復されました。今日、預言者、聖見者、啓示者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長が生きていて、神の御言葉を伝えています。ヒンクレー大管長の声は、過去のすべての預言者の声と調和しています。

「この教会の会員一人一人にお勧めします。皆さんがどこへいようと、力強く自分の足で立ち、心に歌を忘れずに前進し、福音に生き、主を愛し、王国の建設に励んでください。ともにこの道を歩み続け、信仰を保ち、全能者を力の源としていこうではありませんか。」²⁵

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは高い所へ向かうよう招かれています。不従順がもたらす悲しみや不幸を避けることができるのです。

預言者たちの声に注意を払い、聖霊の影響力を敏感に感じ、天の御父と同胞に対する愛で心を満たすならば、平安と喜びと永遠の命にあずかることができます。

主の弟子となる道を歩み始め、高い所へ向かって旅する人々は皆、主から必ず祝福されることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

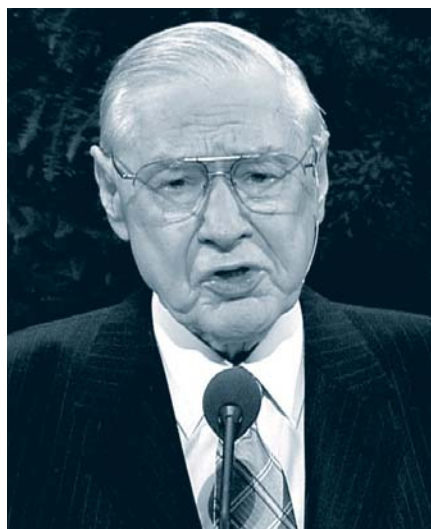
1. "Sea Gypsies See Signs in the Waves," CBS News, 60 Minutes transcript, 2005年3月20日。
<http://www.cbsnews.com/stories/2005/03/18/60minutes/main681558.shtml>
2. 2ニーファイ 25:9
3. ヒラマン12:2
4. ヒラマン4:12
5. ヒラマン4:11
6. ヒラマン4:13参照
7. ヨハネ 15:5参照——「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」
8. 列王上9:4-5参照
9. 列王上11:9-10参照
10. 列王上11:28参照
11. 列王上11:38
12. 列王上12:28-30; 13:33
13. 列王上14:9参照
14. 列王上15:29
15. 教義と聖約87:6
16. ヨナ3:4-10参照
17. モーセ6:37-38参照
18. モーセ7:17
19. モーセ7:18
20. 4ニーファイ1:16
21. モーサヤ3:25
22. モーサヤ2:41
23. マタイ22:37-40
24. モーサヤ18:9参照
25. 「この道を歩み続け、信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号, 78参照

目に宿る光

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

愛に満ちた天の御父と、……御子との個人的な結びつきを持つとき、目と顔に神聖な光が宿ります。



親 愛なる兄弟姉妹、そして世界中の友人の皆さん、今朝話すに当たり、皆さんがよく理解できるよう、また御父の御霊の助けがあるよう心から願っています。

今大会の始めにヒンクレイ大管長が預言者としての簡潔なメッセージを語ってくれたことに心から感謝しています。ヒンクレイ大管長がわたしたちの預言者であることを証します。ヒンクレイ大管長はこの教会の頭である御方、すなわち、わたしたちの主であられる救い主イエス・キリストの導きを豊かに享受しています。

最近、17年前にエルサレムで開いた歴史的な会合を思い出しました。土地の借地契約についての会合でした。中近東研究を目的として、ブリガム・ヤング大学エルサレムセンターが後日建設されることになった土地です。この契約を交わすために、教会と大学の代表としてエズラ・タフ

ト・ベンソン大管長と当時ブリガム・ヤング大学学長であったジェフリー・R・ホランド長老が、イスラエルで伝道活動を行わないことをイスラエル政府と合意しました。皆さんは、伝道活動を行わないことにわたしたちがどうして合意したのか不思議に思うかもしれません。古都エルサレムにそびえるあの壮麗な建物を建てる建築許可を得るためには、そうすることが必要だったのです。わたしの知る限り、教会とブリガム・ヤング大学はこの伝道活動をしないという取り決めをきちんと誠実に守ってきました。借地契約が交わされた後、友人の一人が鋭い質問をしました。「伝道活動をしないことは分かったけど、彼らの目に宿る光はどうするつもりなんだい？」イスラエルの同センターで学ぶ学生たちのことを言っていたのです。

友人がはっきりと見て取った、学生たちの目に宿る光とは何のことでしょう。主御自身が答えを下さっています。「また、今輝いてあなたがたに光を与える光は、あなたがたの目を明らかにする者によって来るものであり、これはあなたがたの理解を活気づける光と同じである。』¹ その光はどこから来るのでしょうか。主はこうおっしゃっています。「わたしが世に来るすべての人を照らすまことの光である……。』² 主はまことの光です。そして、御霊は「世に来るすべての人に光を与え、……その声を聴く……すべての人を照ら」³ します。この光は、わたしたちの顔と、そして目にも表れます。

数年前、ニュース解説者として有名なポール・ハービーが教会の運営する学校

のキャンパスを訪問し、後にこう語りました。「若人たちの顔には、言うなれば気高い確信が見て取れました。現代の多くの若人は自らの良心に逆らい続けてきたために、その目は年不相応に老けています。しかし、[ここの若人たちは]は、自制、献身、奉獻という信条を土台として、うらやましいほど優位な立場にあります。』⁴

真に悔い改める人はキリストの御霊を受け、罪の赦しのためのバプテスマによって教会に受け入れられます。そして頭に両手が置かれ、神の神権により聖霊を授かります。⁵ 「神を熱心に求めるすべての人に神が与えられる賜物」⁶ です。パーリー・P・ブラット長老が語ったように、聖霊の賜物は「いわば、……心の喜びであり、目に宿る光」⁷ です。聖霊は、救い主が十字架にかかる前に約束された慰め主です。⁸ 聖霊はふさわしい教会員を霊的に導き、守ってくださいます。「すべてのこと」⁹ へのわたしたちの知識と理解を深めてくださいます。ますます霊的なものが分からなくなっていくこの世の中にあって、聖霊の働きには限りない価値があります。

今の世の中には世俗主義がはびこっています。世俗主義とは「宗教および宗教的事柄に対する無関心、拒絶、あるいは排斥」¹⁰ と定義されています。世俗主義は、変わらない原則としては多くのものを受け入れません。その主要な目的は、快楽と自分の利益です。往々にして世俗主義者は、独特の外見をしています。イザヤが語ったように、「彼らの顔つきは彼らについて不利な証言をし」¹¹ ます。

世俗主義が広がる一方、多くの人は霊にかかわる事柄に飢え、渇き、主の御言葉に耳を傾けています。アモスの預言にはこうあります。「主なる神は言われる、『見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主の言葉を聞くことのききんである。』

彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。』」¹²

どこで主の御言葉を聞くことができる



のでしょうか。わたしたちの預言者ゴードン・B・シンクレイ大管長から聞くことができます。そして、大管長会、十二使徒定員会ほか中央幹部や、ステーク会長、監督からも聞けます。宣教師たちは伝道部長から聞くことができます。また、聖文から読むこともできます。そして、聖霊を通してもたらされる静かな細い声を聞くこともできます。主の御声を聞くことによって、霊の暗闇から「驚くべきみ光に招き入れ」¹³られます。

目や顔に光を宿し続けるにはどうしたらよいのでしょうか。その光の多くは、重要で変わらない真理に対するわたしたちの「自制、献身、奉獻」¹⁴から来ます。これらの変わらない真理のうち最も重要なものは、わたしたちには霊の父がおられ、自身の行動について報告をする義務があるということです。第2は、イエスがキリストであり、救い主、贖い主であられること。第3は、偉大な幸福の計画には神の戒めへの従順が必要であること。そして第4は、神の最も大いなる賜物は永遠の命であることです。¹⁵

目に宿る光はそのほかの祝福によって

増し加えられます。祝福とは、救い主から与えられる御霊の賜物です。¹⁶ 喜び、幸福、満足感、そして平安は、聖霊の力により注がれる御霊の賜物です。

現世と永遠の世での幸福に関するわたしたちの多くの信条は、驚くべき、壮大なものです。その幾つかは、わたしたちの信仰特有のものです。これらの貴重な信条はわたしたちの忠誠を基としています。一部を挙げてみますが、必ずしも大切な順ではありません。

1. 神と御子は栄光に満ちた御方であられること。父なる神は生ける創造主であり、その御子イエス・キリストはわたしたちの救い主、贖い主です。わたしたちは神の形に創造されました。¹⁷ わたしたちはこのことを知っています。ジョセフ・スミスが御二方にまみえ、言葉を交わしたからです。¹⁸

2. 夫と妻が結び固められる神殿の祝福は、この世だけでなく永遠に続くこと。子供たちとその子孫はこの結び固めにより一つにつながります。

3. 教会のすべてのふさわしい男性会員が神の神権を持ち、使うことが認められ

ていること。ふさわしい男性会員は、家庭と教会において、この神聖な権能を行使できます。ただし、教会においては、権能を有する者により召される範囲で行使します。

4. さらなる神聖な聖典として、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠があること。

5. 今日、生ける使徒と預言者がわたしたちの時代に神の御言葉を伝えていること。これは預言者、聖見者、啓示者であり、絶え間ない啓示の源であるゴードン・B・シンクレイ大管長の指示により行われます。

6. 聖霊の賜物はすべての会員に与えられること。預言者ジョセフ・スミスは、「[末日聖徒イエス・キリスト教会と]今あるほかの宗教との違いは……どこにあるのか」と尋ねられ、こう答えました。それは「按手により与えられる聖霊の賜物であり、……その他すべての要素は聖霊の賜物に包含されています。」¹⁹

7. 女性が気高い存在であること。主の御前では、女性は男性と同等です。生来、女性の役割は男性と異なります。この知

識は時満ちる時代における福音の回復によりわたしたちに与えられました。その中には、女性には母となり子供を育てるといった偉大な責任が与えられている、という認識も含まれます。1842年にジョセフ・スミスが神の御名によって女性たちのために鍵を回して以来、人類創世からのどの時代よりも多くの機会が女性に開かれています。²⁰

数年前、看護学生のコンスタンスは事故で足をけがした女性の担当になりました。女性は医療処置を受けるのを拒否していました。病院のどれかと嫌な経験があったからです。彼女は怖がってだれにも会わなくなっていました。初めてコンスタンスが訪問したときには出て行くように言われましたが、2度目は家に入れてくれました。足の傷口は広い範囲にわたって化膿し、一部がただれてきていましたが、それでも治療を受けようとしませんでした。

コンスタンスは祈ることにしましたが、2日とたたないうちに答えを得ました。次の訪問のときに泡状の消毒液を持って行きました。痛みが出ないものだったので、その年老いた女性は足に消毒薬を付けさせてくれました。コンスタンスは、病院でちゃんとした治療を受けるように勧め、入院中できるかぎり快適でいられるように病院側が努力すると約束しました。それから1日か2日で女性は入院する勇気を得ました。コンスタンスが訪問すると、女性はほほえんで言いました。「あなたの説得のおかげね。」そして、唐突にこう尋ねました。「どちらの教会に集っているのかしら？」コンスタンスは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると伝えました。すると女性は答えました。「分かっていたわ。初めて会ったときから導かれて来てくれたんだと思ったの。あなたの顔には、あなたの教会の人たちと同じ光が輝いていたわ。だから、信頼しないわけにかなかったの。」

化膿した足は3か月で完治しました。この年輩の女性が住んでいた地域のワードの会員たちは、彼女の家を改装し、庭を手入れしました。宣教師たちが会いに来て、彼女は間もなくバプテスマを受けまし



た。²¹ これらのことは、彼女が看護学生コンスタンスの顔に宿る光に気づいたために起きたのです。

かつてブリガム・ヤング大管長は、どうしてわたしたちは時折神の助けを得られずに孤独にさいなまれたり、しばしば悲しみを感じるのかという質問を受けました。彼の答えはこうです。「[人は]自立した存在として行動する[力を身に付け]…自分が様々な状況にあってどのように行動するか確認しなければなりません。……こうして、完全な知識のない暗闇の中でも義にかなって生きられるか、自立の度合いを試すのです。」²² このことは、わたしたちが「光り輝く人々から発せられる……福音の光」²³を目にするとときに容易になります。

教会での奉仕は、目と顔に輝きを添えるすばらしい祝福であり、特権です。救い主はこう勧告されました。「あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」²⁴ この教会で奉仕することによって受ける祝福を言葉で説明することはできません。主は、わたしたちが召しに忠実であれば、幸福と喜びを見いだす

と約束してくださっています。

アルマは、顔に神の面影を受けているかとわたしたちに尋ねました。²⁵ 愛に満ちた天の御父と、救い主、贖い主である御子との個人的な結びつきを持つとき、目と顔に神聖な光が宿ります。このような結びつきにより、主が生きておられることに対する「気高い確信」²⁶が顔に表れます。

わたしたちのかかわっているこの神聖な業が神の業であることを証します。証は啓示により与えられます。²⁷ この証をもたらす啓示は、まだ若いときにわたしの心に与えられました。真理を確信させる啓示が下った特定の出来事を思い出すことはできませんが、そのような啓示がいつも意識の一部としてあったように思います。わたしは、この確信をもたらす知識に感謝しています。この知識は、だれもが経験する人生の苦難を乗り越える力を得させてくれるからです。

この大会を通して、兄弟姉妹の証に感銘を受けたでしょうし、これからも受けるでしょう。このような、確信を与える経験を皆さんもするであろうと信じています。皆さんはここで語られる言葉が真実であるとの明確な確認を受けるかもしれません。ブリガム・ヤングはこう教えています。「ここにいる聖徒の皆さん……のみならず、救い主や使徒たち、そしてジョセフ・スミスが教えた宗教に生きるすべての国々や大陸、島々の人々は……同じ証を述べるのです。……彼らの目は神と御霊により活気づけられているので、物事を同じように見、彼らの心は活気づけられているので、同じ思いと理解を得るのです。」²⁸

神が生きておられることをはっきりと知っています。わたしたちがふさわしければ、主の愛によって生活に光が注がれます。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

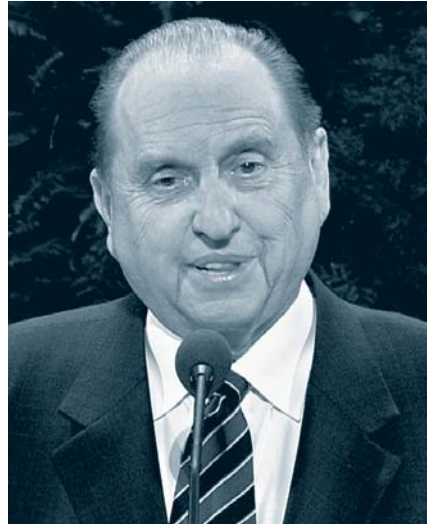
注

1. 教義と聖約88:11, 強調付加
2. 教義と聖約93:2
3. 教義と聖約84:46
4. News Broadcast, 1967年12月8日

教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域七十人、ならびに中央補助組織会長会の支持を取りますので、賛意の表明をお願いします。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビットナー・ヒンクレーを支持してください、また、第一副管長としてトーマス・

スペンサー・モンソンを、第二副管長としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいればその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナーを支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。



- 付、タイプライター原稿、1
5. 教義と聖約20:37
 6. 1ニーファイ10:17
 7. *Key to the Science of Theology: A Voice of Warning* [1978年], 61
 8. ヨハネ14:26参照
 9. ヨハネ14:26
 10. *Merriam-Webster's Ninth New Collegiate Dictionary*, 第1版, (2003年) "secularism" の項, 1123
 11. 2ニーファイ13:9
 12. アモス8:11-12
 13. 1ペテロ2:9
 14. ポール・ハービー, *news broadcast*, 1967年12月8日付参照
 15. 教義と聖約14:7参照
 16. 教義と聖約46:11参照参照
 17. 創世1:26-27
 18. ジョセフ・スミス一歴史1:17
 19. *History of the Church*, 第4巻, 42
 20. ジョージ・アルバート・スミス, "Address to Members of the Relief Society," *Relief Society Magazine*, 1945年12月号, 717参照. *Relief Society Minutes*, 1842年4月28日, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課, 40も参照
 21. コンスタンス・ポルプ, "A Battle Won" *Tambuli*, 1981年3月号, 29-32; *New Era*, 1980年4月号, 44-45参照
 22. *Brigham Young's Office Journal* 1857年1月28日, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課
 23. ニール・A・マックスウェル "Be of Good Cheer" *Conference Report*, 1982年10月, 97または *Ensign*, 1982年11月号, 67
 24. 3ニーファイ12:16
 25. アルマ5:14参照
 26. ポール・ハービー, *news broadcast*, 1967年12月8日付
 27. ブリガム・ヤング, *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットォー編 [1998年], 35
 28. *Discourses of Brigham Young*, 31

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

ジョン・H・グローバーク、デビッド・E・ソレンセンの各長老を七十人定員会の会長会および七十人第一定員会から解任し、名誉中央幹部の称号を与えるよう提議いたします。また、F・バートン・ハワード、F・メルビン・ハモンド、ハロルド・G・ヒラムの各長老を七十人第一定員会から解任し、名誉中央幹部の称号を与えるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

わたしたちは、ダーウィン・B・クリステンソン、アデマール・ダミアニ、H・オールドリッジ・ギレスピー、スティーブン・B・オーブソン、ネッド・B・ローシェイ、デニス・E・シモンズの各長老を七十人第二定員会から解任します。

賛成の方はその意を表してください。

また、ジャイロ・マッザガルディを地域七十人から解任するよう提議いたします。

感謝の意を表明して下さる方は、その意を表してください。

わたしたちは、七十人定員会の会長会としてニール・L・アンダーセン、ロナルド・A・ラズバンドの各長老を支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

最近他界したビタ・R・バマンラの後任として、シオネ・M・フィネアンガノフォを地域七十人として支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

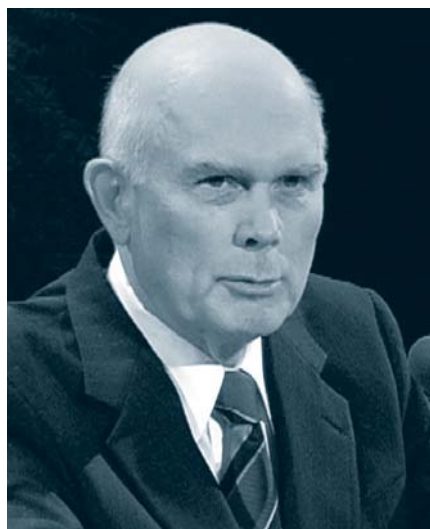
提議は、全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝します。

家庭と教会における 神権の権能

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス

神権の権能が果たす役割は、家庭と教会において多くの似通った点と幾つかの異なった点があります。



わたしのテーマは、家庭と教会における神権の権能です。

I

父は、わたしが7歳のとき亡くなりました。わたしは3人きょうだいの長男で、母は独りで幼いわたしたちを苦労して育ててくれました。執事に召されたとき、母は、家庭に神権者がいてどんなにうれしいか話してくれました。しかし母は引き続き家族を導き、毎朝ともにひざまずいて祈るときにも、だれが祈るかを決めていました。わたしは当惑しました。神権者が家庭を管理すると教えられてきたからです。その原則を適用するうえで、きっとわたしの知らない何かがあるのだらうと考えました。

同じころ、近所に、支配欲が強く、時に

は奥さんに暴力を振るう男性がいました。ライオンのようにどなり、奥さんは子羊のように縮こまっていました。教会に歩いて来るときには、奥さんは夫の後ろを2、3歩離れてついて来ていました。これを見て母は怒りました。とても気丈だった母は、このような支配的な夫に我慢がならず、目の前でほかの女性がそのような虐待を受けていることに憤りを感じていました。わたしは、男性が自分の高慢なプライドを満足させようとしたり、いかなる程度の不義によってでも妻を制御したり、強制したりしようとして、その権能を誤って使うのを見る度に、母の示した反応を思い出します(教義と聖約121:37参照)。

また、忠実な女性でありながらも、神権の権能がどのように働くかについて誤って理解している姉妹を見たこともあります。家庭において夫のパートナーという役割を忠実に果たそうとするあまり、夫が受けている監督や伝道部長などの神権の召しにおいても、同じパートナーシップを発揮しようとするのです。一方、(離婚した女性など)男性から虐待を受けたことのある独身女性の中には、神権と男性の虐待を誤って混同し、神権の権能に信用できないと思っている人もいます。電気器具を使ってひどい経験をしたとしても、電力を使うのをやめるべきではありません。

こういった問題はいずれも、神権の権能について、またその偉大な原則について誤った理解をしているために起こりま

す。その原則とは、神権の権能は家族と教会の両方を管理するけれども、その役割はそれぞれに異なるということです。教会でも家庭でも立派な指導者だった人を何人も知っていますが、皆、この原則を理解し応用していました。しかし、この原則が人前で語られることはめったにありません。聖文の中にも神権の権能を使った話は様々に記録されていますが、神権を用いることに関して、どの原則が家庭でのみ、あるいは教会でのみ当てはまるのか、またどの原則が両方に当てはまるかに関しては、ほとんど明白にはされていません。

II

教えにおいても、実践においても、家族と教会とは互いに強め合う関係にあります。家族は教義、儀式、そして神権の鍵の面で教会に依存しています。教会は、家族関係を永続させるのに必要な教えや権能、儀式を提供します。

家庭でも教会でもプログラムや活動があります。それぞれが相互関係にあり、一方への献身と奉仕は、他方への献身と奉仕につながります。両親が忠実に教会の責任を果たす姿を子供たちが目にすると、家族関係は強められます。家族が強ければ、教会は強くなります。こうして、両者は肩を並べるようにして進んでいきます。どちらも大切に欠くことができないので、どちらにしても、一方に携わるときには、もう一方に対して注意深く配慮する必要があります。教会のプログラムや活動に長時間拘束されるあまり、家族で過ごす時間に全員がそろわないようでは困ります。また、家族の活動を計画するときには、聖餐会やほかの重要な教会の集会と重ならないようにしなければなりません。

教会の活動と家庭の活動の両方が必要です。すべての家族が皆そろっていても完全であれば、教会の活動はもっと少なくても済むでしょう。しかし若人の多くが、ひとり親や教会員でない親、あるいは福音に基づいて教えることにあまり熱心でない親に育てられている世の中にあっては、家庭で満たされていない部分を埋



めるような教会の活動が特に必要になります。賢明にも、夫を亡くしたわたしの母は、家庭では模範となる男性がいないがために息子たちに与えられない経験を、教会の活動が提供してくれることを知っていました。わたしは母から、ワードのすばらしい兄弟たちをよく見て、彼らのようになりなさいとよく言われたものです。そしてそのような機会にあずかるために、スカウト活動や教会の活動に参加するように励ましてくれました。

主はすべての息子と娘が伴侶^{はんりょう}を持つこ

とを望んでおられますが、今の時点で伴侶のいない独身会員が多くいるユニットでは、教会と、そこに家族で集う会員たちは、独身成人の必要について特別に配慮する必要があります。

III

神権の権能には、家庭と教会の両方で果たす役割があります。神権は神の力であり、男女を問わず神のすべての子供たちを祝福するために使われます。「女性と神権」などといった短い表現の中には、誤

った概念を伝えてしまうものもあります。男性は「神権」ではありません。神権会は、神権を持ち、それを行使する人々の集会です。バプテスマや聖霊の賜物、神殿のエンダウメントや永遠の結婚などという神権の祝福は、男性にも女性にも同じように与えられます。神権の権能は、家庭においても教会においても、主が定められた原則に基づいて機能します。

父が亡くなってからは、母が家庭を管理しました。母には神権の職はありませんでしたが、残されたもう一人の親として、家庭の管理者となりました。同時に、母はいつでも、監督をはじめ教会の指導者が持つ神権の権能に敬意を抱いていました。母は家庭を管理しましたが、彼らは教会を管理しました。

IV

神権の権能が果たす役割は、家庭と教会において多くの似通った点と幾つかの異なった点があります。この違いを認識せず、尊ばないならば、様々な困難に直面するでしょう。

鍵——教会における神権と家庭における神権の重要な違いは、教会におけるすべての神権の権能は、ふさわしい神権の鍵を持つ人の指示を受けて機能するということです。それとは対照的に、家庭における管理の権能は、父親か、ひとり親である母親にかかわらず家庭で機能し、神権の鍵を持つ人の承認を受ける必要はありません。この家庭における権能には、家族の活動や家庭の夕べ、家族の祈りなどの集まりを管理すること、福音を教えること、勧告を与えること、家族をしつけることなどがあります。神権を持つ父親が神権の祝福を与えることも同様です。

しかし、家族のだれかを聖任したり任命したりする場合は、神権の鍵によって管理される必要があります。神権の儀式を施し、それを記録する責任を主から託された組織は教会であって、家庭ではないからです。

境界線——ワードや定員会、補助組織などの教会組織には常に、召しに関連した責任や権能がどこまで及ぶかを定める

地理的な境界線があります。それとは対照的に、家族関係や家庭における責任は、家族のそれぞれがどこに住んでいるかは関係ありません。

任期——教会の召しは常に一時的ですが、家族の関係は永久に続きます。

召しと解任——責任に関するもう一つの対比は、責任の始まりと終わりに関するものです。教会においては、必要な鍵を持つ神権指導者が、自分の管理の下で奉仕する人を召したり、解任したりする権能を持っています。会員資格を剥奪したり、名前を「抹消したりする」権能さえ持っています（モーサヤ26：34-38；アルマ5：56-62参照）。しかし一方、家族関係はあまりに重要なため、家族の一員としての資格を家長が変えてしまうことはできません。それができるのは、人の法律や神の律法の下に、家族関係を変更する権限を持った人だけです。つまり、監督は扶助協会の会長を解任することはできても、人の法律に基づいて離婚という手続きを取らないかぎり、妻との関係を絶つことはできません。つまり、監督と妻を永遠に結んでいる結婚は、神の律法に基づいた方法によって取り消さないかぎり、関係を終わらせることはできないのです。同様に、クラスや定員会会長会で召しを果たす青少年が、ワードの神権の権能を持つ人によって解任されることはあっても、その両親は、息子の選択が自分たちの意に添わないからといって親子の縁を切ることはできません。このように、家族関係は教会の関係よりも長く続くものなのです。

パートナーシップ——家族と教会それぞれにおいて神権の権能が機能するうえで、最も重要な違いは、家族の統治は族長を中心にしてなされるのに対して、教会の統治は、神権ラインに沿ってなされるということです。パートナーとして働くという概念は、家族と教会では違った意味を持ちます。

「家族の宣言」には、夫と妻の本来の関係が見事に言い表されています。それぞれ別々の責任を持ちながらも、「これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うとい

う義務を負っています。」（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49、強調付加）

スペンサー・W・キンボール大管長はこう言っています。「結婚を一つのパートナーシップとして語るなら、それは完全なパートナーシップであると申し上げます。わたしたちは末日聖徒の女性に、永遠に続く責任を果たすに当たって、沈黙する伴侶、部分的な協力者になってもらいたくはありません。全面的に参画し、貢献するパートナーであっていただきたいのです。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編、315）

さらに、こう述べています。「伴侶に向かって『わたしは神権を持っているのだから、あなたはわたしの言うとおりにしなければならない』と言う男性がいると耳にしたことがあります。」キンボール大管長は、結婚生活において神権の権能を乱用することを断固として否定し、そのような男性は「神権者として認められるべきではない」と宣言しています（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, 316）。

世界には、男性が女性を抑圧するのを許すような文化や伝統を持つ地域もあります。しかし、そのような間違った習慣がイエス・キリストの教会の家族に持ち込まれるようなことがあってはなりません。イエスが次のような教え方をされたことを思い出してください。「……と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。……」（マタイ5：27-28）例を挙げれば、救い主が女性に示された思いやりは、当時の一般的な文化に反した行いでした。わたしたちの従うべき指針は、主が教えられた福音の文化でなければなりません。

男性が家族を導くうえで主の祝福を願い求めるならば、主が定められた原則に基づいて神権の権能を用いなければなりません。

「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容に

より、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。」(教義と聖約121:41-42)

家長の管理する家庭においてこのような方法で神権の権能が用いられるなら、キンボール大管長が語った「完全なパートナーシップ」を築くことができます。家族の宣言の中にもこのように述べられています。

「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり……の原則にのっとりて確立され、維持されます。」(『リアホナ』2004年10月号、49)

わたしたちは、教会において神権の権能の下で働くとき、わたしたちすべてを支配する原則に基づいて教会の召しを果たします。この原則には、教義と聖約の第121章で教えられている説得と温厚の原則があります。説得と温厚の原則は、教会のように神権ラインに基づいた組織には特に必要なものです。

神権の行使についてこれまで話してきた原則は、独身の女性、特に未婚の女性に比べて、既婚の女性にとってはより理解しやすく、受け入れやすい事柄でしょう。未婚の女性は、結婚というパートナー関係の中で用いられる神権の権能についてまだ経験していないからです。神権の権能にかかわる経験といえば、教会で神権ラインに沿ってなされる事柄であり、中にはそのような事柄に関しては自分には何の発言権もないと感じている独身の姉妹もいます。だからこそ、効果的なワード評議會を開いてワードの責任を持つ男性と女性とが定期的にともに集い、監督の有する管理の権能の下で話し合うことが切に必要なのです。

V.

最後に、幾つかの全般的な見解と、個人的な経験を話します。

末日聖徒イエス・キリスト教会の教えの中心は家族にあります。神とわたしたち



の関係、またこの地上での人生の目的は、家族に関する事柄としてとらえられています。わたしたちは天の父母の霊の子供です。福音の計画は地上の家族を通して実行され、わたしたちの最大の望みは、その家族関係を永続させることです。救い主の教会の究極の使命は、わたしたちが日の栄えの王国で昇栄を受けられるようにすることであり、それは家族関係の中でのみ成し遂げられるものです。

わたしたちの教会が、家族中心の教会として知られるのはそのためです。近年、結婚観や子供を産むことに関する考え方が、法的にも文化的にも崩壊しつつあることをわたしたちが嘆かわしく思うのも当然のことです。この世が結婚の目的や子供を産み育てることの価値に関する理解を失いつつある今、末日聖徒にはこうした問題に何の混乱もないという事実は、きわめて重要なことです。

女手一つでわたしたちを育ててくれた信仰深い母は、家族の永遠の特質について何の混乱もありませんでした。いつも亡くなった父の存在を敬い、身近に感じさせてくれました。父との神殿結婚が永遠に続くものであることを話してくれました。救い主が約束されたとおりに、永遠の家族になれるように、父が行うように望んでいる事柄をよく思い出させてくれました。

母の教えの影響力を示す一つの経験が

あります。あるクリスマスの少し前のこと、執事だったわたしは、夫を亡くしたワード内の姉妹たちにクリスマスプレゼントの入ったかごを届けるように監督から頼まれました。わたしは、一人一人の姉妹の家に監督のメッセージを添えてかごを届けました。監督に家まで送ってもらおうと、かごがまだ一つ残っていました。監督は、それは母の分だと言って、わたしに手渡してくれました。わたしは降りしきる雪の中に立ち、去って行く車を見詰めながら、なぜ母にもかごをくれたのだらうと不思議に思いました。母は夫を亡くしてしまったと言ったことは一度もありませんでしたし、わたしもそのように考えたことは一度もありませんでした。12歳の少年だったわたしにとって、母は寡婦ではありませんでした。母には夫がいて、わたしたち子供には父親がいました。少しの間、遠くに行っているだけだったのです。

主が約束されたとおりに、隔てられていた者が再び合わされ、すべての人が欠けたところがない状態にされる、栄光に満ちた時が将来訪れるのを、わたしは楽しみにしています。永遠の父なる神の独り子であるイエス・キリストについて証するとともに、主の神権の権能、主の贖いと復活によってそれが可能となることを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

若い女性の皆さんへ

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

キリストにつく女性となってください。神の目に映る皆さんの貴い地位を大切にしてください。神も、教会も、世界も、皆さんを必要としています。



つい2、3か月前、時の翁^{おきな}の悪ふざけに遭いました。ある朝、最高の気分で寢床から起き、元気に一日を始めようとしていると、突然、その日はいちばん上の孫娘が13歳の誕生日を迎える日だと気づきました。今日から孫はティーンエージャーです。しばらく考えてから、道理をわきまえた立派な大人ならだれでもしそうなことをしました。ベッドに戻り、頭まで布団をかぶったのです。

ティーンエージャーを育てるのは恐ろしい経験だという昔ながらの冗談はわきへ置いて、孫娘と、世界中の教会で出会う大勢の青少年にお伝えします。わたしたちは皆さんをどれほど誇りに思っていることでしょう。皆さんの周りにはどこにでも、道徳的、肉体的な危険があり、皆さんは毎日様々な誘惑に遭いながらも、正しいことをしようと努力しています。

今日^{きょう}、声を大にして皆さんを称賛し、皆

さんへの愛と、励ましと、尊敬の念を伝えたいのです。先ほど話した、いちばん上の大切なこの孫娘が若い女性に属する年齢なので、教会の若い女性の皆さんに向けて話をします。この話があらゆる年代の女性・男性に役立つように願っていますが、今日は、モーリス・シュバリエが歌ったように、「天よ、若い娘たちを感謝します」と言いたいのです。

まず最初に、女性であることに誇りを持ってください。それが実際に意味することを感じ、真の自分が何者であるかを知ってください。皆さんは文字どおり「天の両親〔の〕……霊の……娘で〔あり、〕神の属性と〔永遠の〕行く末を」備えています。¹ 皆さんは女性として円熟味を増していく間、この特別な真理を心に深く刻み込み、あらゆる決断の土台としなければなりません。これ以上に皆さんの尊厳、価値、特権、そして、皆さんへの約束を正確に表す言葉はありません。天の御父は皆さんの名前も状況も御存じです。皆さんの祈りをお聞きになります。望みも夢も、恐れや挫折も御存じです。皆さんが神を信じる信仰を持つことによってどのような者になれるかも御存じです。神からの受け継ぎを持つ皆さんは、神の目にはすべての霊の兄弟姉妹とまったく同等です。そして従順を通して、神の永遠の王国の正当な相続人、つまり、「神の相続人」² となるための力が得られるのです。この教義の意味が理解できるように求めてください。キリストはすべてのことを、男女平等に教えられました。回復されたイエ

ス・キリストの福音の光の中では、成人の女性も、若い女性も、創造主の神聖な計画の中で、一人一人が独特の女王の地位を占めています。ジェームズ・E・タルメージ長老はかつて、女性は「畏れ多くて汚すことのできない神聖な任命を受けている」³ と述べました。

キリストにつく女性となってください。神の目に映る皆さんの貴い地位を大切にしてください。神も、教会も、世界も、皆さんを必要としています。常に神に信頼を寄せ、御霊^{みたま}にかかわる事柄への献身を怠らない女性は、人生の大風や荒波にもまれるときに、いつも錨^{いかり}となってきました。⁴ 150年以上前の預言者ジョセフ・スミスの言葉を皆さんに伝えます。「この特権にふさわしく生きるなら、天使が皆さんに喜んで協力するでしょう。」⁵

これまで述べたことはすべて、天の御父が皆さんをどう思い、どのような者にしようと計画しておられるかを伝えるために話しました。皆さんのだれかが、このことをはっきり理解していないか、この特権に値しない生活を送っているなら、わたしたちは皆さんにさらに愛を示し、皆さんに懇願します。どうか10代の日々を悲劇ではなく勝利としてください。皆さんの父親も母親も、預言者も使徒も、皆さんの生活を祝福し、どんな悲しみも経験させまいという以外のどんな動機も持ち合わせていません。

天の御父のすべての祝福と守りを求めるために皆さんにお願いします。イエス・キリストの福音の標準を守り、気まぐれな流行をやみくもに追うことは絶対にしないでください。着る物や外見について、教会が皆さんの道徳的な選択の自由を否定することは決してありません。しかし、教会は常に標準を宣言し、原則を教えています。その原則の一つが慎み深さです。イエス・キリストの福音で常に流行しているスタイルは、慎み深さです。福音の標準はこの世と妥協はしません。

小冊子『若人の強さのために』には、若い女性は、体にぴったりとした服や、丈の短すぎる服、おなかを露出した服装など、肌があらわになる服装を避けるようにと、



ははっきり書かれています。⁶ 両親の皆さん、どうかこの冊子を子供とともに読み返してください。子供に愛を注ぎ、制限を設けてください。若い女性の皆さん、友達を選ぶように着る物を選んでください。自分を高め、神の御前に立つ自信が得られるような服や友達を選んでください。⁷ 良い友達は決して皆さんを当惑させたり、卑しめたり、利用したりしません。良い服も同じです。

特に教会の集会と安息日の礼拝のときに着る服装について若い女性の皆さんに話します。昔は「最良の服」とか「日曜日の服」などと言いましたが、そのような言葉を復活させるべきかもしれません。いずれにせよ、古来、主の宮に入るときは、内側も外側も最高の状態で来るようにと勧められてきました。奉献された末日聖徒の礼拝堂は「主の宮」の一つです。着る物や履物は決して高価である必要はありません。むしろ、高価であってはなりません。しかし、海に行くようなかっこうでもいけません。神であり全人類の御父である御方を礼拝し、イエス・キリストの

あがな贖いを象徴する聖餐^{せいさん}を受けるときには、できるかぎりきちんとして、敬意を示し、品位のある、適切な服装でなければなりません。キリストの真の弟子であること、礼拝の精神にふさわしい柔和さと謙遜^{けんそん}さを持っていること、救い主の御霊がいつもともにあるように心から願っていることが、外見と行動に表れなければならないのです。

このことに関連して、さらにデリケートな話をしましょう。若い女性の皆さん、体型やスタイルを含め、だれかほかの人のようになりたいという気持ちをもう少し抑えて、ぜひ自分自身を受け入れるようにしてください。人は皆違います。背の高い人も低い人も、太った人もやせた人もいます。そして、ほとんど全員が、自分と違う体型をうらやむことがあります。ある人が10代の女性に忠告しました。「周りの目を気にしながら生きることはできません。人の言葉に左右されては、本来の力を失います。……[自信]を持つための鍵は、内なる声、つまり[ほんとうの自分]に常に耳を傾けることです。」⁸ そして、神

の王国では、ほんとうの皆さんは宝石より貴いのです。⁹ 若い女性は皆神の子供であり、成人女性は皆、善の大いなる力なのです。なぜ成人の女性について触れたかという、大人の姉妹の皆さんは、わたしたちが若い女性たちに提示できる最大の模範であり、頼みの綱だからです。ですから皆さんがスリムな体型に執着するなら、皆さんの娘やマイアメイドの教え子が皆さんの影響を受け、やせようとするあまり病気になるとしても不思議ではありません。皆、できるだけ健康でいるべきです。それは知恵の言葉が教えるすばらしい教義です。つまり、適切な食事と運動をして、肉体が最大の力で機能できるようにするのです。これについては、皆、改善の余地があるでしょう。しかし、最良の健康状態というものはあっても、万人共通の最良のサイズというものはありません。

率直なところ、この件に関しては、世間は残酷です。映画、テレビ、ファッション雑誌、広告は、外見がすべてというメッセージであふれています。「外見がよければ、人生は魅力に満ち、幸福を得て、人気者



になれる」と言うのです。成人になってからは言うまでもなく、10代の時期にもこの種の圧力は非常に大きいのです。(実質のない)想像で作り上げられた体型に近づけるために、人体に度を超して手を加えることが多すぎます。最近あるハリウッド女優が次のように言いました。「[わたしたちは]美と若さの泉に執着してきました。……そのために体をだめにする女性を見て悲しく思います。[10代の]女性でさえ……こっちを押し上げ、あっちを引っ込めています。アリ地獄のように[抜け出せなくなっているのです。]社会が女性にしていることは……狂気の沙汰です。』¹⁰

自己に捕らわれ、体に執着することについて考えれば、これは社会的狂気以上のものです。霊を破壊する行為であり、現代社会で成人女性と若い女性が直面する不幸の大きな原因となっているのです。そして、大人が外見に執着するあまり、皮膚を引っ張り上げ、余分なものを切り取り、体に人工物を埋め込んで、改造できる部分を全部改造するなら、そのプレッシャーや不安は必ず子供たちに浸透していきます。ある段階から、この問題はモルモン書が「うぬぼれた空想」と呼んだものになります。¹¹

俗世の社会には、虚栄と空想の両方がはびこっています。周囲のメディアに描かれている美と競うには、「大きく広々とした」化粧道具が必要でしょう。しかし、この美とファッションの世界では、どんなに努力してもまだ足りないような気がして、

一日が終わるころにも、リーハイが見たように「指さしてあざけり笑う」人々の姿が消えないのです。¹²

ほかの宗教に属するある女性が、美しい女性たちと長年仕事を共にして受けた影響について書いています。美しい女性たちが共通して持っていた特徴は、体のサイズや体型とはまったく関係ありませんでした。彼女によれば、今まで出会った大変美しい女性は皆、健康で、温厚で、学ぶことを愛し、人格が安定していて、誠実でした。そのような女性に主の親切で優しい御霊が加われれば、それは、どの時代にも通用する美しい女性になります。どの特質も、イエス・キリストの福音の中で強調され、福音の祝福を通して得られるものです。

最後に、芸能メディアでは最近、「事実迫る番組」が流行していると言われています。そうした番組についてはよく知りませんが、この教会の中で成長している美しい若い女性の皆さんに、この福音の事実を心の底から伝えます。

御父と御子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたという事実を厳粛に宣言します。ジョセフは、まさに皆さんと同じ年ごろに神からの召しを受けたのです。神と御子はジョセフに語りかけられ、ジョセフは御二方の永遠の御声を聞き、栄光に包まれた御姿を見ました。¹³ それは使徒トマスの経験と同じ、現実の出来事です。トマスは救い主にこう言われました。「あなたの指をここに付けて、わたしの手

を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。』¹⁴

孫娘と教会のすべての若い人たちにわたし自身の証を伝えます。神は実際にわたしたちの御父であり、イエス・キリストは実際に肉における神の独り子であり、世の救い主、贖い主です。この教会が地上における神の教会、神の王国であり、過去に真の預言者たちが民を導き、今、真の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長が民を導いています。教会の指導者が抱いている永遠の愛を皆さんが理解できますように。また、イエス・キリストの福音という永遠の現実によって、この世の煩いと10代の不安を克服できますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. ローマ8:17
3. ジェームズ・E・タルメージ "The Eternity of Sex " *Young Woman's Journal*, 1914年10月号, 602
4. ルーベン・クラーク・ジュニア, Conference Report, 1940年4月, 21参照。女性の信仰を繰り返し称賛している。
5. *History of the Church*, 第4巻, 605
6. 『若人の強さのために』14-16
7. 教義と聖約121:45
8. ジュリア・デビラズ, *Teen People*, 2005年9月号, 104
9. 箴言3:15
10. ヘール・ベリー, "Halle Slams 'Insane' Plastic Surgery," This Is London, 2004年8月2日, www.thisislondon.com/showbiz/articles/12312096?source=PA.
11. 1ニーファイ12:18
12. 1ニーファイ8:27参照。ダグラス・バセット, "Faces of Worldly Pride in the Book of Mormon," *Ensign*, 2000年10月号, 51参照。俗世の高慢についてよく検討されている。
13. ジョセフ・スミス—歴史1:24-25
14. ヨハネ20:27

真の幸福——意識的な決断

七十人

ベンハミン・デ・オヨス

幸福とは、心の状態です。喜びは、義にかなった生活の結果得られます。



「人生は素晴らしい。素晴らしい結果を得られるような生き方をしさえすれば。」これは、何年も前に読んだ靈感に満ちた言葉です。これによると、「素晴らしい人生」は、物事をどのように行い、何を語り、どのような思いを抱くかに懸かっています。

人生で孤独を味わう必要はありません。皆キリストのみもとに来てキリストにあって完全な者となるよう招かれているのです。幸福こそが福音の目的であり、全人類に対する贖いもそのためにあるのです。

ヒラマン書の言葉は、簡潔にこう表現しています。「これによって分かるように、主は、真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる。

まことに、これによって分かるように、

天の門はすべての人に、言い換えれば、神の御子イエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれているのである。

まことに、望む者はだれでも、神の言葉を手に入れることができるということも、わたしたちに分かるのである。この神の言葉は生きていて力があり、……狭くて細い道にあって、キリストの人を導き、

また、彼らを、まことに彼らの不滅の霊を天の王国におられる神の右に至らせ……るものである。」¹

愛する兄弟姉妹、「望むこと」こそ、神の言葉を手に入れ、幸福になるかどうかを決める鍵だということを認識する必要があります。どんなことがあっても絶えず正しい決定をすることこそ、幸福に至る鍵なのです。

幸福とは、どれほど困難な状況にあらうと、いつも神の御心をみこころを行おうとする、従順と勇気の結果もたらされるものです。預言者リーハイから警告を受けたエルサレムの民は、リーハイをあざけり、昔の預言者たちにしたように、命を奪おうとしました。預言者ニーファイはこう言っています。「主の深い憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたし……はあなたがたに示そう。」²

メキシコ北部で宣教師として奉仕していたとき、バルデス家族がバプテスマを受けました。その数日後、バルデス兄弟から電話で、家に来てほしいと言われま

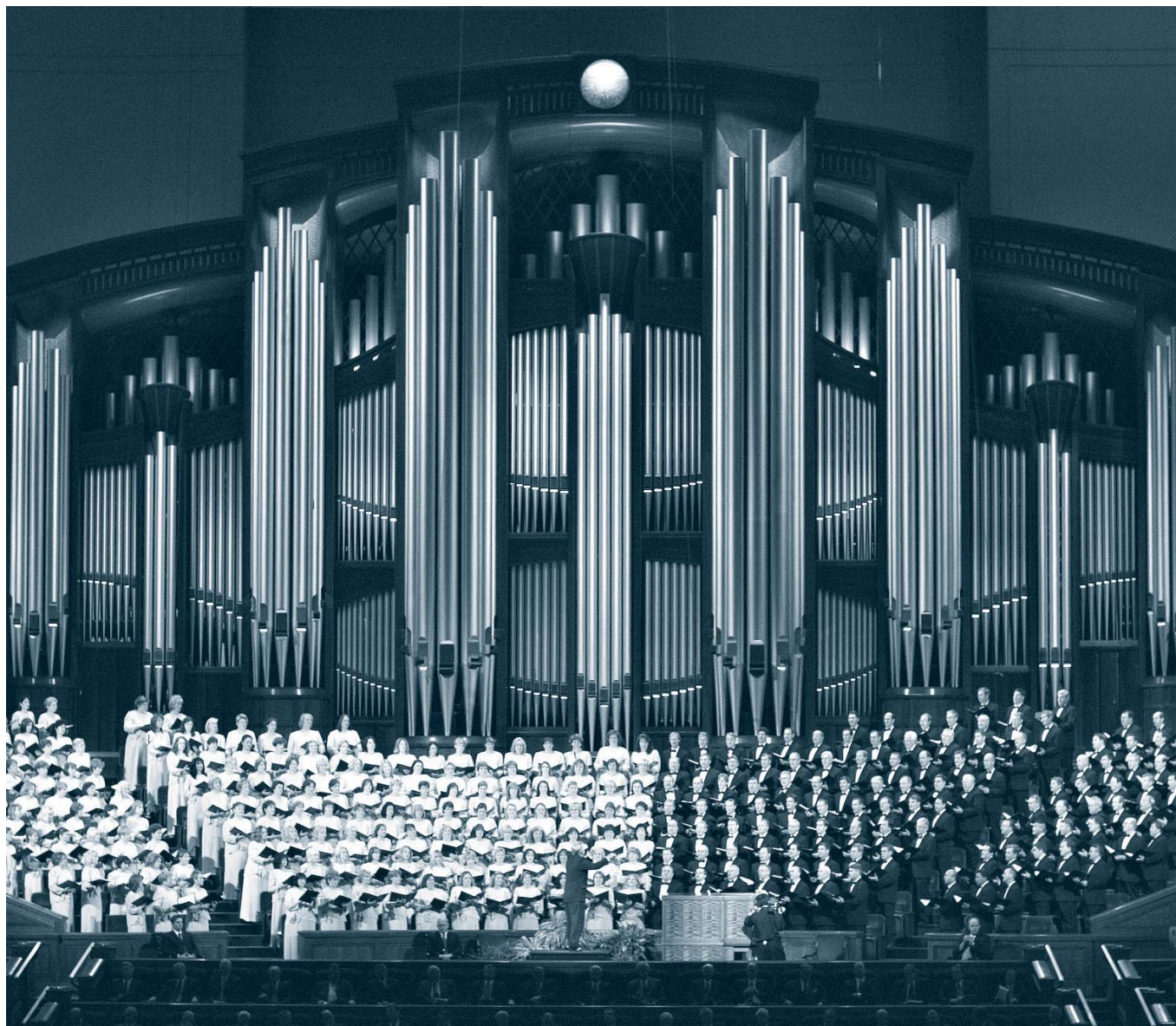
した。大切な質問があるというのです。知恵の言葉に関する主の御心を知ったバルデス兄弟は、新しい仕事を見つけるのが難しいことを承知のうえで、長年勤めてきたたばこ会社の仕事を続けるべきかどうか、思い悩んでいました。数日後、バルデス兄弟からまた家に来てほしいと言われました。信仰に反することをしたくなかった彼は、意を決して仕事を辞めていました。それからほほえんで、仕事を辞めたその日に、ほかの会社からもっと良い待遇で働かないかと誘われたのだと、震える声で話してくれました。

そうです。信仰が試されるときに、幸福は見いだせるのです。主は、深い憐れみによって御自分を現され、人は幸福へ至る道の途上でそれに気づきます。人生に主の御手があることが、はっきりしてきます。

幸福とは、心の状態です。喜びは、義にかなった生活の結果得られます。³

数年前、伝道部長として奉仕していたとき、妻のエベリアは、幸福を絵に描いたような場面に立ち会いました。ある忠実な家族が礼拝堂に入りました。母親と二人の幼い子供は、その日、質素な家から教会まで、耐え難いほどの暑さの中を、歩いて来ましたが、クルス長老に会えるとは思ってもみませんでした。しかし礼拝堂の中には、1年前、回復された福音のメッセージを伝えてくれた、あの献身的な宣教師がいたのです。この素晴らしい再会によって、この家族は福音から得た大きな幸福を再確認しました。子供たちが駆け寄ってクルス長老を抱き締めると、彼の頬を喜びの涙が流れました。母親は長老の手を握り締め、自分たちを祝福するために長老がしてくれたすべてのことに、心から感謝を述べました。確かに彼らは、聖徒のために用意され取っておかれた祝福を見いだしたのです。⁴

預言者ジョセフは言いました。「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり、わたしたちが意図するものである。わたしたちがそこに通じる道に従っていけば、最後に到達できるものである。その道とは、徳、公正、忠実さ、聖さ、そして神の



すべての戒めを守ることである。』⁵

約束の地への旅は、長く、苦しく、30年もの間、神の戒めを忠実に守る努力が必要でした。⁶ モルモン書の、疲れを知らぬ預言者ニーファイは、その旅を終えた後で民の歴史を次のように要約しています。「そして、わたしたちは幸福に暮らした。」⁷

モルモン書の預言者であるベニヤミン王は、幸福を次のように定義しています。「……神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態……。見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。」⁸

そうです。愛する兄弟姉妹の皆さん。すばらしい結果を得られるような生き方さえすれば、人生はすばらしいのです。

信じる、望む、決意する、正義を選ぶという簡単な行為は、幸福を増してくれるだけでなく、この世の人生を超越した内なる確信を深めてくれるのです。

主御自身が今も招いておられるのを忘れてはなりません。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」⁹ 主が生きて、今も戸をたたいておられるのを知っています。主は、預言者ジョセフ・スミスを通じて、御自分の教会と完全な福音を回復し、モルモン書を世に出してくださいました。現在も、御自分の教会と王国を、愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長を通じて、導いておられるのです。

わたしの愛とささやかな証^{あかし}を、主イエス・キリストの御名^{みな}によりお伝えします。アーメン。

注

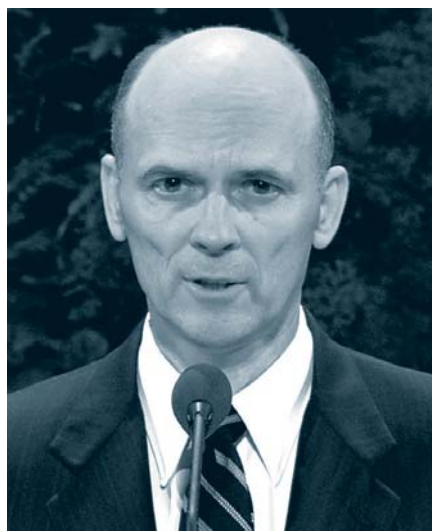
1. ヒラマン 3: 27-30, 強調付加
2. 1ニーファイ 1: 20, 強調付加
3. 『聖句ガイド』『喜び』の項参照
4. 2ニーファイ 9: 43参照
5. *History of the Church*, 第5巻, 134-135
6. 2ニーファイ 5: 10参照
7. 2ニーファイ 5: 27
8. モーサヤ 2: 41
9. マタイ 11: 28

「モルモン書—— 散らされたイスラエルを 集める道具」

七十人

C・スコット・グロー

イエス・キリストはモルモン書を、散らされたイスラエルを集める道具として与えておられます。



わたしは36年前、メキシコ南東部で伝道しました。当時はステークもなく、伝道部内の最大級の都市にさえ、支部が二つしかありませんでした。教育を受ける機会のない人が多く、貧困層が広がっていました。宣教師は2、3人の例外を除けば、全員が合衆国出身でした。

今でもネアルティカン支部の人たちを覚えていますが。町の建物は、カトリックの大聖堂と末日聖徒の礼拝堂以外、すべて日干しれんが造りでした。支部長の小さな家も日干しれんがでできていました。床は土間で、窓にガラスはなく、入り口には

じゅうたんがかかっていました。家具は何一つありません。だれも靴を履いていません。

けれども皆、幸せでした。メサ神殿に行って家族で永遠の結び固めを受けるため、何もかも売ってバスのチケットを買ったのだと、支部長は言いました。支部の多くの会員もそうしました。

1か月前、メキシコ北地域会長会の一員としてメキシコに戻りました。現在のメキシコは、36年前とは大違いです。ネアルティカンはシオンのステーキの中心として発展しています。国内には200のステーキに、100万人の教会員がいます。ステーキやワードの指導者は高学歴で経済的に安定しています。地元の何千もの若い兄弟姉妹が、専任宣教師として働いています。

リーハイが見、ニーファイが解き明かした示現が、実現しているのです。「その日、わたしたちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属する主の聖約の民であることを知るでしょう。それから彼らは、自分たちの先祖のことを知って理解するようになり、また贖い主によって先祖に与えられた福音も理解するようになるでしょう。このようにして、彼らは贖い主〔を〕理解するようになる〔る〕のです。』¹

メキシコをはじめ中南米の国に住む人々は、まさに預言者の子孫に囲まれて

いるのです。モルモン書は彼らの受け継ぎです。イエス・キリストはまさに彼らの先祖を教えられたのです。

復活されたイエス・キリストは、白い衣をまといて天から降り、ここアメリカ大陸で先祖の前に立ち、手を伸ばして言われました。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。

わたしは世の光であり命である。』²

「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたが掲げる光とは、わたしである。』³

救い主はこの時代にも、同じ勧告を繰り返されました。「まことに、わたしはあなたがたすべてに言う。立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである。』⁴ イエス・キリストは光であられ、わたしたちはその光を世界への旗として掲げます。イエス・キリストについてのもう一つの証、モルモン書に含まれているイエス・キリストの光もあわせて掲げるのです。

ヒンクレイ大管長は、ジョセフ・スミス生誕200年を記念して、年内にモルモン書を読む、あるいは読み返すようにチャレンジしています。そうすることにより、「神の賜物と力によって」⁵ モルモン書を翻訳したジョセフ・スミスをたたえるのです。

古代の預言者モロナイは、ジョセフを訪れて言いました。「神はあなたのなすべき業を備えておられます。またあなたの名は良くも悪くもすべての国民、部族、言語の民の中で覚えられ、良くも悪くもすべての民の中で語られるでしょう。』⁶

その預言は実現しました。ジョセフ・スミスの名前は世界中に、メキシコの辺境地ネアルティカンにおいてさえ知られ、尊ばれています。

最近、メキシコのモンテレーに住むある会員から、モルモン書によって人生がどれほど変わったか聞きました。ヘスス・サントスは10代のころ、末日聖徒の宣教師がほこりっぽい道を歩いているのを見て、感銘を受けました。教会について聞くために宣教師に話しかけたかったのですが、声をかけられるまで待つべきだ



と友達に言われました。

ヘスースは教会に何度も足を運び、ミューチャルで宣教師と青少年がゲームをする様子を鉄柵の外から見ました。とても健全そうな彼らを見て、仲間に入りたかったのです。ヘスースは柵にあごを載せて、だれかが気づいて仲間に入れてくれないかと待ちましたが、願いはかないませんでした。

ヘスースは話を続けました。「悲しいです。当時はまだ若かったので、伝道に出ることもできたでしょうに。」

それからメキシコのモンテレーに引っ越しました。9年後、町の反対側に住む友人を訪ねていたときに、その家に宣教師がやって来ました。友人は宣教師を追い返そうしましたが、ヘスースは2分でい

いから話を聞かせてくれと頼みました。友人は聞き入れてくれました。

宣教師は、モルモン書のこと、リーハイの家族がエルサレムからアメリカ大陸へ旅したこと、復活したイエス・キリストがアメリカのリーハイの子孫を訪れられたことを話しました。

ヘスースはもっと知りたいと思いました。特に、キリストがアメリカを訪れられた様子を描いた絵に興味をそそられました。そこで宣教師に住所を伝え、何か月も待ちましたが、宣教師からは連絡がありませんでした。

さらに3年がたち、ある友人がヘスースの家族を家庭の夕べに招待しました。ヘスースはモルモン書をプレゼントされました。

モルモン書を読み始めたヘスースは、すぐにそれが真実であると分かりました。教会の存在を知ってから12年後、ついにヘスースは妻とともにバプテスマを受けることができました。しかし、長い年月が失われていました。もし宣教師が声をかけていれば、ミューチャルの青少年が柵越しにのぞいていた孤独な青年に気づいていたら、モンテレーの宣教師がヘスースの家を訪ねていたら、ヘスースのこの12年は違ったものになっていたでしょう。ありがたいことに、近所の教会員がヘスースを家庭の夕べに招待し、人を改心させる大きな力を持つ、モルモン書をプレゼントしてくれました。

現在、ヘスース・サントスはメキシコ・モンテレー神殿の神殿長です。

イエス・キリストはモルモン書を、散らされたイスラエルを集める道具として与えておられます。救い主はアメリカ大陸を訪れたときに、民に言われました。「これらのことが起こって、あなたがたの子孫がこれらのことを知るようになるとき、それは彼らにとって一つのしるしとなつて、彼らは、父がイスラエルの家に属する人々に立てられた聖約を果たすために業を始められた、ということを知るのである。」⁷

モルモン書は、それ自身が、ラテンアメリカや世界中の人々に、自らについて証しています。モルモン書が末日に世に現れたことそのものが、散らされたイスラエルを集める業を神が再び始められたことの証です。

18歳のみすばらしい青年ヘスース・サントスが礼拝堂の柵越しに見詰めている姿が目につかびます。皆さんにも彼の姿が目につかびますか。彼や彼のような人々を招いて、仲間に入れてください。あなたから勧められたらモルモン書を読みそうな人がいませんか。そのような人たちに勧めてください。今すぐしてください。

ジョセフ・スミスが回復の預言者であることを証します。イエス・キリストのもう一つの証であるモルモン書を通して、世界中の人々が末日聖徒イエス・キリスト教会に集まります。この教会は古代の教会と同様、使徒と預言者の上に築かれています。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、現代の地上における主の油注がれた預言者です。イエス・キリストは救い主、贖い主です。この教会は主の教会、主の王国です。主は王なるインマヌエルです。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

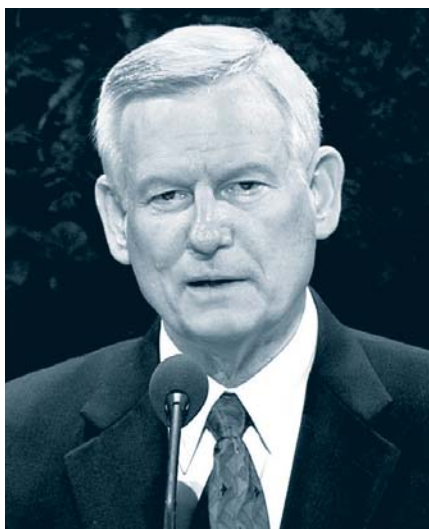
1. 1ニーファイ15:14, 強調付加
2. 3ニーファイ11:10-11
3. 3ニーファイ18:24
4. 教義と聖約115:5
5. モルモン書序文
6. ジョセフ・スミス—歴史1:33参照
7. 3ニーファイ21:7, 強調付加

「キリストだったら……」

七十人

ポール・K・ジブラウスキー

救い主イエス・キリストは、いなくなった人を捜し出すことの大切さを教えておられます。



何年前、上の子供たちが6歳と4歳、2歳のときのことです。妻とわたしは、子供たちにモルモン書クイズを出しました。それまで家族で毎日モルモン書を読んでいました。

「狩りをするために森に出かけたけど、狩りをやめて一日中祈り、夜まで祈った人はだれ？」と妻が尋ねました。

少ししても答えがないので、妻はヒントを出しました。「『エ』で始まる名前の人よ。エ、エ、エ……。」

部屋の隅から2歳の子が大声で言いました。「エノス！」

隅の方で遊んでいて、小さいので分からないだろうと気にもかけていなかった子が答えたのです。エノスです。狩りをするために森に出かけて、霊に飢えを感じたのはエノスでした。エノスが森で道を見失ったとは聖文に書いてありませんが、この話から分かるのは、エノスが森を

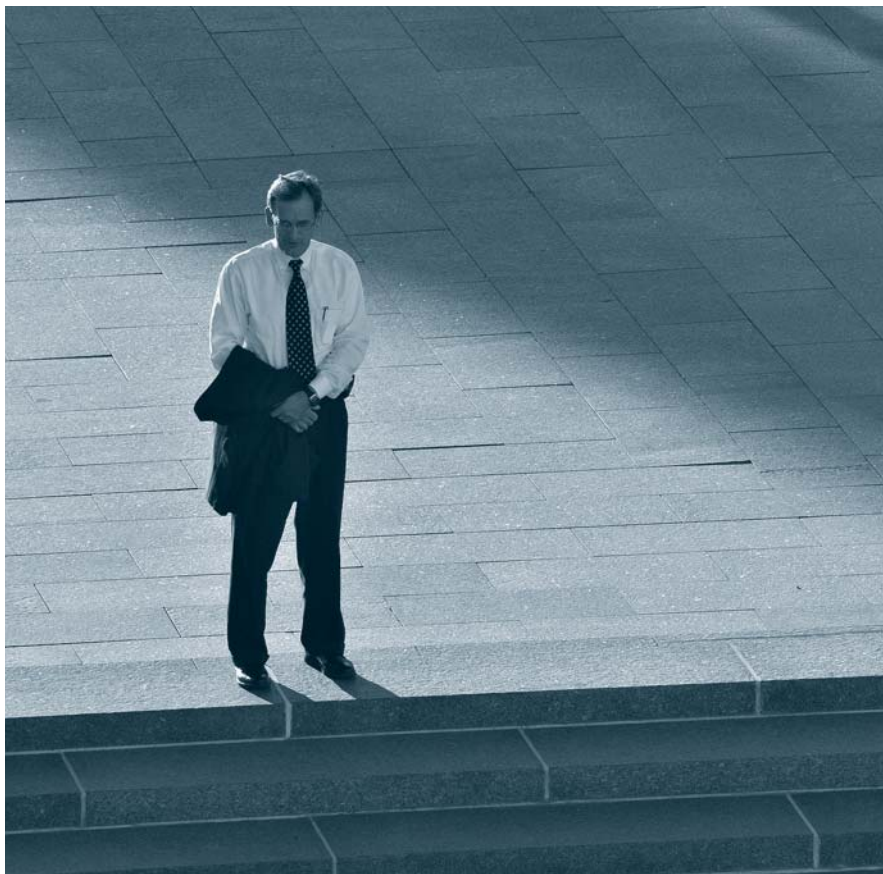
出たときには主に見いだされており、同胞の幸いを強く願っていたことです。新約聖書の中で救い主イエス・キリストは、いなくなった人を捜し出す大切さを教えておられます。

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ[る]……であろう。」(ルカ15:4-5)

アダム^{はらから}の墮落以来、すべての人は迷い、墮落した状態に置かれています。皆さんの多くと同じように、わたしが「見つけ」られたのも、二人の忠実な宣教師が始まりでした。1913年、デンマークのコペンハーゲンでC・アール・アンダー長老とロバート・H・ソレンソン長老が祖父母にイエス・キリストの福音を教えて、バプテスマを施してくれたのです。両親はわたしに勤勉や正直、誠実の大切さを教えてくれました。けれどもわずか1世代の間で、わたしたち家族は教会からいなくなり、福音の知識もなくなってしまったのです。振り返ってみると、ごく幼いころ、遊び仲間たちが初等協会に誘ってくれました。わたしの教会での最初の経験は、初等協会の友達と一緒に築いたものです。

少年時代、わたしはあと数か月で12歳の誕生日を迎えようとしていました。ある土曜日の午後、ドアをたたく音を聞いて玄関に出ました。友達が、それも白いワイシャツにネクタイ姿の執事の友だちが何人



か、初めての神権会に誘いに来てくれたのです。皆でテンプルスクウェアにあるタバナクルに向かって丘を下りました。わたしの傍らには指導者がついていてくれました。そのとき出席したのは、4月の総大会の神権部会でした。

わたしのスカウト隊長は、ロイド・ベネットでした。土曜日の午後にはよくわたしを車に乗せてスカウト事務所に連れて行き、必要なバッジや品物を買ってくれました。わたしたちは車の中で話をしました。彼は頼りにできる友人になりました。ロイド・ベネットは、ほかの多くの人と同じように、1匹の羊のために時間を割いてくれたのです。

このすばらしい友人や指導者たちは、M・ラッセル・バラード長老が最近語った「もう一人見いだす」ようにという勧めをよく理解しており（「もう一人」『リアホナ』2005年5月号、71）、そのために何をすればよいかを知っていました。見いだすべき人は、隅の方において、気にもかけていない人であることがしばしばあるのです。

わたしにもエノスと同じような経験があります。18歳のとき、カリフォルニア州フ

ォートオードにある陸軍兵舎でひざまずいて祈りました。消灯になり、堅い床の上にひざまずいて祈った後で、エノスのように進むべき道が分かりました。専任宣教師になるべきだと分かったのです。自分が何者かを知り、キリストとその福音について理解することができるように助けてくれた多くの人に対して、わたしの心は感謝でいっぱいです。天の家に帰るには、救い主イエス・キリストに頼らなければならないことが分かりました。

「また、神の御子は御自分の民を贖うために、将来この世に來られ、御自分の御名を信じる人々の背きを負われる。これらの人々は永遠の命を得る人々であり、これ以外の人々に救いは与えられない。」（アルマ11：40）

旧約聖書の預言者イザヤは、今日に福音が完全に回復される様子を見て、次のように断言しました。

「主なる神はこう言われる、『見よ、わたしは手をもちろの国にむかってあげ、旗をもちろの民にむかって立てる。彼らはそのふところにあなたの子らを携え、その肩にあなたの娘たちを載せて來

る。』」（イザヤ49：22）

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはいなくなった1匹の羊を世話するとき、この預言が成就するのを目の当たりにします。自分自身がどのように懷に携えられ、肩に乗せられて、安全な場所に導かれたかを思い出せるでしょうか。

1匹の羊に影響を及ぼしそうな機会があるとき、救い主ならどうなさるでしょうか。「キリストだったら、どうなさるだろうか」という原則を当てはめるなら、人生で、キリストを中心にした決断ができるようになります。

愛するニール・A・マックスウェル長老がいつもいなくなった羊を捜していたことを、わたしは直接知っています。ニーファイのように、彼は「[わたしたちすべてに]キリストを信じ、神と和解するように説き勧めめるために、熱心に記録し続けようと」努めました（2ニーファイ25：23）。キリストのみもとへ呼び戻そうと、まさにいなくなった羊に一度ならず呼びかけたのです。

初等協会の教師であろうと、若い男性や若い女性の指導者であろうと、ボーイスカウトの団長であろうと、ホームティーチャーであろうと、家庭訪問教師であろうと、友だちであろうとかかわりなく、耳を傾けるなら、いなくなった羊を捜して見いだすために、主はわたしたちをお使いになります。

伝道に出るという決断ができたことを心から感謝しています。伝道は人生の転機となりました。若い男性の皆さん、皆さんには伝道に出て、熱心に働く特権があります。ふさわしい生活をし、福音を宣べ伝える準備をしてください。先延ばしにせず、伝道に出て奉仕してください。若い女性の皆さん、王国建設のために皆さんにできることはたくさんあります。年配の皆さん、皆さんの力が必要です。

わたしの家族も、カナダで熱心なすばらしい長老や姉妹宣教師、年配の宣教師とともに御業のために働く特権にあずかりました。宣教師たちは心と心、魂と魂を通わせて、いなくなった羊を主の力によって捜し求め、見つけました。同じことが献身的な宣教師によって世界中で行わ

れています。

「このようにして、彼らは神の手に使われる者となって多くの人を真理の知識に導き、まことに、^{あがな}贖い主について知らせた。」(モーサヤ27:36)

だれでも、人の人生、つまり人の永遠の人生、を変える力を持っています。しかし、行動しなければなりません。実際に行い、熱心に働かなくてはなりません。皆さんは恐らく、ふとだれかに教会に戻ってほしいと感じたり、回復された福音を新たに紹介したいと感じたりしたことがあるでしょう。その気持ちに従って行動してください。明日預言者の言葉を聞きに来よう、わたしたち皆がだれかを誘ってみてはどうでしょう。皆さん、お願いできますか。今日招待してくれますか。信仰と進んで行く心(さらに願望)を持ち、次のことを信じてください。御霊によって「[わたしたち]の言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間に」わたしたちに与えられるでしょう(教義と聖約100:6)。それが確かであるとわたしは知っています。

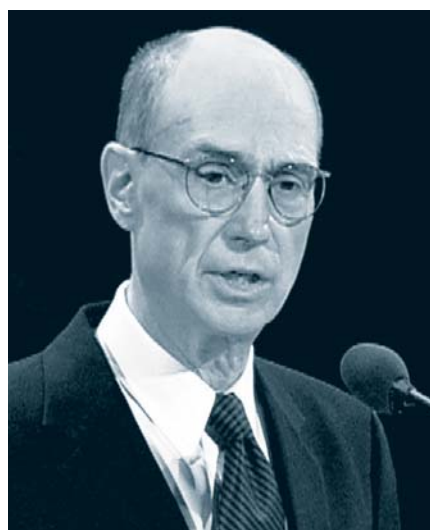
わたしは再び、今度はオーストラリアで果たす召しを頂き、心から感謝しています。愛し支えてくれる妻と伝道の心にあふれた9人の子供たちに永遠の愛と感謝の意を伝えます。完全な福音がこの地上に回復されたこと、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、モルモン書が神の御言葉であることを謹んで証します。今日わたしたちは生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に導かれています。神が生きておられ、イエスがキリストであられ、わたしたちの救い主、^{あがな}贖い主であられることを知っています。わたしたちを家まで携え、乗せて行ったださるの、羊飼いの懐であり、羊飼いの肩です。エノスのようにへりくだり申し上げます。「わたしはこの民に教えを説き……またキリストにある真理に従って御言葉を告げ知らせなければならない……。……わたしは……俗世のことよりもそれを喜びとしてきた。」(エノス1:26)これらの真理をイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

霊的な備え—— 早くから始め、 絶えず積み重ねる

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

人生での大いなる試しとは、人生の嵐の真^{あらし}ただ中でわたしたちが神の命令に聞き従うかどうかを見ることなのです。



たいていの人は嵐にどう備えようかと考えたことがあるでしょう。ハリケーンや津波、戦争、干ばつで苦しむ男女や子供、高齢者、病人を見て心を痛めたことがあるでしょう。そうしたときに、人はまず「何を用意しようか」と考えます。そして、このような災害に襲われたときに必要となりそうなものを片っ端から買い集めて蓄えようとします。

しかし、準備には、もっと大切なものがあります。だれのもとにも確実に訪れる試しのための準備です。この準備には時間がかかるため、ずっと早くから始めなければなりません。試しのときに必要になるものは金銭で買うことができません。借りる

こともできません。そうそう蓄えてもおけません。しかもそれは、繰り返し頻繁に使っていなければならないものです。

試しのときに必要になるのは霊的な備えです。人生での試しを乗り越えられるよう、イエス・キリストを信じる信仰をしっかりとはぐくんでおくということです。永遠の世でどのような状態になるかは、現世での試しにどう対処したかに懸かっています。そして、この試しは、世界を創造するに当たって、神がわたしたちに意図しておられたことの一部です。

預言者ジョセフ・スミスの記述から、わたしたちが直面する試しについて主がどのように説明しておられるかが分かります。天の御父は、御子イエス・キリストとともに世界を創造されました。創造の目的については、次のように語られています。

「あそこに空間があるので、わたしたちは降^{くだ}って行こう。そして、これらの材料を取って、これらの者が住む地を造ろう。そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」¹

このように、人生での大いなる試しとは、人生の嵐の真ただ中でわたしたちが神の命令に聞き従うかどうかを見ることなのです。嵐を堪え忍べるかどうかではなく、荒れ狂う嵐の中で正しいことを選べるか



どうか試されるのです。したがって人生での悲劇とは、この試しに耐えられず、栄光をまとして天の家へ帰るふさわしさを身に付けられないことです。

わたしたちは天の御父の霊の子供です。御父はわたしたちを愛しておられたので、この世に生まれてくる前に、次のことを教えてくださいました。すなわち、御自分の持っておられるものをすべてわたしたちに与えたいと思っている、と言われたのです。そして、それらを授かるのにふさわしくなるためには、わたしたちは死すべき肉体を得て試されなければなりません。死すべき肉体に宿っている間は、それゆえに痛みや病、死を味わうことになります。

死すべき体に伴う欲望や弱点を通して、誘惑に遭うことになります。巧妙で強力な悪の力は、誘惑に屈するよう執拗に誘います。人生の嵐に遭うとき、人の目では見ることのできない事柄を、信仰を使って選択しなければなりません。

人類の救い主、贖い主として、エホバすなわちイエス・キリストが遣わされるといふ約束が交わされました。キリストはわたしたちすべてが必ず復活できるようにしてくださいました。さらに、キリストに従うことによって主への信仰を働かせるならば、人生の試しに打ち勝てるようにしてく

ださるのです。わたしたちはこの知らせを聞いて喜び呼ばわれました。

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書の一節には、この試しがいかに厳しいものか、これに打ち勝つためには何をしたらよいかが書かれています。

「それゆえ、心を喜ばせなさい。そしてあなたがたは、自分の思うとおりに行動すること、すなわち永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由であるのを覚えておきなさい。

さて、わたしの愛する同胞よ、神の御心と和解しなさい。悪魔の意志と肉の思いに自らを従わせてはならない。また、神と和解した後にはあなたがたが救われるのは、ただ神の恵みによること、また神の恵みを通じてであることを覚えておきなさい。

そして、神が復活の力によって、あなたがたを死からよみがえらせ、また贖罪の力によって、永遠の死からもよみがえらせてくださって、あなたがたが神の永遠の王国に迎え入れられ、神の恵みによって神をほめたたえることができるように。アーメン。」²

永遠の命への道を選ぶには、主イエス・キリストを信じる揺るぎない信仰が必要です。この信仰を用いれば神の御心を知

ることができます。この信仰を基にして行動すれば、神の御心を行う力が得られます。イエス・キリストを信じる信仰を働かせれば、誘惑を退け、贖いの力を通して救しを得られるのです。

サタンは疑いを抱かせ、肉欲に訴えて善を悪と言い、罪など存在しないと言って欺きます。イエス・キリストを信じる信仰は、サタンの攻撃を受けるはるか以前にはぐくみ、養っておかなければなりません。霊に対する嵐はすでに荒れ狂っています。この嵐は、救い主が再び来られるまでさらに激しく吹き荒れることでしょう。

たとえ現在大いなる信仰をもって神に従っているとしても、その信仰がさらに強くなるよう絶えず努力し、常に新たな信仰が増し加えられるよう心がける必要があります。そのためには、速やかに従い、さらに確固とした決意で堪え忍ぶよう今、決心することです。早い時期から始め、絶えず積み重ねていくことが霊的な備えを行う鍵です。先延ばしや怠惰は、霊的備えにとって大敵です。

速やかに、たゆまず主に従えるよう訓練する方法を4つ紹介しましょう。まず神の御言葉をよく味わうことです。第2に常に祈ること、第3に什分の一を完全に納めること、第4に罪とその恐ろしい結果から遠ざかることです。これらは、始めるのにも、たゆまず続けていくのにも信仰を要します。そして、この4つの方法はすべて、主の命令を理解して従う能力を高めてくれます。

取りかかるための助けはすでに主から与えられています。今年の8月、年末までにモルモン書を最後まで読み通す人が享受する約束について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語りました。

「わたしは皆さんに、何のためらいもなくはっきりと約束します。これまでに何度読んだかに関係なく、皆さん一人一人がこの簡単なチャレンジを実行するなら、皆さんの生活や家庭の中に、さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分か



るようになることでしょう。』³

これは、霊的な備えに必要な信仰が強められるという約束です。しかし、この霊感あふれる勧めに従うのが遅れると、毎日読む分量は多くなります。それに加えてたとえ2、3日でも読まない日があれば、年内に読み終えられない可能性が高くなります。ですから、わたしは一日の仕事に取りかかる前にモルモン書を読むことにしています。こうすれば、決意が強められ、イエス・キリストに対する証が得られるという、約束された祝福を逃すことはありません。12月の終わりには、神から命令されたらすぐにその場で始め、たゆまず行うという原則から何かを学んだことになります。

モルモン書を読む過程でそれ以上にわたしが祈り求めたいのは、神が自分に何を行うよう望んでおられるのかを聖霊の助けによって知ることです。この願いがかなえられるという約束は、モルモン書そのものに書かれています。

「さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言った。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。』⁴

モルモン書を読んで深く考えていて、あることを行いなさいと聖霊から告げら

れたら、すぐに行うつもりです。この読書課題を12月に達成するころ、従順になるのに必要な信仰が増し加えられたという様々な経験をしていることでしょう。このようにして信仰は強くなります。そして、神がわたしに望んでおられることを知るために速やかにたゆまず聖文を研究し、そのとおりに実際に行うなら、どのような結果が得られるか、身をもって知ることになるでしょう。これを実行する人は、さらに大きな嵐が来ても乗り越える備えができています。

さて、1月1日から何をするかは自由です。^{あんど}安堵のため息をついて自分にこう言い聞かせることもできます。「早くから始め、たゆまず従順に行ったおかげでたくさん信仰を蓄えた。試しの嵐が来るためのにこの信仰をしまい込んでおこう。」しかし、備えるにはもっと良い方法があります。というのは、大いなる信仰というものは長持ちしないからです。引き続き聖文を読んでキリストの御言葉と生ける預言者の教えを研究しようと決意することもできます。これはわたしが行おうとしていることです。もう一度モルモン書に戻って深く何度も味わうつもりです。これを行うときにわたしは、預言者がチャレンジと約束を与えてくれたことに感謝の念を抱くことでしょう。このチ

ャレンジと約束のおかげでさらに大きな信仰を得てそれを保ち続ける方法を学ぶことができるからです。

個人の祈りも、神の命令を行うための信仰を築く助けになります。打ち負かされないように常に祈るようわたしたちは命じられています。時には神に直接守っていただく必要があると感じることがありますが、従順になれるだけの信仰を培うならば、それに勝る守りが与えられます。神が自分に何をしよう望んでおられるか知ることができるように、毎日祈りましょう。答えを受けたらすぐに行おうと心に決めておいてください。わたしの経験では、そのような祈りに主は必ずこたえてくださいます。御心が分かったら従ってください。主に従うとき、信仰は十分に強くなり、打ち負かされることがなくなります。そして、主からさらに教えを受けるために、このプロセスを何度も繰り返す信仰が得られます。このようにするならば、嵐が来たとき、行って主が命じられたことを行う用意ができています。

救い主は、このような従順な祈りの偉大な模範を示されました。ゲツセマネの園で贖いの業を成し遂げたとき、御父の御心が行われるようにと祈られたのです。御父の御心を行うことには非常に激しく、

人には想像もできないような恐ろしい苦痛が伴うことを御存じでした。主は御父の御心をただ受け入れるだけではなく、行いますと祈られました。断固として完全に従おうという思いのこもった祈りとはどのようなものかを、主は示してくださったのです。

速やかに、たゆまず信仰を行使するという原則は、^{じゆうぶん} 什分の一を納めるという戒めにも当てはまります。什分の一を完納しようと決意するのを、什分の一年末面接の時期が来るまで待つ必要はありません。今決意できます。自分の持ち物は神が与えてくださったのだという信仰をもって支出を管理できるようになるまでには時間が必要です。什分の一を遅れることなく速やかに納めるには信仰が必要です。

什分の一を完全に納めようと今決意し、たゆまず納め続けるならば、祝福は什分の一年末面接のときだけでなく、年間を通じて注がれるでしょう。什分の一を完全に納めようと今決意し、たゆまず納め続ける努力をするならば、信仰は強められ、いずれ心が和らげられます。これは金品をささげたからではなく、イエス・キリストの贖いを通じてもたらされる心の変化です。この心の変化によって、什分の一を完全に納める者を終わりの時に守るという主の約束が成就します。⁵ 什分の一を今納めようと決心し、たゆまず納め続けるならば、この守りの祝福を受けるにふさわしい者となれるという確信が得られます。

速やかに選択をして信仰を働かせ、常に従順であるという、この同じ原則は、誘惑を退け、赦しを得るという信仰を持つことにも当てはまります。誘惑を退けるのは、早いほどいいのです。悔い改めをするのに最も適した時期は今です。魂の敵であるサタンは心によからぬ考えを吹き込んで誘惑します。早い時期に信仰を働かせようと決意すれば、行動に移す前に悪い考えを捨て去ることができます。そして万が一罪を犯したとしても、すぐに悔い改めるならば、サタンに信仰を弱められ自由を奪われることはありません。どんな場合でも赦しを求めるうえでよりよいの



は、後ではなく今です。

父が死の淵にあったとき、神との間でまだ解決していない罪に対して、今のうちに悔い改めて赦しを祈り求めなければならないと思うことがあるか、尋ねてみました。ちょっとしたわたしの声の調子から、自分が死や裁きを恐れているのではないかと息子に心配されていると感じたのでしょう、父はくすつと笑うとほほえみかけてこう言いました。「まったくないよ、ハル（訳注——アイリング長老の愛称）。生涯を通じて常に悔い改めてきたからね。」

信仰を行いに移して絶えず従順であらうと、今、決心してください。そうすればやがて大いなる信仰と確信が得られることでしょう。それこそが、だれもが必要とする霊的な備えです。この備えができていれば、危機にさらされたとき、「備えていれば恐れることはない」⁶ という主の約束を受けるにふさわしい者となっているはずです。

人生の嵐に遭ったときや死を目前にしたときにも、この約束にふさわしい者とな

っていることでしょう。愛に満ちた天の御父とその愛される御子は、遭遇する人生の試しを乗り越えられるよう、あらゆる方法で助けてくださいます。しかし、従順になって主の御心を行う決心をしなければなりません。わたしたちは時間をかけて、また日々の選りを通して、常に従順であるかどうかの試しを乗り越える信仰を築いているのです。神から求められることはどんなことでも直ちに行おうと今、決心してください。そして従順になれるかどうかを測る小さな試しにあって動かされないと決意しましょう。そうすれば、必ずやって来る大きな試しをも乗り越えられる信仰が築けます。

わたしたちは愛に満ちた天の御父の子供です。御子イエス・キリストは生きておられ、わたしたちの救い主であり、全人類の罪の代価を払ってくださいました。救い主はよみがえられ、天の御父とともに少年ジョセフ・スミスに御姿を現されました。モルモン書は神の御言葉です。神の賜物と力によって翻訳されました。この教会がイエス・キリストのまことの教会であることを、わたしは知っています。

聖霊を通して神が自分に何をしよう望んでおられるかを知ることができます。主が命じられることは何であろうと、どのような試練が訪れようと、成し遂げる力を主が与えてくださることを証します。

平穏なときでも嵐のときでも、常にすぐに主に従う決意ができるよう、祈っています。そのように行えば信仰は強まり、この世で平安を得られます。そして、次の世では家族とともに永遠の命を受けるに値する者となれるという確信が得られます。これらのことを、イエス・キリストの御名によって約束します、アーメン。

注

1. アブラハム3:24-25
2. 2ニーファイ10:23-25
3. 「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、6
4. 2ニーファイ32:3
5. 教義と聖約64:23参照
6. 教義と聖約38:30

永続するものこそ 最も大切なものである

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

わたしたちは指導者として、世界中の教会員に、家族を第一に考え、家族を強める具体的な方法を見つけるようにお願いします。



最 近何人かの中央幹部とともにルイジアナ州、ミシシッピ州、テキサス州に設置された避難所を訪ねました。そこではハリケーン・カトリナによって壊滅的な状態に追い込まれ、住まいを追われた被災者が生活を立て直そうと努力しながら暮らしていました。彼らが経験したことや置かれている状況は悲惨であり、多くの点で涙を誘うものでした。けれども、わたしが耳にした中で最も胸を締めつけられたのは家族を捜して叫ぶ声でした。「お母さんはどこにいるの。」「息子が見つかりません。」「妹がいません。」すべてを失い、食料や医療、そしてあらゆる支援を必要とし、おなかをすかせ、おびえた人々がいました。しかし彼らが何よりも求め、必要としたのは

自分の家族でした。

重大な危機や大きな変化に見舞われたときに、心に浮かぶのは最も大切なものです。日常生活の中で、家族、つまり両親や子供、きょうだいの存在を当たり前のように思うことがしばしばあります。けれども、危険や非常事態、変化に直面するときに、いちばん大切なのは家族であることがはっきりします。この世を離れて霊界へ行くときにはなおさらです。霊界へ行って最初に捜すのは、父親、母親、伴侶、子供、きょうだいでしょう。

この世の目的を一言で言えば、「永遠の家族を築くこと」です。人は皆この地上で自分自身の家族を創造し、形成する力を授けられ、大家族の一員となる努力をします。天の御父がわたしたちをここに遣わされた理由の一つはそれです。全員がこの世で伴侶を見つけ、家族を設けるわけではありません。けれどもすべての人はどのような状況にあらうと神の家族の大切な一員です。

兄弟姉妹、1995年に大管長会と十二使徒定員会が「家族——世界への宣言」を発表してから、今年で10年になります（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49。『聖徒の道』1996年1月号、113-114参照）。この宣言は当時も今も、家族を守り強めるようにと、ラッパの音のように明快に呼びかけています。道徳観が低下し、優先順位が混乱し、基本単位である家族がないがしろにされ、崩

壊の危機に瀕している世界に、厳しい警告を発し続けています。

この宣言は預言の言葉です。それは、預言者たちが宣言したからだけでなく、将来を見越して述べられたからです。宣言で警告された事柄が、実際にこの10年の間に、家族を脅かし、弱めてきました。この宣言の呼びかけは、伝統的な結婚や親子の関係をどんどんむしばんでいる環境を切り抜きたいと思うならば、家族の必要を優先させ、大切にするように、というものです。

宣言の中で用いられている単純明快な表現は、混乱し、複雑化した社会通念と好対照を成しています。現代社会は親と家族に必要な支援を提供できないばかりか、家族の定義についてさえも意見の一致を見ることができません。皆さんは宣言の以下の言葉をよく知っているはずで

- 「……男女の間の結婚は神によって定められたものであ[る。]」
- 「性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性[である。]」
- 「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負って[る。]」
- 「子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有して[る。]」
- 「……家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすこと[になるだろう。]」

そして家族の宣言は最後に、家族が「社会の基本単位」であるという明快な真理を述べています。

今日、わたしは教会員に、全世界の献身的な両親、祖父母、親族の人々に、この大いなる宣言を固く守り、司令官モロナイの「自由の旗」のようにこの宣言を掲げ、その教えに従って生きる決意をするよう呼びかけます。わたしたちは皆、一つの家族の一員なので、この宣言はあらゆる



人に向けられています。

世論調査によれば、世界中の人々が一般的に家族を優先順位の最上位に置いていることが明かです。けれども近年、大衆社会は家族を無視し、その定義をゆがめているように思われます。過去数十年間の変化に注目してください。

- 家族を支援し強めるために設立された国内外の主要組織の多くが、以前の貢献とは対称的に、今日では家族を押しつけ、破壊しようとしている。
- 「寛容」という名の下に、家族という言葉の定義があいまいになり、同性か異性かを問わず、責任感、子供、将来の展望のあるなしも問わず、一緒に暮らす人を「家族」と呼ぶようになってきた。
- 物質主義と利己主義がはびこって多くの人が欺かれ、家族、とりわけ子供については、神に似た者になることを学ぶための神聖な特権というよりも、重荷であり、経済的な負担であると考えようになってきている。

けれども、世界中のほとんどの親は、昔ながらの家族に愛着を感じ、そのよう

な家族から喜びが得られることを知っています。幾つもの大陸をまたにかけ、家族や親に向けて講演をして戻って来たばかりの友人たちが言うには、世界中の親たちが抱いている望みや心配事は驚くほど似通っているということです。

インドのヒンズー教徒の母親が心配そうに言いました。「唯一の望みは、母親であるわたしがメディアや同年代の友達よりも、子供に対して強い影響力を持つことです。」

マレーシアの仏教徒の母親が言いました。「息子には社会で活躍しつつも、世に毒されないでいてほしいです。」このように、文化や信仰が異なる親たちも、この教会の親たちと同じことを感じ、語っているのです。

世の人々は「家族——世界への宣言」で教えられている事柄を知る必要があります。家族は社会と経済、文化、政府の基本単位なのです。そして、末日聖徒が理解しているように、家族は日の栄えの王国の基本単位でもあります。

教会が家族をこの上なく大切だと信じる理由は、回復された教えの中にありま

す。わたしたちは永遠の過去から永遠の未来にわたって、家族が神聖であると知っています。この世に来る前に、天の御父の家族の一員としてともに住んでいたこと、また死後も家族関係を続けられることを知っています。

この知識に基づいて生活し行動するなら、世の注目を浴びるでしょう。家族を優先している親は、この教会に引きつけられることでしょう。なぜなら教会では、ほかの場所で見つけることのできない家族の関係、価値、教義、永遠の観点を教えているからです。

この家族中心の考え方を持っている末日聖徒は、世界一の親になろうと努力するでしょう。子供に対しても、実際には霊のきょうだいですから非常に敬意を払うでしょう。家族を強めるために必要であれば幾らでも時間をささげるでしょう。親自身にとっても、子供にとっても、家族が互いに愛し合い、支え合うこと以上に、幸福と深くかかわっていることはありません。

教会は個人と家族を築き上げるために欠かせない「足場」であるとハロルド・B・リー大管長は語りました（Conference Report, 1967年10月, 107参照）。地上における神の王国は教会です。しかし、天の王国においては、家族が永遠の進歩と喜びの源となり、天の御父が統治される組織となるのです。繰り返し教えられているように、わたしたちはいつか教会の召しからは解任されますが、もしふさわしければ、家族という関係が解かれることは決してありません。

ジョセフ・F・スミスは言いました。「家庭を離れてほんとうの幸福は存在しません。家庭の影響力を神聖なものとし、維持するための努力はすべて、家庭を確立するために苦勞し犠牲を払っている人々の霊を高めるものです。家庭生活に代わるほかの生活を求める男女が度々見受けられます。彼らは家庭とは束縛を意味し、最大の自由とは気の向くままに動き回る機会であると信じ込んでいます。奉仕のないところに幸福はありません。家庭を神聖な場に変え、家族の生活を向上させ、



維持するための奉仕に勝る奉仕はないのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』382)

こう尋ねる人もいるでしょう。「世間の強い逆風の中で、家庭と家族を守り、維持し、強めるにはどうすればよいのでしょうか。」3つの簡単な提案をしましょう。

1. 確実に、毎日家族で祈り、毎週家庭の夕べを行ってください。そうすれば、主の御霊を招くことができ、親として、そして家族を導く者として必要な助けと力を得ることができます。教会の教科課程や機関誌には家庭の夕べで役立つアイデアがたくさん載っています。家族の証会を開くことも考えてみてください。家族だけで集まって、両親と子供が信じていることや感じていることを互いに分かち合うのです。

2. 福音と根本的な家族の信条を教えてください。聖文と一緒に読み、聖文への愛をはぐくんでください。教会に対するこの責任を放棄している親があまりにも多く見られます。セミナリー、補助組織、神権定員会は親が福音を教えるのを助けるという意味で大切な役割を果たしてい

ますが、責任の主体は家庭にあります。福音のテーマか家族の信条の一つ選んで、教える機会を探してください。子供たちも、皆さん自身も、家庭以外の活動に参加しすぎないように、知恵を用いてください。忙しすぎると、主の御霊に気づかなくなり、皆さんと皆さんの家族に約束されている導きが得られなくなります。

3. 家族のきずなを深めてください。学校やほかのどんな場所でも出会う友達よりも、家族に対して強い帰属意識を子供たちが持てるようにしてください。誕生日、休日、夕食、日曜日を家族の伝統的な方法で過ごすことが有効です。皆が納得するような当然の結果を伴う、家族の方針や規則に従うことから、きずなが深められます。家族の簡単なルールを作り、ルールにどの程度従っているかに応じて、皆がやりたがらない面倒な家事をさせたり、称賛や褒美を与えたりするようにします。借金を避け、収入を得て、貯金をし、賢く使うことの大切さを教えてください。物質的、霊的に自立する責任があることを学ばせてください。

家族がサタンの攻撃にさらされている

今の世の中にあって、両親は家族を守るために全力を尽くさなければなりません。けれども両親の努力だけでは不十分な場合があります。最も基本的な組織である家族は、周囲にいる親戚や公的機関からの助けと支えを大いに必要としています。きょうだい、おじやおば、祖父母、いとこたちは、子供の生活に大きな変化をもたらす力を持っています。忘れないでください。一人の親戚の愛や励ましによって、重大な局面を迎えている子供が、的確な力と助けを受けることがしばしばあるのです。

堅固な家族を築くうえで、教会は——いわば「足場」のように——最も頼りになる組織であり続けることでしょう。この教会を導く者にとって、皆さんの家族が幸せに暮らしているかどうかは、重大な関心事です。家族の必要がますます優先され、強調されているのもそのためです。けれどもわたしたちは指導者として、世界中の教会員に、家族を第一に考え、家族を強める具体的な方法を見つけるようにお願いします。

さらに、すべての公的機関に、自らを評

価し、家族の害になることを減らし、家族の益になることを増やして下さるようお願いいたします。

メディアに対しては、昔ながらの家族の価値や家族を高め支援するものを増やし、不道德や物質主義を広めるものを控えて下さるようお願いいたします。

政府と政治指導者に対しては、子供と親の必要を第一にして、法律と方針を制定する際には家族への影響に配慮して下さるようお願いいたします。

インターネットプロバイダーとウェブサイト製作者に対しては、その影響について責任を持ち、暴力やポルノグラフィ、下品なもの、低俗なものから子供を守ることを真剣に考えて下さるようお願いいたします。

教育機関に対しては、普遍的な道德と、家族として、また親として必要な技術を教えて下さるようお願いいたします。そうすれば、子供という将来の家族の担い手を育てている親を支えることができます。

教会員に対しては、隣人や他宗教の人々に愛を示し、家族を助けるために教会が用意した多くの資料を彼らと一緒に活用して下さるようお願いいたします。あらゆる宗教の人たちが力を合わせて家族を強めるときに、その人たちの暮らす地域は、いっそう安全で強固になるのです。

忘れないでください。社会の大きな単位は皆、家族という最も小さく基本的な単位に依存しているのです。身分や職業に関係なく、皆、家族を助けることにより自らを助けることができるのです。

兄弟姉妹、「家族——世界への宣言」を旗のように掲げ、イエス・キリストの福音に従い、福音を教えるならば、この地上に創造された目的を果たしていることになります。そうすれば、この世と次の世で、平安と幸福を見いだせるでしょう。最も大切なことを思い出すためにハリケーンなどの危機は必要ありません。福音つまり主の幸福と救いの計画が思い出させてくれるはずで、永続するものこそ最も大切なもののなのです。そして、家族は永遠に続くのです。このことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

宣教師になる

十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー

今日もこれからもずっと、……イエス・キリストについて証し、回復のメッセージを宣言しなければなりません。……伝道活動はわたしたちの霊的な本質と受け継ぎの現れなのです。



聖なる神権を受けているわたしたちは皆、地上の国民と家族に祝福をもたらすという、神聖な義務を負っています。福音を宣べ伝え、正しい権能によって救いの儀式を受けるようあらゆる人に勧めることを通して、この務めを果たすのです。わたしたちの多くは専任宣教師として働いた経験があります。現在専任宣教師として奉仕している人もいることでしょう。わたしたちは皆、宣教師として現在働いており、これからも生きているかぎり伝道し続けるのです。家族の中で、あるいは学校や職場、地域社会にあって、いつでも宣教師です。年齢や経験、生活環境にかかわらず、皆、宣教師なのです。

福音を宣べ伝える業は、時々あるいは一時期だけ携われればよいというものではありません。宣教師としての働きは、青年

時代や熟年時代に専任宣教師としてささげるわずかな期間だけに限定されるものでもないことは言うまでもありません。回復されたイエス・キリストの福音を宣べ伝える義務は、わたしたちが交わした神権の誓詞と聖約に固く結びついています。伝道活動は本来神権の責任であって、神権者であるわたしたちは皆、地上において主から権能を与えられた僕であり、いついかなるときも、どのような場所にあっても宣教師なのです。これからもずっとそうです。神権者であり、アブラハムの子孫であるわたしたちの本分は、何よりもまず、福音を宣べ伝えることにあります。

今晚わたしは福音を宣べ伝えるという、わたしたち全員に当てはまる神権の義務について話します。特にこの神権部会では、宣教師として働く召しに備えている若人に向けて率直に話すつもりです。採り上げる原則は単純であっても、霊的に重要な意味があります。深く考え、吟味し、改善するよう促してくれます。今晚この大切なテーマを考えるに当たって、わたしと皆さんに聖霊の導きがあるよう祈っています。

頻繁に受ける質問

世界各地で若い会員たちと集会を持つときに、わたしは出席者の質問に答える時間を設けるようにしています。若い男性から最も頻繁に受ける質問の一つは「専任宣教師として働くために、どのような準備をするのが最も効果的でしょうか」という質問です。このようなまじめな質問



には誠意を込めて答える必要があります。

愛する若い兄弟の皆さん、奉仕の召しに向けて行う唯一の最も大切な準備は、伝道に出るずっと以前から宣教師になることです。この答えの中で、出ることもなることに力点が置かれていることに注目してください。その意味を説明しましょう。

教会の慣用語として、わたしたちはよく、教会に行く、神殿に行く、伝道に行くと言います。大胆な言い方をすれば、何げなく使っている行くという言葉には、大切な点が欠けています。

大切なのは教会へ行くことではなく、教会に行き、礼拝し、聖約を新たにすることです。大切なのは神殿へ行ったり参入したりすることではなく、心に御霊を感じ、聖約と主の宮の儀式について深く考えることです。大切なのは伝道に行くことではなく、宣教師になって、心と勢力と思いと力を尽くして生涯神に仕えることです。若い男性は伝道に行っても、宣教師になっていないことがあります。これは主が求めておられることでも、教会が必要としていることでもありません。

若い男性の一人一人にわたしが心から望むのは、ただ単に伝道に行くのではなく、

宣教師推薦書を提出するずっと前から、また、召しを受け、ステーク会長から任命を受け、宣教師訓練センターに入るずっと前から、宣教師になることです。

望まれている者になることについての原則

期待されていることや決められたことを漫然と行うのではなく、望まれている者になろうと努力することについて、ダリン・H・オークス長老はすばらしい教を説いています。

「使徒パウロは、主の教えと教師たちが与えられているのは、わたしたちが皆『キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る』ためであると教えました(エペソ4:13)。この状態まで到達するには、知識を得ることよりもはるかに多くのことが要求されます。

福音が真実であることを確信するだけでは不十分です。福音によって心が変わることを目指して行動し、考えなければなりません。世の教育機関は、わたしたちにある事柄について知りなさいと教えます。それとは対照的に、イエス・キリストの福音は、わたしたちに……ある特質を身に付けた者になりなさいとチャレンジ

するのです。……

表面的な行動だけでは不十分です。福音の戒め、儀式、聖約は、天の口座に預金しておかなくてはならない行為のリストではないのです。イエス・キリストの福音は、天の御父がわたしたちに望んでおられる状態に到達する方法を示す設計図です。」「(「主の望まれる者になるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 40)

兄弟の皆さん、主の望んでおられる者になるというチャレンジは、まさしく宣教師の準備と完璧に一致します。宣教師になる準備をするからといって、毎日ワイシャツとネクタイ姿で学校に通う必要もなければ、就寝と起床の時間に関する宣教師のルールを守る必要もありません。とはいえ、ほとんどの親はそういう心がけには賛成するでしょう。しかし、神に仕えたいと望む(教義と聖約4:3参照)気持ちを高め、宣教師が考えるように考え、宣教師が読む書物を読み、宣教師が祈るように祈り、宣教師が感じていることを感じること、これらを始めることはできます。聖霊を遠ざけるような世の影響から離れることによって、霊的な促しに気づき、それにこたえることについて自信をつけていくことができます。ここにも少し、そこ



にも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えることによって、自分が望むような、また救い主が期待しておられるような宣教師に次第に近づいていくことができるのです。

宣教師訓練センターの入り口をくぐったその日に、魔法にかかったかのように、準備のできた従順な宣教師に変身するわけではありません。伝道までの歳月の間に培った人格のままで門をくぐり、宣教師として過ごしていくのです。事実、宣教師

訓練センターという環境へ容易に適應できるかどうかによって、宣教師になるためにどれほど進歩してきたかを測れると言っても過言ではないのです。

宣教師訓練センターに入ると、きっと家族が恋しくなるでしょうし、日々のスケジュールの多くはかつて経験したことのない、大変なものとなるでしょう。けれども宣教師になるうえでよく準備してきた若い男性にとって、宣教師としての厳しい活動と生活に適應するのは、さほど圧倒さ

れるようなことでもなければ、重荷になったりストレスとなったりすることでもありません。このように、宣教師の質や標準を高めるうえで鍵となる要素は、伝道に出る前に宣教師になるよう努力することなのです。

父親の皆さん、伝道に出る前から宣教師になるよう息子を助けるには、皆さんがどのような役割を果たさなければならぬか、理解しているでしょうか。あなたと奥さんは、息子が宣教師になる過程で非常に大切な役割を担っているのです。神権指導者と補助組織指導者の皆さんは、両親を助ける責任とともに、若い男性全員が伝道に出る前に宣教師になるよう助ける責任があることを知っているでしょうか。両親とすべての教会員に望まれている事柄も次第に高い次元へと移行しているのです。望まれている者になる原則について祈りの気持ちで考えるなら、皆さんは自分の息子や、働きかけている若い男性が必要としている具体的な事柄について、的確な導きを受けることができるでしょう。

わたしが述べている準備を必要とするのは、19や20、21歳で伝道に携わる青年だけではありません。兄弟たち、皆さんは生涯にわたる伝道活動の準備をしているのです。神権者であるわたしたちは、いついかなるときも宣教師です。もし宣教師になる道をほんとうに歩んでいるなら、伝道に出る前や伝道中、そして専任宣教師として名誉の解任の日が訪れて、任地を離れ家族のもとへ帰ってからも、伝道活動を決してやめようとはしないでしょう。神権者はいつでもどこにいても常に宣教師です。神権者であり、アブラハムの子孫であるわたしたちは、宣教師そのもののなのです。

アブラハムの子孫

神がアブラハムと交わされたすべての約束と聖約を受け継ぐ人は「アブラハムの子孫」と呼ばれます(『聖句ガイド』『アブラハム—アブラハムの子孫』の項、16参照)。この祝福を受けるには、イエス・キリストの福音の律法と儀式に従わなけ

ればなりません。兄弟の皆さん、宣教師になるプロセスは、アブラハムの子孫である自分がどのような存在なのかを理解することと密接につながっています。

アブラハムは義を行うことを望み、大切な息子イサクを犠牲としてささげるようにとの命令を含め、神から受けたすべての戒めに従った偉大な預言者でした。アブラハムは揺らぐことがなく、従順だったため、しばしば「忠実な者の先祖」と呼ばれています。天の御父は一つの聖約を立てて、アブラハムとその子孫に大いなる祝福を約束されました。

「あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかったのです、わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、

また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである。」(創世22:16-18)

このように、アブラハムは大いなる子孫を授かることと、その子孫を通じて地上の国民が祝福にあずかることを約束されました。

地上の国民はアブラハムの子孫を通じてどのように祝福されるのでしょうか。この大切な質問の答えはアブラハム書に見いだせます。

「わたしはあなた[アブラハム]を大いなる国民とし、あなたを計り知れないほど祝福し、あなたの名をすべての国民の間で大いなるものとしよう。あなたはあなたの後の子孫にとって祝福の基となり、彼らはすべての国民にこの務めと神権を携えて行くであろう。

わたしはあなたの名によって彼らを祝福しよう。この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によって呼ばれ、あなたの子孫と見なされ、立ち上がってあなたを父としてたたえるであろう。」(アブラハム2:9-10)

これらの節から、アブラハムの忠実な相続人は、イエス・キリストの福音の祝福と神権の権能を受けることが分かります。



したがって、「すべての国民にこの務めと神権を携えて行く」とは、イエス・キリストの福音を宣べ伝え、神権の正統な権能によって救いの儀式を受けるよう万人に勧めることを意味します。この末日に、アブラハムの子孫にはまことに大いなる責任が課せられているのです。

この約束と祝福は、現在のわたしたちとどのような関係があるのでしょうか。今晚わたしの声を聞いているあらゆる男性と少年は、文字どおりの血統または養子縁組によって、神がアブラハムと交わされた約束の正当な相続人です。わたしたちはアブラハムの子孫です。祝福師の祝福を受けるおまな理由の一つは、アブラハムの子孫であるわたしたちがどのような存在かを十分に理解し、課せられている責任を認識できるようにすることです。

愛する兄弟たち、わたしたちには今日もこれからもずっと、地上のあらゆる国々のあらゆる人々に祝福をもたらす義務があります。今だけでなくいつでも、イエス・キリストについて証し、回復のメッセージを宣言しなければなりません。皆さんとわたしは、いついかなるときも、あらゆる人に福音の儀式を受けるよう勧めなければなりません。福音を宣べ伝えることは一時的な神権の義務ではありません。一定の期間だけ携わる活動でもなければ、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として果たさなければならない単なる割り当てでもありません。伝道活動はわたしたちの霊的な本質と受け継ぎの現れ

なのです。わたしたちは前世で予任され、神がアブラハムと交わされた聖約と約束を成就するためにこの世に生まれてきました。神権を尊んで大いなるものとし、福音を宣べ伝えるために今この時代に、地上にいます。これがわたしたちであり、わたしたちがここにいる理由です。それは今だけでなくいつまでも変わりません。

皆さんは音楽や運動競技を楽しんでいるかもしれません。あるいは機械を扱うことに心を引かれているかもしれません。いずれ販売業、専門職、芸術関係の仕事に就くかもしれません。こうした活動や職業は、いかに大切であっても、皆さんがどのような人物かを決めるものではありません。何よりも大切なのは、わたしたちが霊的な存在であることです。わたしたちは神の息子であり、アブラハムの子孫です。

「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御霊により聖められてその体が更新される。

これらの者は、モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる。」(教義と聖約84:33-34)

愛する兄弟の皆さん、わたしたちは多くを与えられているので、多くを求められます。若人の皆さんが、アブラハムの子孫である自分が何者であるかをもっとよく理解し、伝道に出るずっと以前から宣教師になれますように。そして家庭や家族のもとへ戻った帰還宣教師である皆さんが、これからも宣教師であり続けようように。わたしたちが皆、神の人として立ち上がり、これまで以上に大いなる証と霊の力をもって地上の国民を祝福できますように。

イエスがキリストであり、わたしたちの救い主、贖い主であられることを証します。わたしは、主が生きておられることを知っています。神権者であるわたしたちは、主の福音を宣言する大いなる業において今だけでなくいつも主の代表者であることを証します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

神聖な真理の探求

七十人会長会

チャールズ・ディディエ

神聖な真理を聞き、心に留めるという主のパターンに従えば、個人の霊的基盤を築くことができ、それが、皆さんがどのような者になるかを決めることになるのです。



今宵、この大勢の聴衆の中に特別なゲスト——高校時代の大切な3人の友人——がいます。高校卒業50周年を祝うために、そして、この大会に出席するために、故郷ベルギーから遠路はるばるやって来てくれました。この3人のゲストに、また神権者である皆さんに、そして特に宣教師になる準備を進めている若人の皆さんにこのメッセージをささげます。これは、神聖な真理を探求することについてのメッセージです。神聖な真理を発見すれば、宗教的混乱と道徳的退廃が増大するこの世に対処できるようになります。神聖な真理は個人の霊的基盤となり、義の原則に添った生活へと人を導きます。主が語られたように「あなたは義をもって堅く立てられる」のです(3ニーファイ22:14)。

神聖な真理を見つけるにはどうすれば

よいでしょう。それは「主や僕たちの声を聞き、預言者たちや使徒たちの言葉を心に留め」ればよいのです(教義と聖約1:14参照)。聞いて、心に留めるのです。聞くことは比較的簡単ですが、心に留めて応用するには、生涯にわたって努力する必要があります。

第1に、主の御声を聞いてください。神聖な真理や霊的な知識に関する主の御言葉は、聖典に収められています。これは啓示と呼ばれ、文字どおりの意味は「知らせる」または「明らかにする」です(Bible Dictionary, “Revelation,” 762)。啓示が与えられるのは「礼拝する方法を……知り、また自分が礼拝するものを知る」ためです(教義と聖約93:19)。ニール・A・マックスウェル長老は、「神の業を、神の御心に従って、神の方法で、神の時にかなって行うためには、必ず啓示を受ける必要がある」と言いました(「啓示」第1回世界指導者訓練集会、2003年1月、5参照)。「啓示がなければ、すべては推測と闇と混乱に陥る」のです(Bible Dictionary, 762)。

第2に、主の僕の声聞いてください。啓示や神聖な真理は、主の御心により、様々な時に様々な方法で主の僕に与えられ、聖典にも収められます。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス3:7)

第3に、預言者や使徒の言葉を心に留めてください。心に留めるとは、特に注意を払うということです。この時代に生きる、

イエス・キリストの特別な証人として神から召された人々の言葉に耳を傾けるのです。彼らにその役割が与えられていることを認め、彼らの勧めに応じて、その教えが真実であるという霊的な確認を直接受けるようにし、彼らの教えに従うことを決意するのです。

要するに、聞いて心に留めるとは、試しと悪に満ちた人生を導き祝福するために、主が預言者を通じて神聖な真理を教えられるときのパターンなのです。主の祝福を得たいなら、このパターンによって、個人の霊的基盤を強める必要があります。ですから、主の思いを知るには聖文を調べるだけでは足りません。主の祝福を得るには、まず信仰の行いがなければなりません。主の戒めに従うことによって、主の御心を受け入れる必要があります。そうするならば、個人的な霊的確認のプロセス、すなわち、霊的な確認を受けることを求めて信じる、というプロセスに従って、生涯祈るようになります。神聖な真理を伝達する、あるいは聞くことは、現実には、啓示、戒め、祝福という3つの言葉に要約できます。しかし、主の御声と主の僕の声をまず聞いて次に心に留めることは、生涯続く課題になるでしょう。なぜなら「生まれながらの人は神の敵であり、……聖なる御霊の勧めに……喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となる」からです(モーサヤ3:19)。霊的な備えは、個人的な靈感を受ける前提条件なのです。同じ節にはこうあります。すなわち、わたしたちは「主なるキリストの贖罪により、……聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者」となり、主の御心すなわち主の戒めに「喜んで従う」必要がある、と説かれているのです。そして、主はこう述べておられます。「祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:21)

では、最近の事例から、現代の預言者や使徒の言葉を聞いてそれを心に留めるというパターンについてさらに考えてみましょう。最近、大管長会は、イエス・キリストのもう一つの証であるモルモン書を

年末までに読むように、すべての教会員に勧めました。このチャレンジには約束が付いています。「いっそう豊かに主の御霊を受け、主の戒めに従うさらなる決意をし、神の御子が生きておられるというさらに力強い証を得られることでしょう。」(大管長会からの手紙、2005年7月25日付)

モルモン書に記されている、神の御子が確かに生きておられるという証をさらに強める必要があるのはなぜでしょうか。今日、^{こんにち}キリスト教界ではキリストの教義について大きな混乱があります。キリストの神性だけでなく、キリストの贖罪や復活、キリストの福音、そして特に福音に関連した戒めについての混乱です。その結果、有能で有名な人間キリスト、十字架上の物言わぬキリストが信じられています。誤った信仰が、誤った宗教上の行いを招いています。

一人一人の霊的な基盤は、イエス・キリストが実際に生きておられ、預言者が実在し、聖典に主の啓示が記されるという、個人的に聖霊から与えられる霊的な確認を基としなければなりません。キリストが確かに生きておられることは、さらに具体的には、福音の回復とそれに関連する以下のメッセージに結びついているのです。「イエス・キリスト[は]世の救い主であられ、ジョセフ・スミス[は]この終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であり、そして末日聖徒イエス・キリスト教会は……地上に再び設立された主の王国である……。」(モルモン書、序文)

聖霊の力によって答えが与えられると信じ、信仰によって尋ねるあらゆる人には、聖霊の力により、主の御心のままに、霊的な確認が与えられます。霊的な確認は、主の御声や主の僕の声、預言者や使徒の声を聞くことにより始まり、その言葉を心に留めることによって、継続します。回復に関する霊的な知識は、信仰に影響されるのです。

この霊的なプロセスの一例として、改宗者であるわたし個人の霊的な経験を紹介します。宣教師が我が家を訪問したとき、わたしは福音の回復のメッセージを聞きたいと思いました。好奇心がおもな



動機です。教会に出席すると、霊的な知識を新たに聞きました。興味深く、素晴らしいと感じたものの、心に留めるという基本を抜かしました。キリストが確かに

生きておられ、ジョセフ・スミスが回復の預言者であるという確証の上に個人の霊的基盤を築く必要があったのです。近代の啓示の物的証拠であるモルモン書を心

に留め、モルモン書に対して抱き始めた信仰を試すことによって、ようやく確認が得られました。

しかしながら、その知識を得るだけでは不十分でした。モルモン書は真実であり、ジョセフ・スミスは預言者であるということについて、信仰を確信に変える決意が必要でした。キリストを信じるわたしの信仰は揺らいだことはありません。主と主の約束を信頼しています。心の平安、内なる平安が答えでした。疑問の余地はありません。このようにして霊的な基盤が築かれると、心の中でバプテスマの聖約を受け入れる決意が固まりました。そして、最後まで堪え忍ぶため義になった選択ができるよう、導きと助けとなる聖霊の賜物^{たまもの}が与えられました。以来、この死すべき生涯において、今後何をなすべきかが分かったのです。

神の啓示を試してください。主の御声を聞いてください。それは現実であり、個人的であり、真実です。理論は啓示に取って代わることができません。ジェームズ・E・ファウスト副管長は言いました。「個人的な疑問を抱くあまり、神聖な知識の源から遠ざかってしまってはなりません。」（「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」『リアホナ』2003年11月号、22）

主の僕により皆さんの心に与えられる神の御言葉の力強い影響力を試し、感じてください（アルマ30：5参照）。

預言者と使徒の言葉を、信仰をもって試し、尋ね、受け入れ、そして心に留めてください。そうすれば「永遠の命の冠を受ける」でしょう（教義と聖約20：14）。

最後に、覚えておいてください。神聖な真理を聞き、心に留めるという主のパターンに従えば、個人の霊的基盤を築くことができ、それが、この世と次の世で皆さんがどのような者になるかを決めることになるのです。

イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

総大会の祝福

七十人

ポール・V・ジョンソン

総大会を生活の中の優先事項にすると、今決心してください。注意深く耳を傾け、与えられる教えに従うと決心してください。



この総大会の神権部会で話すのは、聖なる責任です。わたしはいつも息子たちと神権部会に出席するのを楽しみにしています。ステークセンターで息子たちの隣に座り、中央幹部の教えに耳を傾けたのはすばらしい思い出になっています。若い男性の年代のころ、この集会によってわたしの生活は変わりました。今に至っても同じです。この集会によって、息子たちや世界中の数多くのアロン神権者も影響を受けていると知っています。

今晚は、アロン神権者の皆さんに話します。わたしたちは心の躍る、すばらしい時代に生きています。完全な福音が回復され、世界中に広まっています。神権の鍵は地上にあり、ふさわしい人は救いの儀式を受けることができます。地上には善い人が数多くいて、個人の生活や家族で、地域社会の中で、正しいことを行

おうと努力しています。

わたしたちの住んでいるこのすばらしい時代はまた、危険も満ちています。皆さんは多くの誘惑と危険が待ち受ける難しい時代に生きています。すでにそうした誘惑や危険を幾つか経験してきたことでしょう。この世にはびこる悪に負け、生活が破壊されてしまった人を知ってさえいるかもしれません。

このような難しい時代にあって、皆さんはアロン神権者として、危険から離れて、この大なる業における自分の役割を十分に果たし、この世と後の世においてほんとうの幸福を見いだすには、どうすればよいのでしょうか。

驚くには当たりませんが、恐ろしい悪と誘惑の中でわたしたちが歩むべき道を見いだすのを、主は放っておかれません。実際、わたしたちが耳を傾けるなら、十分すぎるほどの導きを一人一人に与えてくださっています。皆さんは指示と靈感を与える聖霊の賜物^{たまもの}を受けています。そして聖典、両親、教会の指導者や教師が与えられています。またこの時代に生ける預言者、聖見者、啓示者の言葉も受けています。実に多くの導きと指示が与えられており、受ける導きを意識的に無視しないかぎり、大きな過ちなど犯しようがないのです。

今晚わたしは導きの源の一つに焦点を当てたいと思います。今日わたしたちが支持した生ける預言者、聖見者、啓示者についてです。つまり彼らから指示を受ける主要な方法の一つである総大会に焦点を当てます。

この神権時代の始まりからずっと、教会では大会が開かれてきました。最初の大会が開かれたのは、教会が組織されてからわずか2か月後のことです。わたしたちは1年に2回集まり、教会の中央幹部や中央役員から教えを受けます。この大会の内容は、活字と電子技術の様々な手段を通して知ることができます。

母は総大会が大好きでした。いつもラジオとテレビをつけて、家中のどこにいても聞こえるくらい音量を上げていました。子供たちに話を聞いてほしいと思っていて、何を覚えているか聞くこともありました。たまに土曜日の部会の間、わたしは兄弟の一人と外でボール遊びをすることもありましたが、それでもラジオを持って行きました。後で母に質問されるかもしれないからです。ボール遊びをしつづも時々休んで、母に報告できるよう注意深く耳を傾けました。その部会全部の中で二人とも覚えていたことが同じでしたから、このごまかしが母に通用していたかどうかは疑問です。

これは総大会の話を書く正しい方法ではありません。以来、わたしは悔い改めました。総大会をとっても大切に思うようになりました。母が生ける預言者の言葉をとっても大切にしていたことにも影響されたと思います。わたしが大学生のとき、アパートで独り、ある大会の話聞いたことを覚えています。当時の大管長、ハロルド・B・リーが神のほんとうの預言者であると、聖霊が心^{あかし}に証してくださいました。それは伝道に出る前の出来事です。わたしは自分自身の証を得ることができたので、生ける預言者について証をするのがとても楽しくなりました。そのとき以来、預言者一人一人について同じ証を持ってきました。

伝道中は教会には衛星システムがなく、わたしが奉仕した国では総大会の放送がされていませんでした。母が大会のテープを送ってくれたので、何度も聴きました。そして預言者と使徒たちの声と言葉をとっても大切に思うようになりました。

最近わたしは曾祖父のナタニエル・ホッジスの日記を読んでいました。彼は



1883年、イギリスへ伝道に召されました。宣教師に任命されるためにソルトレーク・シティーに来て、その間に総大会に出席したことが書かれています。その総大会についての記述を聞いてください。「大きなタバナクルでの集会に一日中出席した。すばらしい教えを受けた。ジョセフ・F・スミス、ジョージ・Q・キャンノン、ジョン・テーラー大管長の言葉は特に力強く、これほどまでに力強く霊的な大会に出席したことはない、この辺りにずっと住んでいる人たちが話しているのを耳にした。」¹

教会の会員はそれぞれの総大会に対して似たような思いを抱いてきたと思います。大会は回を重ねるごとに、その前よりも力強く、霊的になっているように思われます。

総大会のメッセージによって生活を変えていくためには、耳にする勧告に進んで従う必要があります。主は啓示で預言者ジョセフ・スミスにこのように説明されました。「……あなたがたは集まるとき、どのように……律法と戒めの要点を実行するかを知ることができるように、互いに教え合い、教化し合わなければならない。」²



しかし「どのように実行するか」を知るだけでは十分ではありません。主は次の節でこのように言っておられます。「……あなたがたは、わたしの前に聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない。」³ このように学んだことを進んで行動に移せば、すばらしい祝福への扉が開かれるのです。

1年前の総大会の神権部会で、ヒンクレー大管長はボルノグラフィーの危険性について話しました。預言者が神権者に向けてあれほど単刀直入に警告したのを聞いたことがありません。預言者の言葉を聞いて心に留めた若い兄弟の皆さんは、すでに祝福されていて、今後も皆さんが今理解している以上に祝福されるでしょう。皆さんの将来の家族は、皆さん

の従順さのおかげで大きな祝福を受けるでしょう。もしすべての神権者が預言者の勧告に応じてボルノグラフィーを生活から排除するならば、世の中はどれほどの影響を受けるか想像してみてください。

預言者や使徒の言葉に従順であれば、その度に、わたしたちは大きな祝福を受けるのです。今理解している以上の祝福を受け、最初に従順になると決心したときからずっと後になっても、引き続き祝福を受けるのです。

ジョセフ・スミスは教会が組織された日に、ある啓示を受けました。そこにはすべての教会員にとって大切な原則があります。ジョセフ・スミスについて、主は教会員にこう言われました。「……あなたがた……は、彼があなたがたに与える〔言

葉と戒め〕のすべてを心に留めなければならない。……あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」⁴

今度はそれを心に留める人々に約束された祝福を聞いてください。

「これらのことを行えば、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのため〔に〕天を震わせるであろう。」⁵

これは危険な時代にわたしたちを守ってくれる力強い約束です。わたしたちにはその約束が必要であり、進んで預言者、聖見者、啓示者に従うならば、主はわたしたち一人一人にその約束を与えてくださいます。

総大会を生活の中の優先事項にすると、今決心してください。注意深く耳を傾け、与えられる教えに従うと決心してください。話を何度も聞いたり読んだりして、勧告をより理解し、従ってください。そうすれば、地獄の門が皆さんに打ち勝つことはなく、皆さんの前から闇の力は追い払われ、皆さんのために天が震うことでしょう。

天の御父がわたしたちを愛し、御自分の子供たちのために完全な計画をお持ちであることを、わたしは知っています。イエスがキリストであり、生きていらっしゃることを知っています。イエス・キリストの福音が地上に回復されたことを証します。今日地上には「永遠の命の言」⁶を持つほんとうの預言者、聖見者、啓示者が与えられています。このことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

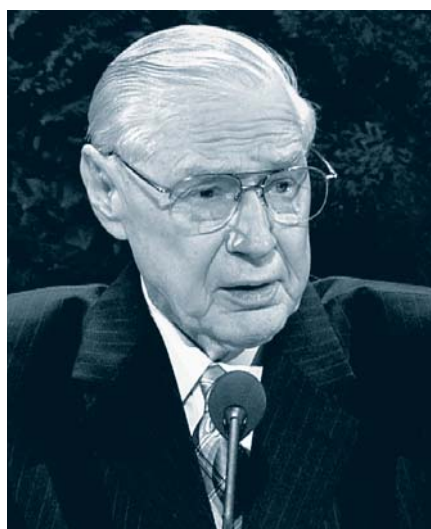
1. Journal of Nathaniel Morris Hodges, 第1巻, 1883年4月8日, 末日聖徒イエス・キリスト教会 記録保管課
2. 教義と聖約43:8
3. 教義と聖約43:9
4. 教義と聖約21:4-5
5. 教義と聖約21:6
6. ヨハネ6:68

召され、選ばれた者

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

召され、支持され、任命された人には会員の支持を受ける権利があるのです。



愛する神権者の皆さん、全世界で主の業を推し進めるために働いている皆さんに感謝しています。わたしは、今日の教会を導くために「召され、選ばれた」¹神権指導者の聖なる職について話したいと思います。今年は少なくとも二つの理由から特別な年です。第1は、今年の12月に預言者ジョセフ・スミスの生誕200年記念を祝うことであり、第2は、今年の6月にゴードン・B・ヒンクレイ大管長が95回目の誕生日を迎えたことです。預言者ジョセフ・スミスがこの神権時代の最初の預言者として召され、選ばれたこと、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長がこの教会の現在の預言者、聖見者、啓示者であることを証します。

何年前かにテレビ番組『60ミニッツ』の司会者マイク・ウォレス氏はヒンクレイ大管長とインタビューを収録したときに、こう言いました。「この教会がお年寄りの運営し

ている教会だという声もあります。」ヒンクレイ大管長はこう答えました。「成熟した人物が上にいるのは大変いいことではないでしょうか。年配者は様々な教えの風の吹くまに揺れ動くことのない健全な判断力を持っていますから。」²もし皆さんの中で、現在の指導者が教会を導くには年を取りすぎていると考える人がいたら、ヒンクレイ大管長は年齢とともに増し加わる知恵についてさらに助言をしてくれることでしょう。

現在の神権時代に召された102人の使徒の中で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長よりも長く使徒職を務めた人はわずか13人しかいません。ヒンクレイ大管長はブリガム・ヤングやハンター大管長、リー大管長、キンボール大管長ほか多くの使徒よりも長い間使徒職を務めてきました。ヒンクレイ大管長の靈感あふれる指導を受けられるのはすばらしいことです。このようなことを言って恐縮ですが、わたしは自分の死期が近づき、永遠の世界に足を踏み入れようとしていることをしばしば感じます。85歳になるわたしは現在生存している中央幹部の中で3番目の年長者になります。この栄誉を求めてきたわけではありませんが、許されるままに生きてきました。

大管長会、十二使徒定員会をはじめとする中央幹部の中にこれほど一致が見られたことは教会歴史を通じてかつてなかったと思います。皆召され選ばれて、現在の教会を導いています。このことを裏付ける証拠はたくさんあります。地上における神の王国の現在の指導者は、どの時代の指導者たちよりも長い間、救い主からの

導きとなる靈感を受けてきました。教会を指導するグループとしてわたしたちは最年長者の集まりです。

この兄弟たちの中には半世紀に及ぶかという交わりをわたしと持ってきた人たちがいます。このためわたしは、彼らが例外なく、善良で、尊敬と信頼に値する人物であると断言できる立場ににいると思います。わたしは彼らの胸の内を知っています。彼らは主の僕^{しもべ}です。彼らの願いはその大いなる召しを果たし、地上に神の王国を築くことだけです。現在働いている兄弟たちは信頼できる、真正正銘の僕です。以前ほどの体力のない兄弟たちもいますが、心はとても純粋であり、経験は非常に豊富であり、頭脳はすこぶる明晰^{めいしき}であり、霊的な知恵は深遠です。そばにいただけで安らぎを覚えます。

わたしは33年前に十二使徒補助に召されたとき、召しに圧倒されました。そして謙遜^{けんそん}になりました。数日後、ヒュー・B・ブラウン副管長から、わたしにとって最も大切なことは、中央幹部の兄弟たちと常に一致することだと教わりました。ブラウン副管長は詳しい説明を加えませんでした。ただ、「常に兄弟たちとつながってください」と言っただけでした。わたしはそれを大管長と大管長会、十二使徒定員会の勧告と指示に従うことだと解釈しました。それを心から実行したいと思いました。

この勧告に賛同できない人がいるかもしれませんが、考えてみるだけの価値はあります。霊的な導きを受けられるかどうかは、大管長、大管長会、十二使徒定員会と一致しているかどうかにか大きく左右されると、わたしは理解しました。彼らは皆、今日なされたように、預言者、聖見者、啓示者として支持されているのです。大管長とそのほかの預言者、聖見者、啓示者と一致せずに主の御霊^{みたま}と完全に一致することがどうしてできるのでしょうか。

執事の職にあったとき、わたしは父に連れられて、兄とともに、タバナクルで開かれた中央神権会に出席しました。神の預言者ヒーパー・J・グラント大管長やほかの預言者、使徒たちを初めて直接この目で見るのができ、非常に感動したのを覚えて



閉会后、十二使徒定員会の会員たちとあいさつをする大管長会の3人。

います。メッセージに熱心に耳を傾け、心に刻みました。それから長い間、彼らの採り上げたテーマは何度も繰り返されてきました。この大会中でも、幾つかが繰り返されることでしょう。わたしたちの救いにとって基本となる事柄であり、繰り返し聞く必要があります。

預言者と歩みを共にすることができなかった人々の例は、世の歴史が始まって以来、数多く記録に残されています。現在の神権時代の初期にも、残念なことに何人かの十二使徒は預言者ジョセフ・スミスに対して誠実であり続けることができませんでした。その一人がライマン・E・ジョンソンです。最初の十二使徒定員会の一人だったライマンは不義な行いにより破門されました。後に彼は自分が霊的に墮落したことをひどく後悔しました。ライマンはこう言いました。「もし、もう一度信じるができるならば、右手を切り落としてもいい。それでも喜びに満たされることでしょう。楽しい夢を見て、朝目を覚ませば、霊ははつらつとしていることでしょう。昼も夜も幸せに浸り、平安と喜びと感謝にあふれることでしょう。けれども今のわたしは暗黒と苦痛、この上ない悲しみに包まれ、惨めな有様に置かれています。あのときから、幸

せだったことは一度もありません。』³ ライマンは1856年、そりに乗っていて事故に遭い、命を落としました。45歳でした。

ルーク・S・ジョンソンも1835年に最初の十二使徒定員会に召されました。1837年、投機的な取引に手を染めていたルークは霊性を失っていきました。後にルークは当時を振り返ってこう語りました。「わたしの思いは暗くなり、自分の考えに従って歩んでいました。神の御霊を失い、義務をおろそかにするようになりました。そして1837年9月3日にカートランドで開かれた大会で、……わたしは教会から絶縁される結果となりました。」1837年12月までに、ルークは教会を公然と非難する背教者グループに加わり、1838年には背教によって教会から破門されました。ルークは8年間、カートランドで開業医をしました。その後1846年にルークと家族は聖徒の中に復帰しました。ルークはこう語りました。「わたしは道から外れて、主の業の外で立ち止まっていました。けれどもわたしの心は民に向いていました。聖徒の仲間に入りたい、一緒に荒野へ旅立ち、目的地まで一緒に行きたいと願っていました。」ルークは1846年3月に再びバプテスマを受け、開拓者の最初の隊に加わって1847年に西部へ

やって来ました。ルークは活発な会員として1861年にソルトレーク・シティーで他界しました。54歳でした。⁴

教会員の皆さんに勧めます。全身全霊を尽くして大管長と大管長会、十二使徒定員会、そしてほかの中央幹部を支持してください。そうするなら、安全な避け所にとどまることができます。

ブリガム・ヤング大管長は、預言者ジョセフ・スミスから言われた次の言葉を何度も思い起こしたと語っています。「常に祈り、信仰を実践し、教会の教えに従った生活をし、召しを尊んで大いなるものとし、主の現れを受け、信仰を固く守り続けなければなりません。』⁵ だれもが、信仰の試しを受けることでしょう。それは様々な形を取って訪れます。教会の指導者から与えられる勧告を必ずしも快く思わないかもしれません。しかし、教会の指導者は人気者になろうとは思っていません。神の律法に従わないときにやって来る災いと落胆を避けるよう皆さんを助けようとしているのです。

地元の指導者も支え、支持する必要があります。なぜなら、彼らも「召され、選ばれ」ているからです。この教会の会員は皆、監督や支部長、ステーク会長、伝道

部長、大管長、大管長を補佐する人たちから勧告を受けます。彼らは自分から召しを求めたわけではありません。だれも完全ではありません。けれども、靈感を受ける資格のある人たちを通して、主から召された主の僕です。召され、支持され、任命された人には会員の支持を受ける権利があるのです。

わたしは自分の監督だったすべての人を高く評価し、尊敬してきました。彼らの指導に疑問を挟まないようにしてきました。勧告を支持し、従うときに「だまし惑わす策略や人々の悪巧み」⁶から守られると考えてきました。なぜなら、召され、選ばれた指導者はそれぞれ召しに伴う神の啓示を受ける権利を持っているからです。宗務指導者を軽んじた多くの人は霊的な衰退と墮落を味わってきました。わたしたちを管理するよう召された人々の欠点や落ち度、短所へのわだかまりを捨てて、任じられているその職を支持しなければなりません。

現在、地元での出費や活動費は、光熱費も含め、教会の中央基金と地元ユニットの予算交付金で賄われていますが、昔はワードで資金を調達していました。バザーや展示販売、晩餐会、その他の資金獲得活動を行ったものです。当時、わたしのワードにはすばらしく、また献身的な監督がいました。

近くのワードに住むある会員がダンキングマシンというものを使って資金獲得のための活動を成功させていました。料金を払って野球のボールを受け取り、マシンの的を目がけて投げるのです。ボールが的の中心に命中すると留め金が外れて、マシンの座席部分に座っている人が冷たい水を張った大きな水槽に放り込まれるのです。わたしたちのワードはこのマシンを使うことにしました。もし監督がマシンに座ってくれたら、たくさんのお金をお金を出して参加してくれるだろう、とだれかが言いました。監督は楽しいことが好きな人でした。そのうえ、資金調達の責任者でもあったため、マシンに座ることを喜んで承知してくれました。間もなく、何人かがお金を払って、的を目がけて



ボールを投げ始めました。何球かが的に命中して、監督はずぶぬれになりました。30分も過ぎると、監督は寒さで震え始めました。

とてもおもしろがっている人もいましたが、父は監督の職がひどくけなされ、あざけりと軽蔑の対象にされていると言って怒っていました。資金獲得自体は正しい動機の下で行われていたのですが、善い羊飼いとしてみなさんたちのために日夜奉仕してくれる人とその職の両方に対して、一部の人は敬意を払っていなかったのです。わたしはそのときに感じた恥ずかしさを今でも覚えています。わたしたちは神の神権を持つ者として、教会の指導者を支持する模範を家族や友人、同僚に示さなければなりません。

聖典と、教会の地元と中央の幹部とともに、教会員のために勧告と導きという転落防止の網を設けています。例えば、中央幹部はこの壇上あるいはほかの説教壇から聖徒に対して、自分の収入の範囲内で生活し、借金を避け、「まさかの時」は必ず来るので、そのために多少なりとも蓄えをするよう強く勧告してきました。わたしの生涯を通じてずっと語られてきたことです。わたしは大恐慌や第二次世界大戦など経済的に非常に困難な時代を生きしてきました。そうした経験のせいか、災いから自分と家族の身を守るためにできることをしていないと落ち着かないのです。この知恵ある勧告を与えてくれた幹部の兄弟たちにわたしは感謝しています。

大管長は教会の人々を間違った方向へ導くようなことをしません。そのような事態は決して起きません。ヒンクレー大管長の副管長は、十二使徒定員会、七十人定員会、管理監督会と同様、大管長を完全に支持しています。このため、先程話したように、教会の管理評議会には大管長と互いに対して特別な愛と一致が存在するのです。

神の神権は盾です。世の悪に対する盾です。この盾は清く保つ必要があります。そうでなければ、わたしたちの目的と周囲の危険に対する視野はせばめられてしまいます。わたしたちを清めてくれるのは、個人の義です。しかし、すべての人が盾を清く保つための代価を支払うとはかぎりません。主はこう言われました。「召される者は多いが、選ばれる者は少ない。」⁷わたしたちは頭に手を置かれて神権を授かったときに召されました。しかし、わたしたちが神に自分の義と忠実さ、決意を示すまでは、選ばれることはありません。

兄弟の皆さん、この業は真実です。ジョセフ・スミスは御父と御子にまみえ、御二方の指示を聞き、従いました。この大なる業の出発点はここにあります。そして、現在その責任はわたしたちの肩に置かれています。わたしはこの業が神の業であることを、イエス・キリストの御名により、厳粛に証します。アーメン。

注

1. 教義と聖約55:1
2. *Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1: 1995–1999* (2005年), 509
3. プリガム・ヤングによる引用, *Deseret News*, 1877年8月15日, 484
4. スーザン・イーストン・ブラック, *Who's Who in the Doctrine & Covenants* (1997年), 156–157参照
5. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットソー(1954年), 469
6. エペソ4:14参照
7. 欽定訳マタイ22:14から和訳

最善を尽くして 義務を果たす

第一副管長

トーマス・S・モンソン

神権は、実際のところ、^{たまもの}賜物というよりもむしろ、委託された奉仕の務め、支え励ます特権、人の生活を祝福する機会なのです。



ここのカンファレンスセンターに、また世界各地に集まっている神権者の皆さん、皆さんに話すこの責任にへりくだる思いがします。話の間、主の御霊がともにあるよう祈ります。

今夜話を聞いている皆さんの中には、最近聖任されたばかりの執事も、いちばん年上の大祭司もいます。バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を回復し、ペテロ、ヤコブ、ヨハネがジョセフとオリバーにメルキゼデク神権を回復したことは、皆さんにとって神聖で貴重な出来事です。

執事の皆さん、わたしは自分が執事に聖任されたときのことを覚えています。監督会は、聖餐のパスという執事の責任が神聖であることを熱心に教えてくれまし

た。ふさわしい服装、威厳ある態度、「体の内側も外側も」清くあることの重要性が強調されました。聖餐を配る手順とともに、ルイス・マクドナルド兄弟が聖餐を取れるように助ける方法も教わりました。ワードの会員であるマクドナルド兄弟は、体がまひしていて、神聖な聖餐を受けるためには、助けが必要だったのです。

マクドナルド兄弟の列に聖餐を配る割り当てを受けたときのことをよく覚えています。わたしは恐れとためらいを感じながら、このすばらしい兄弟に近寄りました。彼のほほえみと、感謝を伝えようとする真剣な表情から、聖餐を取りたいという望みが伝わってきました。わたしは左手にトレイを持ち、一切れの小さなパンを彼の唇に押し当てました。水も同じ方法で配られました。聖地にいると感じました。確かにそこは聖地でした。マクドナルド兄弟に聖餐を配る特権を通じて、皆、より良い執事となりました。

ちょうど2か月前の7月31日の日曜に、バージニア州A・P・ヒル陸軍駐屯地の、全国スカウト大会の期間中に開かれた末日聖徒の聖餐会に出席しました。そこに出席した理由は、その前の週に大会の様々な活動に参加した、5,000人の末日聖徒の若い男性とその指導者に向けて話をするためでした。天然の円形競技場に皆が敬虔に座っている中、400人のアロン神権者の聖歌隊が歌いました。

モルモンの少年、モルモンの少年、
わたしはモルモンの少年です。
わたしは王様もうらやむ
モルモンの少年です。¹

聖餐が祝福されました。65人の祭司が、競技場内の各所に設置された何台もの大きな聖餐のテーブルに着いて儀式を執行了しました。それからおよそ180人の執事が聖餐を配りました。非常に大きな集まりでしたが、聖餐を配るのに、席の埋まったワードの礼拝堂で聖餐を配るのと同じ時間しかかかりませんでした。その朝、アロン神権を持つ大勢の若い男性が聖なる儀式を行う光景を見て、わたしは非常に畏敬の念に包まれました。

執事は皆、聖任によって受けた召しの神聖さを、霊的に自覚する必要があります。あるワードは断食献金を集めることで、それを効果的に教えました。

そのワードでは、断食日になると、執事たちと教師たちがワードの会員の家を訪問し、献金を集めていました。執事たちは、この責任のために朝いつもより早く起きることを、多少おっくうがっていました。

監督会は靈感を受け、執事と教師をバスに寄せ、ソルトレーク・シティのウェルフェアスクウェアに連れて行きました。そこでは、貧しい子供たちが新しい靴や衣類を受け取っていました。目の前で、空のかごが、日用品でいっぱいになっていきました。だれも代金を支払いません。短い説明がありました。「ここで、困っている人に食糧と服と宿泊施設を提供できるのは、君たちが断食日に献金を集めてくれるからなんだよ。」アロン神権を持つ若い男性たちの顔は輝き、神権をさらに尊重し、責任を果たすためにもっと喜んで働くようになりました。

さて、教師と祭司の皆さん、皆さん一人一人は、メルキゼデク神権を持つ同僚とともにホームティーチングの割り当てを受けなければなりません。これはこの上ない伝道の準備になります。義務を果たす習慣を身に付ける特権です。人々を「見守る」責任を受けた若い男性は、自分のことばかりあれこれ考えることを自然

にやめるようになります。²

デビッド・O・マッケイ大管長は言いました。「ホームティーチングは、御父の子供たちに養いと、靈感と、助言と、導きを与える、最も緊急で、やりがいのある仕事です。……〔それは〕神の奉仕、神の召しです。ホームティーチャーの義務は、神の霊をすべての家庭とそこに住む人の心に運ぶことです。』³

ホームティーチングを通して、多くの祈りがこたえられ、多くの奇跡が起きています。

ホームティーチングで思い出すのは、ハンガリー・デブレツェン出身のヨハン・デンドーファーです。デンドーファー兄弟は何年も前にドイツで教会に入りました。しかし、第二次世界大戦後、長年にわたって故国ハンガリーから出られず、教会との接触をずっと切望していました。そこへホームティーチャーが訪ねて来たのです。それはウォルター・クラウゼ兄弟とその同僚でした。ホームティーチングをしに、はるばるドイツ北東部からハンガリーに來たのです。クラウゼ兄弟は、ドイツを出発する前に、同僚に尋ねました。「今週、一緒にホームティーチングに行きませんか。」

「いつ出発ですか」と同僚が聞き返しました。

クラウゼ兄弟は答えました。「明日です。」

「いつ戻って来ますか」と同僚。

「1週間後くらいかな」と、クラウゼ兄弟はためらわずに言いました。こうして、デンドーファー兄弟やそのほかの会員を訪れる旅に出たのです。戦前も含め、デンドーファー兄弟にはホームティーチャーがいませんでした。主の僕たちを見た瞬間、彼は胸がいっぱいになりました。しかし、握手をする前に寝室に戻り、秘密の隠し場所から、何年間もためてきた^{しもべ}什分の一を出して来ました。それをホームティーチャーに渡してから言いました。「これで握手ができます。」

さて、アロン神権の祭司の皆さんに言います。皆さんは、聖餐を祝福し、ホームティーチングの務めを引き続き行い、神聖なバプテスマの儀式を行う機会があり



ます。

55年前、アロン神権の祭司の職を持つ、ロバート・ウィリアムズという名の一人の若い男性がいました。わたしは監督で、彼の定員会の会長でした。彼にはどもる癖があり、どうすることもできませんでした。どもり症のせいで、人目を気にし、内

気で、自分や他人を恐れ、自信をなくしていました。責任を引き受けることはまれで、人と目を合わせるのを避け、下ばかり見ていました。ところがある日、予期せぬことが起きました。ロバートがバプテスマを施す責任を引き受けたのです。

ソルトレークタバナクルのバプテスマ室



で、わたしはロバートの隣に座りました。ロバートにはできるだけ助けが必要だということを知っていました。これから行う儀式のために、彼は染み一つない白い衣を着ています。どんな気持ちか尋ねると、床を見詰めたまま、「恐いです」と、どもりながら答えました。

彼がその務めを果たせるように、二人で心から祈りました。やがて、書記が言いました。「では、ナンシー・アン・マッカーサーが、祭司のロバート・ウィリアムズからバプテスマを受けます。」

ロバートは立ち上がり、フォントに入りました。そして、小さなナンシーの手を取って、人の命を清め、霊的な再生を与える水の中に招き入れました。そして言いました。「ナンシー・アン・マッカーサー、わたしはイエス・キリストより権能を受けましたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン。」

そう言ってロバートはナンシーにバプテスマを施しました。ロバートは一度もどもりませんでした。現代の奇跡が起きたのです。次いで、ロバートは同じように2人か3人の子供にバプテスマの儀式を施しました。

わたしは更衣室に急ぎ「おめでとう」と

声をかけ、滑らかな返事が来るのを待ちました。予想に反し、ロバートは下を見詰めて、どもりながら「ありがとう」と答えました。

わたしは^{あかし}証します。ロバートはアロン神権の権能によって儀式を行ったとき、力と確信をもって、また天の助けを得て語ったのです。

ちょうど2年ほど前に、ロバート・ウィリアムズの葬儀で弔辞を述べる特権にあずかりました。そこで、この、生涯最善を尽くし、神権を尊んだ忠実な神権者への賛辞を述べました。

今夜ここにいる若い男性の中にも、生まれつき内気な人や、召しに応じる力がないと思っている人がいるかもしれません。しかし、忘れないでください。この業は皆さんやわたし個人の業ではないのですから、上を向き、神の助けを求めてもよいのです。

わたし自身も、失望や、若者らしい屈辱感がどんなものか知っています。少年時代、小学・中学を通じてソフトボールをしました。最初にキャプテンが二人選ばれ、そのキャプテンが、自分のチームの選手を選びます。もちろん上手な選手が最初に選ばれ、2番目、3番目と続きます。4番目、5番目に選ばれるのはまだましで、最

後に選ばれて、だれも守りたがらない外野に送られるのは、つらいことです。でもそれがわたしでした。

わたしはボールが飛んで来ないように願いました。取り損ねて相手チームに点が入り、笑い者になることが目に見えていたからです。

そんなわたしの人生を変える出来事が起きたその瞬間を、昨日のこつのように覚えています。試合は先ほど説明したようにして始まり、わたしは最後に選ばれました。わたしはライトのいちばん深い所までとぼとぼ歩いて行き、相手チームが満塁になるのを眺めていました。続く二人のバッターは三振に倒れました。しかし、次の打者は、とてもいい当たりを飛ばし、「これならホームランだ」と言いました。屈辱的なことでした。なぜならボールはわたしの方に飛んで来ていたからです。「取れるだろうか。」わたしはボールの落ちそうな所に向かって走りながら祈りました。そして夢中でくぼめた両手を差し出したのです。何と、わたしはボールをつかんでいました。わたしのチームは勝ったのです。

たった一度のこの経験で、自信がつき、もっと練習したくなりました。そして、いちばん最後に選ばれていた選手が、チームの柱に変わったのです。

だれもがそんな自信を深めるような経験ができます。誇りに思える貢献ができるようになります。次の短い勧告に従ってください。「決してあきらめるな。」

映画『シェナンドー河』の次のせりふには勇気がわいてきます。「やってみなければ、何もできない。何もできないんなら、何しに来たんだ。」

神権の召しを尊んで大いなるものとするなら、奇跡はどこにでも起きます。疑いが信仰に変わり、利己心が無私の奉仕に変わるとき、神の力が現れて、神の目的が達成されます。神権は、実際のところ、^{たまもの}賜物というよりもむしろ、委託された奉仕の務め、支え励ます特権、人の生活を祝福する機会なのです。

義務を果たそうという内なる声は、神権者としての割り当てに応じているとき

に、静かに聞こえてくるのです。控え目ながらも傑出した指導者であるジョージ・アルバート・スミス大管長は言いました。「皆さんの義務は、第1に、主が望んでおられることを学び、それから聖なる神権の力によって、人々の前で召しを尊んで大いなるものとし、人々が喜んで皆さんに従いたくなるような人物になることです。」⁴

では、召しを尊んで大いなるものとするにはどうすればよいでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことです。長老は、長老としての義務を学び、それを実行することにより、聖任された召しを尊んで大いなるものにします。これは長老だけでなく、執事、教師、祭司、監督、そのほかすべての神権の職にある人々に当てはまります。

兄弟の皆さん、夢見ることでなく、行うことが、祝福をもたらし、導きを与え、人を救うのです。ヤコブは言いました。「御言葉を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。」⁵

今わたしの声を聞いているすべての人が、生活の中で主の導きを受けるために、新たな気持ちで努力できますように。助けを願い、祈り求める人が大勢います。落胆している人、助けの手を必要としている人がいるのです。

何年も前のこと、わたしはある大きなワードを管理する監督でした。会員は1,000人を超え、夫を亡くした姉妹が87人いました。あるとき、わたしは副監督を伴い、体の不自由な成人の娘がいる、夫を亡くした姉妹を訪問しました。訪問を終えアパートを出たときに、向かいの部屋に住む女性が出て来て、わたしたちを呼び止め、外国語なまりの英語で、「あなたは監督ですか」と尋ねました。「そうです」と答えると、「あなたはよく人の家に訪問しますね。だれもわたしや寝たきりの夫を訪問してくれないんですよ。中に入っておしゃべりする時間はありませんか。あなたの教会の者ではないのですが。」

その女性の部屋に入ってみると、彼女とご主人はタバナクル合唱団のラジオ放送を聞いているところでした。わたした



ちはしばらく語り合い、それから御主人に祝福を施しました。

それ以来、できるだけこの夫婦を訪問しました。やがて、二人は宣教師と話し、妻のアンジェラ・アナストールはバプテスマを受けました。しばらくしてご主人は亡くなりました。わたしは葬儀を司会し、話をする特権にあずかりました。後にアナストール姉妹は、ギリシャ語の知識を生かし、『ジョセフ・スミス自らの人生を語る』(Joseph Smith Tells His Own Story)という広く使われていたパンフレットをギリシャ語に翻訳しました。

兄弟の皆さん、わたしは「全力で義務を果たし、後は主にお任せする」⁶ という言葉が大好きです。

若い男性の皆さんは、アロン神権者として熱心に奉仕することにより、将来、メルキゼデク神権を受け、宣教師となり、聖なる神殿で結婚する備えをしているのです。

皆さんは、アロン神権定員会アドバイザー、そして定員会の仲間のことを永遠に忘れず、それによって、次の真理を悟るでしょう。「神が人に記憶を与えられたのは、12月に6月のバラを思い出せるようにするためである。」⁷

アロン神権の若い男性の皆さん、未来

が招いています。備えてください。天の御父の導きが常に皆さんにありますように。神権を尊び、召しを尊んで大いなるものにしようと努めるときに、主の導きが皆さんとともにありますように、イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

注

1. エバン・スティーブンズ, "A Mormon Boy" ジャック・リヨンほか編, *Best-Loved Poems of the LDS People* (1996年), 296
2. 教義と聖約20:53参照
3. *Priesthood Home Teaching Handbook*, 改訂版 (1967年), ii-iii
4. Conference Report, 1942年4月, 14
5. ヤコブの手紙1:22
6. ヘンリー・ワズワース・ロングフェロー, *The Legend Beautiful, The Complete Poetical Works of Longfellow* (1893年), 258
7. ジェームズ・バリエ, *Peter's Quotations: Ideas for Our Time*, ローレンス・J・ペター編 (1977年), 335

備えていれば 恐れることはない

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

主の守りと導きを願い求められるように生活する必要があります。……主の戒めを進んで守らずに主の助けを得ることはできません。



愛する神権者の兄弟たち、皆さんは広大な世界の各地でこの集会に参加しています。あらゆる人種、部族を代表する成人と青少年であり、神の家族の一員である皆さんは何とすばらしいグループに成長してきたことでしょう。神がわたしたちに下さる賜物には何と大きな価値があることでしょうか。神はその聖なる権能、永遠の神権、人の不死不滅と永遠の命をもたらす力の一部をわたしたちにお与えになっています。しかし、多く与えられる者は多く求められることをわたしたちは知っています（ルカ12：48；教義と聖約82：3参照）。

だれも完全な人物ではないことを、わたしは承知しています。完全な道を知っ

ていますが、必ずしもその知識に基づいて行動しているわけではありません。けれども、大体においてそのように努力していると思います。御父が望んでおられるような人物になるよう努力しています。これは非常に高い目標です。この目標を目指して努力している皆さんに賛辞を贈ります。あらゆる面において模範となる生活を目指している皆さんに主の祝福がありますように。

さて、皆さんもよくご承知のように、合衆国のメキシコ湾岸諸州は最近、荒れ狂う風と水によって壊滅的な被害を受けました。多くの人が全財産を失いました。被害額は膨大な額に達しています。被災者は文字どおり数百万人に上り、多くの人の心は恐れと不安でいっぱいになっています。人命も奪われました。

こうした事態を受けて、多くの助けの手が差し伸べられています。思いやりが示され、被災者に家庭が解放されました。キリスト教精神の崩壊を好んで口にする批判家たちは、こうした状況で諸教会が実施していることに目を向けるとよいでしょう。たくさんの宗派が驚くべきことを成し遂げています。その中で少なからず活躍しているのがわたしたちの教会です。大勢の人が、工具とテント、それに輝く希望を携えて、遠くまで出かけています。神権者が復興のためにささげた時間は延べにして数十万時間に上っています。一時に3,000から4,000人の神権者が参加し

ています。今晚もその地で復興に取り組んでいる神権者たちがいます。言葉に表せないほどの感謝でいっぱいです。皆さんへのわたしたちの感謝と愛と祈りをお伝えします。

二人の地域七十人、フロリダに住むジョン・アンダーソン兄弟とテキサスに住むスタンレー・エリス兄弟がこうした実に変な作業のほとんどを指揮してきました。けれども二人は、援助を提供してくれた大勢の兄弟たちと青少年のおかげだと真っ先に言うでしょう。多くが「末日聖徒助けの手」と書かれたベストを着ています。そして、支援を受けた人々から愛と尊敬を得ています。支援は被害を受けた教会員に対してだけでなく、どの宗派に所属しているのか分からない大勢の人にも向けられています。

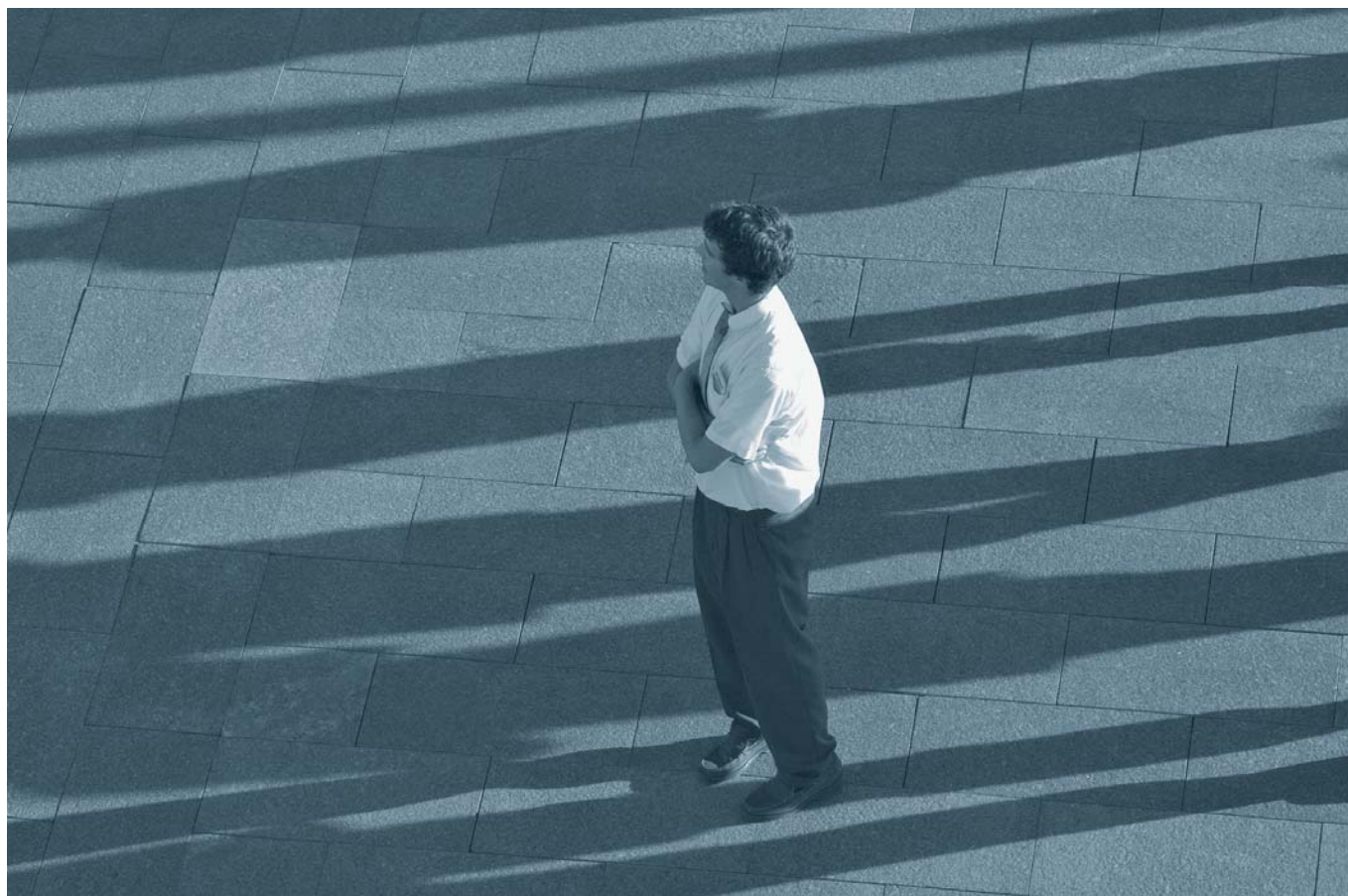
彼らはアルマ書に記されたニーファイ人の方法に従ったのです。

「彼らは……着る物のない者や飢えている者、渴いている者、病気の者、栄養の足りない者を追い払うことがなかった。また、彼らは富に執着することもなかった。そのため、老いた者にも若い者にも、束縛された者にも自由な者にも、男にも女にも、また教会員であるなしの区別なく、助けの必要な人々については人を偏り見ることなく、すべての人に物を惜しまなかった。」（アルマ1：30）

各地の教会の成人女性と若い女性は、何万もの衛生キットと清掃キットを配るといふ、非常に困難な仕事を受け持ちました。教会は生活用品と食糧、水、慰問品を提供しました。

わたしたちは赤十字などの機関にかなりの金額を寄付しました。断食献金や人道的援助基金から数百万ドル（数億円）を寄付しました。支援を受けた人々と教会に代わって皆さん一人一人にお礼を申します。

わたしはこの出来事が主から下された罰だとは言いません。繰り返して強調しますが、そのようなことは言っていないし、推測してもいません。忠実な聖徒を含め、たくさんの善良な人々が被災者の中にいます。ためらうことなくわたしがこのよう



に言うのは、世界は昔から、繰り返し災害や惨事にさらされてきたからです。聖文を読み信じているわたしたちは、これまでに起きてきた災い、そして今後起きる惨事について、預言者たちが警告を発してきたことを知っています。

大洪水が発生し、全地が水で覆われたことがありました。ペテロによればそのとき「水を経て救われたのは、わずかに八名だけ」でした(1ペテロ3:20)。

恐ろしい出来事が人類を襲うことについて疑問を抱いている人がいれば、マタイによる福音書第24章を読んでください。ここで主はこう言っておられます。

「戦争と戦争のうわさを聞くであろう。……

民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききん〔と疫病〕が起り、また地震があるであろう。

しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである……

その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。……

その時には、世の初めから現在に至る

まで、かつてなく今後もないような大きな患難かんなんが起るからである。

もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。」(マタイ24:6-8, 19, 21-22)

モルモン書には、エルサレムで救い主が亡くなられたときに西半球で想像を絶するばかりの破壊が起きたと記されています。それを引用します。

「さて、第三十四年一月四日に、全地でこれまでにまったく知られていないような大きな嵐あらしが起った。

また、激しくすさまじい暴風雨もあった。また、すさまじい雷があり、まさに引き裂くほどに全地を揺り動かした。

さらに、全地でこれまでにまったく知られていないような非常に強烈な稲妻があった。

そして、ゼラヘムラの町に火がついた。モロナイの町は海の深みに沈んで、そこに住む者はおぼれた。

また、地がモロナイハの町の上に持ち上がり、その町のあった所に大きな山が

できた。……

暴風雨と旋風と雷と稲妻と全地の非常に激しい震動のために、地の全面が変わってしまった。

街道は破壊され、平坦へいなんな道は損なわれ、多くの平らな場所が起伏の激しい所となり、

多くの大きな名の知れた町が沈み、多くの町が焼け、また多くの町が揺れ動いて建物が地に倒れ、そこに住む者が死に、方々の地が荒れ果てるに任された。」(3ニーファイ8:5-10, 12-14)

何と途方もなく大きな惨事だったことでしょう。

14世紀にはペストという伝染病で数百万人が命を落としました。そのほか天然痘など世界的に流行した病気が、おびただしい苦しみと死を何世紀もの間にわたって招いてきました。

紀元79年に、偉大な都市ポンペイはベズビオ山の噴火によって滅びました。

シカゴは大火によって破壊されました。ハワイは高波で水浸しになりました。1906年のサンフランシスコ地震では市が

崩壊し、約3,000人の命が奪われました。1900年にハリケーンの直撃を受けたテキサス州ガルベストンでは8,000人が犠牲となりました。最近では、御存じのように東南アジアの大きな津波によって何千人もの命が奪われ、今なお救援を必要としています。

長老たちの証の後に降りかかる災いについて述べた教義と聖約第88章の啓示には重大な意味があります。主はこう語っておられます。

「あなたがたの証の後に、地の中でうなりを起こす地震の証が来る。そして、人々は立っていることができず、地上に倒れる。

また、雷の声と、稲妻の声と、暴風雨の声と、その境を越えて打ち上げる海の波の声の証も来る。

また、すべての物事が混乱する。そして、必ず人々は気落ちする。恐れがすべての人に及ぶからである。」(教義と聖約88:89-91)

津波や最近のハリケーンを説明する言葉として、この啓示で使われている「その境を越えて打ち上げる海の波の声」という表現には興味深いものがあります。

過去と現在の紛争で行われた、人の人に対する残虐行為は、言い尽くせない苦痛をもたらしてきました。スーダンのダルフル地方では、何万人もの人々が殺され、百万人が家をなくしました。

これまで経験してきたことはすべて予告されていました。これで終わりではありません。過去に災害が起きたのと同じように、これからもっと起きるでしょう。ではどうしたらよいのでしょうか。

ノアが箱船を作っていたとき、雨は降っていなかったという説があります。けれどもノアは箱船を作りました。その後雨が降ってきました。

主は「備えていれば恐れることはない」と言われました(教義と聖約38:30)。

教義と聖約には最も大切な準備についてこのように記されています。

「それゆえ、主の日が来るまで、あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。」(教義と聖約87:8)



わたしたちはこう歌います。

地のどよめくとき
恐れを救い
地の裁きの日は
シオンに救いませ
(「導きたまえよ」『賛美歌』41番)

主の守りと導きを願い求められるように生活する必要があります。これは優先順位の第1に挙げるべき事柄です。主の戒めを進んで守らずに主の助けを得ることはできません。この教会にはヤレド人やニーファイ人の例に見られるように、不従順に罰が下されることについては証拠が山ほどあります。いずれの場合も、邪悪であったために繁栄から完全な滅亡にまで転落しました。

もちろんわたしたちは、雨は正しい者にも正しくない者にも降ることを知っています(マタイ5:45参照)。しかし、正しい者は死んでも、救い主の贖罪によって救われるので、滅びることはありません。パウロはローマの人々にこう記しました。「わたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。」(ローマ14:8)

警告に耳を傾ける必要があります。ニューオーリンズの危険地帯については様々な警告が発せられていたそうです。地震学者によればソルトレーク盆地は地震の起きる可能性のある地域だそうです。テンプルスクウェアのタバナクルに大がかりな改修工事を行っているのはおもにこのためです。歴史を刻んだこのすばらしい建物を地震に耐えるようにしなければならないのです。

わたしたちは災害時のために穀物の貯蔵所と倉庫を建設して、生活の必需品を蓄えています。でも最良の貯蔵庫は家族の貯蔵室です。主は啓示の中で言われました。

「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。」(教義と聖約109:8)

わたしたちの民は75年間にわたって、災いが降りかかるためのに、生き延びられるだけの準備をするよう勧告され、奨励されてきました。

ある程度の量の水、基本的な食品、医薬品、体温を保つための衣類を取り分けておくことができます。必要なときのために多少のお金も取っておく必要があります。

わたしがこう言ったからといって、デパートやスーパーに走る必要はありません。これまで長い間にわたって語られてきたことを話しているだけです。

肥えた雌牛とやせ細った雌牛、実った良い穂とやせた穂についてパロが見た夢を忘れてはなりません。ヨセフはそれを解き明かして、大豊作の年と飢饉の年が来ることを意味していると説明しました(創世41:1-36参照)。

兄弟の皆さん、主の光、福音、戒めに従って歩むならば、主はわたしたちを祝福し、見守り、助けてくださるという信仰をわたしは持っています。天の御父はわたしたちの父であり、神であられ、わたしたちは御父の子供なのですから、あらゆる点で御父の愛と関心を受ける資格があります。そのような生活を送れるよう、イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。



バスで来る人、神権部会に徒歩で来る人、家族で来る人と様々だが、サモアの末日聖徒は、総大会にともに参加できることを喜んでいる。サモアに住む30パーセント以上の人が教会の会員である。



上——土曜午後の部会で教会の指導者を支持するブラジル、リオデジャネイロの会衆。

右——ブラジルの専任宣教師たち。誇らしげに手にしたモルモン書は、今回、幾つのかの大会説教でテーマとして採り上げられた。



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2005年10月現在

大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング



ディーター・F・ウークトドルフ



デビッド・A・ベドナー

七十人会長会



アール・C・ゲインギー



D・トッド・クリストフアーソン



チャールズ・ディディエ



メリル・J・ペイトマン



ロバート・C・オークス



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラスバンド

七十人第一定員会



カトー・浩
アマーデー



モンチ・ジュン
ブラフ



シェルドン・F・
チャイルド



リ・ホイットニー・
クレイトン



ガーリー・J・
コールマン



スペンサー・J・
コンディー



ジョン・R・
クック



クワットキン・
L・クワック



クワットキン・
R・M・コスタ



ベナム・D・
オヨス



ロバート・K・
デレンバック



ジョン・B・
ディキンソン



デビッド・F・
エルビス



クリステル・
ゴールデン・ジュニア



ワット・F・
ゴラリス



C・スコット・
グロー



ブルース・C・
ヘフナー



ドナルド・L・
ホーンストロム



リチャード・G・
ヒンクレイ



ジェイ・E・
ジェンセン



マリン・K・
ジェンセン



グネス・
ジョンソン



ポール・V・
ジョンソン



ウィリアム・
ロルフ・カー



菊地良彦



ポール・E・
コーリガー



ジョン・M・
マトセン



リチャード・J・
メンス



リン・A・
ミッケルセン



デニス・B・
メンデンハル



グレン・L・ペイズ



ポール・B・
パパー



ブルース・D・
ポーター



カール・B・
プラット



リン・G・
ロビンス



セシル・O・
サミュエルソン・
ジュニア



ステイフ・
E・スノー



エリック・
ソアレス



フランシス・
J・ピーナス



ランズ・B・
ウィックマン



W・クレーク・
スウィック



第一副総経
リチャード・G・
エッジリー



第二副総経
H・バートン



第二副総経
ジェームズ・B・
マクマリン



H・ロス・
ワークマン



ポール・K・
ジブラズキー



ウィリアム・R・
ワーカー



ロバート・J・
ホエイトン



リチャード・H・
ウィンケル



ローウェル・M・
スノー



ドナルド・L・
ステアー



ロバート・R・
ストイアー



ウィリアム・W・
バリー



ウォルター・
H・ボール



ウェイ・S・
ビーター



スペンサー・V・
ジョンズ



高 元龍



ジェラルド・N・
ランド



シャリー・D・
クリステンセン



ジェームズ・M・
ダン



ダリル・H・
ガーン

七十人第二定員会

管理監督会



左上——総大会の放送開始を楽しみに待つメキシコシティーの神権者たち。

上——集会所の大型スクリーンで話者を見守りながらスペイン語で説教を聞くメキシコの会員たち。

左——ペルー、チョシカ市の二人の若い男性。大会説教が楽しみで、教会に早く着いてしまった。

左下——家庭で放送を見ながら教会指導者を支持するミシガン州トロイのジョアンソン家族。

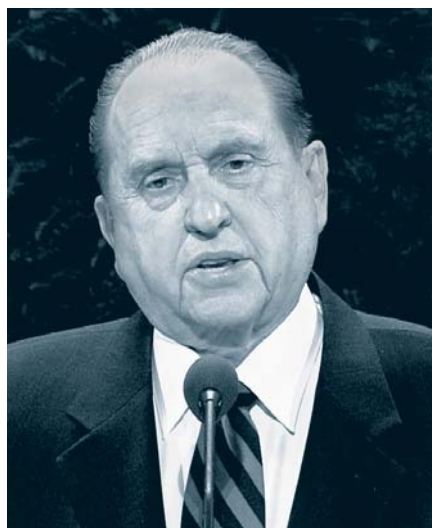
下——慣習として頬にキスをしてあいさつするフランスの二人の会員。



預言者ジョセフ・スミス ——模範による教師

第一副管長
トーマス・S・モンソン

ジョセフ・スミスが模範によって見事に教えた神聖な原則を生活に取り入れ、イエス・キリストの福音をさらに完全に実践できますように。



兄 姉妹の皆さん、わたしは今年生誕200年を迎える、愛する預言者ジョセフ・スミスについて話します。

1805年12月23日、ジョセフ・スミス・ジュニアは、ジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの子供としてバーモント州シャロンに生まれました。その日、満足げに小さな赤ん坊を見詰める両親には、この赤ん坊が後に世の人々に大きな影響を与えるようになることなど知る由もありませんでした。えり抜きの霊が地上に降りて肉体を得たのです。ジョセフ・スミスはわたしたちの生活に大きな影響を与え、模範を通してきわめて大切な原則を教えてくださいました。今日はその原則を幾つか紹介します。

6歳か7歳のとき、ジョセフときょうだいはチフスにかかりました。ほかの子供たちはすぐに回復したのですが、ジョセフだけ足に激しい痛みが残りました。医師たちは最高の薬を用いて治療を施しましたが、痛みは取れませんでした。そして命を救うには足を切断するしかないと言ったのです。ところが、ありがたいことに、診断を下して間もなく医師たちはスミス家にもう一度やって来て、新しい治療法があるので足は治るかもしれないと言いました。急を要する手術でした。医師はひもを何本か持って来ており、手術中に暴れないよう小さなジョセフをベッドに縛りつけようとしていました。痛みを抑えるものがなかったからです。しかし、幼いジョセフは「縛る必要はありません」と言いました。

医師たちはブランデーかぶどう酒を飲むよう勧めました。痛みを和らげるためです。すると幼いジョセフはこう言いました。「要りません。お父さんがベッドに座って抱き締めていてくれるなら、必要なことは何でもします。」ジョセフ・スミス・シニアが幼い息子ジョセフを抱き締めている間、医師たちは患部の骨を取り除きました。しばらくは足を自由に動かさせませんでした。やがて回復しました。ジョセフ・スミスはこれほど幼いときに、また生涯を通じて数え切れないほど、模範によって勇気を教えてくださいました。

ジョセフが14歳のとき、家族はニューヨ

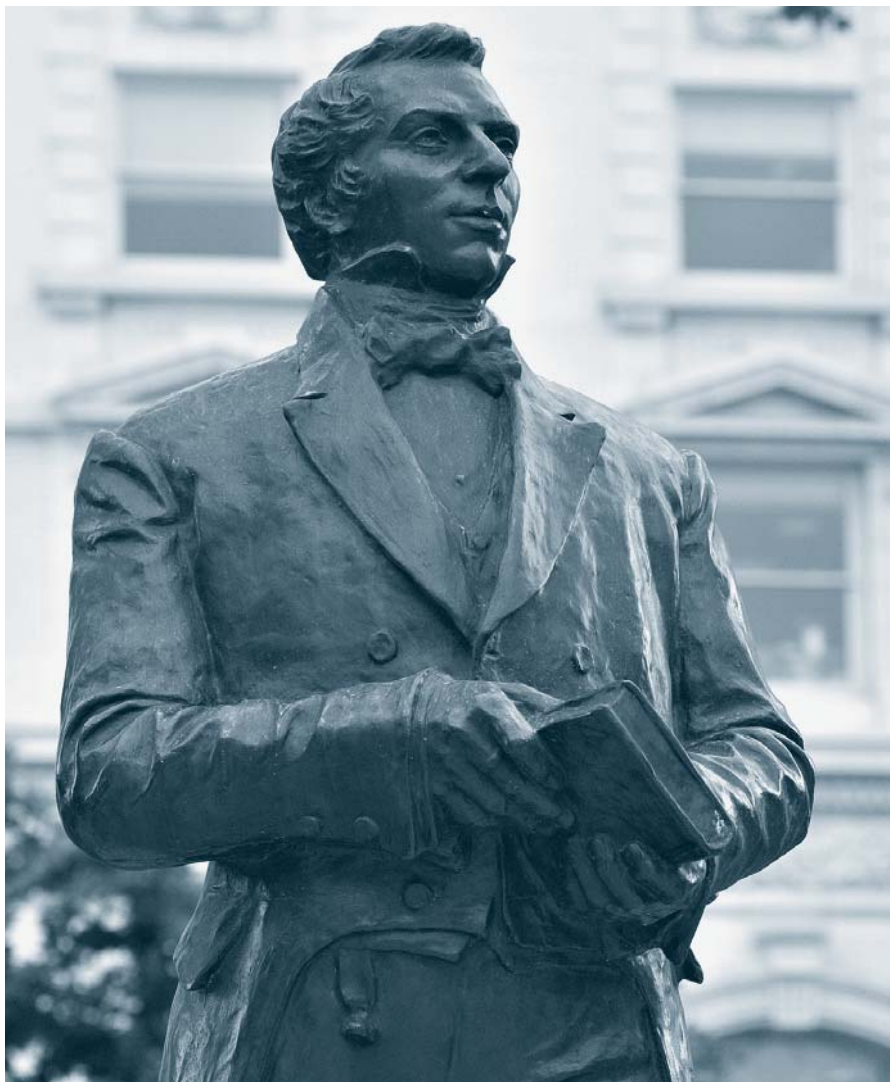
ーク州マンチェスターに移ります。後にジョセフは、当時の大規模な信仰復興運動について述べました。それは、地域一帯に広がっているように思われ、ほとんどの人の強い関心を集めていました。ジョセフもどの教会に加わったらよいか知りたいと思いました。こう記しています。

「わたしはしばしば心に問うた。『……これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』

これら宗教家たちの論争によって引き起こされた、極度に難しい事情の下で苦しんでいたある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第1章5節を読んでいました。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。』²

ジョセフは、ヤコブの言葉を試して主に尋ねるか、そのまま永遠に暗黒の中にとどまるか、どちらかを選ぶしかないことを悟ったと記しています。ある日の早朝、現在、聖なる森と呼ばれている森に入ると、ジョセフはひざまずいて祈りました。熱烈に求めている光を神が与えてくださると信じていました。すると二人の御方、すなわち御父と御子がジョセフに御姿を現されたのです。そして疑問への答えとして、どの教会にも入ってはならないと言われました。正しい教会は一つもなかったからです。預言者ジョセフ・スミスは模範によって信仰という原則を教えてくださいました。1820年のある春の朝にさげた、ジョセフの純粋な信仰の祈りは、今日に至るまで全世界で推し進められる驚くべき業をもたらしました。

聖なる森での祈りから数日後、ジョセフ・スミスは示現について知り合いの牧師に話しました。驚いたことに、この牧師はジョセフの話を「軽蔑した」様子であしらい、その話は「ひどい迫害の原因とな[り]」……迫害は増し続けました。しかし、ジョセフはひるみませんでした。後にこ



う記しています。「わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった。……わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定でき……なかった。」³ 敵対者の肉体的、精神的な迫害を、生涯にわたって堪え忍んだにもかかわらず、預言者ジョセフ・スミスの信念は揺るぎませんでした。ジョセフは模範によって正直であることを教えてくれました。

この偉大な最初の示現の後、預言者ジョセフは3年間、何の示しも受けませんでした。しかし、いぶかることも、疑うこともありませんでした。主を信じ、忍耐強く待

ちました。ジョセフは、忍耐という天の徳を模範によって教えてくれました。

何度も天使モロナイの訪れを受け、金版を託された後に、ジョセフは翻訳という困難な仕事に取りかかりました。2,600年にわたる500ページ以上の歴史記録を90日足らずで翻訳するのに、どれほどの献身と熱意と働きが求められたか、わたしたちには想像することしかできません。わたしはオリバー・カウドリの次の言葉が大好きです。モルモン書を翻訳するジョセフを助けていたころの様子をこう述べています。「これらの日々は、決して忘れられないものであった。天の靈感によって語られた声、この胸にこの上ない感謝の念を呼び起こした声の下に座していたのである。」⁴ 預言者ジョセフ・スミスは模範によって勤勉の大切さを教えてくれました。

御存じのように、預言者ジョセフは回復された福音を宣べ伝えるために宣教師を送りました。預言者自身もニューヨーク州北部とカナダでシドニー・リグドンとともに伝道しました。ジョセフ・スミスは伝道に出よう人々を鼓舞したばかりでなく、模範によって伝道活動の大切さを教えてくれたのです。

預言者ジョセフの教えの中で最もすばらしく、同時に最も痛ましいのは、死を目前にして語った教えではないでしょうか。ジョセフは示現の中で、聖徒たちがノーブーを去り、ロッキー山脈へと向かって行く様子を見ました。彼は聖徒たちが迫害者の手から逃れて主が示された約束の地に導かれることを心から願っていたのです。一緒に行きたかったことでしょう。しかし、ジョセフには無実の罪で逮捕状が出ていました。フォード州知事のもとに嘆願書が数多く寄せられていたにもかかわらず、逮捕状が取り下げられることはありませんでした。ジョセフは家を離れ、妻や家族、聖徒たちに別れを告げて、この世の権力に身をゆだねました。戻ることは恐らくないであろうことも知っていました。

カーセージに向かう途中、ジョセフはこう言いました。「わたしはほふり場に引かれて行く小羊のように行く。しかし、わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は、神に対してもすべての人に対しても、責められることがない。」⁵

カーセージの監獄で、ジョセフは兄ハイラムと何人かの兄弟たちとともに拘禁されていました。1844年6月27日、ジョセフとハイラム、ジョン・テラー、ウィラード・リチャーズと一緒に入れられていた獄舎に怒り狂った暴徒が押しかけ、階段を駆け上がるとドア越しに銃を乱射し始めました。ハイラムは死に、ジョン・テラーは負傷しました。ジョセフ・スミスがこの世で最後に行ったのは、自分を捨てた偉大な行いでした。ジョセフは部屋の端へと走りました。恐らく「自分が外に出れば、部屋にいた兄弟たちの命が救われると考えたのでしょう、……窓から飛び出したのです。そのときドア側から飛んで来た2発の銃弾がジョセフの体を貫きました。そ

してもう1発、外から発砲された弾に右胸を撃たれたのです。』⁶ ジョセフは、自らの命をささげました。そしてウィラード・リチャーズとジョン・テラーは助かりました。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」⁷ 預言者ジョセフ・スミスは、模範によってわたしたちに愛を教えてくださいました。

1844年6月27日のこの出来事は悲劇ですが、160年以上たった今振り返ると、ジョセフ・スミスの殉教で教会の発展が終わったのではないことに安堵を覚えます。命をねらった人々はジョセフがいなければ教会は崩壊すると思っていました。しかし、ジョセフが述べた力強い真理の証も、翻訳した教えも、宣言した救い主の御言葉もすべて、ジョセフを神の預言者だと公言する、全世界の1,200万人以上の会員の心に今も生き続けています。

預言者ジョセフの証は、今も人々の人生に変化をもたらしています。何年も前に、わたしはカナダ伝道部の部長として奉仕しました。ある寒い雪の日の午後、カナダのオンタリオ州で伝道部の二人の宣教師が戸別訪問をしていました。だれも福音を聞いてくれませんでした。一人はかなりの経験があり、もう一人は召されて間もない宣教師でした。

二人はエルマー・ポラード氏の家を訪ねました。ポラード氏は凍えそうな宣教師を見て哀れに思い、中に招き入れました。二人は福音のメッセージを伝え、一緒に祈ってもらえないかと尋ねました。ポラード氏は、自分が祈るという条件で同意しました。

ポラード氏の祈りに宣教師たちは愕然としました。こう祈ったのです。「天の父よ、哀れなさまよえる宣教師たちを祝福してください。彼らが故郷に帰るように、そして自分もろくに理解していない、信じられない教えをカナダの国民に伝えて時間を無駄にすることがないように助けてください。」

祈りを終えて立ち上がると、ポラード氏は二度と家に来ないよう宣教師たちに伝え、二人の帰り際には、あざけるようにこう言いました。「そもそもジョセフ・スミス



が神の預言者だなんて、ほんとうに信じているわけでもないんだろう？」そして、勢いよくドアを閉めたのです。

少し行ったところで、後輩の宣教師がおどおどと言いました。「長老、わたしたちはポラードさんの質問に答えていません。」

「断られたんだ。別のところへ行こう」と先輩の宣教師は答えました。

しかし、新任の宣教師は譲りませんでした。結局二人はポラード氏の家に戻りました。ノックをすると、出て来たポラード氏は怒ってこう言いました。「二度と来るなど言っただがね。」

後輩の宣教師は、ありったけの勇気を振り絞って言いました。「ポラードさん、先ほど帰り際に、わたしたちはジョセフ・スミスが神の預言者だとほんとうは信じていないとおっしゃいました。ポラードさん、あなたに証します。わたしはジョセフ・スミスが神の預言者であったことを知っています。彼は靈感を受けてこのモルモン書という神聖な記録を翻訳しました。ジョセフ・スミスは父なる神と御子イエス・キリストに確かにまみえました。」これだけ言うと、二人は家を去りました。

わたしはある証会で、このポラード氏が、その忘れられない日の体験を語るのを聞きました。彼はこう言いました。「その夜はどうしても寝つけず、ベッドの中で悶々としていました。『ジョセフ・スミスは神の預言者です。わたしは知っています。

……知っています。……知っています』という言葉が、何度も頭の中に響きました。朝になるのが待ち切れませんでした。宣教師が置いて行った小さな信仰簡条のカードに印刷された番号を見て、彼らに電話しました。二人はもう一度来てくれました。今度は熱心に真理を探究する者として妻や子供と一緒に福音を学びました。その結果、わたしたちは全員、イエス・キリストの福音を受け入れました。この二人の勇敢で謙遜な宣教師が真理の証を伝えてくれたことに、永遠に感謝します。」

教義と聖約第135章には、預言者ジョセフ・スミスについて述べたジョン・テラーの言葉があります。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」⁸

ブリガム・ヤング大管長の次の言葉が好きです。「預言者ジョセフ・スミスを知る機会にあずかれたことを考えると、わたしは一日中でもハレルヤと叫びたい気持ちになります。ジョセフ・スミスは主が立てられ、聖任された預言者であり、地上に神の王国を築き上げる鍵と力を主から託された者です。」⁹

これまで語った愛するジョセフへのふさわしい賛辞に証を加えます。ジョセフ・スミスが神の預言者であり、この末日にイエス・キリストの福音を回復するために選ばれたことを知っています。生誕200年を

祝うに当たり、ジョセフの生涯から学べますように。ジョセフ・スミスが模範によって見事に教えた神聖な原則を生活に取り入れ、イエス・キリストの福音をさらに完全に実践できますように。神は生きておられ、イエス・キリストは神の御子であられ、ジョセフ・スミスは預言者です。わたしたちは今日、もう一人の神の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に導かれています。神にかかわるこれらの知識が生活に映し出されますように。

十二使徒定員会に召されてから、この大会で42年になります。大管長会と十二使徒定員会との神殿での最初の集会で歌った賛美歌は、預言者ジョセフ・スミスをはめたたえる歌でした。大好きな賛美歌です。その一節を引用して、この話を終わります。

たたえよ、主の召したまいし、
主と語りし予言者
末の時を始めたる
業を世、皆崇めよ¹⁰

これが真実であることをイエス・キリストの御名により厳粛に証します。アーメン。

注

1. ルーシー・マック・スミス、*History of Joseph Smith by His Mother*, スコット・フェーサー・プロクター、マリオン・ジェンセン・プロクター共編(1996年), 69-76
2. ジョセフ・スミス—歴史1:10-11
3. ジョセフ・スミス—歴史1:21-22, 25
4. ジョセフ・スミス—歴史1:71の注
5. 教義と聖約135:4
6. *History of the Church*, 第6巻, 618
7. ヨハネ15:13
8. 教義と聖約135:3
9. *Teachings of Presidents of the Church: Brigham Young*(1997年), 343
10. ウィリアム・W・フェルブス「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番

シオンの丘

十二使徒定員会会長代理

ボイド・K・バッカー

末日聖徒イエス・キリスト教会に進んで入り、その原則と儀式に忠実であろうとする人はだれでも、「シオンの丘」に立っています。



わたしは長生きをすると同時に、標準が一つずつ排除されるのを目の当たりにしてきました。

その標準とは、文明が存続するかどうかの要になるものです。

道徳、結婚、家庭、家族といったものの昔ながらの標準が、法廷や審議会で、議会や教室で次々とくつがえされる時代にわたしたちは生きています。幸福はまさにこの標準に従って生きることによって左右されるのです。

使徒パウロは、この時代に、つまりこの終わりの時に、人は「親に逆らう者、……無情な者、……善を好まない者、……神よりも快楽を愛する者」になるであろうと預言しました(2テモテ3:2-4)。

そして「悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく」と警告しました(2テモテ3:13)。パウロは間違っていないでした。しかしわ

たしは将来のことを思うと、前向きで楽観的な思いで胸がいっぱいになります。

パウロは若きテモテに、使徒たちから学んだところにとどまっているように、そうすれば守られるであろうと言いました。それはテモテが「幼い時から聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知ってい」たからです(2テモテ3:15)。

聖文の知識は大切です。わたしたちは聖文から霊的な導きについて学びます。

「聖文として出版されるほどに啓示があふれていた教会初期の時代に生きていたら、わたしは喜んで迫害や試練に耐えたでしょう。どうして今は啓示がないのですか」と言う言葉を何度も聞いたことがあります。

預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示は、聖文として印刷され、教会の不変の基盤を据えました。この教会を通してイエス・キリストの福音は「あらゆる国民」に伝えられます(2ニーファイ26:13)¹。

預言者および大管長そして副管長の職、十二使徒定員会、七十人定員会、管理監督会、ステークやワードや支部が聖文の中で定義づけられています。メルキゼデク神権やアロン神権の職も定義づけられています。靈感や啓示が、指導者や教師、両親や個人に伝わる経路も聖文を通して確立されました。

今日では逆境や試練にも違いがあります。どちらかと言えば、初期の時代よりも強さと危険性を増していて、教会よりも

しろ個人がねらわれています。初期の啓示は聖文として出版されており、教会に不変の導きを与え、また儀式や聖約を定めています。しかも現在でも有効です。

聖文にはこのような約束がなされています。「備えていれば恐れることはない。」(教義と聖約38:30)

備えるためになされてきたことをお話ししましょう。そうすれば、なぜわたしが未来を恐れず、それほど自信をもって前向きでいられるのか分かるでしょう。

大管長会と十二使徒定員会が近年行ってきたことを全部詳しく説明することはできません。項目だけ並べ挙げることも不可能です。しかし何が行われてきたかを知れば、啓示が引き続き教会や各会員に与えられていることが分かるでしょう。ですからそのうちの幾つかを話します。

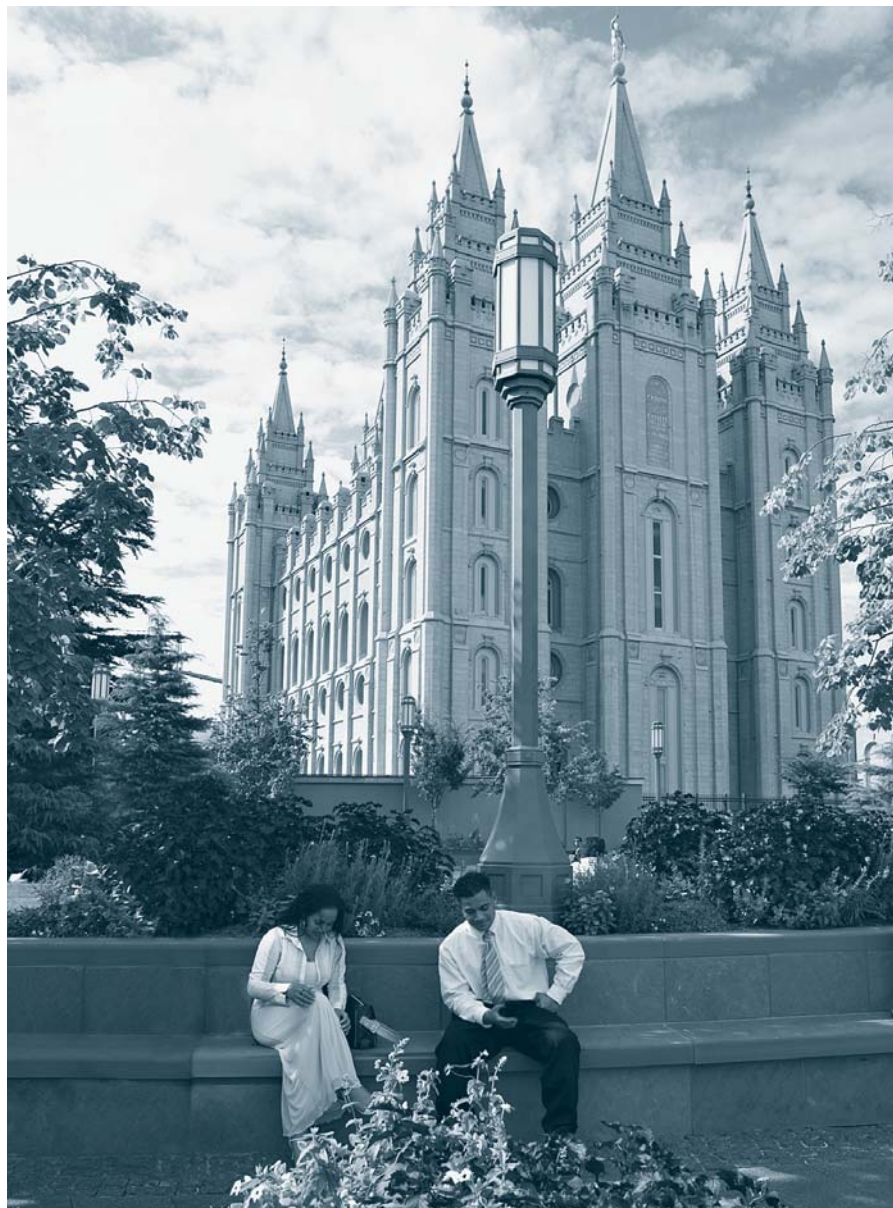
40年以上前、各教会員が簡単に教義を研究できるように英語版の末日聖典を作成するという決定が下されました。教会は欽定訳聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠の相互参照に着手しました。欽定訳聖書の原文には一切変更を加えませんでした。

この時代に備えるための業は何世紀も前に行われました。欽定訳聖書の90パーセントはウィリアム・ティンダルとジョン・ウィクリフによって翻訳されました。このような初期の翻訳家で殉教者であった人々から、わたしたちは多くの恩恵を受けています。

ウィリアム・ティンダルはこう言っています。「鋤^{すき}を引いて畑を耕している農家の子供でさえ、〔聖職者〕よりもはるかに聖書に精通させてみせよう。」²

アルマは大きな試練を経験した後、さらに大きな試練に直面しました。記録にはこう書かれています。「ところで、御言葉^{ごごころ}を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」(アルマ31:5)

わたしたちが聖典事業に着手したとき



に考えていたのも、まさにこのことでした。教会のすべての会員が聖文に精通し、その中にある原則と教義を理解できるようにすることです。ティンダルやウィクリフがかつて行ったことを現代に再現しようとしたのです。

ティンダルもウィクリフも激しく迫害されました。ティンダルはブリュッセルで凍えるような寒い^{ひや}牢に入れられました。服はぼろぼろになり、寒さは容赦なく襲ってきます。司教たちに手紙を書き、上着と帽子を送ってほしいと頼みました。そして「暗闇の中で一人座っているのはほんとうに疲れます」³と書いて、ろうそくも求めました。この求めに激怒した司教たちは、ティンダルを牢から引き出し、群集の前で

火あぶりの刑に処しました。

ウィクリフは生きている間は火あぶりを免れましたが、コンスタンツ公会議により遺体は墓から掘り返され、火で焼かれ、灰はばらまかれたのです。⁴

預言者ジョセフ・スミスは、16世紀のイギリスの聖職者ジョン・フォックスが書いた『殉教者列伝』(Book of Martyrs)を、七十人のエドワード・スティーブンソンの母親から借りました。ジョセフは読み終わってから、このように言いました。「わたしはウリムとトンミムの力を借りて、この殉教者たちを見ました。彼らの持つ光によると、正直で献身的なキリストの信奉者です。彼らは救われるでしょう。」⁵

7万節以上の聖句を相互参照したり、脚



注や注解を作成したりすることは、とてつもなく困難で、不可能とさえ思われていました。しかし着手したのです。完成までに12年かかり、600人以上の人の手を借りました。中には、ギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語の専門家や古代の聖文の知識を持つ人もいましたが、たいいていは普通の忠実な教会員でした。

霊感の霊がこの業を覆いました。

コンピューターがなければこの計画は実現不可能でした。

すばらしいシステムが作られて何万もの脚注を整理し、畑を耕すどんな子供にも聖文が明らかになりました。

会員は項目別の索引を使えば、わずかな時間で「贖罪」「悔い改め」「聖霊」などの言葉を調べることができ、標準聖典全部から意味深い参照聖句を見つけることができます。

この事業が始まって数年後、テーマをアルファベット順に並べていくという単調で骨の折れる仕事の進み具合を尋ねました。返事にはこう書いてありました。『『天国』(Heaven)も『地獄』(Hell)も通り過ぎ、『愛』(Love)も『肉欲』(Lust)も乗り越え、今は『悔い改め』(Repentance)に向かって進んでいるところです。』

モルモン書を印刷する前の原稿も入手

しました。そのおかげで、翻訳された聖文を原稿から印刷するときに紛れ込んだ間違いを訂正することもできました。

英語版聖典の『項目別ガイド』(Topical Guide)で最も注目すべきは、18ページにわたり、小さな文字で行間を開けずに印刷された「イエス・キリスト」の項です。これは、世界史上イエス・キリストの名で編さんされたあらゆる資料の中で、最も広範な情報を盛り込んだ聖文資料となっています。この参照聖句をたどってください。そうすれば、教会がどなたのものであり、何の権威でどのような事柄を教え、さらにはイエス・キリスト、神の御子、メシヤ、^{あがな}贖い主、わたしたちの主の聖なる御名にすべてが基づいていることが分かるでしょう。

教義と聖約に新しい啓示が二つ加えられました。エンダウメントを執行しているときに預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示を記した第137章と、ジョセフ・F・スミス大管長に与えられた死者の贖いに関する示現、つまり第138章です。そしてこの作業が終わり、印刷に回るころ、神権に関するすばらしい啓示が授けられ、公式の宣言として発表され(教義と聖約公式の宣言二参照)、聖文に終わりがなくなることが証明されました。

その後、教会で使われている様々な言語への翻訳という、けた外れの難題が待ち受けていました。現在までに『聖句ガイド』が集録された合本は24の言語で出版されていて、今後も増えていきます。モルモン書は106の言語で出版されていて、さらに49の言語で翻訳が進んでいます。

ほかにもなされた事柄があります。モルモン書に副題が付き、「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」となりました。

正しい根拠に基づいた教義はソルトレーク神殿の花崗岩のように堅固で、だれでも手にすることができ、より多くの人が、教会に啓示が絶えず注がれているのを目の当たりにすることができます。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」(信仰簡条1:9)

聖典の出版が進む一方で、別の大きな業が始まっていました。これもまた何年ものかかるものです。教会の教科課程全体が再編成されたのです。神権組織と、子供や青少年、成人のための補助組織における学習過程はすべて、聖文とイエス・キリスト、また神権と家族を中心とするよう改訂されました。

何百人ものボランティアが何年も協力してくれました。中には、執筆や教科課程、教育など関連分野の専門家もいましたが、たいいていは普通の教会員でした。すべては聖文に基づいており、神権の権能を強調し、神聖な家族の本質に着目しています。

大管長会と十二使徒定員会は「家族——世界への宣言」⁶を、その後「生けるキリスト——使徒たちの証」⁷を発行しました。

セミナーとインスティテュートは世界中に広まっています。教師も生徒も御霊によって学び、教えています(教義と聖約50:17-22参照)。聖典や預言者の言葉、救いの計画、イエス・キリストの贖罪、大背教と回復、それに回復された教会の比

類ない立場を理解するように教えられ、そこに見られる原則と教義を確認するように教えられます。生徒は日々聖文を勉強することを習慣とするよう奨励されています。

月曜日の夜は家庭の夕べのために取っておかれています。教会のあらゆる活動を控えて、家族が一緒にいられるようにすべきです。

当然の流れとして、伝道の業は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』という表題の下、再び啓示に頼って行われています。宣教師は2年間、教義を学び、御霊によって教える方法を学び、証を伝えます。そうして解任されて148か国にある故郷に帰る宣教師の数は毎年、2万5,000人以上に上ります。

そして神権統治の原則が明確にされました。アロン神権もメルキゼデク神権も、定員会は尊ばれ、大いなるものとされてきました。いつでも、どこでも、監督や会長など鍵^{かぎ}を持つ指導者がいて、導きを与え、解釈の間違いを明らかにし、偽りの教義に気づいて訂正します。

神権会や扶助協会の成人に向けた学習過程は、教会の歴代大管長の教えに基づいています。

教会機関誌は再構成され、現在50の言語で発行されています。

すばらしい神殿建設の時代は続き、122の神殿で儀式が執行されており、さらに二つの神殿が昨日発表になりました。

系図は家族歴史と改められ、忠実な会員たちが最新のテクノロジーの助けを借りて、名前を準備し、神殿に提出しています。

このすべてが今も啓示があることを証しています。ほかにたくさんの事柄があります。細かな点まで語れないほどの数に上ります。

教会にはプログラムや集会や組織よりも意味深い、中核になる力があります。それは変わることがありません。腐食することもあり得ません。一定した確実なものです。縮小することも色あせることもありません。

教会には集会を開く場所として教会堂



がありますが、同時に末日聖徒一人一人の心と魂に息づいています。

世界中の至る所で、謙遜な会員は聖文から靈感を受け、生涯にわたって導きを得ています。しかし、主が弟子たちに言われた「高価な真珠」を見いだしていることを(マタイ13:46)、会員たちは十分には理解していません。

預言者ジョセフの妻エマ・スミスが最初の賛美歌集を編集していたときに、「導きたまえよ」という祈りの歌を集録しました。

「地のどよめくとき
恐れを救い
地の裁きの日は
シオンに救いませ」⁸
(訳注——英語版の賛美歌では「シオンの丘」)

末日聖徒イエス・キリスト教会に進んで入り、その原則と儀式に忠実であろうとする人はだれでも、「シオンの丘」に立っています。

一人一人が靈感を通して確信を受けることができます。その確信は、イエスがキリストであり、神の御子であられること、末日聖徒イエス・キリスト教会は、主がま

さに「全地の面に唯一まことの生ける教会」と宣言された教会であることを証するものです(教義と聖約1:30)。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

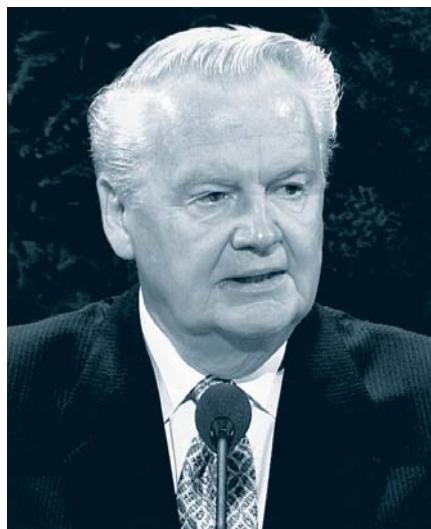
1. 黙示5:9; 14:6; 1ニーファイ19:17; モーサヤ3:13, 20; 15:28; 16:1; アルマ9:20; 37:4; 教義と聖約10:51; 77:8, 11; 133:37も参照
2. デビッド・ダニエル, *Tyndale's New Testament*, ウィリアム・ティンダル訳, 序文(1989年), viii
3. ダニエル, *Tyndale's New Testament*, 序文, ix
4. ジョン・フォックス, *Foxe's Book of Martyrs*, G・A・ウィリアムソン編(1965年), 18-20参照
5. エドワード・スティーブンソン, *Reminiscences of Joseph, the Prophet, and the Coming Forth of the Book of Mormon* (1893年), 6
6. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
7. 「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号, 2-3
8. 『賛美歌』41番

万人に共通する規範

七十人会長会

メルル・J・ペイトマン

回復されたイエス・キリストの福音(は)万人に共通する規範で(す)福音はよきおとずれであり、時を超越して存在する主イエス・キリストの教義と贖罪しよくざいの力です。



最近、あるラジオ番組で一人の出演者が、こんな質問をしていました。「この教会の起源はニューヨークで、本部はユタにあり、モルモン書の物語は古代アメリカ人の話だというのに、どうして世界中に影響を及ぼしているのですか。」わたしはアジア、アフリカ、ヨーロッパをはじめとする世界各地の友人のことを思い浮かべました。回復された福音には普遍性があり、福音の儀式、聖約、祝福は万人に及ぶものであることを、その質問者が理解していないことは明らかでした。世界的に見た預言者ジョセフ・スミスの最初の示現とモルモン書の大切さはその出所で判断するのではなく、神と人との関係、子供たちに対する御父の愛、人がそれぞれに持っている神聖な可能性について何を語っているかによって判断しなければなりません。

救いは御父の独り子によって成し遂げ

られるので(ヨハネ1:14, 18; 教義と聖約29:42参照),「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい」と、あらゆる時代の預言者は呼びかけてきました(モロナイ10:32。マタイ5:48;ヨハネ10:10;14:6も参照)。この呼びかけはだれにでも当てはまるものであって、アフリカ人、アジア人、ヨーロッパ人、その他いかなる国民であるかにかかわらず、神のすべての子供たちに向けられたものです。使徒パウロがアテネの人々に宣言したように、わたしたちは皆「神の子孫」です(使徒17:29)。

キリストの贖罪を中心として御父が定められた命の計画は、世の基が置かれる前から作られていました(アブラハム3:22-28;アルマ13:3参照)。この計画はアダムとエバに与えられました。そして、二人は子供たちにそれを教えるよう命じられました(モーセ5:6-12参照)。アダムの子孫はその後福音を拒みましたが、ノアを通して、そしてまたアブラハムを通して福音が再び明らかにされました(出エジプト6:2-4;ガラテヤ3:6-9参照)。モーセの時代にイスラエルの民は福音を授けられました。けれども、背教が何世紀にもわたって続いていたため、彼らをキリストのみもとへ導くには以前よりも厳しい監督が必要でした(出エジプト19:5-6;教義と聖約84:19-24参照)。そして時の中間に、救い主御自身によってようやく完全な福音がイスラエルに回復されました。

一連の背教と回復について最も明確に説明している聖句の一つは、よこしな農

夫たちについてイエスが語られたたとえです(マルコ12:1-10参照)。イエスはこのたとえの中で、義にかなう国民を起こすためにそれまで何世代にもわたって多くの預言者が遣わされてきたことを人々に指摘されました。次に、その使者たちがどのように繰り返し拒まれたかを説明されました。打たれたり、目的を果たせないまま追放されたりしました。殺された預言者もありました。それからイエスは御自身の教導の業について預言し、御父は「わたしの子は敬ってくれるだろう」と言っ(マタイ21:37),「こよなく愛した一人息子」を遣わすことにされた(ジョセフ・スミス訳マルコ12:7から和訳),と人々にお話しになりました。

しかし、この先待ち受けていることを御存じであったイエスは、こう明言されました。「農夫たちは『あれはあと取りだ。さあ、これを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と話し合い、

彼をつかまえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。」(マルコ12:7, 8)

救い主と使徒たちの死後、教義と儀式は変えられ、再び背教が始まりました。そして光がもう一度地上にさし込むまで、この度の霊的な暗黒は長期に及びました。この背教を知っていた使徒ペテロは、救い主は昇天された後、「万物更新」がなされてからでなければ再臨されないと預言しました(使徒3:19-21参照)。使徒パウロも、会員たちが「健全な教に耐えられなくなり」(2テモテ4:3-4)、キリストの再臨に先立って「背教のことが起[る]」(2テサロニケ2:2-3)と預言しました。パウロも「万物の更新」に言及し、救い主は「時の満ちるに及んで……ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめ」られると言っています(エペソ1:10)。

主は預言者ジョセフ・スミスを通して福音の回復を指示されました。「万物の更新」が、御父と御子がジョセフ・スミスに御姿を現された聖なる森で始まったのです。ジョセフは示現の中で、神の属性、すなわち御父と御子が別個の御方であり、骨肉の体を持つ昇栄された御方であること



を知りました。

ほとんどの神権時代では、その幕開けとともに、新しく召される預言者に一つの書物が授けられます。モーセは石の板を受け取りました(出エジプト31:18参照)。リーハイは与えられた書物を読んで、エルサレムの滅亡を知りました(1ニーファイ1:11-14参照)。エゼキエルは当時のユダの家に向けた主の御言葉が記された一つの「巻物」を与えられました(エゼキエル2:9-10)。パトモス島に追放された黙示者ヨハネは7つの封印で封じられた巻き物を示されました(黙示5章;教義と聖約77:6参照)。そうであれば、主が「万物の更新」の一環として、完全な福音を取めた書物をお与えになったことに何の不思議があるのでしょうか。このモルモン書にはすべての男女をキリストのみもとに引き寄せる力があります。モルモン書は救い主の贖いの目的と力について、ほかのどの記録よりもはっきりと説明しています。

聖なる御霊はわたしの霊にささやきかけて、ジョセフが聖なる森で御父と御子にまみえたこと、モルモン書が真実であることを教えてくださいました。モルモン書に収められている救い主の贖いについてのさらなる知識に感謝しています。救い主に与えられている称号の一つは「御父の独り子」です。例えば使徒ヨハネはその福音書の中で、^{へんぼう}姿貌の山で主の尊厳

と栄光を見たことについて語り、主の栄光は「父のふところにいるひとり子」の栄光だったと述べています(ヨハネ1:14。18節も参照)。モルモン書にもこの称号が何度も出てきます。

両親から死の特質を受け継いでいるわたしたちと違って、イエスは死すべき体を持つ母と不死不滅の体を持つ御父を両親としてお生まれになりました。マリヤから受け継がれた死の特質は、イエスにやがて死が訪れることを意味していました。しかし主は御父から無限の命を受け継いでおられ、御自分の意志で死をお選びになったのです。このためイエスはユダヤ人にこうおっしゃいました。「それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになったからである。」(ヨハネ5:26)

別の折に主は言われました。「父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さいるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。

だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受け取る力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」(ヨハネ10:17-18)

イエスは御父から授かった無限の特質によって、^{しよくさい}贖罪を成し遂げ万人の罪のた

めに苦しみを受ける力を得ていらっしゃいました。モルモン書の預言者アルマは、イエスはわたしたちの罪を負わただけでなく、わたしたちの痛み、苦しみ、誘惑をも受けられたと教えています(アルマ7:11-13参照)。アルマはまた、イエスがわたしたちの病、死、弱さも身に受けられたと説明しています。イエスがこうにされたのは、「肉において御自分の心が^{あわ}憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを……知ることができるように」するためであった、とアルマは述べています(アルマ7:11-12)。

預言者アビナダイはさらに「御子は罪のためのささげ物にされると、御自分の子孫を御覧になる」と語りました(モーサヤ15:10)。それから、救い主の子孫とは、預言者と預言者に従う者たちであると明らかにしています。わたしは長年にわたって、救い主はゲツセマネの園と十字架上での経験によって、膨大な罪を背負われたのだと考えていました。けれどもアルマやアビナダイ、イザヤ、そのほかの預言者の言葉を読んで、見方が変わりました。だれのものとも知れない無数の罪ではなく、そこには、人々の長い列があり、イエスは「わたしたちの弱さ」を思いやり(ヘブル4:15)、わたしたちの「病を負い、……悲しみを」担い、「不義のために砕かれた」のです(イザヤ53:4-5)。

イエスは身をもって贖いを遂げ、それによってわたしたち一人一人をどのように助けるかを悟られました。

モーセは地に住むすべての人を見た、「その数は多く、まことに海辺の砂のように数え切れなかった」と高価な真珠は教えています(モーセ1:28)。もしモーセがすべての人を見たとしたら、宇宙の創造主がわたしたち一人一人について詳しく知る力を持っておられるというのは理にかなっています。主は皆さんやわたしの弱点をお知りになりました。主は皆さんの痛みや悩みを味わわれ、わたしの痛みや悩みも味わわれました。主がわたしたちを御存じであることを証します。わたしたちが誘惑にどう対処するかを主は理解しておられます。主はわたしたちの弱さを御存じです。しかし、それよりもすばらしいことは、わたしたちをよく知っておられるだけでなく、信仰をもってみもとに行くわたしたちを、どのように助けたらよいかを主は御存じだということです。ラテンアメリカのある若い女性が、回復について聖なる御霊の証を受けたときに、自分が宇宙の中で取るに足りない存在などではないことに突然気づいたのはこのためでした。神の愛を感じ、自分が神の娘であると悟り、神が自分を御存じであることを実感したのです。日本人のある友人が宣教師から教えを聞いて、自分がなぜこの地上にいて、どんな可能性が託されているかについて聖霊から確認を受けたとき、救いの計画を何か懐かしく感じられたのも、同じ理由からでした。

わたしは回復されたイエス・キリストの福音が万人に共通する規範であることを証します。聖文の出来事がどこで起きたかは問題ではありません。福音はよきおとずれであり、時を超越して存在する主イエス・キリストの教義と贖罪の力です。主が生きておられ、キリストであられることを証します。預言者ジョセフ・スミスを通して回復された福音は、ペテロの語った「万物の更新」であることを証します。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が今日の主の預言者であることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

わたしは聖文に喜びを感じる

中央初等協会会長
シェリル・C・ラント

家族のためにできることで、聖文を通して家族を強めることほど大切なことはありません。



最近、愛する預言者は、今年の終わりまでにモルモン書を読むよう勧めました。わたしはこの勧告に従うことにより、これまで何度も読んだモルモン書から、新しく、胸躍る発見をしています。例えば、ニューファイ第二書第4章15節を通して新たな発見をしました。「わたしは聖文に喜びを感じるからである。わたしは聖文について心に深く考え、わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す。」

この聖句はモルモン書をどう読むべきか教えています。3つの重要な事柄が記されているのです。

一つは、「喜びを感じる」ことです。わたしはこの言葉が大好きです。聖文を読むとき、知識に飢え渴くことについて思い

巡らすことはありますが、それは喜びを感じることは違います。聖文から何を学ぶかは、どう準備をするかによって決まります。聖文を読むときはいつも、ある意味、新しい目を持った新しい自分として取り組みます。自分の現状や直面している出来事、態度はすべて、自分がどれほど聖文から学ぶかに影響します。わたしは聖文が大好きです。聖文を読むとき、そこから見いだす真理を大切に心に留めています。励ましや指示、慰め、強さ、求めている答えを受けるとき、心は喜びで満たされます。人生はより明るくなり、道が開けます。聖文を読む度に、天の御父が愛し心にかけてくださっていることを再確認します。これはまさにわたしの喜びです。ひかりクラスのある男の子が言ったように、「聖文について考えるとうれしくなる!」のです。

2番目は、「聖文について心に深く考える」ことです。わたしは聖文を心にとどめることが好きです。読んだことの真髄が心に残り、平安と慰めをくれます。また、聖文から得た知識を通して導きと指示を受け、従うことにより自信が生まれます。

時には、時間を取って聖文に読みふけます。少しずつ読むときもあります。けれども、どこで、いつ読むかは問題ではないようです。どのような状況でも聖文を心にとどめることができます。朝聖文を読むと、一日中御霊の影響力を感じることが分かりました。昼ごろ読むときは、必



要に迫られて読むことが多く、自分の判断や行動を左右するような答えや指示を得ることができます。夜読むときは、静かに眠りに就くにつれ、ほんやりとした意識の中に、主からの優しい慰めの言葉がいつまでも残ります。夜中に目が覚め、眠りに就く直前に読んだ言葉をきっかけにアイデアが浮かぶことが何度もあります。一日中、様々なことを考えますが、心は聖文にある主の御言葉をしっかりと受け止め、「深く考え[る]」のです。

このことから、「ひととなりは、その心にあるそのままである」ことを学びました(欽定訳箴言23:7から和訳)。聖文について深く考えるとき、何かが起こります。天の御父に近くありたいといっそう強く望むようになります。主に仕えたいと切に望みます。聖文から学んだ原則に従って生活したいと望み、そのように生活するとき、わたしの心は「わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す」のです。

もちろん、ニーファイのように聖典に書き記すことはありませんが、聖文を読み、学んだ原則に従うことにより、その聖句は

生活に刻み込まれるようになっていきます。聖文が行動を律し、そこに書き記され、子供たちはそれを見て、従うようになります。聖文から学んだ原則に基づく遺産、すなわち義になんて生きるといふ伝統を築き上げることができます。

教義と聖約第93章39節から40節ではこう教えています。「そして、あの邪悪な者が来て、人の子らから、不従順によって、また先祖の言い伝えによって、光と真理を取り去る。

しかし、わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた。」

聖文を読むと、自分自身と家族を祝福する「光と真理」が必ず分かると確信することができます。何をすべきかが分かると、自分の行い、すなわち「伝統[言い伝え]」を自分が知っていることに添わせることができます。その結果、子供たちはわたしの姿を見て、道を外れることがないばかりか、聖文と聖文に記された真理に導かれます。

大好きな初等協会の歌があります。

調べ、考え、祈る

それがわたしのすべきこと

すると御霊の導きにより、心の中に
聖文が真実であると分かります¹

聖文が真実であるという証^{あかし}を得るためだけではなく、読むときに御霊があるよう祈ることで、感受性が鋭くなり、もっとはっきり理解できるようになります。自分の現状と、天の御父の望んでおられることが分かります。真理の原則と自分の生活の中で求められている変化を遂げる方法を理解します。また、託された業を達成できるように、主が助けて強くしてくださいと確信できます。こうして聖文は生活の中に刻み込まれるのです。

聖文を読むとき、わたしたちは救い主の御声^{みこゑ}を聞きます。主はわたしたちの生活から離れてしまわれることはありません。これら聖なる書物の端々にいきいきと記されています。預言者はモルモン書を読んで、救い主に近づくように求めています。

子供たちはどうでしょうか。聖文の教えに基づいて日々生活している親の子供

は、何と祝福されていることでしょう。家族のためにできることで、聖文を通して家族を強めることほど大切なことはありません。父親、母親である皆さん、子供たちを集めて聖文を読んでください。忙しい家族の日課の中で何とかやり遂げてください。子供の皆さんは、聖文を学ぶために集まるよう言われたら、すぐに喜んで応じましょう。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は勧告とともに、勧告に従うときに与えられる約束についても語りました。こう約束しています。「さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになるでしょう。」²

娘は今、人生で最も素晴らしい時を過ごしています。3人の幼い子供を育てるといって、最大の祝福かつチャレンジを受けているのです。その娘が言いました。「お母さん、わたし実行しているの。モルモン書を読んでいるのよ。あの素晴らしい約束を信じているの。あれこそ今のわたしに必要な祝福なの。」

この祝福は、皆さんが人生で必要としているものですか。祝福は目の前にあります。一人一人が預言者に従う決意をしましょう。また家族で祝福を求めましょう。ヒンクレー大管長、わたしたちは大管長を愛し、大管長の声に聞き、そして従います。

天の御父は生きていて、わたしたちを愛しておられることを証します。イエス・キリストは救い主です。聖文は真実です。神の御言葉です。ゴードン・B・ヒンクレーは現在の預言者であり、わたしたちは預言者に従うことで、天の御父から大きな祝福を受けることができます。この証に心から感謝しています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 「いのりながらみ言葉読む時」『子供の歌集』66、英文から逐語訳
2. 「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号、6

真理の回復

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

御父の救いと幸福の計画は、人生のあらゆる問題を克服できるよう助けてくれます。



至る所で、霊的な導きを望む気運が高まっています。自然災害や人災の増加によるものです。霊的な導きを求めるのは、聖なる天の御父の子供だからです。困難に直面したとき創造主に助けを求めるのも当然です。愛にあふれる天の御父は、悪化する世界情勢、個人の深刻な問題、様々な災害により、子供たちが霊的な養いを求めるようになることを御存じでした。問題は、どうしたら適切に見いだせるかということです。

わたしたちは前世において、聖なる御父である神と愛子イエス・キリストの御前に住んでいました。そこで御父の救いの計画を理解し、死すべき者として世に生まれるときには助けが得られることを知りました。そして人生の主要な目的が告げられたのです。こう教えられました。

「わたしたちは……これらの者が住む

地を造ろう。

そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。

第一の位を守る者〔すなわち、前世で従順な者〕は付け加えられるであろう。……さらに第二の位を守る者〔すなわち、現世で従順な者〕は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられるであろう。」¹

この言葉は、人が地上に存在する最も基本的な目的を示しています。主の戒めに従順であることを証明し、理解力、能力、あらゆる徳性を身に付けることであり、求められているすべての儀式を受け、必要な聖約を交わして守ることで、また家族を築き、養うことです。地上での経験には試練や幸福の期間があり、この期間を通して現世での様々な問題や機会にうまく対処し、従順な者に約束される輝かしい祝福を受け、勝利を得て神のみもとに戻ります。

現世での試しと成長の期間が大きな益となるよう、一人一人がこの世で直面するであろう状況について教えを受け、備えられました。そして現世で御父が人をお導きになる方法が明らかにされました。御父は最も雄々しく従順な霊の子供たちの中から、預言者と、権能を与えられた僕たちを選び、神権をお与えになります。そして神の真理を教え、地上に住む神の子供たちに広めるよう導かれるのです。神は子供たちに道徳的な選択の自由、すなわち神の勧告を選ぶか、ないがしろにするか決める権利をお与えになりました。



すべての人は従うよう勧められますが、強制はされません。また、地上では道を選ぶことはできても、選択がもたらす結果は選べないことも知ります。不変の律法に基づいて決まるからです。

約束された最も豊かな祝福をすべて得るにふさわしい生活を送っていても、どうにもならない理由から、地上では祝福を享受できない人もいます。そのような人には、次の世でそれを補う機会が与えられます。この生涯が正当な試しとなるように、前世の記憶は取り去られます。しかし、生活の方法に関しては導きを与えられます。みもとに帰る機会を与える御父の救いの計画は、イエス・キリストの福音と呼ばれています。

地球が創造される前から、御父の計画に対する反乱はありました。ルシフェルまたはサタンと呼ばれる、賢いながらも邪悪な霊の扇動によるものです。サタンは条件の変更を提案しました。あまりにも説得力があったため、御父の霊の子供の3分の1がサタンに従い、追放されました。成長するためのこの上ない機会と、死すべき肉体を得るという大きな祝福を失いました。

御自身の子供たちを知り尽くしておられる聖なる御父は、やがて子供たちの多くが誘惑を受け、世俗的になり、預言者の証と教えを拒むことを知っておられました。背教と呼ばれる状況の中で、霊的な暗黒が真理の光に取って代わるのです。真理が伝えられてから、その多くが罪によって失われるまでの期間を神権時代と呼びます。たとえ真理を曲げ、拒む者が多くても、忠実な人々がいるかぎり真理を地上から絶やさないように、一連の神権時代に次々と預言者が選ばれました。

皆さんはキリストの光が導きを与えることを知っています。万物に光と命を与えるものです。全世界のあらゆる人に、真理と誤り、善と悪を見分ける力を与えます。キリストの光は人格を有する存在ではありません。父なる神と御子イエス・キリストから送られる力であり影響力です。この光に従うなら、聖霊を通して与えられる、より明らかな指針と靈感を受けられるようになります。皆さんは背きが聖霊の影響力を弱めること、しかし適切な悔い改めを通して回復されることを知っています。そして適切な儀式を受け、必

要な聖約を交わし、最後まで忠実であり続ける従順な人は、日の栄えの栄光を受け継ぎ、永遠に御父と御子のみもとで生活することになると知って、皆さんは喜んだのです。

わたしたちはなぜこの真理を知っているのでしょうか。どうしたら確証が持てるのでしょうか。皆さんは、神の本質、教え、人生の目的に関する大きな混乱に取り巻かれています。御父である神は、どのようにして地上の子供たちを導いておられるのでしょうか。忠実で信仰深い子供たちが正しい選択をし、天の御父が与えたいと願っておられる祝福を受けられるように、御父は、どのように真理と御心^{みこころ}を伝えておられるのでしょうか。説明しましょう。

地球の創造以来、父なる神はわたしが今話した計画を常に遂行してこられました。アダムは御父の計画を子供や孫たちに伝えようと努力しました。多くの人が信じ、祝福を受けました。しかし、道徳的な選択の自由を使って御父の教えと福音を拒んだ者も大勢いました。不従順な者たちは真理を拒絶し、教えと儀式をゆがめ、神から遠ざかりました。やがて真理の光



は霊的な暗黒に覆われ、神権とまことの教会が地上からなくなりました。

エノク、ノア、アブラハム、モーセといった預言者は、それぞれの神権時代に真理を新たにしましたが、時の経過とともに、預言者の働きかけはほとんどの人から拒絶されました。そして時の中間に、神の愛される御子イエス・キリストが地上でお生まれになりました。イエス・キリストは真理を回復し、愛と哀れみをもって教え導かれました。そして使徒や預言者のいる御自身の教会を地上に再び設立され、激しい苦痛を味わって聖なる御父から与えられた神聖な使命を果たし、わたしたちの救い主、贖い主となられました。イエス・キリストは甘んじて十字架におかかりになりました。そして復活し肉体の死を克服されました。その無限の贖いの犠牲は神聖な賜物であり、この賜物によって、悔い改めた人は罪を赦され、永遠の命を得る資格が得られるようになりました。しかし、それにもかかわらず、神の御子はごくわずかな人を除くすべての人から拒まれました。イエス・キリストの使徒と教会の会員は迫害を受け、その多くが殺されました。地球は、長く恐ろしい霊的な暗黒時代に陥ったのです。

聖文には、歴史上並外れて重要な出来事の場合に、父なる神の御声が聞こえたと記されています。イエス・キリストは何

度も、ある特定の個人に御姿を現されました。しかし、わたしたちの知るかぎり、御父が一人の人に御姿を現された神聖で特筆すべき例は1度しかありません。貴い聖なる独り子、イエス・キリストとともに一人の人を訪れられたときです。それは創世の前から備えられていた特筆すべき霊、少年ジョセフ・スミス・ジュニアでした。地上に送られてきた預言者の中で最も偉大な預言者となる人物でした。今まさに、神権の権能が戻され、救い主によって設立された教会が完全に回復され、救い主からの絶えざる啓示によって現代に必要な新たな聖文が授けられようとしていました。

慈悲深い御父は、広大な宇宙から地球を訪れられました。それは真理を明らかにし、霊的な暗黒の分厚い雲を払いのけ、御自身の真の姿を明らかにし、完全な真理を回復し、揺るぎない霊的な導きを受ける唯一の方法を提供するためです。このきわめて重大な回復は、御父の次の簡潔な御言葉で始まりました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」²これに引き続いて、真理、神権、神聖な儀式、真の教会、そして御父の救いと幸福の計画が回復されたのです。その計画に従うなら、人生のあらゆる問題を克服するための助けが得られます。そして信仰を持ち、従順になることで、必要な神

の霊的な導きを受けるのにふさわしくなれるのです。その導きが支えとなり、世界情勢がどれほど悪化しても、自分の知る本分に従って生きる強さを与えてくれるでしょう。

前例のない、この父なる神の訪れに匹敵するほど驚くべき重要性を持った出来事が果たしてあるでしょうか。それは新旧約の預言者が預言した「時満ちる神権時代」の幕開けとなる出来事でした。御父がキリストにあってすべてのものを集め、³王国のすべての鍵を預け、過去の神権時代に伝えられた知識を回復し、⁴地上に福音の最後の神権時代を確立される時代が到来したのです。

多くの人にとって、そのような輝かしい回復が実際に起きたと信じるのは難しいということを救い主は御存じでした。そのため、この回復が真実であることを立証するために、手に取ることでできる証拠を備えてくださいました。それがモルモン書です。回復が実際に起きたことを確認するための方法が、この書物のどのページにも記されています。また主はジョセフ・スミスを通じて、教義と聖約、高価な真珠という、真理を明らかにする現代に必要な聖典を新たに与えてくださいました。ジョセフ・スミスの務めが、救い主とその贖い、教義に集中しているとしても、驚くようなことではありません。

このきわめて貴重なメッセージが全世界に向けて宣言される一方で、サタンはそれを無視し、間違った方向を向くよう今までになく働きかけています。非常に多くの御父の子供たちが、天の御父や現世の目的を忘れてしまっているだけでなく、御父に思いをはせ、人生の目的について深く考えることもまずありません。世俗的な事柄に没頭して、肝心な事柄に心が向いていないのです。このような過ちを犯してはいけません。

イエス・キリストの僕としてこれまで話したことは真実です。わたしたちは御父と御子である救い主の真の御姿、あるいは実在について漠然と理解しているだけでは不十分です。御二方を真に理解し、わたしたちをどれほど深く愛しておられ

るか肌で感じる必要があります。また、常に最善を尽くして真理に従うなら、現世の目的をはっきりと理解するようになり、約束された祝福を受けるにふさわしくなれるよう御二方が強めてくださることを信じなければなりません。神の戒めに従うには、御父と御子について理解する必要があります。信仰が求められるのです。その最善の方法は個人で教義を研究することです。今年の7月に、ヒンクレー大管長と二人の副管長が年末までにモルモン書を読み終えるよう全教会員に勧めたのはそのためでもあります。大管長会はこう約束しました。「モルモン書を読む人は祝福されて、いっそう豊かに主の御霊を受け、主の戒めに従うさらなる決意をし、神の御子が生きておられるというさらに力強い証を得られることでしょう。」⁵ わたしは自分の生活の中でこの約束を試し、真実であることを確証しました。この勧告に心から従っているなら、その意味が分かるでしょう。まだ始めていなくても、モルモン書を読むことによって生活を豊かにする時間は残されています。どうぞ始めてください。

主イエス・キリストの使徒として厳粛に証します。父なる神とイエス・キリストは、ジョセフ・スミスを通して今話した回復をもたらしました。まばゆいばかりの真理の光とイエス・キリストの教会が再び地上に戻って来ました。父なる神とその御子の真の御姿は再び示され、霊的な導きを受けるための適切な方法が明らかにされました。神の救いの計画は、真心から探し求める人ならだれでも手にすることができるようになったのです。救いの計画を受け入れ、自分自身の平安と幸福のために従ってください。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

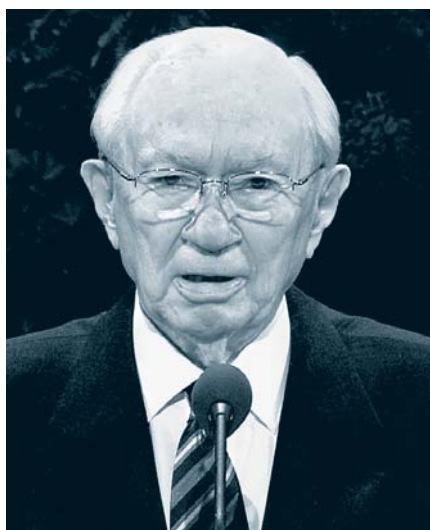
1. アブラハム3:24-26
2. ジョセフ・スミス-歴史1:17
3. エペソ1:10参照
4. 教義と聖約128:18-21参照
5. 大管長会からの手紙、2005年7月25日付

ゆるす

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

不思議なことに、愛と寛容による赦しは、ほかの方法では起こせない奇跡を起こすことがあります。



愛する兄弟姉妹の皆さん、天の御父がわたしを生き長らえさせてくださり、この試練の時代に生きられることを感謝しています。奉仕する機会を天の御父に感謝しています。わたしは主の業を進め、主の忠実な民に仕え、隣人と平和に暮らすためにできる限りのことを行う以外に望みはありません。

わたしは最近世界中を4万キロ以上も旅してきました。アラスカ、ロシア、韓国、台湾、香港、インド、ケニア、ナイジェリアを訪問しました。最後に行ったナイジェリアでは新しい神殿を奉獻しました。それからカリフォルニア州ニューポートビーチ神殿を奉獻しました。またつい最近、もう一つ神殿を奉獻するために、再び1万6,000キロの旅をしてサモアに行って来ました。旅は好きではありませんが、わたしは、この民の中に出て行って、感謝を

伝え、人々を励まし、主の業の神聖さについて証したいのです。

昔読んだ詩をよく思い出します。このような詩です。

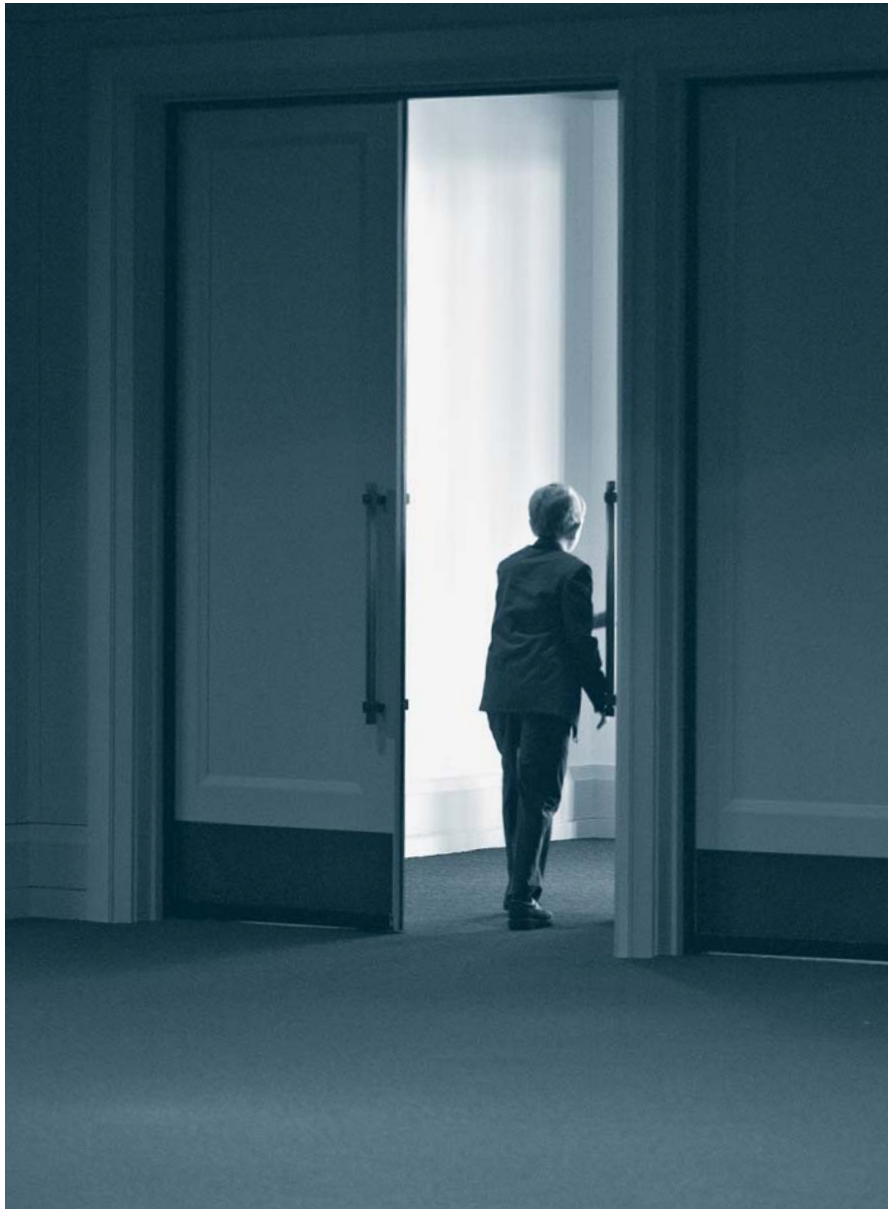
道路わきの家に住ませてください
川のように流れる人の群れ
皆、長所と短所を持った人たち
わたしにも似たような長所と短所がある

あざけるつもりはない
冷たい視線を送ろうとも思わない
道路わきの家に住ませてもらえるなら
皆の友人になりたい
(サム・ウォルター・フォス, "The House by the Side of the Road," ジェームズ・ダルトン・モリソン編, *Masterpieces of Religious Verse* [1948年], 422)

わたしはこの詩のように感じています。

人は年を取ると変わります。よりいっそう、親切、優しさ、忍耐の必要性に気づくようになります。年老いた人は、人類が、戦争、争い、論争、対立を起こさずに、皆で平和に暮らせるようにと願い、祈ります。贖い主の偉大な贖罪の意味や、主の犠牲の大きさに対する認識が深まり、人類が命を得られるように御自分の命をささげてくださいった神の御子に、なおいっそう感謝するようになります。

今日は赦すことについて話します。赦すことは恐らく地上で最も偉大な徳であり、確かに最も必要とされています。今日、不親切や不正、不寛容、憎しみがあまりにも横行しています。悔い改めと赦



しの必要が大いにあります。悔い改めは古代と近代のあらゆる聖文で強調されている偉大な原則です。

あらゆる聖文の中でも、ルカによる福音書の第15章にある放蕩息子^{ほうとうしこ}の話ほど、赦しに関する美しい物語はありません。だれでも時々この物語を読んで、深く考えてみる必要があります。

「〔放蕩息子^{ほうとうしこ}は〕何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることに窮しはじめた。

そこで、その地方のある住民のところに行き、身を寄せたところが、その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。

彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満た

したいと思うほどであったが、何もくれる人はいなかった。

そこで彼は本心に立ちかえって言った、『父のところには食物のあり余っている雇人^{やといにん}が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとしている。

立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。

もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください。』

そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみると、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻^{せつぶん}した。

むすこは父に言った、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません。』(ルカ15:14-21)

そして父は盛大な祝宴を開かせましたが、兄が不満を口にすると、父は兄に向かってこう言いました。「しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである。」(32節)

たとえ間違いを犯してしまったとしても、すでに悔い改めているのであれば、そして赦しを受けているのであれば、罪人は、文字どおり、いなくなっていたのに見つかって、死んでいたのに生き返ったのです。

憐れみ^{あわれみ}と赦しという祝福は、何とすばらしいものでしょうか。

第二次世界大戦後、ヨーロッパはマーシャルプランにより、何百万ドルもの財政支援を受けて復興しました。

わたしは大戦後の日本で、立派な製鉄所を見ました。製鉄所の資金は日本のかつての敵国、アメリカから出たと聞きました。一つの寛大な国がかつての敵国を赦したおかげで、世界はどれほど豊かになったことでしょうか。

主は山上の垂訓でこうお教えになっています。

『目には目を、歯には歯を』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれかがあなたの右の頬^{ほお}を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。

あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。

もし、だれかが、あなたをしいて1マイル行かせようとするなら、その人と共に2マイル行きなさい。

求める者には与え、借りようとする者を断るな。

『隣人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。

敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈れ。」(マタイ5:38-44, 44節は欽定訳から和訳)

これは力強い御言葉です。

皆さんはほんとうにこの命令に従うことができますか。これは主御自身の御言葉であり、わたしたち一人一人に向けられた御言葉です。

律法学者たちとパリサイ人たちが、イエスを策略に陥れるため、姦淫の場でつかまえられた女をイエスの御前に連れて来ました。「しかしイエスは身をかがめて、[彼らの言葉が聞こえないかのように]指で地面に何か書いておられた。

彼らが問い続けるので、イエスは身を起して彼らに言われた、『あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい。』

そしてまた身をかがめて、地面に物を書きつけられた。

これを聞くと、彼らは年寄から始めて、ひとりびとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された。

そこでイエスは身を起して女に言われた、『女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか。』

女は言った、『主よ、だれもございませぬ。』イエスは言われた、『わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。』(ヨハネ8:6-11)

救い主は、いなくなった1匹の羊を見つけるために99匹の羊を残して行くとえを使って、赦しによって元の状態に戻れることを教えてくださいました。

イザヤは宣言しています。「あなたがたは身を洗って、清くなり、わたしの目の前からあなたがたの悪い行いを除き、悪を行うことをやめ、

善を行うことをならい、公平を求め、しえたげる者を戒め、みなしごを正しく守り、寡婦の訴えを弁護せよ。

主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになる



のだ。」(イザヤ1:16-18)

救い主の究極の愛が、死に行く苦悶の中で語られた御言葉に表れています。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

主はこの時代に、啓示の中でこう言われました。「それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。

主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」(教義と聖約64:9-10)

主は驚くべき約束をしてくださいました。「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約58:42)

この時代には赦そうとしない人、忘れようとする人、あまりにも多くいます。父親や夫が、大したことのない欠点をいつまでも蒸し返すために、子供は泣き叫び、妻は涙を流しています。またささいな言動を不愉快に思い、いちいち大げさに訴える女性も多く見受けられます。

しばらく前に、ジェイ・エベンセンが『デゼレト・モーニングニュース』紙(Deseret Morning News)に書いた記事を切り抜きました。許可を得て一部を引用します。



「高速で運転している最中に、前を行く車の10代の若者が10キロはあるような凍った七面鳥をあなたのフロントガラス目がけて投げつけたら、その若者をどう思うだろうか。6時間の手術に耐えて、崩れた顔を金属板や金具でつなぎ止めたうえ、回復するには何年も治療が必要だと言われ、死なずに済んだだけでも、あるいは脳に一生障害が残らなかっただけでも幸運だったと思わなければならないとしたら、どう感じるだろうか。

加害者の若者とその仲間がそもそも七面鳥を持っていた理由が、遊びのつもりでクレジットカードを盗み、でたらめな買い物をしていたからだと知ったら、あなたはど

う感じるだろうか。

このようなおぞましい犯罪があると、政治家は犯罪を厳しく罰するという公約を立てるようになる。このようなことがあると、議員たちは、冷凍七面鳥を凶器として使う者への刑罰を重くする法案を最初に提出して栄誉を得ようと躍起になる。

『ニューヨークタイムズ』紙(The New York Times)は、地方検事の言葉を引用した。この種の犯罪被害者はどのような刑罰でも十分ではないと感じる。『死刑ですら、被害者を満足させることはできない』のだ。

だからこそ、この後実際あった出来事に驚くのである。被害者のビクトリア・ルボロさん(前・集金代行代理店マネージャー、44歳、女性)は、報復よりも、19歳の加

害者ライアン・クッシングの人生を救うことの方に関心があった。ルボロさんは検事にしつこく要求して、加害者の生活や生い立ちなどの情報を入手し、その後、加害者に司法取り引きをするよう強く申し入れた。もし第2級暴行罪を認めるならば、郡拘置所での6か月の服役と、5年間の保護観察処分で済むというのだ。

もしこの犯罪に最もふさわしい第1級暴行罪の判決を受けていたら、25年間服役した挙句、中年になって、何の技術も将来性もないまま社会に放り出されることになっていただろう。

しかしこの話にはまだ続きがある。その日、法廷では、さらに驚くべきことが起こった。

『ニューヨークポスト』紙(New York Post)の記事によると、法廷でクッシングはためらいながらやっとのことでルボロさんの席に進み寄り、涙ながらに謝罪の言葉をささやいた。『あなたにしたことは、ほんとうに申し訳なく思っています。』

ルボロさんは立ち上がり、泣きながら加害者を抱き締め、涙にむせぶ加害者の頭と背中をなでた。『タイムズ』誌(Times)の記者をはじめ、その場にいた人々にルボロさんの言葉が聞こえた。『大丈夫よ。ただ、あなたにできるだけ良い人生を歩んでほしいの。』その記事によれば、ベテランの検事や記者たちでさえ、のどを詰まらせながら必死に涙をこらえていた。」「(“Forgiveness Has Power to Change

Future.” *Deseret Morning News*, 2005年8月21日付, AA3)

何とすばらしい話でしょう。何よりすばらしいのは、これが実話だという点です。しかも、危険なニューヨークでの出来事です。自分の命を奪ったかもしれない若者を赦したこの女性を、称賛しない人がいるでしょうか。

今話していることは、微妙な問題をはらんでいることを承知しています。刑務所にとどめておくべき冷酷な犯罪者もいます。計画的殺人、強姦など、厳しい刑罰に値する、おぞましい犯罪もあります。しかし思慮に欠けた愚かな行いが原因で、刑務所で何年も無益な時間を過ごすことになった人の中には、救われてもよい人もいでしょう。不思議なことに、愛と寛容による赦しは、ほかの方法では起こせない奇跡を起こすことがあります。

偉大な贖罪は、究極の赦しの行為でした。贖罪の重要性を完全に理解することはわたしたちにはできません。わたしが知っているのは、贖罪が行われたという事実、そしてそれがわたしと皆さんのためであったということだけです。苦しみがあまりに大きく、苦悶があまりに激しかったので、救い主が全人類の罪のために御自身をささげられたときのことを理解できる人はだれもいません。

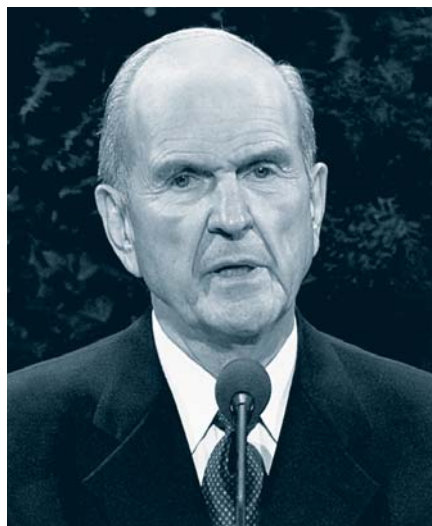
わたしたちは救い主を通して赦しが得られるのです。そして救い主を通して、全人類が死から復活し、救いの祝福を受けるという確かな約束を得ることができるのです。救い主とそのきわめて重要な犠牲を通してこそ、従順であることを条件に、昇栄と永遠の命という扉が開かれているのです。

神の助けを受けて、もう少し優しくなり、もっと寛大になり、もっと赦し、もっと喜んで2マイル歩き、罪を犯したけれどもすでに悔い改めの実を結んでいる人に手を伸ばして引き上げ、昔の恨みを忘れ、二度と恨みを増幅させることがありませんように。このことをへりくだり、贖い主、主イエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。

イエス・キリスト ——偉大な癒し主

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

主が教えられるパターンには深い意味があります。信仰、悔い改め、バプテスマ、証と絶えざる改心は、わたしたちを主の癒しの力へと導いてくれます。



愛する兄弟姉妹の皆さん、一人一人に愛と歓迎の意を表します。幹部の兄弟たちに代わって、皆さんの善意と思いやりに満ちた寛大な行い、わたしたちが生活の中で感じる皆さんの祈りと支えに感謝します。わたしたちも皆さんと同じような問題を抱えています。皆が悲しみや苦しみ、病気や死を経験します。主は、良いときも悪いときも最後まで堪え忍ぶよう期待しておられます。主の神聖な業をともに推し進めるうえで、皆さんの思いやりと関心がどれほど大切かわたしたちはよく理解しています。皆さんの愛に満ちた助けは、感謝をもって受け止めています。皆さんを愛し、皆さんが祈ってくださっているように、わたしたちも皆さんのために祈っています。

主イエス・キリストに特別に感謝しています。主の愛にあふれた優しさ、御自身のみもとに来るようという寛大な招きに感謝しています。¹ 主のたぐい^いない癒しの力に驚嘆します。イエス・キリストが偉大な癒し主であられることを証します。それは主の比類ない生涯を特徴づける多くの特質の一つです。

イエスはキリストであり、メシヤ、神の御子、創造主、偉大なるエホバ、約束されたインマヌエル、贖いをもたらし救い主、贖い主、御父に対する弁護者、偉大な模範です。そしていつの日か、わたしたちは公正で憐れみに満ちた裁き主²である、主の御前に立つことになります。

癒しの奇跡

偉大な癒し主として、イエスは友人たちにこうおっしゃいました。「行って、あなたがたが見聞きしたことを……報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生き返[っている。]」³

マタイ⁴、マルコ⁵、ルカ⁶、ヨハネ⁷の福音書には、イエスが出て行って福音を宣べ伝え、あらゆる種類の病を癒されたことが何度も述べられています。

復活した贖い主は、古代アメリカの人々に御姿を現されたとき、憐れみに満たされて、「どんなことでも苦しんでいる」⁸ 人は御自分のみもとに来て、癒されるようにと招かれました。

驚くべきことに、病人を癒す主の神聖な権能は、初期の神権時代⁹のふさわしい神権者に授けられました。福音が完全なままに回復された末日においても同様です。¹⁰

癒しにおける祈りの力

祈りによっても、主の癒しの力にあずかることができます。30年前にネルソン姉妹と経験した出来事を忘れられません。スペンサー・W・キンボール大管長とカミラ夫人と一緒に。わたしたちはニュージーランドのハミルトンで聖徒たちと大規模な大会に出席しました。当時わたしは中央幹部ではなく、中央日曜学校の会長として、その大会と太平洋諸島で開かれた同様の集会に出席するよう依頼されました。また医学博士としても、何年も前から、キンボール大管長夫妻に付き添っていました。ですから、二人のことを文字どおり隅々まで知っていました。

土曜日の夕方は、地元の教会の青少年が大会のために準備した文化プログラムが行われる予定でした。しかし残念なことに、大管長夫妻は高熱が出て具合が非常に悪くなったのです。神権の祝福を受けた後、二人は近くにあったニュージーランド神殿長宅で休憩を取りました。大管長は、N・エルドン・タナー副管長に文化行事の管理を依頼し、欠席することを伝えました。

ネルソン姉妹はタナー副管長夫妻やほかの指導者とともに行事に参加し、キンボール大管長の秘書であったD・アーサー・ヘイコック兄弟とわたしは、熱のある二人の友人の看病をしました。

大管長が休んでいる間、わたしは同じ部屋で静かに本を読んでいました。すると大管長は不意に目を覚ましてこう尋ねました。「ネルソン兄弟、今晚のプログラムは何時からでしたか。」

「7時です、大管長。」

「今、何時ですか。」

「もうすぐ7時です」とわたしは答えました。

大管長は即座にこう言いました。「キンボール姉妹と一緒に文化行事に出かけるよと伝えてください。」

わたしは大管長の体温を測りました。正常でした。姉妹の体温も測りました。



正常でした。

二人は急いで着替え、車に乗り込み、ニュージーランド・チャーチカレッジの競技場へと向かいました。車がアリーナに入ったときに、非常に大きな叫び声がどつとわき起こりました。不思議でした。席に着いてから、ネルソン姉妹になぜ皆が声を上げたのか尋ねました。姉妹は説明してくれました。タナー副管長は開会に当たって、大管長夫妻が病気のために出席できないことを、依頼されたとおりに発表したそうです。それから若いニュージーランド人の兄弟が祈りをささげました。

この兄弟は、ネルソン姉妹の言葉を借りれば、かなり長く力強い祈りを偉大な信仰を込めてささげました。こう祈ったのです。「わたしたちは3,000人のニュージーランドの青少年です。預言者の前で歌と踊りを披露するために6か月間準備してここに集まりました。どうか預言者を癒し、この場に送り届けてください。」「アーメン」と言うと、大管長と姉妹を乗せた車が競技場に到着したのです。皆すぐにそれがだれだか分かり、一斉に歓声が上がりました。¹¹

わたしは主の癒しの力を目の当たりにしました。また主の生ける預言者が啓示を受け、その啓示にこたえる姿を目撃しました。

時として、熱烈に祈っても、祈りがこたえられないように思えることがあります。「なぜだろうか」と疑問に思うのです。わたしもそう感じたことがあります。そのようなときの恐れや涙を味わったことがあります。しかし、祈りはないがしろにされないということも知っています。信仰が無に帰することはないので。すべてを御存じである天の御父は、わたしたちよりはるかに広い視野を持っておられます。わたしたちはこの世的问题や苦痛に目を向けますが、御父は

永遠の進歩や可能性を理解しておられます。御心を知るために祈り、忍耐と勇気をもって御心に従うなら、天の癒しは御父の方法と時間に従ってもたらされるのです。

癒されるまでの段階

苦しみみこころの原因には肉体的なものだけでなく霊的なものもあります。息子アルマは自分の罪があまりにも苦痛に満ちたものだったために「霊と肉体がともになくなってしまえば、神の御前に立たされて自分の行いを裁かれることはないだろう」と思ったと回想しています。¹² そのようなときに、どうすれば主から癒していただけるのでしょうか。

もっと十分に悔い改めることができます。十分に改心することができます。そうするなら、「義の御子」¹³ は癒しの御手を伸ばし、もっと十分に祝福をお与えになれるのです。

イエスはその務めを始めたころ、御自分は「心のいためる者をいや」す¹⁴ ために遣わされたと宣言されました。どのような状況でも、主は一貫したパターンに従って教えられました。4つの異なる時代と場所で語られた主の御言葉から、そのパターンに注目してください。

聖地の人々に、主は「目で見……耳で聞〔き〕……心で悟〔り〕……悔い改めていやされる」ようにと語られました。¹⁵

古代アメリカの人々に対し、復活した主はこう勧められました。「わたしがあなたがたをいやすことができるように、……わたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改め」なさい。¹⁶

御自身の教会の指導者に、主はこうお教えになりました。「引き続き教え導く〔ように。〕彼らが立ち返って悔い改め、十分な固い決意をもってわたしのもとに戻って来るよう

にならないとは言い切れないからである。そうするならば、わたしは彼らを癒そう。』¹⁷

「万物更新」¹⁸ の間、主は預言者ジョセフ・スミスに開拓者について教えられました。「彼らが試練と多くの艱難を受けた後、見よ、主なるわたしは彼らを探ろう。そして、彼らがわたしに対してその心をかたくなにせず、強情でなければ、彼らは心を入れ替えるので、わたしは彼らを癒そう。』¹⁹

主が教えられるパターンには深い意味があります。信仰、悔い改め、バプテスマ、証と絶えざる改心は、わたしたちを主の癒しの力へと導いてくれます。バプテスマは聖約を結ぶ行為であり、決意と約束のしるしです。証は、聖霊が熱心な真理の探究者に確信をお与えになるときはぐくまれます。真の証は信仰を育て、悔い改めて従順になるよう促します。証は神と人へと仕えたいという熱意を生み出します。²⁰ 改心とは「……に向きを変える」²¹ という意味です。改心は世の道から主の道へ方向転換すること、そして主の道にとどまることを意味します。改心には悔い改めと従順が含まれます。改心は大きな心の変化をもたらします。²² したがって、真の改心をした者は「再び生まれ」²³ 新しい命²⁴ とともに歩むのです。

真に改心した者として、わたしたちは主が望まれていることを行い、²⁵ 主が望まれる人物になりたいと願います。²⁶ 罪を捨てることは、神の赦しをもらい、心を癒します。

どうしたら真に改心しているか分かるのでしょうか。自己診断テストは聖文の中にあります。バプテスマを受ける前の改心の度合いを測るものもあれば、²⁷ 隣人に進んで奉仕しているか測るものもあります。主は弟子のペテロにこうおっしゃいました。「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが改心したときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。』²⁸ 人に仕え、力づける意欲は、癒されることをどれほど望んでいるかを示します。

主の癒しの偉大さ

愛弟子ヨハネはこう宣言しました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』²⁹ 何と

いう力でしよう。偉大な癒し主以外に、世の罪を取り除くことのできる人はいません。わたしたちは主に計り知れない恩義を受けているのです。

宣教師のグループに話したときの経験をよく覚えています。質問はないか尋ねると、一人の長老が立ち上がりました。長老は目に涙を浮かべながら言いました。「イエスはどうしてあれほど苦しまれなければならなかったのですか。」わたしは賛美歌集を開いて、「わが主よ、わが神」の歌詞を読むように頼みました。彼は読み始めました。

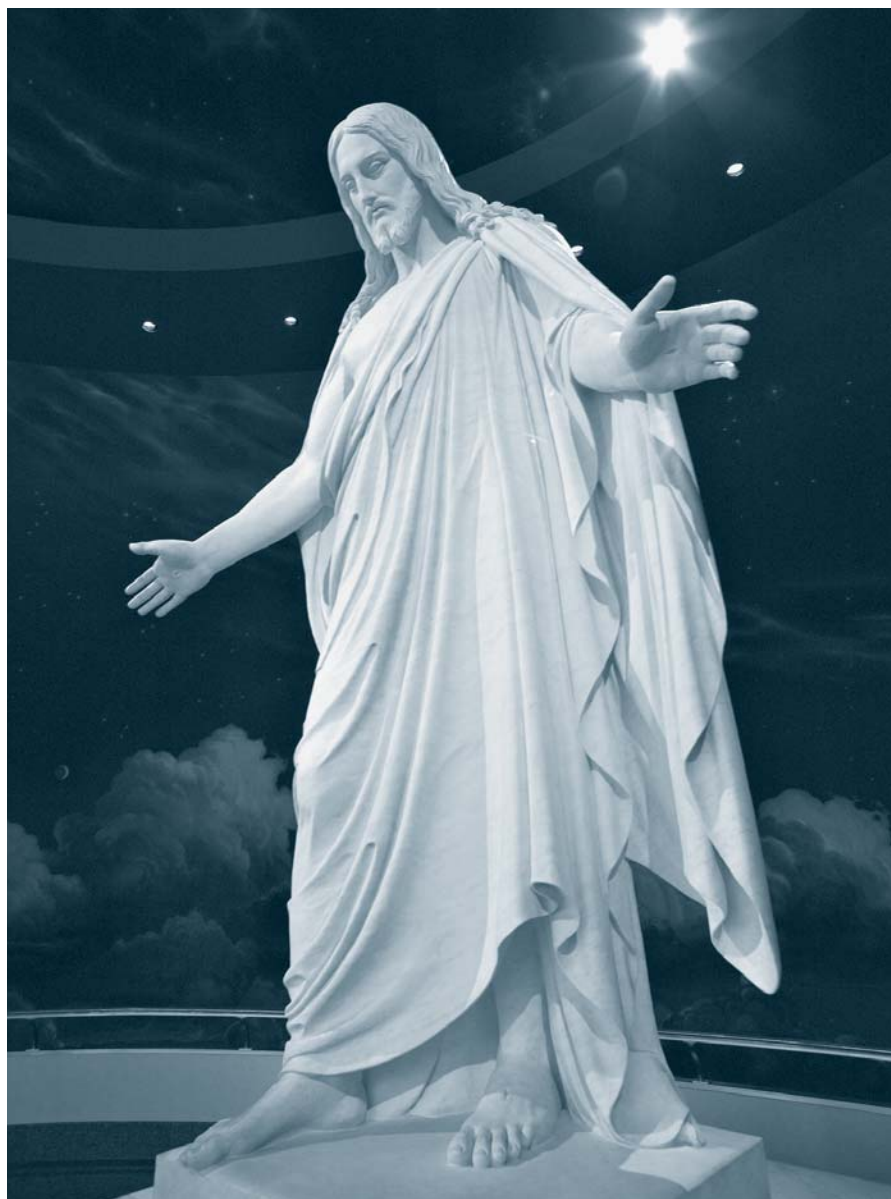
主イエスを^{つか}遣わせし父
その愛、^{さと}悟り難し
十字架^{がた}染めし主の血は
わが罪、洗い清む³⁰

それから、この長老に「敬い崇め」の歌詞を読んでもらいました。これらの歌詞には特に胸を打つものがあります。なぜなら、尋ねられたまさしくその質問に対して主御自身であればこうお答えになるであろうという言葉が提示されているからです。

敬い崇め^{あが} 頭^{こうべ}を下げて
救われし者 わが業^{わざ}思え
血の汗^{あせ}をもて 十字架の上に
汝^{なんじ}らの罪 贖^{あがな}いにけり
……
思い出せ汝^{なんじ}が
罪の贖^{あがな}い
カルバリのわが
苦^{くるしみ}しの死^しを³¹

イエスは、その深い愛のゆえに深い苦悩を味わわれました。主はわたしたちが悔い改め、改心するよう望んでおられます。完全な癒しを与えられるようにするためです。

つらい試しに遭うとき、³² 神への信仰を深め、熱心に働き、周りの人に仕えるべきです。そうするときに主は傷ついた心を癒してください。そして一人一人に平安³³ と慰め³⁴ ^{たまもの}を授けてくださるのです。これらの偉大な賜物は、死をもってしても損なわれることはありません。



復活——究極の癒し

復活の賜物は、主による究極の癒しです。主のおかげで、肉体はその本来の完全な造りに回復されます。³⁵ 主のおかげで、どのような状況にも希望があります。主のおかげで、現世でも来世でも、より良い日々が待っているのです。悲しみの向こうには、真の喜びが一人一人を待っています。

神は生きておられます。イエスはキリストであり、偉大な癒し主であられることを、イエス・キリストの聖なる御名^{みな}によって証します。アーメン。

注

1. マタイ11:28-30参照。実際に、主のくびきは負いやすく、主の荷は軽い。

2. ラッセル・M・ネルソン「わたしたちの主キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号、4-19参照
3. ルカ7:22
4. マタイ4:23;8:1-3, 5-13, 16-17; 9:1-8, 32-35;12:15;14:14, 34-36;15:29-31参照
5. マルコ1:32-34, 40-45;2:1-12;6:53-56;7:31-37参照
6. ルカ4:40-41;5:12-15, 17-26;7:1-10;11:14;22:50-51参照
7. ヨハネ4:46-53参照
8. 3 ニーファイ17:7
9. マタイ10:5-8;マルコ16:17;ルカ10:17;4 ニーファイ1:5参照

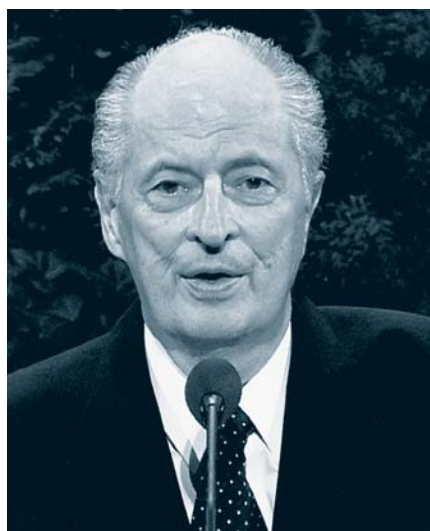
10. 教義と聖約84：65－70参照
11. スペンサー・J・コンディー, *Russell M. Nelson: Father—Surgeon—Apostle* (2003年), 172－174参照
12. アルマ36：15
13. 3 ニーファイ 25：2。マラキ 4：2も参照
14. イザヤ61：1。ルカ4：18も参照。
15. イザヤ6：10。マタイ13：15；ヨハネ12：40；使徒28：27も参照
16. 3 ニーファイ9：13
17. 3 ニーファイ18：32
18. 使徒3：21
19. 教義と聖約112：13。教義と聖約124：104も参照
20. 次の二つの偉大な戒めを守ること——「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ。』」(ルカ10：27)
21. 「改心」(*Conversion*)という言葉は、二つのラテン語の語根、すなわち「……に」を意味する *con* と「向きを変える」を意味する *vertere* から来ている。
22. モーサヤ5：2；アルマ5：12－14参照
23. ヨハネ 3：3－7；1 ペテロ1：23；モーサヤ 27：24－26；アルマ5：49；7：14；モーセ6：59；ジョセフ・スミス訳創世6：62 (英文) 参照
24. ローマ6：3－4参照
25. モーサヤ5：2－5参照
26. 3ニーファイ27：21, 27参照
27. 教義と聖約20：37参照。モーサヤ18：10参照
28. 欽定訳ルカ22：32から和訳
29. ジョセフ・スミス訳ヨハネ1：29
30. 『賛美歌』44番。詩篇8：3－9：9：1－2；モーサヤ 4：5－13も参照
31. 『賛美歌』104番。教義と聖約19：16－19；45：3－5も参照
32. 「部屋を出る前に」『賛美歌』78番, 3節参照
33. ヨハネ14：27参照
34. イザヤ40：1；ヨハネ 14：16－17, 26参照
35. アルマ11：43；40：23参照

回復と再臨の備え ——「わたしの手は あなたのうえにある」

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

この世の創造以前から主の御手が回復の業のうえにあり、主の再臨までであることを証します。



今年わたしたちは預言者ジョセフ・スミス生誕200年を祝っています。世界に向けて、ジョセフ・スミスがイエス・キリストの福音を回復するために予任された神の預言者であると証します。ジョセフ・スミスは救い主の指示の下にこれを行いました。救い主は先代の預言者にこう語っておられます。「わたしの名はエホバであり、わたしは初めから終わりを知っている。それゆえ、わたしの手はあなたのうえにある。」¹

わたしは福音の回復に主の御手があったと認識しています。様々な時代に神の子供たちが靈感を受けて払った犠牲を通して、回復の基礎が敷かれました。そし

て今、世界はわたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの再臨に備えています。

主の福音はアダム時代に地上で最初に確立され、それぞれの神権時代においてエノク、ノア、アブラハム、モーセといった預言者を通して教えられました。これらの預言者は皆、イエス・キリストが世の罪を贖うために降誕されることを預言しました。この預言は成就しています。救い主は御自分の教会を設立され、使徒を召して、神権を確立されました。最も重要なのは、主が御自分の命をささげ、そして復活されたことです。すべての人が復活するためでした。こうして主は贖いの犠牲を成し遂げられました。しかしそれだけではありません。

復活後、救い主は使徒たちに、教会を導き、福音の儀式を執行するよう委任されました。この責任に忠実であった使徒たちは迫害され、ついには殉教者も出ました。結果として主の神権の権能は地上からなくなり、世界は霊的な暗黒に陥ったのです。続く何世紀かは、神の子供たちにキリストの光が与えられ、祈ることと聖霊の影響を感じることはできました。しかし完全な福音は失われていました。教会を導き、バプテスマや聖霊の賜物を授けるなどの神聖な儀式、神殿の救いの儀式を執行する力や権能を持つ人が、地上に



はいませんでした。またほとんどの人には聖文を手にする機会がなく、読み書きができない人も大勢いました。

聖文の入手を可能にし、神の子供たちが読み方を学べるようにすることが福音の回復への最初の段階でした。元来聖書はヨーロッパの一般市民にはなじみのないヘブライ語とギリシャ語で書かれていました。救い主の死後約400年がたつと、聖書はヒエロニムスによってラテン語に翻訳されました。しかしまだ聖文が広く行き渡るという状態ではありませんでした。手書きの写本はたいてい修道士の手で作られ、1冊仕上げるのに数年かかりました。

やがて聖霊の影響を受けて、人々の心に学術への関心が芽生えました。ルネサンス、つまり「文芸復興」の運動がヨーロッパに広まりました。14世紀後半に聖職者ジョン・ウィクリフがラテン語から英語に聖書の翻訳を始めました。当時英語は形を大きく変えようとしていた洗練されていない言語だったので、教会の指導者たちは神の御言葉を伝達するのには適さないと考えていました。また人々が聖書を自分で読んで解釈するようになったら教義が堕落すると思い、聖文を自由に読めるようになったら、教会を必要としなくなって教会への財政支援が途絶えると恐れ

る指導者もいました。結果、ウィクリフは異端者として非難され、また処遇されました。死亡し埋葬された後に、骨は掘り返され、焼かれました。しかし神の業がとどまることはありませんでした。

聖書を翻訳するよう靈感を受けた人がいる一方で、聖書を発行する手段を備えるよう導かれた人もいました。1455年までにヨハネス・グーテンベルクが組み替え可能な活字を発明し、聖書は最初に印刷された書物の一つとなりました。ようやく初めて聖書が同時に何冊も、しかも工面できる価格で印刷できるようになったのです。

一方では、神の靈感が探検家たちのうへにも注がれました。1492年、クリストファー・コロンブスは極東への新たな航路を見つけるために出航し、神の御手に導かれて旅をしました。彼は言いました。「神はわたしに信仰を与え、後に勇気を与えてくださった。」²

このような発明や発見は後に続く人々へ道を開きました。16世紀初頭、若きウィリアム・ティンダルがオックスフォード大学に入学しました。そこで聖書学者エラスムスの業績を研究しました。エラスムスは、聖文を「[人の]魂の糧であり、……人の心と頭の奥深くにまで浸透しなければならないもの」³と信じていました。ティン

ダルは研究を進めるうちに、神の御言葉への愛をはぐくみ、神の子供たちが皆自分自身で御言葉を味わえることを願うようになりました。

それと同時期に、ドイツの聖職者で教授でもあるマルチン・ルターが当時の教会の95か所の間違いを見つけ、大胆にもその論題を手紙に書いて上位の聖職者に送りました。スイスではフルドリッヒ・ツ빙グリが改革の67か条を印刷しました。スイスのジョン・カルビン、スコットランドのジョン・ノックスなど多くの人がこの運動に加担しました。宗教改革が始まったのです。

その間ウィリアム・ティンダルは聖職者となり、経験を積んでいました。8か国語に精通しており、ギリシャ語およびヘブライ語から英語に直接翻訳した方が、ラテン語から翻訳したウィクリフのものより、さらに正確になり、読みやすくなると確信していました。そして神の御霊に啓発されたティンダルは、新約聖書、さらに旧約聖書の一部を翻訳しました。友人たちはそんなことをすれば殺されると警告しましたが、ティンダルの決意は変わりませんでした。ある学識のある人との議論の中で彼はこのように言いました。「何年もしないうちに、鋤を引いて畑を耕している農家の子供でさえ、あなたがたよりもはる



かに聖書に精通させてみせよう。」⁴

ティンダルはほかの人々と同様にその努力がもとで、ついに殺されました。ブリュッセル近郊で絞殺の後、火刑に処せられました。しかし彼が命をささげた信念は失われませんでした。ティンダルが生涯をかけて教えたことを多くの人が経験してきました。「神の御言葉の本質はこのようなものです。それを読む人はだれであっても……すぐに日々進歩するようになり、ついには完全な人となるのです。」⁵

激動の政治期に変化が起きました。ローマの教会と決別したイギリスの王ヘンリー8世は、自らをイギリスの教会の首長であると宣言し、英語版の聖書をすべての教区の教会に置くよう命じました。福音に飢えていた人々はそのような教会に群がり、声がかかるまで聖文を読み合いました。聖書はまた、読み方を教えるときの教本として用いられました。ヨーロッパ全土で殉教が続いたものの、無知という闇夜は終わりを告げようとしていました。ある説教者は火あぶりにされる前にこのように宣言しました。「今日わたしたちは神の恵みによって、イギリスでろうそくに火をともします。この火は決して消えることがないとわたしは確信しています。」⁶

イギリスやヨーロッパ全土に生きて、この火をともしことに力を貸した人々に感謝しています。神の恵みによってその火の光は明るさを増しました。国内の分裂に

通じていたイギリス国王のジェームズ1世は、聖書の公式の版を新しく定めることに同意しました。欽定訳聖書には、ウィリアム・ティンダル訳の旧約聖書のすばらしい部分（モーセの五書つまり創世記から申命記までと、ヨシュア記から歴代志まで）と新約聖書の80パーセント以上が、そのまま生かされていると推定されています。⁷ やがて時が来てこの欽定訳聖書は新世界に渡り、ジョセフ・スミスという14歳の農家の少年が読むことになりました。今日、末日聖徒イエス・キリスト教会が承認している英語版の聖書が欽定訳であることに、驚くことがあるでしょう。

イギリスの宗教弾圧はジェームズの息子チャールズの時代にも続き、多くの人が新世界に自由を求める結果を生みました。そのような人々にピルグリムファーザーズがいました。彼らは1620年にアメリカに上陸しました。そこはコロンブスが100年以上前に探査した、まさにその場所でした。ほかの入植者たちもすぐに後に来ました。ロードアイランド州の創始者および知事のロジャー・ウィリアムズもその一人で、キリストの真実の教会を探し続けた人です。ウィリアムズはこう言いました。「この地上には正しく設立された教会はないし、主の教会の儀式を執行する権能を持つ者もない。それらが実現するのは、教会の偉大な管理者であられる御方から新しい使徒たちが遣わされる時で

あろう。わたしはその訪れを待ち望んでいる。」⁸

それから100年以上が過ぎ、このような宗教感情がアメリカ大陸の新しい国の創始者たちを導きました。彼らは神の御手の下に、靈感を受けて起草された権利章典ですべての市民に宗教の自由を保証しました。その14年後の1805年12月23日、預言者ジョセフ・スミスは生まれたのです。回復の準備は、終わりに近づいていました。

ジョセフは若いころ宗教に関して「心の中で深く考えさせられ」⁹ ました。宗教の自由な地で生まれたので、あらゆる教会のうちどれが正しいのかを問うことができたのです。そして聖書が英語に翻訳されていたので、神の御言葉に答えを探し求めることができました。彼はヤコブの手紙を読んでいました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は……神に、願い求めるがよい。」¹⁰ そしてそのとおりにしました。ジョセフの祈りにこたえて父なる神と御子イエス・キリストがジョセフに御姿を現されました。¹¹ この貧しい農家の少年が、この末日に古代のイエス・キリストの教会と神権を回復するよう神に選ばれた預言者だったのです。この回復は、時満ちる最後の神権時代に起こらなければならず、人が地上で得られるすべての神権の祝福を回復するものでした。神から責任を受けたジョセフの業は、地上の既存の宗教を改革したり、異議を唱えたりすることではありませんでした。かつて地上に存在し、そして失われたものを回復することだったのです。

1820年の最初の示現から始まった回復は、モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証の出現へと続きます。1823年9月21日、天使モロナイがジョセフ・スミスを訪れ、「メシヤの再臨に先立って」「完全な永遠の福音」¹² が収められた古代の記録について教えました。金版に刻まれた記録であるモルモン書には、西半球におけるキリストの務めが記されています。ちょうど聖書が聖地におけるキリストの生涯と務めを記しているのと同

様です。ジョセフは4年後に金版を受け取り、1827年12月にモルモン書の翻訳を始めました。¹³

翻訳中、ジョセフ・スミスと筆記者のオリバー・カウドリはバプテスマについての記述を読みました。この祝福を受けたいという二人の望みが、1829年5月15日、バプテスマのヨハネの手によりアロン神権の回復につながります。¹⁴

続いてメルキゼデク神権が回復され、^{かき}鍵を持っていた使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネによりジョセフとオリバーに授けられます。何世紀も続いた霊的な暗黒の後に、神の御名において行動し、神聖な儀式を執行し、主の教会を導くための力と権能が再び地上に存在することになったのです。

モルモン書の初版は1830年3月26日に発行されました。数日後の4月6日に、この末日におけるキリストのまことの教会が、ニューヨーク州フェイエットのピーター・ホイットマー・シニアの家で再び組織されました。この出来事が世に与える影響について、パーリー・P・プラット長老はこのように表現しています。

「夜明けだ、朝明けだ
シオンの旗^{かき}掲げよ
明るい夜明^{おこ}けだ
厳かにあまねく、
朝日は昇り行く」¹⁵

長い夜はついに明け、啓示が降り注ぎ、さらなる聖文が生まれました。1835年8月17日、教義と聖約を教会は受け入れました。高価な真珠のアブラハム書の翻訳がその年に始まりました。

その後間もなく、主の御名において行動する権能がさらに与えられました。カートランド神殿が1836年3月27日に奉献されました。¹⁶ その神殿の中で救い主はジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御姿を現され、続いてモーセ、エライアス、エリヤが現れ、預言者にさらなる神権の鍵を授けました。¹⁷

この福音の光が再び地上から取り去られることはありません。1844年、ジョセ



フ・スミスはすべての神権の鍵をブリガム・ヤング、ジョン・テーラー、ウィルフォード・ウッドラフら使徒に授けました。預言者は言いました。「わたしは自分の肩の上に置かれた重荷が、ほかの人たちの肩の上に移るのを目にするまで生き長ええました。……王国の鍵は地上に根づき、もはや永久に取り去られることはありません。……わたしに何が起ころうともです。」¹⁸ 悲しいことに、3か月後の6月27日、預言者ジョセフ・スミスと兄ハイラムはイリノイ州カーセージで殉教しました。

預言者が殉教したときその場に居合わせたジョン・テーラー長老は、ジョセフについて証しています。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」¹⁹

預言者ジョセフ・スミスが行った働きは、救い主の御業であることを証します。主に仕える道を歩むのは、容易なことばかりではありません。犠牲を求められることが多くあります。逆境を経験することもあるでしょう。けれども主に仕えるときには、主の御手がまさにわたしたちのうえにあることに気づくでしょう。主の御手は、ウィクリフやティンダル、そして回復への道の備えとなったほかの数多くの人のうえにあり、預言者ジョセフ・スミスや、回復された福音をもたらすうえで先駆者

の働きをしたすべての人のうえにありました。そして今わたしたちのうえにもあり、今後もあり続けるでしょう。

主は前の時代の人々のように、わたしたちにも忠実で献身的で勇敢であるよう求めておられます。彼らは福音のために命をささげるよう召されました。わたしたちは同じ目的のために生きるように召されています。この末日に、わたしたちにはそのようにする特別な理由があります。

ベツレヘムでのあの聖なる夜以前の歴史上の出来事やあらゆる神権時代の預言者の言葉は、主の降誕と贖罪への道を備えました。同様に、歴史や預言は預言者ジョセフ・スミスによる福音の回復の基礎を築きました。今日の出来事や預言が、主の再臨に自らを備えさせるものであるという認識がわたしたちにはあるでしょうか。

わたしたちの救い主イエス・キリストが生きておられることを、特別に証します。この世の創造以前から主の御手が回復の業のうえにあり、主の再臨までであることを証します。

わたしたち一人一人が、主にまみえるために自分自身を備えるように、へりくだり祈ります。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

1. アブラハム2:8

2. マーク・E・ピーターセン, *The Great Prologue* (1975年), 29で引用
3. ベンソン・ボブリック, *Wide as the Waters: The Story of the English Bible and the Revolution It Inspired* (2001年), 89で引用
4. S・マイケル・ウィルコックス, *Fire in the Bones*で引用, *William Tyndale--- Martyr, Father of the English Bible* (2004), 47
5. ウィルコックス, *Fire in the Bones*, xvで引用。
6. ボブリック, *Wide as the Waters*, 168で引用。ジェームズ・E・キーファー, *Biographical Sketches of Memorable Christians of the Past*, "Hue Latimer, Bishop and Martyr", <http://justus.anglican.org/resources/bio/269.html>も参照
7. ウィルコックス, *Fire in the Bones*, 125-126, 197参照。Fox's *Book of Martyrs*, ウィリアム・バイロン・フォーブッシュ編 (1926年), 181
8. *Picturesque American; or, the Land We Live In*, ウィリアム・カレン・ブライアント編, 全2巻 (1872-1874年), 第1巻, 500-502。リグランド・リチャーズ『不思議な驚くべきわざ』23
9. ジョセフ・スミスー歴史1:8
10. ヤコブの手紙1:5
11. ジョセフ・スミスー歴史1:11-20参照
12. モルモン書序文
13. ジョセフ・スミスー歴史1:27-62参照
14. 教義と聖約13章:ジョセフ・スミスー歴史1:66-72;『時満ちる時代の教会歴史』54-55参照
15. 「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番
16. 教義と聖約109章参照
17. 教義と聖約110章参照
18. ウィルフォード・ウッドラフによる引用, *Deseret News*, 1869年12月21日付, 2
19. 教義と聖約135:3

犠牲は喜び、そして祝福である

七十人
高 元龍

わたしたちが皆、喜んで犠牲を払う聖徒となり、主の特別な祝福を受けるにふさわしい者となれるよう祈ります。



兄 弟姉妹の皆さん、こんにちは。預言者ジョセフ・スミスはこう教えました。「あらゆるものを犠牲とすることを求めない宗教は、命と救いを得るために必要な信仰を人々に持たせることはできない。」(*Lectures on Faith* [1985年], 69) 聖典に記された歴史は、要約すれば、犠牲の歴史であると言えます。

聖文には、信仰と証^{あかし}を貫くために、自らの命を犠牲にした人々の驚くべき模範が多く記されています。その一例として、アルマとアミュレクの物語が挙げられます。二人は、火の中に投げ込まれながらも信仰を貫き死んでいくアモナイハの人々を、苦悩のうちに見ていなければなりませんでした(アルマ14:7-13参照)。

また、御自身を低くされ、御父のみもとから地上に來られたイエス・キリストについても思い浮かびます。キリストは世を救うために犠牲を払い、ほかのだれにも耐えることのできない苦痛を味わわれました。

この福音の最後の神権時代にあっても、多くの開拓者が信仰を貫くために命を失い、究極の犠牲を払いました。

今日^{こんにち}、わたしたちは命を捨てるほど大きな犠牲を求められることはまずありません。しかし、信仰と証を保つためには犠牲を払っている聖徒が多くいます。もしかしたら、日々の生活の中で小さな犠牲を払う方がもっと難しいのかもしれませんが、安息日を聖く保つこと、聖文を毎日読むこと、自分の一を納めること、これらは小さな犠牲と呼べるでしょう。しかし、このような犠牲は容易ではありません。これらの戒めを守るために必要な犠牲を払うという意志と決意がなければならぬからです。

このような小さな犠牲を払うときに、さらに多くの祝福を主から授かります。ベニヤミン王はこう語りました。「そのためにあなたがたは、今も神に恩を受けているし、これからもとこしえにいつまでも恩を受けるであろう。」(モーサヤ2:24) 当時の民と同様に、ベニヤミン王はわたしたちが主の御言葉に絶えず従って、より祝福を受けられるよう励ましています。

犠牲のもたらす第1の祝福は、代価を

払ったときに得られる喜びではないでしょうか。犠牲そのものが祝福となり得るという考え方自体が祝福を与えるのです。そのような思いと喜びを抱くとき、わたしたちはすでに祝福を受けているのではないのでしょうか。

最近、韓国の教会奉獻50周年とジョセフ・スミス生誕200年を祝う式典に出席したとき、参加した韓国の聖徒たちの間に同様の祝福が注がれているのを見ました。彼らの犠牲と喜びと祝福について少し紹介しましょう。

朝鮮戦争で深く傷ついた韓国の人々に希望と勇気を与えてくれた福音のおとずれを祝うため、会員たちは1年以上も前からこの式典の準備を始めました。初等協会、若い男性、若い女性、ヤングシングルアダルト、扶助協会の姉妹たちなど、韓国の多くの会員が集まって式典の練習をしました。会員たちは、花の舞い、円舞、扇の舞い、農楽などの様々な伝統舞踊を披露し、太鼓の演奏、テコンドー、劇、社交ダンス、音楽、アニメーション、聖歌隊による歌などを発表しました。

若い男性のたたく太鼓の音があまりにも大きかったため、近隣から苦情が出て、練習をやめなければなりませんでしたが、長時間にわたって練習するのは大変でしたが、皆喜んで練習しました。朝4時に起きて、バスに乗り、合同練習に参加しましたが、そのような努力と犠牲に不平を言う人は一人もいませんでした。主の祝福と感謝を示せる機会に喜びと感謝の念を抱いたのです。

また、海外に住む多くの帰還宣教師が、式典のために妻子を連れて韓国を再び訪れました。彼らは何年も前に韓国で伝道したときに犠牲を払いました。そして今回は、暑い夏に家族を連れて式典に参加するために、時間的、経済的な犠牲を再び払ったのです。しかし、参加したすべての行事に大きな喜びを感じ、感謝しました。

韓国の聖徒や人々を励ますために、主は御自身の預言者であるゴードン・B・ヒンクレイ大管長を韓国にお遣わしになりました。大管長自身が今回の旅行のため



に大きな犠牲を払い、13日間で世界各地を回る日程を立てました。そして韓国を訪れ、以前から愛している韓国の聖徒たちに会い、主の特別な愛を伝えました。だれ一人として式典への参加を犠牲と感じた人はいませんでした。それどころか、喜びと感謝の涙を流したのです。これこそまさにわたしたちの言う祝福ではないでしょうか。

兄弟姉妹の皆さん、犠牲を恐れないようにしましょう。犠牲そのものから与えられる幸福と祝福を味わってください。

犠牲と祝福の間には、時として、時間的なずれがあります。犠牲はわたしたちの時刻表に従って払いますが、祝福はわたしたちではなく、主の暦に応じて与えられます。ですから、主は次のような慰めの言葉を与えておられるのです。「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きな業の基を据えつつあるからである。」(教義と聖約64:33)

祝福は確かに与えられます。犠牲そのものが、ある種の祝福であるかもしれないということを忘れないでください。小さな犠牲を払おうではありませんか。

眠い目をこすりながらもモルモン書を読

むときに、預言者の勧告に従っていることを忘れないようにしましょう。そのような認識から得られる喜びを味わいましょう。たくさんの支払いがあっても、什分の一を納めるときに、主に何かをささげる機会が与えられていることを喜びましょう。

そうすれば、さらに大きな祝福が注がれます。ちょうど思いがけない贈り物をもたらったときのような驚きと喜びを感じるでしょう。

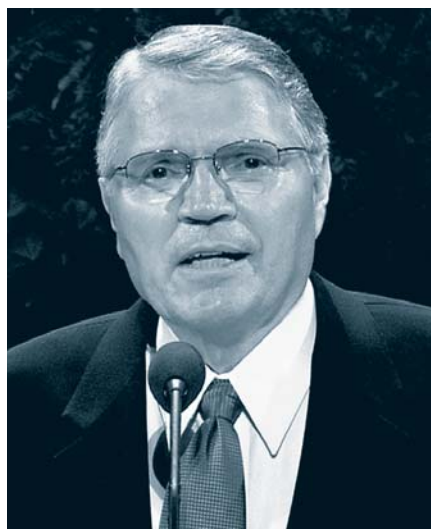
スペンサー・W・キンボール大管長はこう言いました。「何かをささげるとき、わたしたちは犠牲を通して天の祝福が注がれることを知ります[「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番]。そして最終的には、それが決して犠牲ではなかったことを理解するのです。」(“Becoming the Pure in Heart” *Ensign*, 1985年3月号, 5) わたしたちが皆、喜んで犠牲を払う聖徒となり、主の特別な祝福を受けるにふさわしい者となるよう祈ります。主はわたしたちを見守り、どのような犠牲であっても、犠牲を払うのが難しく耐えられないということのないようにしてください。イエス・キリストの御名により、アーメン。

福音の聖約は、 約束された 祝福をもたらす

七十人

ポール・E・コーリカー

福音の聖約を守ることにより、人生のつかの間の試練はすべて克服でき〔ます。〕



今 日わたしは、天の御父と御子イエス・キリストと聖霊に、深い畏敬の念と愛を表したいと願っています。さらに主の預言者、聖見者、啓示者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の聖なる召しについて証します。心と力のすべてをささげて大管長を支持します。

永遠の伴侶と交わした神殿結婚の聖約に感謝します。妻を愛し、大切に思っています。妻はどんなときも困っている人を親身になって世話し、模範を示してくれます。わたしたちの結婚生活は、忠実で元気な子供と孫たちを通して祝福されました。子供たちから多くを教わり、今も学

んでいます。

特に、わたしたちきょうだいが義になった両親のもとに生まれたことを祝福に感じます。両親は神殿の聖約に常に忠実であり、わたしたちが御父の計画の中でしっかりと立ってられるようあらゆる犠牲を喜んでささげてきました。天使のような母には、感謝以外の言葉はありません。母は愛と福音の儀式的きずなを生活の中で強く保ってくれました。

こうした神聖な関係について話したのは、聖なる神殿で結び固められた家族一人一人を結ぶ聖約があることに喜びを感じているからです。どのような問題が待ち受けていようとも、福音の聖約を守ることにより、人生のつかの間の試練はすべて克服できるという希望と確信に深く感謝しています。聖文には、聖約に忠実であるなら、すべての事柄は最終的にうまくいくと記されています。ベニヤミン王はこう教えました。

「あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ〔る。〕……

だから、キリストの御名を受けて、神と聖約を交わしたあなたがたは皆、生涯の最後まで従順であってほしい。

そして、このとおりにする者はだれでも、……神の右に見いだされるであろう。」
(モーサヤ5:7-9)

交わした聖約に注意深くあることは、永遠の救いに欠かせません。聖約とは天の御父との契約であり、主が示された戒めを守るために、心と思いと行いをささげることが約束します。忠実に契約を守るなら、神はわたしたちを祝福すると聖約し、約束しておられます。最終的には神の有するすべてを下さるのです。

旧約聖書では、ノアと邪悪な時代、そして地球を清めるという主の計画から、主の聖約のパターンが分かります。ノアの忠実で確固とした決意により、主はノアにこう語られました。

「わたしはあなたと契約を結ぼう。あなたは子らと、妻と、子らの妻たちと共に箱舟にはいりなさい。……

ノアはすべて主が命じられたようにした。」(創世6:18;7:5)

洪水が引くと、彼らは箱舟から出ました。

「ノアは主に祭壇を築い〔た。〕……

神はノアおよび共にいる子らに言われた、

『わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。』(創世8:20;9:8-9)

わたしたちも敵対者から守られるために、主と神聖な聖約を交わしました。わたしたちはノアの時代のように、預言された約束の時代、それが成就する時代に生きています。過去8年の間に、71の新しい神殿が奉獻されました。主の預言者の指示の下に行われた偉業です。それはある意味、ノアの時代の箱舟の建造に似通っているかもしれません。

生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、神殿に入り、主と聖約を交わすよう招いています。

ノアの時代のように、聖約を守るには往々にして犠牲が求められます。この犠牲は大ききにかかわりなく、御父の御心に従うためにどのように心と精神をささげているかを表します。多くの場合、犠牲には苦悩が伴います。このように苦悩しながらも、自分の選択が及ぼす結果を評価しなければなりません。選択は必ずしも分かりやすく容易ではないため、わたしたちはもがき苦しみます。苦しむのを



やめて、主に心をささげることを決心するとき、人は高められて、新たな理解力を得ます。この過程は、しばしば生活の中で大きな悲劇や問題に直面したときに、さらにはっきり分かります。

数週間前、ある若い男性がソルトレーク・シティー東部の山でスカウトのキャンプ中に雷に打たれて、命を落としました。両親は息子の突然の死に悲しみ、打ちひしがれ、苦悩し、なぜ悲劇が起きたのか自問しました。しかし両親は従順で信仰深かったので、主からあふれるような豊かな愛を受けました。悲しみのどん底にあるとき、両親はこの悲劇の結果を怒ることなく受け入れようと心穏やかに決心しました。そして受け入れることにより、人生の目的と交わした聖約を思い起こすことについて、より大きなビジョンが開けたのです。突然の死による苦しみは今も続いています。さらなる高みに立ち、聖約を守る決意が強くなったと感じています。そして息子との喜びの再会ができるように、いっそう忠実に生きようと努めています。

この神権時代において、わたしたちはノアの時代とは異なる新しい視点から聖

約を交わします。自分のために聖約を交わすだけでなく、亡くなった先祖の情報を探し出し、聖約を交わして福音の儀式を受けたいと願っているすべての人のために門戸を開く責任があるのです。

かつて生きていた人々の間での業は、主が命じられた天の軍勢によって精力的に行われています。ジョセフ・F・スミス大管長は、死者に関する示現をこう記しています。

「見よ、主は義人の中から軍勢を組織し、力と権能をまとった使者たちを任じて、……行って……伝えるように彼らに命じられた。……」

わたしは、この神権時代の忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け、……悔い改めと神の独り子の犠牲による贖いの福音を^{あがな}のを見て。」(教義と聖約138:30, 57)

さらに聖文には、「肉において贖い主のことを証した忠実な預言者たち」(教義と聖約138:36)も、これらの使者の中にいと記されています。その中には、ペテロやパウロ、アルマ、ヨハネ、ジョセフ、ニーファイがいたことでしょう。

スミス大管長の示現を読み、この業に

宣教師が召されていることを知るとき、聖約を守り、亡くなった家族の名前を探す意欲が高まることでしょう。そして神殿で自分の使える時間をすべてささげたいと願うようになります。大管長会は、余暇の幾分かを神殿儀式にささげるよう勧めました。多くの神殿には、この大管長会の勧告を実施するための時間がまだあると、かなりの確信をもって言うことができます。神殿に参入するよう招く大管長会の言葉に、わたしたちが応じられますように。

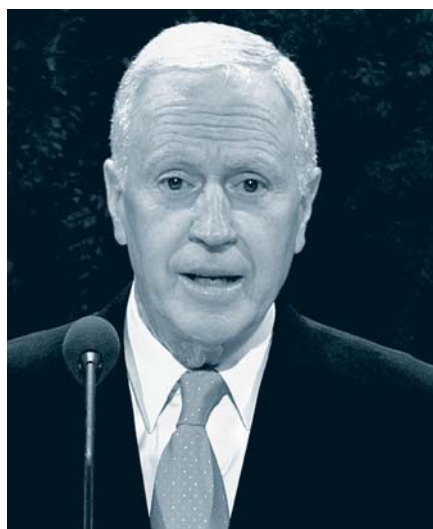
神から託されたこの召しを果たす機会に心がへりくだります。主との聖約に従って行動し、御霊の導きに^{みたま}に従えるよう祈っています。主イエス・キリスト、そして預言者ジョセフ・スミスを通して回復された主の福音を厳粛に証します。神殿の聖約と儀式を愛しています。また神の聖なる宮に入る努力を倍増することを決意します。神聖な聖約を交わし、それを守ることに、主がわたしたちを御自身の聖なる^{みまよ}御前に迎えてくださることを知っています。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

主の羅針盤

七十人

ローウェル・M・スノー

いつの時代も預言者と十二使徒は主が下さった羅針盤です。彼らを通して与えられる主の教えは簡潔です。



兄 弟姉妹の皆さん、ここに座っている間、わたしが皆さんを愛していること、さらに、天父が皆さんを確かに愛しておられることを伝えたいと強く願っていました。幹部の長老たちに代わり、神の善い言葉で養われるために今日喜んでこの場にきた皆さんに感謝を伝えます。

わたしは山登りをしますが、山奥を歩くときは、目的地までの道案内として磁石や地図、標識をよく見ます。知らない所でたくさんの道が交差する分岐点に来たときには非常に役立つ、さらには貴重と言っても過言ではない道具です。

人生では大小様々な道が交差しています。行く道も、「見よ、ここだ」「見よ、そこだ」と叫ぶ声も、ほんとうにたくさんあります。¹ 生活に洪水のように流れ込んでくるメディアは種類も量も豊富で、ほとんどが、多くの人が旅する広い道に連れて行こう

としています。

どの声に耳を傾けるべきか、たくさんある道の中でどれが正しいのかと深く考えるとき、ジョセフ・スミスのように自問したことはありませんか。「何をしなければならぬのだろうか。これらすべての〔声や道〕のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし〔それ〕らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか」と。² イエス・キリストは今も道を示し、導き、旅路においてあらゆる地点をはっきり示しておられることを証しします。主の道は細くて狭いものですが、「光と命と永遠」へと続いています。³ 聖文から例を紹介しましょう。

主の命令を受けたリーハイと子供たちは、エルサレムを出て、約束の地を目指して壮大な旅を始めました。川の近くの谷間で天幕での生活をしばらく続けていたリーハイに、主はある夜、荒れ野に出て旅を続ける時が来たと告げられました。翌朝、様々な心配事を胸に天幕の入り口を出たリーハイは、あるものを地面に見つけて大変驚きました。神の御手によって置かれたとしか思えないものでした。それは羅針盤で、彼らの言葉では「リアホナ」と呼ばれるものです。その指針は旅を導いて、一行が栄え、肥沃な場所を安全にたどることができるようになっていました。しかし、それだけではありません。主の道について家族がさらに理解できるように、羅針盤の上には簡潔で読みやすい文字が現れ、その時々に変化しました。⁴

旅の間、リアホナ、すなわち羅針盤は

リーハイの家族が栄え、目的地に到着するまで、大きな助けとなりました。しかし注目すべき大切な点は、ニーファイが理解したことにあります。羅針盤はそこに寄せる信仰と熱意と注意力によってのみ働いたのです。荒れ野にいる間ずっと導いてくれたこのすばらしい助けについて、ニーファイはただこう述べています。「このようにして、主は小さな手段によって大いなることを成し遂げられることが分かるのである。」⁵

アルマはニーファイのこの言葉を忘れませんでした。500年後にリアホナの大切さについて語ったのです。アルマはヒラマンに、主が先祖にこの羅針盤を用意されたのは荒れ野の中で進路を示すため、この奇跡的な道具が小さな手段で働いたために、先祖は怠けて、信仰を働かせることと熱意を示すことを怠れたと説明しました。その結果、この奇跡的な道具は働きを止め、旅は進みませんでした。つまり、まっすぐな道を最短距離で旅する代わりに、荒れ野に長居し、怠慢のために苦しむことになったのです。⁶

アルマは続けて言いました。「わが子よ、方法が容易だからということで怠けないようにしましょう。わたしたちの先祖がそうであったからである。それは先祖のために備えられたもので、彼らがそれを見ていたら生き延びることができたであろう。わたしたちについても同様である。方法はすでに備えられており、わたしたちが見ようとすれば、とこしえに生きることができるであろう。さて、わが子よ、あなたはこれらの神聖なものを大切にしてください。神に頼って生きるようにしてください。」⁷

主はリーハイにされたと同じように、今も、個人や家族に導きを与え、方角を示しておられます。この総大会はまさに現代のリアホナとして、靈感された導きと指示を受ける時と場所であり、わたしたちが栄え、神の道をたどって現世の豊かな場所を旅するのを助けてくれます。預言者や使徒たちの勧告を聞くために集まっていることを考えてみてください。何を言うように主が望んでおられるのかを知るために預言者や使徒たちは熱烈に祈り、

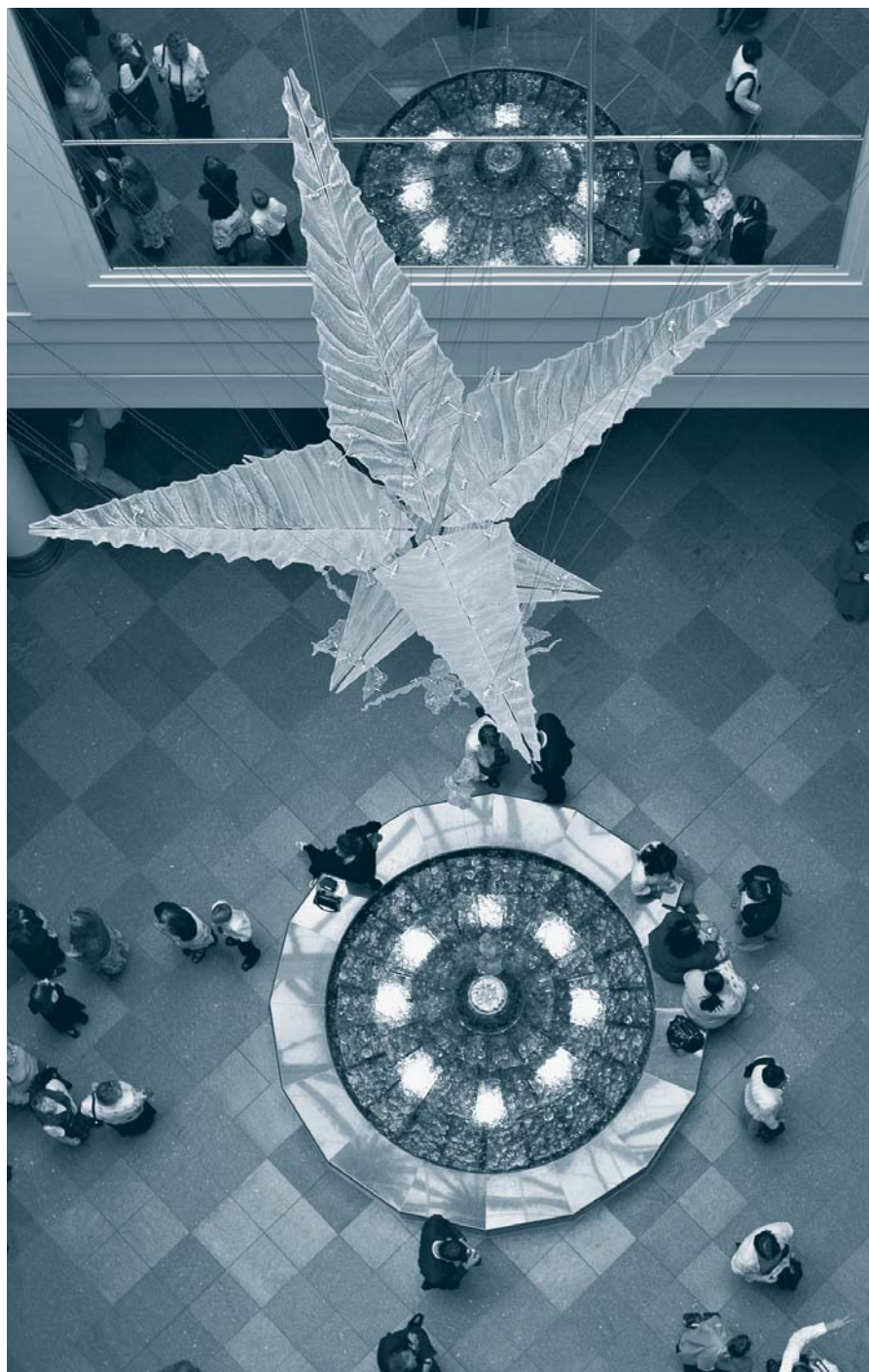
入念に準備をしました。わたしたちは、慰め主が神の思いと御心^{みこころ}を教えてください、彼らと自分たちのために祈ってきました。主が御自分の民をお導きになるうえで、この大会以上の時と場所はありません。

この大会の教えは主の羅針盤です。リーハイがそうだったように、皆さんも玄関を出て『リアホナ』や『エンサイン』(Ensign)などの教会の出版物が郵便受けにあるのを、そのうち見つけることでしょ。そこにはこの大会の内容が書かれています。昔のリアホナと同じように、この新しい言葉も簡潔で読みやすく、皆さんと家族に主の方法と道に関する理解を与えてくれるはずで。

ニーファイとアルマが教えているように、主の教えに寄せるわたしたちの信仰と熱意と注意力に応じて、主は旅路を導いてくださいます。すでに示されている道を忠実に歩んでいなければ、主は新しい道を明らかにしてくださらないでしょう。人生の過程で神の繁栄を受けるのは、靈感を受けた勧告に熱心に従う人たちです。神の勧告を生活や言葉に反映させ、ついには、約束の地へと旅路を進めるための新しい言葉を受けるのです。

兄弟姉妹の皆さん、いつの時代も預言者と十二使徒は主が下さった羅針盤です。彼らを通して与えられる主の教えは簡潔です。その道は確かです。主の道を歩むのは、そのくびきを負うのと同じように容易です。しかし、主の方法の容易さに惑わされてはなりません。容易だから大したことはない、つまらないものだと思う、神聖な事柄を大切に主を頼ってください。そうすれば皆さんは主のようになり、主とともに永遠に住むことができるのです。

わたしは、御父の約束がすべて成就することを証するために今日ここにいます。御父は、道を示し人を導くために、この世に独り子をお遣わしになりました。御父と御子は1820年の早春、ある晴れた美しい日の朝にジョセフ・スミスに御姿^{みすがた}を現^まされました。そして人がこの世の旅路を全^{みづか}うするために必要なすべてのものを回復



されたのです。永遠を見詰め、永遠に生きる人たちのために、現在の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は道を指し示しています。わたしたちが信仰を働かせ、熱心に末日のリアホナの導きと指針を心に留めることができるようにイエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:5参照

2. ジョセフ・スミス—歴史1:10

3. "How Great the Wisdom and the Love"『賛美歌』(英語) 195番(訳注——「高きに満ちたる」『賛美歌』112番参照)

4. 1ニーファイ16:9-16参照

5. 1ニーファイ16:29

6. アルマ37:38-41参照

7. アルマ37:46-47

「わたしの羊を 養いなさい」

七十人
ユリシス・ソアレス

人がわたしたちの感化を最も受けるのは、ただ召しを果たしているという理由からだけではなく、わたしたちが心から彼らを愛したときです。



救

い主はあるとき、ペテロに同じ質問を3度お尋ねになりました。

「『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』彼はイエスに言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存知です。』イエスは彼に言われた、『わたしの羊を飼いなさい。』」¹

主は天の御父の子供たちの福利について深く心にかけておられたので、羊を養うという特別な責任をペテロにお与えになりました。主は現代においても、ジョセフ・スミスに与えた啓示を通して、再び同じ関心を示されました。

「さて、わたしはあなたに言い、またあなたに言うことを十二使徒のすべてに言う。立って腰に帯を締め、自分の十字架

を負い、わたしに従い、わたしの羊を養いなさい。』²

聖文を学ぶと、救い主は人をそれぞれが持つ具体的な必要に応じて、教え導かれたことが分かります。一つの良い例は、主がカペナウムの付近におられたときの出来事です。ヤイロという会堂づかさがイエスの足もとにひれ伏し、家に来て、死にかけている娘を祝福してくださるように、しきりに願いました。群衆に囲まれなかなか前に進めなかったにもかかわらず、主はヤイロとともにいらっしゃいました。

それから使いの者が来て、娘がすでに亡くなったことをヤイロに告げました。ヤイロは大変悲しんでいたにもかかわらず、主に対する確固とした信仰を持ち続けました。そして主は次の言葉でこの父親の心を慰められました。『恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ。』

それから家にはいられるとき、〔主は〕ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいつて来ることをお許しにならなかった。

人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、『泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである。』

イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、『娘よ、起きなさい。』

するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。³

イエスは、肉体的、情緒的、霊的な病か

らの解放を求めてやって来た人々や、落胆や迫害にさいなまれていた人々すべてに、忍耐と愛を示されました。

救い主の模範に従うためには、周りを見回し、同じような苦しい境遇にある羊たちに手を差し伸べ、そして彼らを助け、永遠の命への旅路を歩み続けるよう励まさなければなりません。

今日こんにちこのような要求は、救い主がこの地を歩まれた時代と同じくらいに、またはそれ以上に大きいと言っていいでしょう。わたしたちは羊飼いとて、羊たち一匹一匹に養いを与え、キリストのみもとに導かなければなりません。これこそが、教会で行うすべてのことの目的なのです。

あらゆる活動、集会、プログラムはこれと同じ目的に焦点を合わせるべきです。人の必要に心を向けるなら、個々の問題を克服できるように力づけ、助けることができます。そして天の御父のみもとへ戻る道を確固として進み、最後まで堪え忍ぶように助けることができるのです。

イエス・キリストの福音は人のために与えられました。プログラムのためではありません。時として、教会の責任を果たそうと焦るあまり、人に焦点を合わせるよりも、むしろプログラムだけに時間をかけすぎることがあります。そして人がほんとうに必要としていることを見逃してしまうのです。このようなことが起きると、わたしたちは自分の召しが持つ大切な意味を見失い、人をないがしろにし、永遠の命を得る神聖な可能性から引き離してしまうのです。

12歳の誕生日を迎えようとしていたころ、わたしは監督の面接を受け、アロン神権を受けて執事に聖任されるために、どう備えたらよいのか教わりました。面接の終わり近くで、監督は書類を机から出して、記入するように言いました。宣教師の推薦書でした。わたしは驚きました。何よりも、わたしはまだ11歳でした。しかし監督には見えていたのです。やがて時が来て、伝道に出る準備がしっかりとできていれば、わたしにどんな前途が開け、どんな祝福が待っているかを。

監督はわたしのことを心から気にかけていることを示してくれました。そして財政的

な準備と霊的な準備の両方において、主に仕えるために通るべき道筋を教えてくださいました。その日以来、最初の監督と次に召された監督は、わたしが19歳になるまで少なくとも年に2度面接し、引き続き忠実に準備するよう励ましてくれました。

二代にわたる監督はわたしの宣教師推薦書をファイルに保管し、面接の際はいつもそのことについて話しました。両親の助けと、愛情深く忍耐強い二人の監督の励ましにより、わたしは伝道に出ました。そして伝道に出ることにより、神が最後まで堪え忍ぶすべての人に用意しておられる祝福について、さらに理解が深まりました。

老若男女を問わず、だれもが愛されていると感じることが必要です。わたしたちはここ数年間、新しい改宗者やあまり教会に来ていない会員に集中して働きかけるように勧告を受けています。人はだれかに愛されていると感じるときに、教会に継続けるものなのです。

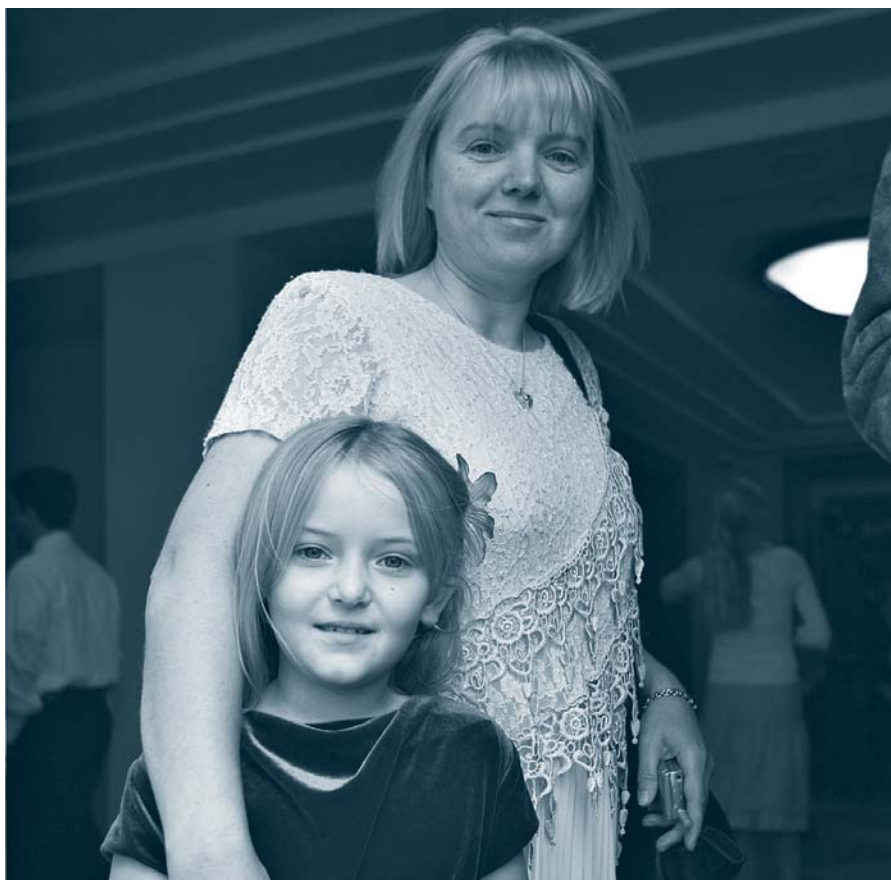
救い主は使徒たちへの最後の教えの中でこのように言われました。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」

互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。⁴

人がわたしたちの感化を最も受けるのは、ただ召しを果たしているという理由からだけではなく、わたしたちが心から彼らを愛したときです。心からの愛を示すとき、人は御霊の影響を感じることができるようになり、教えに従うようにという促しを感じます。ありのままの姿で愛することは、必ずしも簡単ではありません。そのような中ではどうすべきか、預言者モルモンは説明しています。

「したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみ



えるので、御子に似た者となるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。」⁵

キリスト御自身も人々を教え導き、重荷を負っている人を助け起こし、落胆している人に希望を与え、道に迷った人々を探し求められました。主は彼らをどんなに愛し理解しているかを示し、彼らがどれほど貴い存在であるかをお伝えになりました。また主は人の神聖な特質と永遠の価値について述べられました。そして悔い改めを勧めるときでさえ、罪人を責めるのではなく、罪を責められました。

コリント人への第一の手紙の中で、使徒パウロは主の羊の群れにいるそれぞれの羊にこの真実の愛を表すことの必要性を強調しました。

「たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

愛は寛容であり、愛は情け深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、

誇らない、

不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この3つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」⁶

救い主の模範と教えに従うとき、人が現世での使命を果たし、天の御父のみもとに戻ってともに住むための助けをすることができます。

これらのことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

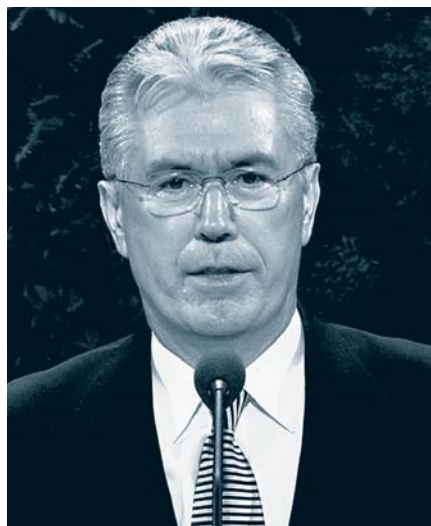
1. ヨハネ21:16
2. 教義と聖約112:14
3. ルカ8:50-52, 54-55. 41-42, 49節も参照
4. ヨハネ13:34-35
5. モロナイ7:48
6. 1コリント13:3-7, 13

キリストのような属性 ——翼の揚力となる風

十二使徒定員会

ディーター・F・ワークトルフ

基本的な福音の原則に従った生活を送ることによって、あらゆる末日聖徒の生活に、力と強さ、そして霊的な自立心が増し加わります。



愛する兄弟姉妹、そして友人の皆さん。航空会社のパイロットとして仕事をしていたころのことです。時々、乗客をわたしの操縦するボーイング747のコックピットに案内することがありました。だれもがたくさんのスイッチや器具、システムや手順について尋ね、これだけ複雑な技術装置がどうやってこんなに巨大で立派な飛行機を飛ばすのか聞いてきたものです。

パイロットなら皆同じですが、乗客が飛行機の複雑さに感動し、それを操縦する人はどれほど頭脳明晰で聡明なのかと驚いている姿は、見ていて気分のいいものでした。ここまで来ると、妻と子供たちは優しく話を遮って、いたずらっぽく笑いながらこう言うのです。「ほんとうにパイロッ

トってというのは、生まれながらの謙遜の塊ね。」

コックピットを見学する人に、わたしはいつもこう説明したものです。こうした空飛ぶ機械に乗り込んだ人々に快適で安全な旅を提供するには、空気力学の仕組みとともに、数多くの補助システムやプログラム、そして強力なエンジンを総動員する必要があります。

そして、説明を分かりやすくするために、基本的な点にだけ焦点を当てて、次のように付け加えました。どうしても必要なものは、強く前に押し出す推進力と強力な揚力、そして、適切な飛行姿勢の3つです。それらがそろえば必然的に、747のような飛行機も乗客も、大陸を横断したり、大海を越えたり、高い山々の上空を飛び、激しい雷雨の中を飛んだりして、無事に目的地まで到着することができるのです。

最近、よく考えることは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることについても、同じように問いかけてみるのができるのではないかとということです。地上における神の王国に属するわたしたちの基本的で土台となる原則とは何なのでしょう。また、最終的に、いざというときにわたしたちの望む永遠の目的地に向かって運んでくれるものは何でしょうか。

教会は、組織の力やプログラムを総動員して、教会員に数多くの重要な活動を提供しています。家族や個人が、神と同胞に仕えるのを助けるためです。しかしな

がら、時々、そうしたプログラムや活動の方が、福音の核となる教義や原則よりも、わたしたちの心をとらえることがあるように思えます。手続き、プログラム、方針、組織の仕組みといったものは、この地上でわたしたちが霊的に進歩するための助けにはなります。しかし、そうしたものは皆、いつかは変わる可能性があるということを忘れないようにする必要があります。

反対に、福音の核、つまり教義や原則というものは、決して変更されることはありません。基本的な福音の原則に従った生活を送ることによって、あらゆる末日聖徒の生活に、力と強さ、そして霊的な自立心が増し加わります。

信仰はまさに力の原則です。人生にはこの力の源が必要です。神は力をもって働かれますが、この力は通常、わたしたちの信仰に応じて現れます。「行いを伴わない信仰[は]むなしい」ものです(ヤコブの手紙2:20)。神はその子供たちの信仰に応じて働かれるのです。

預言者ジョセフ・スミスは次のように説明しています。「わたしは人々に正しい原則を教えて、自らを治めさせる。」(ジョン・テラーによる引用“The Organization of the Church” Millennial Star, 1851年11月15日付, 339) 実に簡潔にして要を得ています。正しい福音の原則を理解し、吸収し、それに従って生活しようと努力するとき、もっと霊的に自立できるようになります。霊的な自立という原則は、神が与えてくださった教会の基本的な教義である選択の自由から発展した原則です。わたしは、選択の自由というものは、神がその子供たちに賜った賜物の中でも、生命そのものに次いで、最大の賜物の一つではないかと考えています。

この選択の自由とそれがもたらす永遠の結果について研究し、深く考えるとき、自分たちがまさしく神の霊の子であり、それゆえに神の子らしく行動しなければならないと実感します。このことが理解できると、さらに、自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、世界的に大きな聖徒の家族に属していることも分かるのです。

教会の組織的な構成は、集う人の人数

や成長の度合い、必要に従って、きわめて柔軟に対応できるようになっています。基本ユニットプログラムと呼ばれるものがあり、組織を簡素化し、集会の数を少なくすることもできるようになっています。もちろん、互いに奉仕し合えるだけの強力な組織力を持つ大きなワードも存在します。いずれにせよ、そうした組織が作られるのは、靈感を受けた教会のプログラムによって、会員が「キリストのもとに来て、キリストによって完全に」になれるよう助けるためなのです（モロナイ 10：32）。

どのような形を取るにせよ、神の目から見た価値はまったく同じです。イエス・キリストの回復された福音の教義は、どのユニットでも同じだからです。わたしは主イエス・キリストの使徒として、主が生きておられ、この福音が真実であり、^{こんにち}今日の地上で神の子供たちが直面しているあらゆる個人的な問題や、万人に共通する問題に、^{あかし}答えを提供するものであることを証します。

この夏、妻とわたしは、ヨーロッパ中の数多くの国々を訪問し、教会員と会ってきました。ヨーロッパの一部の国々では、教会は古くからあり、その歴史を1837年までさかのぼる地域もあります。ヨーロッパには忠実な教会員の偉大な受け継ぎがあります。現在、ヨーロッパには40万人以上の教会員がいます。19世紀と20世紀の間にヨーロッパからアメリカへ移住した数多くの世代のことも考えれば、総教会員数は今の数倍もいると考えてもよいでしょう。

数多くの信仰深い教会員が、教会の初期の時代に、故国を去って行った理由は何なのでしょう。いろいろな理由が考えられます。迫害を逃れるため、アメリカで教会の設立を助けるため、経済的な環境を良くするため、神殿の近くに住みたいという望みのため、ほかにもたくさんの理由があったことでしょう。

ヨーロッパでは今でも、この移住の結果が感じられます。しかしながら、数世代にわたる忠実な教会員から生み出される強さは、現在、顕著に現れています。主のために伝道の奉仕をする若い男女や年配の夫婦の数も増加しています。神殿結婚の



数も増し、教会員たちがさらに自信と勇気をもって、回復された福音を分かち合っています。ヨーロッパの民の中でも、世界の数多くの国々においても、キリストの真の教えについて言えば、霊的な空白地帯が存在します。この空白は、回復された福音のメッセージで埋めなければなりませんし、そうすることができます。そして、さらにこれから確実に福音のメッセージで埋め尽くされることでしょう。そのためにすばらしい会員たちが、これまで以上の勇気と信仰をもってこの福音に従って生活し、それを宣^{のたま}う伝えているのです。

ヨーロッパにおける教会の発展に伴い、教会が設立されてからまだ15年にも満たないという国々も存在します。わたしが話したある伝道部長は、故国ロシアで奉仕していましたが、会員歴はわずか7年でした。「バプテスマを受けた同じ月に支部長に召されたんですよ」と言っていました。彼は時々圧倒されるような思いになったこ

とがないでしょうか。もちろん、ありました。では、教会のプログラムを全部完全な形で導入しようとしたのでしょうか。幸いなことに、しなかったのです。では、そのような小さな集まりの中で、しかも短期間に、どうやってそれほどまでに強くなったのでしょうか。彼はこう説明しています。「わたしは心の底からこの教会が真実であることを知っていました。福音の教義が思いや心を満たしてくれたのです。教会に加入したとき、家族の一員になれたと実感しました。温かさや信頼、愛といったものを感じたからです。わたしたちの数はほんのわずかでしたが、皆で救い主に従おうと努力しました。」

彼らは互いに支え合い、できる範囲で最善を尽くしました。そして、教会が真実であると知ったのです。彼の心を引きつけたのは組織ではありません。福音の光でした。そしてこの光が、そうした善良な会員たちを強めてくれたのです。

数多くの国では、教会はなお初期段階にあり、組織を巡る状況も完全とは程遠いものがあります。しかしながら、その地の教会員たちは、恐らく心の中に真理についての完全な証を持っているのでしょう。経済的な問題や困難にもかかわらず、自分の国にとどまり、教会を確立していくならば、将来の世代の人々は、今の開拓者たちの勇気に感謝することでしょう。このような開拓者たちは、1999年に大管長会が勧めた、愛に満ちた次の言葉に従っていることになります。

「主は今日の時代において、神殿の数を増やすことも含め、福音の祝福を世界の多くの地域にもたらすことがふさわしいと考えておられます。そこでわたしたちはこれまで続けてきた勧告を再度強調し、アメリカ合衆国に移民するのではなく母国にとどまるように教会員の皆さんにお願いしたいと思います。……

世界中の教会員の皆さんが母国にとどまり、母国における教会の確立のために働くならば、大いなる祝福が彼ら個人に与えられ、それらが総体的に教会への祝福ともなるでしょう。……」(大管長会からの手紙、1999年12月1日付)

ここで、大きなワードやステークに住んでいる皆さんに、一言注意を喚起いたします。わたしたちは、証の中核というものが、教会という共同体の社会的な強さの中にあるのではなく、また、ワードやステークのすばらしい活動やプログラムや組織にあるのでもないということに注意する必要があります。こうしたものは確かに重要です、価値あるものですが、それだけでは十分ではないのです。さらに言えば、友情だけでは十分ではないのです。

今、混乱と災害と戦争の時代に生きていることを実感しています。わたしたちも、またほかの数多くの人々も、「防御のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となる」場所を切に求めています(教義と聖約115:6)。そのような安全な場所は、どうしても見いだせるでしょうか。神の預言者であるヒンクレー大管長は次のように教えています。「わたしたちの安全は生活の徳高



さに懸かっています。わたしたちの強さは義の中に存在しています。」「(また逢うまで)『リアホナ』2002年1月号, 105)

ここで一緒に、イエス・キリストがどのように使徒たちに教えられたか、振り返ってみましょう。主はこの地上で務めに携わり始められたころ、分かりやすく明確に、次のように教えておられます。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ4:19)この御言葉はまた、十二使徒たちの務めの始まりともなりました。この聖なる業のために働くよう召された者としてわたしが深く感じているように、この使徒たちも自分の至らなさを感じたことでしょう。わたしが言いたいのは、ここで救い主御自身が、生活の核となる教義と優先順位について教えておられるということです。個人として、わたしたちはまず、「主に従う」必要があります。そうするときに、救い主は、わたしたちが主の望まれる者となれるように、わたしたちの力以上のものを祝福として与えてくださるのです。

キリストに従うということは、キリストのような者になるということです。主の人格から学ぶということです。天の御父の霊の子供であるわたしたちには、生活にも人格にも、キリストのような属性を取り入れる能力が、間違いなく備わっています。救い主は、主の教えに従って生活することによって主の福音について学ぶよう勧めておられます。主に従うとは、正しい原則を実践し、それに伴う祝福を自らの力で実践することです。この過程は、非常に複雑で

もあり、同時に非常に簡潔でもあります。古今の預言者たちは、簡潔な表現で、「戒めを守りなさい」と言っています。それ以上でも、それ以下でもありません。

生活の中でキリストのような属性を磨いていくというのは、決して容易なことではありません。特に、一般論や抽象論から離れて、実生活で実践しようとするときには、それが言えます。ほんとうの試練は、宣べ伝えていることを実践するときにやって来ます。キリストのような属性がほんとうに身に付いたかどうかは、夫、妻、父親、母親、息子、娘として、生活に目に見える形で現れているかどうかで分かります。また、友人と接するとき、仕事や事業に携わるとき、レクリエーションに参加しているときもそうです。少しずつ「〔主の〕前に聖さを尽くして行動する」力が増してくると(教義と聖約 43:9)、自分の成長に気づきます。そして、周囲の人々も認識してくれます。

聖文の中には、この世の生涯を通じてはぐぐんでいかなければならないキリストのような属性について数多く書かれています。知識や謙遜さ、慈愛や愛、従順や勤勉さ、信仰や希望もその中に含まれます。こうした人格というものは、教会のユニットという組織の状況とは無関係です。経済的な環境とも、家族の状況とも、文化、人種、言語とも無関係です。キリストのような属性は神から賜るものです。主の助けなしに伸ばしていくことはできません。わたしたち皆が必要とする助けの一つは、イエス・キリストの贖い^{あがな}を通じて、だれにでも自由に無料で与えられています。イエス・キリストとその贖い^{あがな}を信じる信仰を持つということは、完全に主に頼るということの意味しています。つまり、主の無限の力や英知、愛に全幅の信頼を置くということです。キリストのような属性は、選択の自由を義にかなって働かせるときに、わたしたちの生活に形となって現れます。イエス・キリストを信じる信仰は、行動へとつながります。キリストを信じる信仰を持つと、主を信頼して、主の戒めに従おうとします。たとえ戒めが与えられた理由を完全には理解できなくとも、従お

うとします。さらに救い主のような者になろうと努めるとき、自分の生活を定期的に評価し直し、まことの悔い改めの道に従って、イエス・キリストの功德と贖いの祝福に頼る必要があるのです。

キリストのような属性を身に付けることは、場合によっては苦痛を伴います。主とその僕たちの教えや叱責の言葉を喜んで受け入れる必要があります。世界中の人々に向けたこの大会は、音楽や語られる言葉とともに、「高い所から」の霊的な力や教え、祝福を授かる機会です(教義と聖約43:16)。また、個人的な靈感や啓示の声が、心に平安をもたらし、キリストのような者となるためにはどうしたらよいかを教えてくれる時でもあります。この声は、親しい友の声のように麗しく、十分にへりくだっているときには、心を満たしてくれます。

救い主のような者となることによって、わたしたちは、「聖霊の力によって、……望みにあふれ」る力を伸ばしていくことができます(ローマ 15:13)。「この世のものを捨てて、この世に勝る世のものを求め」ていくことができるのです(教義と聖約25:10)。

ここまで話して、最初に話した空気力学の話とつながります。基本的な事柄に焦点を当てることについて話しました。キリストのような属性こそ、わたしたちが焦点を当てるべき『基本』なのです。それは土台となる原則であって、「わたしたちの翼の揚力となる風」を生み出します。生活の中で、一步一步、キリストのような属性を身に付けようと努めるとき、その翼は「わしの翼に乗せるように〔わたしたちを〕支え」てくれるでしょう(教義と聖約124:18)。イエス・キリストを信じる信仰を持つことで、力が生まれ、それが強力な推進力となります。そして、揺るぎない、いきいきとした希望を抱くことにより、力強い揚力が生み出されるのです。信仰と希望は、わたしたちを運んで、誘惑の海や苦悩の山々を越えさせてくれます。そして、永遠のふるさとである目的地まで安全に連れて行ってくれるのです。

これらのことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

閉会に当たり

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちの永遠の父なる神は生きておられ……ます。イエスはキリストであられ、人類の贖い主です。御二方は、まさにこの最後の神権時代に、預言者ジョセフを通して御業を回復されました。



兄 姉妹、すばらしい大会でした。主の食卓で文字どおり霊的な糧を得ました。音楽も祈りも話もすばらしいものでした。わたしたちは学び、高揚し、信仰を強めることができました。

わたしたちの言葉は80の言語に通訳され、通信衛星を介して全世界に放送されて、実に多くの地の人々の耳に届けられました。このことは、教会の発展をはっきりと表しています。1823年9月21日の夜、モロナイが少年預言者に告げた言葉が見事に成就しているのです。

当時ジョセフは年若く、あまり教育を受けていない貧しい農家の少年でした。豊かではありませんでした。両親もそうでした。彼は田舎で暮らし、その地域外の人にはまったく知られていませんでした。それにもかかわらず、天使モロナイはジョセフに、「自分は神の前から遣わされた使

者であること、……神が〔ジョセフ〕のなすべき業を備えておられること、また〔彼の〕名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られること」を告げました(ジョセフ・スミス—歴史1:33)。

そんなことがあり得るのでしょうか。ジョセフは不思議に思ったでしょうし、とても驚いたでしょう。

にもかかわらずモロナイの預言は成就しました。そして今後、さらに偉大な預言が成就していくことでしょう。

今年、2005年の12月23日、わたしたちはジョセフ・スミスをたたえ、その誕生日を皆で盛大に祝うことになっています。

わたしは、できればジョセフ・スミス生誕の地を訪ねようと思っています。100年前の1905年12月23日に第6代大管長のジョセフ・F・スミスがしたことをわたしもやってみようと思うのです。そのときスミス大管長は、「預言者生誕の地」と刻んだ記念碑を奉獻しました。ジョセフ・スミスを記念する家も建てました。

わたしがバーモント州に滞在している間、モンソン副管長やファウスト副管長、それにほかの中央幹部は、このカンファレンスセンターに集まります。この大きな会場はいっぱいになり、プログラムは各地に衛星中継されます。この神権時代の偉大な預言者をたたえるすばらしい音楽とメッセージが、サウスロイヤルトンとソルトレーク・シティーから放送されるのです。

今朝、聖歌隊は預言者ジョセフをたた



えて壮麗な歌を披露してくれましたが、それは12月に行うこの行事のリハーサルでしかありません。この行事を楽しみにしています。皆さんも参加されるようお願いしています。

わたしたちはこの業が神の業であることを証します。何とすばらしい業でしょうか。もし、主の業がなかったら、わたしたちの生活はどれほど空虚なものとなっていたことでしょうか。わたしたちの永遠の父なる神は生きておられ、わたしたちを愛し、見守っておられます。イエスはキリストであられ、人類の贖い主です。御二方は、まさにこの最後の神権時代に、預言者ジョセフを通して御業を回復されました。これらのことを厳粛に証するとともに、わたしが感謝してやまないこの教会の兄弟姉妹の皆さんにわたしの愛と祝福を残します。神が皆さんを祝福してください

ますように。

閉会に当たり、今大会をすばらしいものとするために多大な貢献をしてくださったすべての人に感謝いたします。目立たないところで活躍し、この大会を実現させてくれた大勢の人々に感謝します。案内係、技術者、警備係、救急班、交通警察、翻訳者および通訳者、わたしたちの話の原稿作成を助けて、何度もタイプし直してくれた秘書の皆さん、皆さんは、夜も昼もこのすばらしい成果を収めるために働いてくれました。

神がわたしたちすべてを祝福してくださいよう、へりくだり祈ります。わたしたちが主の御前を義にかなって歩む努力を続けられますように。これらのことを謙遜に願い求めるとともに、贖い主である主イエス・キリストの聖なる御名によって、わたしの祝福を皆さんに残します。アーメン。

ビデオ「神の御手に 使われる者」

中央扶助協会集会では、一つのビデオが放映されました。その中で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が扶助協会の歴史について語っています。さらに、赤レンガの店に集った、預言者ジョセフ・スミス、エマ・スミス、ルーシー・マック・スミス、その他の扶助協会設立当初の姉妹たちの様子が描写されています。

ヒンクレー大管長——扶助協会の発展の歴史は大河小説のようです。1842年3月17日、辺境の町ノーブーで組織されたときには、18人だけでしたが、160年後の今日、世界中の大小様々な町に、500万人以上の会員を擁するまでになりました。他に類を見ないすばらしい物語です。……

扶助協会の発展を支える要素は、扶助協会が組織される前からありました。その要素とは女性本来の性質です。例えば、公共の利益を促すために協力すること、

苦しんでいる人を助けること、自らの知性や才能を伸ばすことなどです。そしてその日、ジョセフ・スミスは扶助協会を組織しました。

ジョセフ・スミス——この「姉妹の組織」は、兄弟の心を善い業へ向けさせるでしょう。貧しい者の必要に気を配り、慈愛を注ぐ対象を探し求めて、必要なものを施し、風紀を正し、人々の道徳観を引き上げるよう努めるでしょう。」¹

ヒンクレー大管長——最初はこのように小さかった組織が、今では、この種の組織としては世界で最も大きく、最も際立ったものとなりました。

エマ・H・スミスは最初の集会で会長に選ばれ、こう述べました。「どの姉妹も、善を行う熱意を持ってください。」² その精神は、当時も今も変わりません。指針となる原則として、この先すべての世代に引き継がれていくのです。「どの姉妹も、

善を行う熱意を持ってください。」

エマ・スミス——「わたしたちは比類ないことを行いましょう。……比類ない出来事に遭遇し、緊急な要請を受けるでしょう。」³

ジョセフ・スミス——「この組織は、神が確立された秩序、すなわち指導者として召された者〔を通して〕教えを受けるためにあります。」⁴

「女性はいずれ、慈愛の心を持っているものです。今や、皆さんは、神によって与えられたその女性らしい心に従って行動する立場に置かれています。この原則に生きるなら、偉大で栄えある者となるでしょう。この特権にふさわしく生きるなら、天使が皆さんに喜んで協力するでしょう。わたしたちを強めるのは、争い、口論、不和ではなく、柔和、愛、純粋さなのです。……

それらがあるところには、天の祝福が注がれます。……

家に帰ったら、二度と声を荒らげずに、これからは、親切、慈愛、愛で手の業を飾りましょう。……

さらに純真に、徳を高め、善い業に励んでください。同時に、人に対する愛と哀れみで心を満たしてください。長く堪え忍んでください。人の欠点や過ちを忍耐してください。人の魂は何と貴いものではないでしょうか！……

わたしは今、神の御名により鍵を回します。そしてこのときより、この組織には喜びがあふれ、知識と英知が注ぎ込まれることでしょう。この組織の明るい未来は、今始まりました。」⁵

ヒンクレー大管長——預言者のこの言葉は、1世紀半にわたって末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会の目的の正式な宣言となっています。

預言者の母ルーシー・マック・スミスは、ノーブーの姉妹たちにこう言いました。

ルーシー・マック・スミス——「わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。」⁶

ヒンクレー大管長——扶助協会の歴史をひとくけば、教会の女性たちは、天の



ビデオに描かれたエマ・スミス。夫のジョセフが語る扶助協会についての話に耳を傾けている。



昔の衣装を着て、ジョセフの母ルーシー・マック・スミスを演じる姉妹。

座に着く前から、ルーシー・マック・スミスの言う祝福の甘い実を味わってきたことが分かります。

この世の人生で互いを大切にし、慰め合い、教え合うことによって、天の喜びを、今、この地上で得ています。わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。数百万の女性がどれほど多くの奇跡的な影響を受けてきたか、想像できる人がいるでしょうか。知識を増し加え、広い視野を持つようになり、生活に幅ができ、神にかかわる事柄を深く理解するようになりました。それは皆、扶助協会の集会で効果的に教えられた、数知れぬレッスンのおかげです。

姉妹たちがどれほど喜びを見いだしたか、想像できる人がいるでしょうか。ワードや支部で交わり、親しくなり、快い友情を大切にはぐくみながら、互いの人生を豊かにしているのです。慈愛にあふれた行為がどれほど行われてきたか、想像力をいっぱいにも働かせても、推し量れる人がいるでしょうか。何もないテーブルには食物が置かれ、病気を悲観している人は信仰の養いを受け、傷口には包帯が巻かれ、苦しむ人は愛に満ちた助けの手と、静かな励ましの言葉によって慰めを受け、愛する人を亡くし、孤独の中にいる人は、慰めを受けています。

ジョセフ・F・スミス大管長は、扶助協会について次のように述べました。「この

組織は女性と男性に救いをもたらすために、神によって作られ、神によって承認され、神によって組織され、神によって聖任されました。したがって、この組織に並ぶことのできる組織……同様の基盤に立つ組織は……存在しません。……

〔扶助協会〕を最も優れた、最も重要な組織とし、この世に存在するどのような組織よりも優れた深みのある組織としてください。あなたがたは神の預言者の声によって、それを行い、最も優れた、最も偉大で、善良で、また最も清く、義に献身する者となるよう召されています。』⁷

神が末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会を祝福されますように。1世紀半以上の間、扶助協会の姉妹を突き動かしてきた愛の精神がこれからもはぐくまれ、世

界がそれに気づきますように。姉妹たちの慈悲深い行いが世界のどこであれ、数知れぬ人々の人生に良い影響を与えますように。神が組織されたこの比類ない組織により、光と理解、知恵と知識、永遠の真理が、将来幾世代にもわたって、あらゆる国々の女性たちにもたらされ、生活が祝福されますように。姉妹一人一人が「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者」となることの、大いなる責任と祝福を理解できますように。」(アルマ26:3)

注

1. Relief Society Minutes, 1842年3月17日, Archives of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 7
2. Relief Society Minutes, 1842年3月17日, 13
3. Relief Society Minutes, 1842年3月17日, 12
4. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 40
5. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 38-40
6. Relief Society Minutes, 1842年3月24日, 18-19
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』, 184



アフリカの女性を慰問するボニー・D・パーキン中央扶助協会会長。

すばらしい瞬間

中央扶助協会会長

ボニー・D・パーキン

主とその導きを求め、天の御父のみもとに帰ろうと努力しているなら、そのようなすばらしい瞬間が訪れることでしょう。



わたしたちは、生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長にどんなに感謝していることでしょう。そして彼が語った「末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会に神の祝福がありますように」¹という言葉にも心から感謝しています。この教会の姉妹は一人残らず扶助協会に属しています。わたしたちのだれもが、神が定められたこの組織に満ちあふれる愛を感じることができます。

最近の自然災害で深刻な被害に遭った姉妹たちへの思いでわたしの心はいっぱいです。同時に、奉仕をする側と受ける側にある、義にかなった女性たちの話を聞いて喜んでいます。奉仕を通して、奉仕をする側も受ける側ともに主の愛を実感します。この試練の時にあって、皆さんが主の愛とともに、わたしの愛、そして扶助協会の大勢の姉妹たちの愛を感じられるように祈っています。

1842年、預言者ジョセフ・スミスは扶助協会の進むべき道を示し、姉妹たちにこう語りました。「女性の皆さんが慈愛という感情を持つのは自然なことです。皆さんは今、神が皆さんにお与えになった思いやりの心に従って行動できる状況に置かれています。もし皆さんがこれらの原則に従って行動するなら、その報いは実に偉大で輝かしいものとなるでしょう。」²

初期の扶助協会の姉妹たちは、預言者ジョセフ・スミスの言葉に奮い立ち、行動を起こしました。今日のわたしたちにも、「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者」³となって仕える機会が与えられています。

神の御手に使われる者になるとは、簡単に言うとどんなことでしょう。それは、人を養い育てることだとわたしは思います。ジョセフ・スミスはそれを、わたしたちに宿る「思いやりの心に従って」行動することと呼んでいます。これまで、主がわたしを御手に使ってくださいていると感じた、すばらしい瞬間がたくさんありました。皆さんも、教え、慰め、励ましを与える中で、主の導きと助けを受けてきたことと思います。

でも、わたしたち女性は、自分自身に対して厳しすぎるようです。わたしの次の言葉を信じてください。わたしたちは、自分が考える以上に、もっとすばらしい存在なのです。自分が行っている正しい事柄を認め、喜ぶ必要があります。わたしたちが行うことの多くは、日々の生活のほんの一部にすぎず、小さく、取るに足りないことのように思えることばかりです。しか

し、ジョセフ・スミスが勧告したように、わたしたちが「エホバに自らの行いを報告するために召されるとき」⁴多くの善い行いをお伝えすることができると信じています。

例を挙げてみましょう。最近、ウィリアム・W・パームリー長老に、お母さんのラバーン・パームリー姉妹の思い出について聞いてみました。23年にわたって中央初等協会会長を務めた人です。長老は、彼女が大会で話したことや、彼女が始めた数々のプログラムについてはまったく触れず、17歳だった彼が大学に行く準備をしていたときの、心温まる思い出を話してくれました。それはお母さんと並んで座り、ボタンの付け方を教えてもらったことでのでした。どんな年齢の子供にとっても、小さくて簡単なことがいつまでも消えることのない印象を残すのです。

すべての姉妹が、子供に裁縫のいろはを教える機会にあずかるわけではありません。初期の時代の姉妹たちも、今のわたしたちとまったく同じように、実に様々な状況に置かれていました。既婚者も独身者も夫を亡くした人もいましたが、皆、目的にあって一致していました。これまで世界各地の多くの国々を訪れて皆さんと会う度に、皆さんの愛を感じてきました。姉妹の皆さん、わたしは皆さんを愛しています。そして、主も皆さんを愛しておられることを知っています。

多くの独身の姉妹たちがいます。その中には学生や働いている人、扶助協会に入ったばかりの人や長い間集っている人もいるでしょう。どうぞ信じてください。皆さん一人一人が価値ある存在であり、必要とされているということを。皆さん一人一人が、愛と活力と広い視野と証をこの業に加えているということを。御霊に近くあろうとする皆さんの努力は、わたしたちすべてを祝福してくれています。なぜなら、皆さんは力と導きを求めて御霊に頼ることを学んできたからです。

ある晩、独身のシンシアは、以前の家庭訪問先の姉妹に会いに行くようにという促しを感じて訪問してみました。不在でした。歩いて帰る途中病院のそばを



通りかかったとき、看護師がひどいやけどを負った二人の子供とともにいる姿が目に残りました。看護師が幼い女の子の名前を呼ぶのを聞いたとき、シンシアの脳裏にその子供たちの記憶がよみがえりました。4年前、ボリビアで伝道しているときに会った子供たちだったのです。病院の芝生で二人と話してみると、体は癒されつつありましたが、家族の助けがないために、心の傷は癒されないままであることがよく分かりました。シンシアは二人を訪問し、励ますようになりました。御霊の促しに従ったシンシアは神の御手に使われる者となり、ホームシックにかかった二人の子供を祝福することができたのです。

それは彼女が独身だからできたのでしょうか。そうではなく、注意深く御霊に耳を傾け、心から神に従ったからこそできたのです。御霊と波長を合わせ、主とその導きを求め、天の御父のみもとに帰ろうと努力しているなら、そのような素晴らしい瞬間が訪れることでしょう。そして、神の御手に使われる者となって、そのような瞬間を喜びのうちに積み重ねていくのです。

人生には、予期せぬ出来事が起こり、計画を変更しなければならぬこともあります。ある独身の姉妹はこう書いてい

ます。「わたしは成人してからというもの、ほんとうの幸福を感じたことはありませんでした。でもあるとき、人として、天の御父の娘としての自分の価値は、結婚しているかどうかには何の関係もないという思いに至ったのです。そのときからわたしは、自分は一体結婚するのかということではなく、自分の霊的な、そして人間的な成長に目を向けるようになりました。」⁵

主が生きていて、わたしたちを愛しておられるという証を互いに分かち合うときに、自分たちがどれだけ学び、成長しているか分かります。以前に話したように、皆さんに対する願いが一つだけかなうとしたら、皆さんが日々の生活で主の愛を感じられるようにと願うでしょう。

時にその愛は思いも寄らない形で訪れます。修士課程を終えようとしていたクリスティンは、二人目の子供を出産したばかりでした。仲間が皆自分よりも成果を上げていると感じ、卒業記念の夕食会に出席するのをためらっていました。実際、夕食会に出てみると、学生は皆、自分の業績のリストを書くように言われ、ますます不安が募りました。クリスティンはそのときのことをこう回想しています。「わたしは急に恥ずかしくなりました。自分には誇れるようなものは何一つありません。高い地位も、素晴らしい業績も。」さらに悪い

ことには、教授が修了証書を学生に渡すときにリストを読み上げたのです。クリスティンのすぐ前に呼ばれた学生は、数々の業績を残し、すでに博士号も取得し、今回は二つ目の修士号を受けようとしていて、さらには市長の職に就いていたこともありました。女性は拍手喝采を受けました。そして次はクリスティンの番です。込み上げてくる涙をこらえながら、白紙のリストを教授に手渡しました。彼はクリスティンを教えてくれた教授の一人で、研究を褒めてくれたこともありました。渡された白紙のリストを見た教授は、間髪を入れずにこう言ったのです。「クリスティンは、この社会で最も重要な役割を担っています。」一瞬の沈黙の後、次のように力強く宣言しました。「子供たちの母親なのです。」聴衆は、形だけのまばらな拍手ではなく、立ち上がり、心からの拍手を送りました。その晩、最大の賛辞が、母親であるクリスティンに贈られたのです。

母親である皆さん、皆さんは神の御手に使われる者として、子供たちを教え、養い育てるという責任を神から託されています。幼い子供たちは、皆さんの優しい、愛に満ちた手をとても必要としています。子供たちを最優先するなら、子供たちに最もよく仕えることができるように、主は皆さんを導いてくださるでしょう。

もっと年長の子供を持った姉妹たちもまた、家庭において必要とされています。もちろん葛藤^{かつどう}はあるでしょう。しかし、喜びもたくさんあるはずですよ。どうぞ喜びを探してください。わたし自身、わんぱくな4人の息子を育てる中で、神の御手に使われる者となることについて学んだ事柄が幾つかあります。子育てに忙しい時期を楽しんでください。家庭を安全で、幸せで、友達がいつでも来られるような和やかな場所にしてください。子供たちの話に耳を傾け、愛し、皆さんの子供時代や10代のころの話を聞かせてあげてください。

また、子供たちに期待を寄せてください。我が家には門限があり、いつも息子たちに、真夜中になると聖霊はベッドに入って休んでしまわれると話して聞かせ

ていました。息子たちが門限までに帰らないときは、捜しに行くようにという聖霊からの促しを受けて、デートの相手を驚かせたことも何度かありました。今では笑い話ですが、当時は笑ってなどいられませんでした。

子供たちと一緒にいてあげてください。ベッドに腰かけて、夜のおしゃべりを楽しんでください。でも、眠ってしまわないようにしてくださいね。主が靈感を与えてくださるよう祈ってください。いつも、何度でも赦してください。ほんとうに大切なことは何かを決め、それを守らせてください。イエス・キリストと、その愛と憐れみと、そして回復について頻繁に証してください。そして何よりも、皆さんが主を信頼していることを子供たちに伝えてください。

子供たちが成長し、巣立って行っても、また皆さんが独身だったり、離婚していたり、夫を亡くしたりしていても、その状況に負けて、人生経験を分かち合おうとする気持ちを失わないようにしてください。皆さんの声が必要なのです。わたしのワードで、扶助協会の日曜日のレッスンの中で、幸せな結婚には何が必要かを話し合ったことがありました。リサという姉妹がこう言いました。「わたしは離婚しているので、何も言うべきではないかもしれませんが。でも、わたしがこうして頑張りが続けられるのは、神殿の聖約のおかげなのです。」レッスンの後、扶助協会に入っただけの独身の姉妹たち数人に、このレッスンで最も身近に感じたことは何かと尋ねてみました。すると彼女たちは、「リサの言葉がいちばん印象に残りました」と答えてくれました。

そして、愛する年配の姉妹の皆さん。皆さんの高貴な顔に神の面影を見ることが出来ます。皆さんの知恵や忍耐、そして経験がどれだけたくさんの人の人生に影響を与えてきたことでしょうか。義理の母メアリーは、90代のときによくこう言っていました。「人はね、わたしが年を取っているものだから、何も知らないと思っているのよ。」彼女が何を理解し、何を成し遂げたかを話しましょう。高齢者施設に住



んでいたメアリーが、施設の責任者に、教会の礼拝行事をしたいので部屋を一つ使わせてもらえないかと尋ねたところ、「センターは特定の宗派に偏ったものではないから」という理由で断られました。彼女はそれでも引き下がらず、高齢の姉妹たち数人とともに頼み続け、ようやく部屋を借りることができました。やがて支部ができ、毎週会員が集い、聖餐を取り、聖約を新たにすることができました。神の御手に使われる者となるのに、年齢は足かせにはなりません。

神の御手に使われる者となる方法は数限りなくあります。例えば、こんな人に担当してほしいとずっと望んできたような訪問教師に皆さん自身がなってください。ヤングシングルアダルトの姉妹になぜ結婚しないのかと聞く代わりに、何をすることが好きかを尋ねてください。蓄えようとする代わりに、分かち合ってください。服装や言葉遣い、娯楽を注意深く選んでください。夫や子供に笑顔を見せてください。彼らは、皆さんをいらいらさせ傷つけるのは自分だと分かっているのです。若い女性を抱き締めてあげてください。託児クラスで、喜びの心をもって教えてください。人生の旅路に喜びを見いだしていることを態度で示しましょう。預言者ジョセフ・スミスは、そのような努力につい

てこう語っています。「皆さんが自分の受けている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんを支えずにはいられないでしょう。」⁶

わたしたちが従事しているのは神の業であることを証します。皆さんが家族や扶助協会、そして教会のために献身してくださっていることを感謝します。この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者となってください。皆さんが生活の中で神の愛を感じ、その愛を分かち合えますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 「神の御手に使われる者」(2005年中央扶助協会集会で上映されたビデオ)
2. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課, 38
3. アルマ26:3
4. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 34
5. 個人あての手紙
6. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 38

わたしたちすべてが ともに天で 座に着けるように

中央扶助協会第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ

神の御手に使われる者になるなら、神は御自分の業をなすためにわたしたちを使つてくださいます。



姉妹の皆さん、今晚、わたしたちは中央扶助協会集會に集まっています。麗しい姉妹たちと、こうして一堂に会していると、最初の扶助協会の集會について考えずにはいられません。預言者ジョセフ・スミスが姉妹たちに話をし、神の王国を建設するうえで皆が持つ務めに姉妹たちを備えさせている様子を心に思い描くのです。「わたしは主の御業を行う聖約を立てました。主の御手にあつて使われる者となれるように、主よ、今助けてください」という女性たちの心の祈りが聞こえてくるようです。わたしたちの祈りもこれと同じです。

現世の生涯は、わたしたち一人一人が

主に使われる者となる時です。わたしはルーシー・マック・スミス姉妹の言葉が好きです。彼女はきゃしゃでそのうえ高齢のために弱っていましたが、ノーブーで開かれていた初期の扶助協会の集會中、立ち上がり、姉妹たちに話をしました。スミス姉妹がずっと力強い女性であり、偉大な指導者だったことを皆さんに覚えてほしいと思います。今日の扶助協会でわたしが会う女性とまさに同じような人でした。その日、彼女は言いました。「わたしたちは慈しみ合い、見守り合い、慰め合い、導きを得て、わたしたちすべてがともに天で座に着けるようにしなければなりません。」¹

この言葉は「神の御手に使われる者」²になる姉妹たちについて語っています。わたしたちの中で慈しまれ、見守られ、慰められ、神にかかわる事柄について導きを受けたいと切望しない人がいるのでしょうか。どのようにしてそれが実現するのでしょうか。その時々に表示される親切な行為、愛の表現、思いやりある言葉、差し伸べられる手を通してです。今日わたしは、そのような慈愛に満ちた行為を受ける人ではなく、毎日そうした聖い行いを実践しなければならぬわたしたち皆にお伝えします。イエス・キリストのようになるためには、預言者ジョセフは「人に対して心を広くしなければならない」³と教えま

した。

皆、慈愛と呼ばれるキリストの純粋な愛を得たいと切に願っています。しかし、人間であること、つまりわたしたちの中にある「生まれながらの女性」が妨げとなります。怒り、失望し、自分や人を責めてしまうと、天父の御手に使われる者になるべきときに、愛を伝えるパイプの役割を果たすことができません。進んで自分や人を赦すことなしに、生活の中で主の愛を持ち、御業を行うことはできないのです。

この話の準備を始めたとき、なすべきことをすべてしました。神殿に行き、断食し、聖文を読み、祈り、それから原稿を書きました。でも姉妹の皆さん、慈愛について書くときには、慈愛を感じる必要があります。わたしは感じていませんでした。そこで、何度も涙を流して祈っていると、ある思いが浮かび、本人たちは知らないにしても、わたしが慈愛を感じられない原因となった人たちの赦しを請わなければならないと悟りました。それは難しいことでした。でも、癒され、主の御霊が戻ってきました。そのことを皆さんに証できます。

絶えることのない慈愛を持った人となるのは、生涯をかけて目指していくべきことですが、愛の行為の一つ一つが、わたしたちや愛を与える人を変えてくれます。最近会った若い女性のことを話しましょう。アリシアは10代のころ、教会からまったく離れていましたが、やがて戻りたいと思うようになりました。老人ホームで暮らす祖父のもとを日曜日によく訪れていた彼女は、あるとき、そこで開かれている末日聖徒の集會に参加することにしました。扉を開けると、扶助協会の集會中でした。空席がなかったので、部屋を出ようとすると、一人の女性が手招きし、体をずらして自分の席に彼女が座れるようにしてくれました。「その人はわたしのことをどう思ったのでしょうか。ボディーパースだらけで、たばこのにおいをさせていたんです。でも彼女はそんなこと気にしていない様子でした。ただ自分の隣にわたしのために場所を作ってくれたんです」とアリシアは

言いました。

この女性の慈愛に励まされてアリシアは再び活発に教会に集うようになりました。伝道に出、今ではほかの女性たちに同じ愛を分かち合っています。自分のいすに座らせてくれたこの年配の姉妹は、扶助協会にはどんな女性にも居場所があることを理解していました。姉妹たち、わたしたちは力を得ようと集会に集いますが、同時に、だれもが弱さと不完全さを持って集まっているのです。

次のアリシアの言葉が忘れられません。「教会に行って、自分のためにすることは一つだけです。聖餐せいさんを取ることです。それ以外の時間は、わたしを必要としている人を探して助け、力になるようにしています。」

神の御手に使われる者になるなら、神は御自分の業をなすためにわたしたちを使ってくださいます。アリシアのように、周りにいる人たちに目を向け、助け、支える方法を探する必要があります。扉のわきに立っている人たちのことを考え、話しかけ、自分たちのもとに招くようにしなければなりません。このようにして、わたしたちすべてがともに天で座に着くことができるのです。皆が皆、自分のいすにもう一人座る余裕があるとは思わないかもしれません。でも、心に愛があれば、どんなときにもいすは必ず見つかることでしょう。

ジュリア・ヒルと妹のエミリーは、1856年、10代のときにイギリスで教会に入りましたが、家族からは勘当されました。それでもついにアメリカへの渡航費用のため、あこがれのシオンの近くまでたどり着きました。しかし、ウィリー手車隊に加わってアメリカの平原を横断中、10月という早い時期の吹雪のため多くの仲間とともに身動きが取れなくなってしまいました。ジュリア・ヒルのひ孫、デボラ・クリステンセン姉妹は二人に関する感動的な夢を見ました。こう述べています。

「……ウィリー手車隊とともに風の吹きすさぶロッキーマウンテンの頂上で雪に閉じ込められているジュリアとエミリーが見えました。二人は体を温める厚地の服を持



っていませんでした。ジュリアは雪の中に座り込んで震えています。もう先に進む力がありません。エミリーも同じように凍えていましたが、もし自分が手を貸して立ち上がらせなかったら、ジュリアは死んでしまうと分かっていました。エミリーが姉の体に手を回して立ち上がらせると、ジュリアは泣き始めました。でも涙は出てきません。すすり泣く声が聞こえるだけです。二人は一緒に手車までゆっくりと歩いて行きました。その恐ろしい夜に13人が亡くなりました。でも、ジュリアとエミリーは生き延びました。」⁴

姉妹の皆さん、お互いがいなければこの二人が生き残ることはなかったでしょう。しかしそれだけではなく、ジュリアとエミリーはほかの人たちが旅の苦しい過程を生き長らえるよう力を尽くしました。助けられた人の中には、若い母親とその子供たちもいました。後年、「シオンの娘」という美しい歌詞を書いたのはこのエミリー・ヒル・ウッドマンシーです。雪で覆われた平原でエミリーが経験したことを思い描くと、「疲れしものを救わん」⁵という歌詞が新たな意味を帯びてきます。

ヒル姉妹たちと同じように、わたしたちの多くも人の助けがなければこの世の試練を生き延びることはないでしょう。人を助けるときには自分自身の魂も活気づく、ということも真実です。

ルーシー・マック・スミスをはじめ初期の扶助協会の姉妹たちは、キリストの純粹な愛、つまり無限の慈愛を経験しました。人生を導く福音の真理がありました。生ける預言者がいました。祈りを聴き、こたえてくださる天の御父がおられました。姉妹たち、わたしたちも同じです。バプ

テスマを受けたとき、イエス・キリストの御名みなを身に受けました。わたしたちは毎日その御名を負っています。そして、御霊は救い主の教えとともに生きるように促してくれます。そのようにするとき、わたしたちは神の御手に使われる者となるのです。そして、御霊がより高い段階の善へと引き上げてくれます。

慈愛が表れた最も大いなる行為は、わたしたちに賜物たまものとして与えられるイエス・キリストの贖いあがなです。この賜物を熱心に求めるのなら、ただ受けたいと願うだけではなく、分ち合いたいと思うことが必要です。この愛を人々と分かち合うなら、わたしたちも「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者」⁶となって、姉妹たちとともに、一緒に、天で座に着く備えができるでしょう。

救い主について証します。主は生きておられ、わたしたちを愛してくださっています。そしてわたしたちが、今不完全であったとしても、どのようになれるか御存じです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. Relief Society Minutes, 1842年3月24日, 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課, 18-19
2. アルマ26:3
3. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 39
4. デビー・J・クリステンセン, "Julia and Emily: Sisters in Zion," *Ensign*, 2004年6月号, 34
5. 『賛美歌』195番
6. アルマ26:3

自分に対する 主の御心を知る

中央扶助協会第二副会長
アン・C・ピングリー

自分の思いを主の御心に従わせる道で、主が皆さん一人一人を祝福されますように。



神の御手に使われる者となることは、偉大な特権であり、神聖な責任です。住む場所、環境、配偶者の有無や年齢の区別なく、主はこの最後の神権時代に主の王国を築くため、女性一人一人に独自の務めを果たすよう求めておられます。わたしは証します。わたしたちは主の求めを知り、祝福を享受できません。「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者となる」という「わたしたちに与えられた祝福」¹を享受することができるのです。今夜は、神の御手に使われる者となるプロセスを理解するためにわたし自身がたどった道を紹介します。

まずわたしがたどり着いた結論からお伝えします。それは、ニール・A・マックス

ウェル長老が教えた次の貴重な真理の中にありました。「思いは、個人が神の祭壇にささげられる唯一の所有物です。ほかの多くのささげ物は、……実際は神から頂いたか、借りたものにすぎません。しかし、皆さんやわたしが、自分自身を神に従わせることができるようになったとき、つまり自分の思いを神の御心に飲み込ませることができるようになったときに、初めて真のささげ物を始めたと言えるのです。なぜなら、それがわたしたちのささげられる唯一のものだからです。」²

愛する姉妹の皆さんに証します。ほんとうに神の御手に使われる者となるためには、また、「各自の務めを果たす」この「現世の生涯」³で、神の御手に使われるという祝福にあずかるには、マックスウェル長老の言うように「自分自身を神の御心に従わせ」⁴する必要があります。

この原則について証を得るために、わたしは突然、精錬のプロセスに投げ込まれました。30代半ばに祝福師の祝福を受けたのが始まりでした。断食と祈りによって備え、「主はわたしに何を望まれるだろう」と思い巡らしました。期待に胸を膨らませながら、夫とわたしは4人の幼い子供を引き連れて、年配の祝福師の家へ出かけました。祝福師は祝福の中で、伝道について何度も繰り返し強調しました。

正直なところ、失望と不安に駆られました。当時はまだろうじてモルモン書を初めから通して読み終えたばかりでし

た。明らかに、わたしには伝道の準備などできていませんでした。それで、祝福師の祝福は引き出しにしまいました。しかし子育てに没頭しながらも、真剣に聖文を研究する計画を毎日実行するようになりました。

年月が過ぎ、わたしたち夫婦は力を合わせて子供たちを伝道に備えました。息子たちを各地へ送り出し、わたしの伝道の義務は終わったと心から思っていました。

そんなときに、夫が伝道部長に召されたのです。その国の情勢は不安定で、周りにある国も発展途上です。1万6,000キロも離れた所にある、文化や言葉のまったく違う国です。しかし専任宣教師に召された途端、少しアルマやモーサヤの息子たちのように感じました。「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者」⁵として召されたと感じたのです。ただ、アルマたちはどうだったか分かりませんが、わたしは非常な恐れも感じました。

それから毎日、祝福師の祝福を取り出し、より深い理解を求めて何度も何度も読み返しました。数十年前に祝福師から受けた約束をこれから実現するのだと分かっているだけでも、不安は和らぎませんでした。結婚した子供、未婚の子供、年老的義理の父母を残して行けるだろうか。何を行い、語るべきか分かるだろうか。わたしたち夫婦は何を食べるのだろうか。政治情勢が不安定で危険な国で、無事でいられるだろうか。わたしはあらゆる点で適性を欠いていると感じました。

平安を求めて、それまでに輪をかけて神殿に参入するようになりました。交わした聖約の意味について、かつてないほど思い巡らしました。人生の岐路に立たされていたわたしは、神殿の聖約によって支えと励ましを得ました。恐れはありましたが、自ら下した神聖な決意を守り通すことを、意識的に選んでいたのです。結局のところ、これはだれかほかの人の務めではありませんでした。召されたのはわたしであり、仕えると決めたのもわたしでした。

ジョセフ・スミスの父親は、息子への



祝福でこう宣言しています。「主なるあなたの神は天からあなたの名前を呼ばれました。あなたは……この時代に主の大いなる業を行うために召されました。あなた以外の何者も……あなたのようにすべてにおいて主の御心に添うことはできません。」⁶ 預言者ジョセフは「主の大いなる業」の中で彼独自の務めに召されました。わたしも、たとえ圧倒され準備不足と感じていても、確かに御業の中でわたしの務めに召されたのだと知っていました。そう考えることで、勇気が出てきました。

絶えず祈りを通してこう尋ねました。「お父様、頂いた召しを果たすにはどうすればよいでしょうか。」伝道地に赴く数日前の朝、二人の友人が贈り物をくれました。携帯できる、小さな賛美歌集です。その日

のうちに、その賛美歌集を通して、数か月に及んだ祈りの答えを受けました。慰めを求めて静かな場所に行くと、次の言葉がはっきりと心に浮かんできたのです。

「恐るな、われは汝が神
常に汝と共にあり
助け与え、強くして
わが正しき力をもて 汝を支え、
励まさん」⁷

主がともにいて、助けてくださることに、非常に個人的な方法で気づきましたが、それはただの始まりでした。神の御手に使われる者となるにはさらに多くを学ぶ必要がありました。

遠く離れた異国の地で、わたしたち夫

婦は開拓者のように、信仰を込めて一步步任務を果たし始めました。文字どおりほとんどいつも二人きりでした。未知の文化に身を置き、幾つもの未知の言語に取り巻かれていました。ノーブーで初期の扶助協会を導いたサラ・クリーブランドの言葉に大変共感しました。「主の御名によってこの業を始めたのですから、雄々しく前進しましょう。」⁸

神の御手に使われる者となるプロセスでまず学んだことは、聖文を研究すること、断食すること、祈ること、神殿に参入すること、主の宮で交わした聖約を忠実に守ることでした。第2の教訓は、「雄々しく前進する」ためには主に完全に頼り、個人的な啓示を熱心に求めることでした。啓示を受けるには、常に聖霊を伴侶とす

るためにふさわしい生活をしなければなりません。

最後の教訓は、まさにマックスウェル長老が教えたとおりです。主の助けと導きと守りがどうしても必要だったので、日々のどんなささいなことでも、思いを主の御心に従わせました。そうするうちに、非常に深い部分で天の御父との関係が変わりました。そのことからわたしも家族も祝福を受け続けています。

わたしの人生の道のりは皆さんとは違います。ですから、主の御心を熱心に求めながら自分の思いを主の御心に従わせた皆さん一人一人から、多く学べることでしょう。わたしたちは、回復されたイエス・キリストの福音の中で喜び合い、救い主についての、また^{あがな}贖いについての証があるという祝福に感謝し合えることでしょう。「神の御手に使われる者」となるのは簡単ではなく、霊的な成長を促すものです。だからこそ、それぞれが栄光に満ちた道をたどりつつ、現世の旅を豊かにすることができるのだと知っています。

愛する姉妹の皆さん、主の御心を知り、自分の思いを主の御心に従わせる道で、主が皆さん一人一人を祝福されますように。思いこそ「わたしたちのささげられる唯一のもの」⁹であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. アルマ26:3

2. 『聖徒の道』1996年1月号、26参照、強調付加

3. アルマ34:32

4. 『聖徒の道』1996年1月号、26参照

5. アルマ26:3

6. グレーシア・N・ジョーンズ, *Emma's Glory and Sacrifice: A Testimony* (1987年), 43-44で引用

7. 「主のみ言葉は」『賛美歌』46番

8. Relief Society Minutes, 1842年3月30日, Archives of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 24

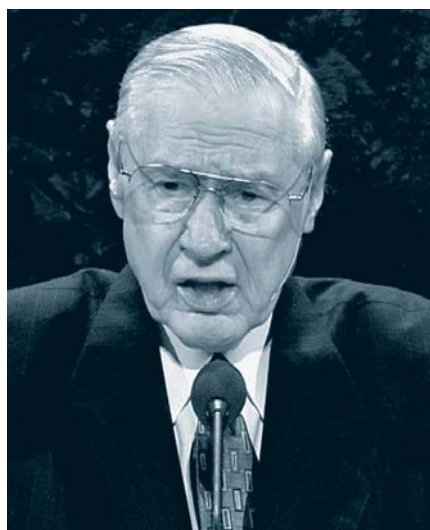
9. 『聖徒の道』1996年1月号、26参照、強調付加

神の御手に使われる者

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

皆さんの良い影響は計り知れず、言葉で表現できません。



ヒンクレー大管長の承認を受け、大管長会を代表して皆さんに感謝をお伝えします。先ごろ発生し、今なおこの国を苦しめている災害において、どのような方法であれ、人命を救助し、資産を保護する働きに様々な形で携わってくださった方々に感謝します。

愛する姉妹の皆さん、多くの国で集う神の娘たちに話をするという、この大きな責任と特権に、へりくだる思いがします。ヒンクレー大管長の短いビデオを通して、教化され、高められました。ヒンクレー大管長とモンソン副管長がわたしたちとともに今晚出席していることに感謝します。二人の支えと影響力によって強められます。パーキン姉妹、ヒューズ姉妹、ピングリー姉妹は霊を鼓舞し、聖歌隊の歌は感動を与えてくれました。皆さんの顔をじっと見詰めると、そのすばらしい人柄を感じます。一人一人の日々の義の働きを称

賛します。皆さんの働きは、たとえわずかな人にしか知られなくても、小羊の命の書に記されています。¹ 小羊の命の書はいつの日か、「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者」²として働いた皆さんの熱心な奉仕と献身、行いを証言するために開かれるでしょう。

ニール・A・マックスウェル長老はこう言いました。「わたしたちは母親の務めと神権者の務めの違いだけでなく、男性と女性の役割が異なる理由でさえ……ほとんど理解していません。これらの役割は、いつかある所で、神が定められました。男性が神権を持ち、指導に当たっていることから、わたしたちは神に従う男性にばかり目を向けることがあります。しかし現代を含め、あらゆる年代、あらゆる神権時代に、神に従う偉大な女性たちがいて、神権者と並んで義にかなった影響を及ぼしているのです。人の偉大さは、新聞や聖典に記された記録の厚みによって測るものではありません。神に従う女性たちの物語には、今はまだ秘められているものが多くあるのです」³

姉妹の中には、望むことをすべては行えていないように思えて、自分は無力だと感じている人がいることでしょう。母親の務めは大変なものです。また皆さんには教会の召しもあり、能力を発揮して誠実に果たしています。さらに、このすべてに加えて、皆さんの多くは家族の世話だけでなく、働く必要もあります。夫を亡くした姉妹や、独りで子供を育てている姉妹への同情を禁じ得ません。子育てという途方もなく大きな責任を独りで担ってい



るからです。高潔な姉妹の皆さんは、概して皆さんが思っている以上に見事に責任を果たし、実り多い人生を送っています。一度に1日分だけの問題に対処し、最善を尽くしてください。すべてを永遠の観点から見てください。そうすれば人生は違って見えてきます。

姉妹の皆さんは、だれもが、幸福になり、救い主の約束された平安を得たいと願っています。皆さんの多くが、与えられた責任を果たそうと懸命に努力しています。わたしは、だれも傷つけないとは思っていません。この件について触れたくはないのですが、話すべきだと感じています。時折、過去の傷にまつわる悲しい思いをいつまでも引きずることがあります。過ぎ去ったことやどうしようもないことに、あまりにも精力を使ってしまうのです。過去を忘れ、傷を治そうとができます。いつの日か、もしその原因となったものを赦すことができるなら、わたしたちは贖いを通して「命を与える慰めの源」に手を伸ばし、赦しがもたらす「心地よい安らぎ」を得ることができます。⁴ 中には大きくて深

い傷もあります。それを癒すには、より高い所からの力と次の世における完全な正義と回復が必要です。姉妹の皆さん、皆さんはより高い力に手を伸ばし、この愛に満ちた慰めと心地よい平安を得ることができます。

わたしは姉妹の皆さんが、家庭、教会、社会において自分の与える良い影響を十分に理解していないのではないかと心配しています。皆さんの良い影響は計り知れず、言葉で表現できません。ブリガム・ヤング大管長はこう言いました。「婦人扶助協会の姉妹たちはすばらしい働きをしてきました。イスラエルの母親と娘たちにできる善い働きが、どれほど価値あるものか理解できるでしょうか。それは不可能です。彼女たちが行う善い働きは、永遠に彼女たちを祝福するのです。」⁵ 皆さんはその多くの役割、特に母親の務めにおいて、神の御手に使われる者であることから信じています。

王国の業において、男性と女性は等しく大切です。神は女性に、御自分の子供たちを産み育てる責任をゆだねられまし

た。これ以上に大切な業はありません。母親の務めは女性にとってそれほど大切なのです。愛する妻、妻とわたしの双方の母や祖母たち、大切な娘、孫娘を通して、神聖な祝福と義にかなった影響力がわたしと家族の生活にもたらされました。人生における彼女たちとの大切な関係は言葉にできません。永遠の伴侶であるルースとの関係が特にそうです。

独身の姉妹の皆さんを心から愛していることを知ってください。皆さんはこの偉大な業を成し遂げるために、神の御手に使われる力強い者となることができます。皆さんは大切に、必要とされています。また結婚していても、子供のいない女性もいるでしょう。いずれの境遇にあっても、主が皆さんを愛し、忘れておられないことを確信してください。周りの人のために皆さんにしかできないことがあります。周りの母親が子供にしてやれないことができるかもしれません。そのような状況にある姉妹たちには、この世と来るべき世で何らかの埋め合わせとなる祝福が与えられるでしょう。「心をつくし、精神をつ

くし、力をつくし、思いをつくして」神を愛することができれば、また「自分を愛するように、あなたの隣り人」⁶を愛することができれば、この祝福と慰めを与える平安が、皆さんに注がれるでしょう。どのような状況にあっても、皆さんはこの偉大な業を成し遂げるために、神の御手に使われる者として、あらゆる面で大きな成功を収めることができます。

女性は善悪のいずれにおいても、世の出来事に大きな影響を及ぼします。家庭に注がれる祝福は、妻や母親によってある程度決まります。皆さんが夫の神権の召しを支持し、神権活動に参加するよう息子を励ますとき、皆さんの家庭は豊かな祝福を受けます。また、子供たちに困っている人々を助けるよう勧めるべきです。我が家はずっと祝福されてきました。結婚して以来、妻が扶助協会の活動に携わってきたからです。妻はワードの扶助協会会長を何年か務めた後で、ステーキの扶助協会会長も務めました。彼女が義務を果たし、集会に出席する度に、我が家は妻の持ち帰る心地よい奉仕の霊に満たされました。

今晚聞いたように、皆さんは女性のための世界最大の組織の会員です。そしてヒンクレイ大管長が先ほどビデオで語ったように、預言者ジョセフ・スミスはこう宣言しました。「この組織は、神が確立された秩序、すなわち指導者として召された者を通して教えを受けるためにあります。……わたしは今、神の御名により鍵を回します。そしてこのときより、この組織には喜びがあふれ、知識と英知が注ぎ込まれることでしょう。この組織の明るい未来は、今始まりました。」⁷ 預言者ジョセフ・スミスが扶助協会を組織するために神権の鍵を行使して以来、歴史上これまでに比べてはるかに豊富な機会が女性に開かれるようになりました。⁸

当初から、教会の女性は神の御手に使われてきました。カートランドに神殿が建設されていたときも、女性たちは労働者を助けました。ヒーバー・C・キンボール副管長はこう語っています。

「女性たちは、神殿建設に携わる人々

の衣類を作るために糸を紡ぎ、編み物をしました。主はこの業を成し遂げるためにわたしたちが味わった貧困と試練と苦難をすべて御存じです。妻も夏の間中、神殿完成のために援助を提供しました。45キロの羊毛を少女の手を借りながら紡ぎ、建設に携わる人々の衣類を作りました。羊毛の半分は、労働に対する報酬として手もとに残せましたが、靴下1足分の羊毛さえ取っておこうとはせず、主の宮で働く人々に差し出したのです。妻は糸を紡いで織り上げると、生地を仕上げてもらい、裁断し、衣類を作りました。そして神殿で働く男性たちに提供しました。主の業を推し進めるために、カートランドに住むほとんどの姉妹たちが、編んだり、縫ったり、紡いだりして働きました。」⁹

教会設計士の妻、ポリー・エンジェルは、預言者が次のように語ったと言っています。「姉妹の皆さんはいつも備えができています。姉妹たちはどんなときも、すべての善い業の先駆けとなってきました。マリヤは〔よみがえられた主に墓の前でまみえた〕最初の人となりました。そして今皆さんは、神殿の内装に取り組む最初の人となるのです。」¹⁰

姉妹たちは、美しいもの、人を鼓舞するものに対する感受性と愛という天与の特質を持っています。この特質は、生活を豊かにするために与えられた賜物です。姉妹たちはレッスンを準備し、教えるとき、よくテーブルにすてきなクロスをかけたり、花を飾ったりします。それは皆さんの優しさや気配りをよく表しています。対照的に、兄弟たちはレッスンをするとき、テーブルにしおれたタンポポすら飾らないのです！ けれども、皆さんはあまりにも自分に厳しいことがあります。ささげ物が完全でないと、受け入れてもらえないと考えるのです。しかし、いつもしているように最善を尽くしたなら、その謙遜なささげ物は、どのようなものであっても、主に受け入れられ、喜ばれます。

最近の訪問教師の働きには目覚ましいものがあります。スージーは12年前にドラの訪問教師に召されました。ドラは夫を亡くして子供もなく、気難しい、孤独な

人でした。初めて家を訪ねたとき、ドラは玄関に顔を出すだけで、部屋には入れてくれませんでした。数か月後、ドラにごちそうを持って行きましたが、受け取れないと言われました。理由を尋ねると、こう答えました。「だって何か見返りが欲しいんでしょう？」スージーはこう断言しました。「わたしが欲しいのはあなたの友情だけよ。」その後、訪問は比較的容易になり、ドラに何かをしてあげたり、必要なときに耳を傾けてあげたりする要領が少しずつ分かるようになりました。そしてワードに集う人たち、レッスン、そして大会についても話して聞かせました。ドラがワードの一員だと感じられるようにするためです。ドラがだんだん体調を崩すようになると、スージーは毎日訪問しました。そして二人は親しい友人になったのです。ドラが亡くなったとき、周りの人はドラのことを、「近づき難い」女性ではなく、「すばらしい女性」「大切な友人」¹¹と呼ぶようになっていました。訪問教師として仕えることで、スージーはドラと親しくなりました。ほかの人にはできないことでした。

扶助協会は姉妹の組織であり、女性が信仰をはぐくみ善い業を成し遂げるために教えを受ける場所です。ヒンクレイ大管長がしばしば言うように、すべての人に友人が必要です。友情は人を幸福にし、愛で満たしてくれます。年齢や貧富の差、知名度に関係なく、だれでも友人が必要です。人はどのような状況にあっても、思いやりをもって自分の話を聞き、必要なときに励まし、もっといいことをし、もっといい人になりたいと思わせてくれる人が必要です。扶助協会はそのような友情を築き上げるために組織されています。思いやりの心を備え、愛をはぐくみ、物事を達成できるよう助けてくれる女性が大勢います。何よりも、それは姉妹の組織だからです。

この中央扶助協会集会の模様は、世界中の幾つもの国で放送されています。同じメッセージに耳を傾け、友人として一堂に会するために、様々な場所に集まっている姉妹たちのことを考えるとうれしくなります。バージニア州フレデリクスバー

グで同様の集会に出席したエチオピアの姉妹はこう言いました。「友人、母親、娘として集会に出席しましたが、終わったときには姉妹となっていました。」¹²

タイで伝道している姉妹宣教師は、昨年の衛星放送を一緒に見たバンコクの姉妹たちのことを手紙に書いてくれました。こう言っています。「タイ人女性の小さな集まりから大きな力を感じました。皆、一度も会ったことのないソルトレーク的女性たちの勧告に熱心に従おうとしていました。」¹³ この集会に出席することで、幾つもの国や海、川を越えて広がる姉妹のきずなを感じられるのは、何とすばらしいことでしょうか。この業へと通じる鍵を回したのはジョセフ・スミスでした。ノーブーで少数の姉妹たちと集会を開き、1842年に扶助協会を組織したのです。

では最後に、若い姉妹の皆さんに少し話しましょう。皆さんはこの偉大な姉妹の組織の中で重要な役割を担っています。皆さんの多くは、イエス・キリストの回復された福音に対する証^{あかし}があります。その証と若い力、影響力、知性によって、皆さんは祝福を得ることができます。「この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者」となるという責任を果たすことで、皆さんは祝福を得られるのです。

最近、ある若い姉妹が扶助協会に対する気持ちを伝えてくれました。ワードの姉妹たちは、その姉妹が若い女性のころから深い関心を示してくれたため、扶助協会に移るときには、本人も扶助協会の姉妹たちも胸を躍らせたそうです。彼女は「扶助協会の姉妹たちの様々な人柄、興味、経歴、年齢」に触れ、こう言いました。「わたしには今……10代から高祖母の年齢まで、世代を越えた様々な年代の友人がいます。」¹⁴

すばらしい将来が、若い姉妹の皆さんを待っています。計画したとおりの将来ではないかもしれませんが、心から満足し、すばらしい業を達成できる将来が待っているのです。若い姉妹たちにとって、成熟し、経験豊かで、義にかなった姉妹たちと交流できることは、絶好の機会で



あると同時に、祝福でもあります。

ヒンクレイ大管長の最愛の妻、マージョリー・バイ・ヒンクレイ姉妹は、そのことを的確に表現しました。「わたしたちは皆ともにこの業に参加しています。お互いを必要としています。わたしたちは何とお互いを必要としていることでしょう。高齢者には若い姉妹たちがが必要です。若い姉妹の皆さんも同じように考えてくださっていれば幸いです。女性には女性が必要だということは、社会的事実なのです。わたしたちは、お互いに満足のいく固く深い友情が必要です。このような友情は、互いを支え合ううえで欠かせないものです。日々信仰を新たにする必要があります。王国が全地に満ちるまで転がり進むように、ともに手をつなぎ、王国の建設を助ける必要があります。」¹⁵

愛する姉妹の皆さん、王国でともに働き、小羊の命の書に名を書き留められている愛する同僚の皆さん、¹⁶ 皆さんがさらに前進できますように。信仰を込め、へりくだり進んでください。サタンやいかなる邪悪な誘惑の力にも操られないでください。すきを与えたり、¹⁷ 神から与えられた、主の御霊^{みたま}に対する優れた感受性を損なわせたりしないでください。周りの人に愛と憐れみの手を差し伸べるときに、常に御霊の導きを受け、あらゆる思いと行動を聖く保つことができますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. 黙示21:27参照
2. アルマ26:3
3. 「神に従う女性」『聖徒の道』1978年10月号、12参照
4. "My Journey to Forgiving," *Ensign*, 1997年2月号、43参照
5. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットソー選(1954年), 216
6. ルカ10:27
7. Relief Society Minutes, 1842年4月28日, 末日聖徒イエス・キリスト教会保管文書, 40
8. ジョージ・アルバート・スミス, "Address to Members of the Relief Society," *Relief Society Magazine*, 1945年12月号, 717
9. "History of Joseph Smith," *Times and Seasons*, 1845年4月15日付, 867
10. エドワード・W・テューリッジ, *Women of Mormondom* (1877年), 76で引用
11. 扶助協会事務局所有の手紙
12. 扶助協会事務局所有の手紙
13. 扶助協会事務局所有の手紙
14. 扶助協会事務局所有の手紙
15. バージニア・H・ピアス編, *Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley* (1999年), 254–255
16. ビリピ4:3参照
17. 1テモテ5:14参照

指導者の言葉

大会の教えを生活に取り入れるために



総 大会の教えを自分自身や家族の生活に取り入れるために何ができるでしょうか。以下のアイデアを話し合いや研究に用いるとよいでしょう。自分で質問を考えたり、自分だけのテーマを選んだりしてもよいでしょう。(括弧内の番号は、お話の最初のページを表しています。)次ページの物語のリストも役に立ちます。

大会のためにサモア・アピア・ナブステーク
センターに集う少女たち。
右——ブラジル・ニテロイステーク
センターで大会に出席する人々と
調整する宣教師たち



フ・スミスをどのように助けたのでしょうか。(ヒント——70ページのボイド・K・パッカー長老のお話を読みましょう。)

3. 「家族——世界への宣言」が伝えられたのはいつで、だれによってでしょう。(ヒント——41ページのM・ラッセル・バラード長老のお話を調べましょう。)

4. ヒンクレー大管長は今年の終わりに何をしよう勧めましたか。また、その勧めに従うならどんな祝福があると約束しましたか。(ヒント——何人かの人が話しました。例えば、48ページのチャールズ・ディディエ長老のお話を調べてみましょう。)



青少年のために

5. ゴードン・B・ヒンクレー大管長が、「古代と近代のあらゆる聖文で強調されている偉大な原則」と語ったのは何でしょうか。大管長は、「[それは]恐らく地上で最も偉大な徳であり、確かに最も必要とされてい[る]」と語りました。(81)

6. 何かのチームのメンバーに選ばれるのが最後になったことはありますか。トーマス・S・モンソン副管長は、最後に選ばれる人の気持ちが分かります。自分もそうだったからです。最後に選ばれたモンソン少年はどうなったのでしょうか。なぜ「決してあきらめるな」と言っているのでしょうか。(56)

7. しばしば別の信仰を持つ人々は、わたしたち教会員が周りの人と異なっていることに気づきます。何か特別なものを感じるのです。「目



に宿る光」という話の中で、ジェームズ・E・ファウスト副管長は周りの人に示す模範の大切さについて何と言っているでしょうか。(20)

8. 伝道に出ることと、宣教師になることの違いは何でしょうか。デビッド・A・ベドナー長老は、伝道の召しに備えるため

にできる最も重要なことについて話しています。それは何でしょうか。(44)

家庭の夕べと個人の学習のために

9. ラッセル・M・ネルソン長老は、^{あがな}贖いに関する宣教師の質問に答えるためにどの賛美歌を使いましたか。(85) 救い主について歌った賛美歌の中で、あなたの家族にとって特に意義深いものはどれです

か。その賛美歌を家庭の夕べの中で歌うか、歌詞を朗読するとよいでしょう。

10. どのような史実、または出来事によって、あなたの国や家族に福音が^の宣べ伝えられるようになりましたか。ロバート・D・ヘイルズ長老は、福音が宣べ伝えられる備えとなった出来事を幾つか話しています。また、その出来事がどのように再臨の備えとなってきたかについて話しています。(88)

11. メリル・J・バイトマン長老は、ゲツセマネで苦しまれたイエス・キリストの真の特質について話しました。(74) 贖罪の効力を生活の中で感じたことがありますか。

12. ボール・ジブラウスキー長老はこう問いかけています。「キリストだったらどうなさるだろうか。」(35) 様々な機会にキリストを中心とした選択をするにはどうしたらよいでしょうか。そのような機会を神の王国を築くために役立てるにはどうしたらよいでしょうか。■

読んで分かち合えるお話

以下のページで始まるお話には、分かち合うことのできる物語や知恵が含まれています。

津波が来る前に高台に移動した村人たち, 16

足をけがした女性を助ける看護師, 20

たばこ会社を退職した新会員, 31

12年間教会を探し求めた男性, 33

執事だったボール・ジブラウスキーをフェローシップした
スカウト隊長, 35

チャールズ・ディディエの改宗, 48

総大会のときに野球をした幼いころのボール・V・ジョンソン, 50

背教したことを悔いるライマン・E・ジョンソン, 53

ダンキングマシンに座る監督, 53

1週間かけて会員を訪問したホームティーチャー, 56

少女にバプテスマを施したどもり症の祭司, 56

断食献金によってもたらされる祝福を見るために
ウェルフェアスクウェアを訪れた執事と教師, 56

ギリシャ人の夫婦を訪問したトーマス・S・モンソン, 56

メキシコ湾岸諸州のハリケーン被災者のために奉仕する
何千もの教会員, 60

疑い深い男性にジョセフ・スミスについて証した宣教師, 67

自分を傷つけた若者を救った女性, 81

ニュージーランド訪問中に病から癒されたキンボール大管長夫妻, 85

11歳のユリシス・ソアレスに宣教師推薦書を書くよう勧めた監督, 98

扶助協会に受け入れられていることを感じた若い女性, 110

ウィリー手車隊で生き残るために助け合った二人の姉妹, 110

「近づき難い」姉妹の友人となった献身的な訪問教師, 114



わたしたちの時代のための教え

✕ ルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンに関する以下の指示は、『教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への情報—2005年—2008年』にある指示に取って代わるものです。

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、「わた

したちの時代のための教え」を学ぶ時間です。「わたしたちの時代のための教え」のレッスンは、すべて最新の『リアホナ』総大会特集号の説教から教えることになります。総大会特集号は毎年5月と11月に出版されています。大会の説教はまた、www.lds.orgにアクセスすることにより、(多くの言語で)



インターネット上で見ることもできます。(訳注——日本語版は、www.ldschurch.jpに掲載されています。)

各レッスンは一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーク会長または地方部長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。ステーク会長または地方部長は、この責任を監督または支部長に委任することもできます。これらの神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日に同じ説教を学ぶことの意義を強調してください。教師はレッスンの力点をどこに置くかについて指導者に助言を求めてください。

第4日曜日の集会の出席者は、最新の教会機関誌の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。ワードまたは支部の指導者は、すべての会員が教会機関誌を読めるよう手配してください。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

- 説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。時には、大会説教を用いず、ほかの資料を使ってレッスンを準備したくなることがあるかもしれません。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。あなたの務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

- クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、原則と教義を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

- 原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

——教えている説教に含まれる原則と教義を探す。

——その原則と教義の意味について考える。

——その原則と教義に関する理解や考え、経験、証を分かち合う。

——その原則と教義を実生活に応用する。

- 『教師、その大いなる召し』の31–32章を復習する。

「何よりも大切なことは、生徒が御霊の影響を受け、福音をいっそうよく理解し、福音の原則を生活の中で応用することを学び、福音に従って生活しようとする決意を強めることです。」(『教師ガイドブック』12)

「わたしたちの時代のための教え」に関するご意見をお寄せください。

あて先——Curriculum Development, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City, UT 84150–3220, USA

電子メール——cur-development@ldschurch.org ■

月	第4日曜日のレッスン教材
2005年11月— 2006年4月	『リアホナ』2005年11月号掲載の説教*
2006年5月—10月	『リアホナ』2006年5月号掲載の説教*

*これらの説教は、www.lds.org にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で見ることができます。(訳注——日本語版は、www.ldschurch.jp に掲載されています。)

扶助協会の 「家庭・家族・個人を豊かにする 集会および活動」のガイド

2006年1月1日発効

「家庭・家族・個人を豊かにする集会」の目的は、イエス・キリストを信じる信仰を強め、子育てや家事の技術を教えることです。豊かにする集会は、姉妹たちが互いに交わり、学び、高められる時間です。プログラムには以下が含まれます。

- 集会——「家庭・家族・個人を豊かにする集会」は、全ての姉妹を対象として、(毎月ではなく)四半期に1回開きます。
- 活動——豊かにする活動は、必要や興味が似通った姉妹を対象として、定期的に(毎週、毎月、あるいはワード扶助協会指導者が決める頻度で)開きます。

集会と活動を計画するに当たり、指導者は、(1)ワードの姉妹たちの必要と興味を検討し、(2)神権指導者に相談し、(3)折りと目的をもって活動を計画すべきです(『教会指導手引き 第2部 神権指導者・補助組織指導者』224参照)。すべての姉妹が参加できるように努力してください。

必要な場合は『教会指導手引き 第2部』205ページにあるように、集会や活動の時間に子供のクラスを設けます。

「家庭・家族・個人を豊かにする集会」

ワードにおける豊かにする集会

ワードの扶助協会は、1年に4回、豊かにする集会を開くべきです。その中の1回は、扶助協会が組織

された1842年3月17日を記念する日とすべきです。

集会は、「家庭・家族・個人を豊かにする集会」の指導者が、扶助協会会長会の指示の下に計画します。助けとなるようにスペシャリストを割り当てることもできます(『教会指導手引き 第2部』202参照)。これらの集会で会長から報告を受けてもよいでしょう。

豊かにする集会は、日曜日と月曜日の夕べを除く時間に開きます。

ステーキにおける豊かにする集会

ワードの集会に加えて、ステーキは年に1回か2回の豊かにする集会を開きます。ステーキ扶助協会会長会は、必要に応じてステーキスペシャリストの支援を得ながら、これらの集会を管理します(『教会指導手引き 第2部』200参照)。これらの集会の一つは、中央扶助協会集会の年次放送の内容と関連づけて実施すべきです。

注——ここで述べたワードやステーキの集会は、これまでのワードやステーキの特別な行事に取って代わるものです(『教会指導手引き 第2部』208参照)。

豊かにする活動

豊かにする活動は、「家庭・家族・個人を豊かにする集会」ほど組織立てて行う必要はなく、共通の必要を抱えたり、興味や状況が似通ったりする姉妹たちが集まって行います。活動では、安全で、くつろいだ、魅力のある環境の下で、姉妹たちが家庭・家族・



個人を強める方法を学び、分かち合えるようにすべきです。

豊かにする活動は扶助協会会長会が計画し、必要に応じて、家庭・家族・個人を豊かにする集会の指導者やスペシャリストが加わります。指導者は活動を計画するに当たり柔軟に対応すべきで

す。この活動は、集会所やそのほかの適切な場所で、必要に応じて開くことができます。豊かにする活動の詳細は、『教会指導手引き 第2部』208ページ(訳注——「能力の向上を図る活動」の項)を参照してください。■

アロン神権者および若い女性用 リソースガイド

以下は『アロン神権1』および『若い女性1』のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。参考資料の中にある『神への務め』は、小冊子『アロン神権——神への務めを果たす』を表しています。また、『成長するわたし』は、小冊子『若い女性「成長するわたし」』を表しています。本ガイドに掲載された『神への務め』および『成長するわたし』の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。教えるためのそのほかのアイデアは『リアホナ』の1ページおよび『教師、その大いなる召し』を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、www.lds.orgを開き、世界地図をクリックした後、言語を選択してください。次に『リアホナ』をクリックし、2005年11月号を選択してください。(訳注——日本語の場合は、世界地図をクリックし言語を選択した後、国別サイトの「日本」を選択し、次に左のコラムにある「ライブラリー」を選択してください。後は上と同じように『リアホナ』をクリックし、2005年11月号を選択してください。)

リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、www.lds.orgを開き、“Gospel Library”(「福音図書館」)をクリックしてください。右のコラムに

最新のリソースガイドへのリンクがあります。

今後のリソースガイドは『リアホナ』5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では、www.lds.orgにアクセスすれば、教会機関誌をインターネット上で閲覧することができます。

『アロン神権1』

以下は『アロン神権1』第1課から第24課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。

第1課——神権

ジェフリー・R・ホルランド「最も際立った特性」『リアホナ』2005年5月号、43。神権の権能を受けることに関するホルランド長老の話をレッスンの導入として使います。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の1

『神への務め——祭司』「定員会活動」の4

第2課——執事としての召し

「執事定員会」『リアホナ』2005年1月号、42。この記事の質問を使ってチームとして働くことについて話します。

「神権の奇跡」『リアホナ』2004年4月号、26。執事の義務について話し合う際にアロン神権の責任に関する質問を使います。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の4

第3課——聖餐のパス

ダリン・H・オックス「アロン神権と聖餐」『リアホナ』1999年1月号、41。聖餐のパスについて話し合う際にこの記事を紹介することを検討します。

『神への務め——祭司』「定員会活動」の1

第4課——断食献金を集める

トーマス・S・モンソン「模範になさい」『リアホナ』2002年1月号、

115。断食献金に関するモンソン副管長の話は、断食献金に対する姿勢について教える際に使うことができます。

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」『リアホナ』2001年7月号、88。断食献金に関するワースリン長老の話は、「貧しい人に心を留める」の項を教える際に使うことができます。

『神への務め——執事』「定員会活動」の2

第5課——イエス・キリストを信じる信仰

ゴードン・B・シンクレイ「実生活の中のゴリアテに打ち勝つ」『リアホナ』2002年2月号、2。ダビデとゴリアテについて話し合う際にこの記事を使います。

ロバート・D・ヘイルズ「主イエス・キリストへの信仰を見いだす」『リアホナ』2004年11月号、70。レッスンの補足として、イエス・キリストへの信仰を築く方法に関するヘイルズ長老の提案を紹介します。

『神への務め——教師』「家族の活動」の1

第6課——聖霊

ボイド・K・パッカー「キリストの光」『リアホナ』2005年4月号、8。パッカー長老の話はレッスンの補足として使うことができます。

ボイド・K・パッカー「主のともしび」『聖徒の道』1988年12月号、32。パッカー長老の話は、聖霊を受ける備えに関する話し合いで使うことができます。

『神への務め——教師』「家族の活動」の5

第7課——大きな変化

トーマス・S・モンソン「完成への道」『リアホナ』2002年7月号、111。自己鍛錬に関するモンソン副管長の言葉を紹介します。

第8課——父親を敬う

ジェームズ・E・ファウスト「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊ぶ」『リアホナ』2001年7月号、53。神を敬うことについて話し合う際にファウスト長老の言葉を付け加えます。

ダリン・H・オックス「あなたの父と

母を敬え」『聖徒の道』1991年7月号、15。この課の「どのようにして父親を敬うか」の項で、同じテーマに関するオックス長老の言葉を紹介します。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の12

第9課——母親とその神聖な使命を尊ぶ

ラッセル・M・ネルソン「女性を敬う神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号、45。ネルソン長老の話は、母親を敬うことを教える際に紹介することができます。

第10課——家族の一致

スコット・ピーン「家族についての本音」『リアホナ』2003年3月号、30。家族はどのような形でわたしたちの成長を助けるか教える際にこの話を使うことを検討します。

『神への務め——祭司』「家族の活動」の4

第11課——「互いに愛し合いなさい」

ジョセフ・B・ワースリン「思いやりという美德」『リアホナ』2005年5月号、26。アンディーの物語の補足として、ワースリン長老が最初に紹介している話を使うことを検討します。

キャサリン・H・ヒューズ「キリストのような友、これに勝る恵みはない」『リアホナ』2005年5月号、74。事例研究の補足として、タイヤがパンクした人を助けたヒューズ姉妹のお父さんの話を使います。

『神への務め——執事』「社会の一員としての社交的な面での成長」の1



第12課——生ける預言者に従う

ジョセフ・B・ワースリン「信仰をたどって」『リアホナ』2003年7月号, 16。この課のまとめをより効果的にするために、この記事の最初と最後の段落を使います。

ディーター・F・ワークトドルフ「預言者の声により祝福を受け、世界に広がる教会」『リアホナ』2002年11月号, 10。レッスンの補足として、生ける預言者に対するワークトドルフ長老の証を紹介し^{あかし}ます。

R・コンラッド・シュルツ「従順による信仰」『リアホナ』2002年7月号, 32。従順の必要性を強調するために、この記事の従順に関する箇所を使います。

『神への務め——祭司』「家族の活動」の5

第13課——すべての会員は宣教師である

M・ラッセル・バラード「会員伝道のきわめて重要な役割」『リアホナ』2003年5月号, 37。福音を分かち合うことについて教える際に、バラード長老が語る会員伝道の方法を織り交ぜます。

ヘンリー・B・アイリング「真の友」『リアホナ』2002年7月号, 29。「福音を分かち合う方法は数多くある」の項を教える際に、ルーパー兄弟が友人に教会を紹介された話を使います。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の11

第14課——奉仕

L・トム・ペリー「仕えることを学ぶ」『リアホナ』2002年5月号, 10。レッスンのまとめとして、この記事の結論の部分を使います。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の9

『神への務め——執事』「定員会活動」の5

第15課——定員会の一致

L・トム・ペリー「定員会とは何ですか」『リアホナ』2004年11月号, 23。この課の兄弟愛の項を補足するために、兄弟愛に関する教えを選んで

紹介します。

『神への務め——教師』「社会の一員としての社交的な面での成長」の10

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の7

第16課——純粋な愛

ジーン・R・クック「慈愛——完全な永遠の愛」『リアホナ』2002年7月号, 91。堪え忍ぶことに関する箇所を使うと、この課の「愛は寛容であり、情け深い」についての話し合いをより良いものにすることができます。

ボニー・D・パーキン「その良い方——愛することを選ぶ」『リアホナ』2003年11月号, 104。マリヤとマルタに関するパーキン姉妹の話は、慈愛の特質についての話し合いの補足として使うことができます。

『神への務め——教師』「社会の一員としての社交的な面での成長」の4

第17課——日記

スペンサー・W・キンボール「永世にわたる記録」『聖徒の道』1977年6月号, 300。この課の冒頭の「話し合い」で、補足としてこの記事の内容を使います。

ジェフリー・S・マクレラン「今日と明日のための日記」『聖徒の道』1996年8月号, 30。日記をつけることについての話し合いをより良いものにするために、この記事の日記に関する箇所を使います。

『神への務め——祭司』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の7

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の8

第18課——知恵の言葉

中野正之「知恵の言葉に祝福されて」『リアホナ』2005年6月号, 32。知恵の言葉を守ることによって得られる祝福について話し合う際に、この話を付け加えます。

『神への務め——執事』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の12

第19課——誘惑に打ち勝つ



リチャード・G・スコット「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月号, 100。この課の冒頭の話し合いをより良いものにするために、この説教から適切と思われる箇所を使います。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の5

第20課——選択の自由を正しく用いる

「完成へと向かう歩み」『リアホナ』2005年2月号, 34。この課の最初の項を効果的に教えるために、この記事から「信仰によって歩む」の項を使うことを検討します。

第21課——清い思いと清い言葉

ダリン・H・オックス「ボルノグラフィ」『リアホナ』2005年5月号, 87。レッスンの補足として、ボルノグラフィに関するオックス長老の話を使います。

第22課——行動の指針となる聖約

デニス・B・ノイエンシュバンダー「儀式と聖約」『リアホナ』2001年11月号, 16。聖約に関するノイエンシュバンダー長老の説明を、レッスンを通じて使うことを検討します。

リチャード・J・メインズ「聖約を守る」『リアホナ』2004年11月号, 92。聖約を守った例としてヒラマンが率いた若い兵士たちに関するメインズ長老の話を紹介します。

『神への務め——祭司』「家族の活動」の2

第23課——導きを求めて祈る

ジェームズ・E・ファウスト「祈りという命綱」『リアホナ』2002年7月号, 62。ロールプレイング後の話し合いが終わってから、ファウスト長老の祈りに関する説明を付け加えることを検討します。

ラッセル・M・ネルソン「祈りがもたらす穏やかな力」『リアホナ』2003年5月号, 7。祈りの答えを受ける方法を説明するためにこの説教を使います。

『神への務め——執事』「神への務め達成証明書」を受けるための条件」の3

『神への務め——教師』「神への務め達成証明書」を受けるための条件」の3

『神への務め——祭司』「神への務め達成証明書」を受けるための条件」の3

第24課——キリスト中心の悔い改め

リチャード・G・スコット「良心の安らぎと心の安らぎ」『リアホナ』2004年11月号, 15。レッスンのどこかにスコット長老の勧めを付け加えます。

ジェイ・E・ジェンセン「どのように悔い改めたらよいかわかりますか？」『リアホナ』2002年4月号, 14。レッスンに出ている話の代わりに、伝道に出ようとしている若者の話をこの記事の中から使うことを検討します。

『神への務め——教師』「家族の活動」の5

『若い女性1』

以下は『若い女性1』第1課から第24課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。

第1課——神の娘

ゴードン・B・シンクレイ「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号, 112。神から賜った可能性を強調するために卒業アルバムの話を使



います。

デビッド・A・ベドナー「主の深い^{あわ}憐れみ」『リアホナ』2005年5月号, 99。天の御父とイエス・キリストがわたしたち一人一人を個人的に知っておられることを強調するために、神権指導者が見た夢の話を紹介します。

マーガレット・D・ナドール「たいまつを高く掲げる」『リアホナ』2002年7月号, 108。この課のまとめの補足として、この記事を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の1

第2課——救い主イエス・キリスト

大管長会と十二使徒定員会「主は生きておられる」『リアホナ』2004年12月号, 6。レッスンの補足として預言者と使徒^{あかし}の証を紹介します。

ジェームズ・E・ファウスト^{あがな}「贖い——最も大いなる希望」『リアホナ』2002年1月号, 19。贖いについて話し合う際にこの記事を使うことを検討します。

ロバート・D・ヘイルズ「主イエス・キリストへの信仰を見いだす」『リアホナ』2004年11月号, 70。レッスンの補足として、イエス・キリストへの信仰を築く方法に関するヘイルズ長老の提案を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『信仰』」の5

第3課——イエス・キリストの模範に従う

L・トム・ペリー「弟子となること」『リアホナ』2001年1月号, 72。この課の最後に出てくる話の代わりにこの記事を使います。

イレイン・S・ダルトン「主は皆さんの名前を御存じです」『リアホナ』2005年5月号, 109。イエス・キリストに従うことに関する話し合いの補足としてこの記事を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の4

第4課——聖霊との交わりを求める

ジェームズ・E・ファウスト^{きよみたま}「聖き御霊との交わり」『リアホナ』2002年3月号,

2。レッスンのまとめで「啓示を受けるには」の項を使います。

ボイド・K・パッカー「キリストの光」『リアホナ』2005年4月号, 8。キリストの御霊と聖霊^{たまもの}の違いを説明するためにこの記事を使います。

シャロン・G・ラーセン「日の栄えへの導き」『リアホナ』2001年7月号, 104。ジュニーの話の代わりにラーセン姉妹の体験談を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の5

第5課——神となる可能性に喜びを見いだす

ジェームズ・E・ファウスト「自分を何者であると考えていますか——青少年へのメッセージ」『リアホナ』2001年6月号, 2。人生の各段階で喜びを見いだす方法を話し合う際に、5つの方法を紹介します。

マーガレット・D・ナドール「女性であることの喜び」『リアホナ』2001年1月号, 17。レッスンの補足としてこの記事を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の1

第6課——今、喜びを見いだす

トーマス・S・モンソン「平和を見いだす」『リアホナ』2004年3月号, 3。どうしたら喜びを見いだせるか話し合う際に、この記事の3つの提案を紹介します。

ジェームズ・E・ファウスト「義にかなった神の娘の持つ徳」『リアホナ』2003年5月号, 108。この説教から10の徳を挙げ、これらの徳が喜びをもたらすのはなぜか話し合います。

「質疑応答」『リアホナ』2005年4月号, 22。欠点がありながらも幸せになるにはどうしたらいいか話し合うきっかけとして、この記事を使います。

第7課——ホームメイキング

トーマス・S・モンソン「幸福な家族のしるし」『リアホナ』2001年10月号, 2。この課のまとめとして、この記事から

幸せな家庭の4つの「しるし」を紹介します。

スーザン・W・ターナー「将来の母親を強める」『リアホナ』2005年6月号, 16。レッスンの代わりにこの記事を使うことを検討します。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸1, 2, 5

第8課——神から与えられた役割に対する態度

ジェームズ・E・ファウスト「義にかなった神の娘の持つ徳」『リアホナ』2003年5月号, 108。若い女性たちが神から与えられた自分の役割を知ることができるよう、この説教で挙げられている10の徳について話し合います。

M・ラッセル・バラード「義にかなった女性たち」『リアホナ』2002年12月号, 34。レッスンの補足としてこの記事を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の6

第9課——両親を敬う

トーマス・S・モンソン「模範になりなさい」『リアホナ』2005年5月号, 112。レッスンの補足として、両親を敬うことについて述べた箇所を使います。

「最大の幸福」『リアホナ』2003年6月号, 26。両親を敬うことについて述べた言葉をプリントして配るか、またはレッスンの導入として使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の5

第10課——家族を支え、助ける

ジェームズ・E・ファウスト「家庭の夕べによって生活を豊かにする」『リアホナ』2003年6月号, 2。9の提案について話し合い、家族の関係を強めるために何ができるかを考えます。

カミール・コール・ターベット「マイケルの書き置き」『リアホナ』2001年5月号, 23。この記事を読んで、「きょうだいを助け励ます」ことについて話し合いを始めます。

「質疑応答」『リアホナ』2004年2月

号, 30。「父親を支え助ける」ことに関する話し合いの補足としてこの記事を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の1-7。

第11課——自立心を養う——その1

ボイド・K・パッカー「霊のわに」『リアホナ』2002年10月号, 8。霊の危機に立ち向かう方法を話し合うために、詩の代わりにこの記事を使うことを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の4

第12課——自立心を養う——その2

ジェームズ・E・ファウスト「自分を何者であると考えていますか——青少年へのメッセージ」『リアホナ』2001年6月号, 2。スキットの代わりに、この記事から実例を挙げます。

第13課——神権者を支持する

ラッセル・M・ネルソン「個人の神権の責任」『リアホナ』2003年11月号, 44。どうすれば神権者を支持することができるか話し合う際に、5つの個人の目標を復習します。

J・リチャード・クラーク「神権を尊ぶ」『聖徒の道』1991年7月号, 43。若い神権者を強める方法について話し合う際に使います。

第14課——家庭における族長制度

L・トム・ペリー「父親、永遠の召し」『リアホナ』2004年5月号, 69。現代の父親が持つ役割について話す際に使います。

第15課——メルキゼデク神権

ボイド・K・パッカー「すべての長老、そして姉妹が知っておくべきこと——神権政体の原則に関する手引き」『聖徒の道』1994年11月号, 14。レッスンの補足として使います。

ジョン・H・グローバーク「神権の力」『リアホナ』2001年7月号, 51。「メルキゼデク神権の職に召されることは大きな祝福である」の項を教える際に補足として使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の5

第16課——女性と神権者

ジェームズ・E・ファウスト「父親、母

親、結婚』『リアホナ』2004年8月号, 2。
必要に応じてレッスンの補足として使
います。

シェリー・L・デュー「人が独りでい
るのは良くない」『リアホナ』2002年1
月号, 13。「女性と男性とその神権に
重要な関係を持っている」の項を教
える際に補足として使います。

第17課——聖約と儀式の目的

デニス・B・ノイエンスンバウダー「儀
式と聖約」『リアホナ』2001年11月号,
16。聖約を守る責任について話し合
う際に使うことを検討します。

F・デビッド・スタンレー「最も大切な
一歩」『リアホナ』2001年10月号, 34。
聖約を守ることから得られる力につ
いて説明するためにこの記事を使
います。

『成長するわたし』『徳質の体験
——『誠実』』の1

第18課——神殿結婚——永遠の家族 への必要条件

ゴードン・B・ヒンクレ「永遠に続く
結婚」『リアホナ』2003年7月号, 2。レ
ッスンを通じて、出てくる物語に代えて
この記事を使います。物語の効果を
高めるために使うこともできます。

ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福
を受けるための個人の備え」『リアホ
ナ』2001年7月号, 37。神殿結婚の
備えに関して述べている箇所から引
用します。

結婚・永遠の家族に関する特集号
『リアホナ』2004年10月号。レッスンを
補足するために使います。『成長する
わたし』『徳質のプロジェクト——『誠
実』』の黒丸5

第19課——個人の記録

ジェームズ・E・ファウスト「自分とい
う驚くべき存在」『リアホナ』2003年11
月号, 53。「先祖の記録は喜びと力を
もたらす」の項を教える際に使います。

ボイド・K・バック「あなたの家族
歴史——始めること」『リアホナ』2003
年8月号, 12。質問の後、家族歴史
を始める方法を教えるために使
います。

『成長するわたし』『徳質のプロジェ
クト——『信仰』』の黒丸3

第20課——手を差し伸べよう

M・ラッセル・バラード「包容の教義」
『リアホナ』2002年1月号, 40。だれと
でも仲良くするよう勧めるために、この
説教から実例を選んで紹介します。

『成長するわたし』『徳質の体験
——『神から受け継いだ特質』』の3

第21課——正しい模範の与える影響

トーマス・S・モンソン「模範になりな
さい」『リアホナ』2002年1月号, 115。
キャスパール姉妹の話の代わりにこの
説教から実例を選んで使います。

ジェームズ・E・ファウスト「義にかな
った神の娘の持つ徳」『リアホナ』
2003年5月号, 108。レッスンの応用につ
いて教える際に、ファウスト副管長
が語る10の徳を紹介します。

第22課——悔い改め

リチャード・G・スコット「良心の安ら
ぎと心の安らぎ」『リアホナ』2004年11
月号, 15。「常に悔い改めることが必
要である」の項を教える際にスコッ
ト長老の勧めを紹介します。

ジェイ・E・ジェンセン「どのように悔
い改めたらよいかわっていますか？」
『リアホナ』2002年4月号, 14。最初
の項に悔い改めの条件を組み込み
ます。

第23課——悔い改め

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア
「赦し」『リアホナ』2003年2月号, 26。
救い主が赦しを教えられた方法の項
を教える際に、補足としてこの記事
を使います。

第24課——祈りと瞑想

ジェームズ・E・ファウスト「祈りという
命綱」『リアホナ』2002年7月号, 62。
H・パーク・ピーターソンの話の代わり
に、祈りに関するファウスト副管長の
提案を紹介することを検討します。

ラッセル・M・ネルソン「祈りがもたら
す穏やかな力」『リアホナ』2003年5月
号, 7。祈りに関するネルソン長老の
教えを、最後の項を教える際に紹介
します。

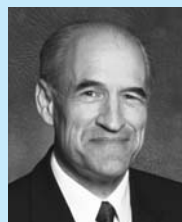
『成長するわたし』『徳質の体験
——『信仰』』の1

中央補助組織会長会

日曜学校



第一副会長
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メルリ



第二副会長
ウィリアム・D・オズワルド

扶助協会



第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ



会長
ボニー・D・パーキン



第二副会長
アン・C・ピングリー

若い男性



第一副会長
ディーン・リード・バージェス



会長
チャールズ・W・ダルクヴィスト



第二副会長
マイケル・アントン・ナイダー

若い女性



第一副会長
ジュリー・B・ベック



会長
スーザン・W・タナー



第二副会長
イレイン・S・ダルトン

初等協会



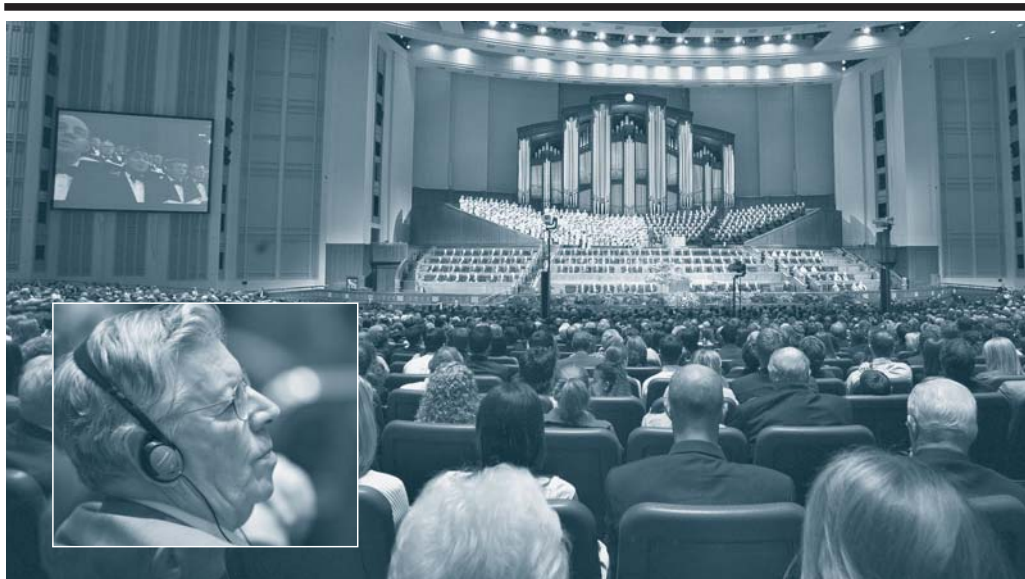
第一副会長
マーガレット・S・リファース



会長
シェリル・C・ラント



第二副会長
ビッキー・F・松森



カンファレンスセンター(上)において80か国語のうちから言語を選んで大会の説教を聞く会員(挿入写真)。

会員たち、総大会と発表を80の言語で聞く

80の言語に通訳された第175回半期総大会の期間中に、大きな発表が二つなされた。新たに建設される二つの神殿と、ジョセフ・スミスの生誕記念特別行事である。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は大会の開会に当たり、ソルトレーク盆地西部に位置するユタ州サウスジョーダンに新しい神殿を建設すると発表。さらに、会員数の増加によって生じた必要を満た

すため、ソルトレーク盆地の南西部に神殿用地をもう一か所入手したことも告げた。

ヒンクレー大管長は結びの言葉で、ジョセフ・スミスの生誕200年を記念して、預言者ジョセフの出生地であるバ

ーモント州を訪れる計画があると発表した。かつてジョセフ・F・スミス大管長も、預言者ジョセフの生誕100年を記念して同地を訪れている。二人の副管長と十二使徒定員会の会員たちは、カンファレンスセンターで行われる記念放送に出席する。

今回の総大会の同時通訳は過去最多となる80の言語で行われた。通訳者はカンファレンスセンターおよび26か所の海外のスタジオに配置された。総大会のすべての部会は、教会衛星システムを通じて、81か国、約6,000か所の、教会所有の施設で放映された。インターネットを通じてリアルタイムで放送された音声は、ほとんどの部会において最大で61の言語で聞くことができた。衛星放送その他の放送手段が使えない地域の教会ユニットには、DVDやビデオテープが送られることになっており、最終的には160を超える国々の会員が総大会の模様を視聴できることになる。■

10年の節目を迎える「家族——世界への宣言」

教会機関誌 ニコール・シーモア

ゴードン・B・ヒンクレー大管長が1995年9月23日に「家族——世界への宣言」を発表してから10年がたった。この間、大管長会および十二使徒定員会によって発行されたこの宣言は家族を擁護するという点において規範となってきた。

この宣言に関して十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は次のように述べてい

る。「この宣言は当時も今も、家族を守り強めるようにと、ラッパの音のように明快に呼びかけています。道徳観が低下し、優先順位が混乱し、基本単位である家族がないがしろにされ、崩壊の危機に瀕している世界に、厳しい警告を發し続けています。」(今月号41ページ参照)

福音の真理を基とするこの宣言は、家庭や地域社会、さら

には家族に関する国際会議において指針となり、また、地域や政治の場における指導者の間では力強い柱であり、伝道の道具であり、教会がさらに家族を強調する際の土台となっている。

時代に先んじる警告

家族に対する価値観が低下している現代の社会にあって、この宣言は義を土台とした家

族を築くことの大切さについての永遠の真理を伝えている。一般社会が家族の衰退を認識する前にこの宣言は発表された、とブリガム・ヤング大学で家族生活学部の教授を務めるデビッド・C・ドーラハイトは語っている。

1995年の中央扶助協会集会の場でこの宣言を発表するに先立って、ヒンクレー大管長は社会の現状を次のように説明した。「現代は混乱の時代、価値観の揺らぐ時代です。甲高い声が、時に裏打ちされた行動の規範に反旗を翻し、これ

だ、あれだと叫びます。わたしたちの社会の倫理的な基盤は大きく揺らいでいます。」「(『世の策略に対抗して立つ』『聖徒の道』1996年1月号, 110)

宣言は家族が弱体化しつつある社会にあって、家族の神聖さを高める教義を明確に述べている。家族の弱体化の理由には、不貞、離婚、^{どうせい}同棲、虐待、同性愛、堕胎、10代の妊娠、ポルノグラフィ、子供の不従順、経済的困難、子供を産み育てることを好まない夫婦の増加など、ほかにも多くのものがある。

十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老は、永遠を視野に入れたこの宣言により、家族関係の重要性を理解するうえでよりよい視点に立てると説明している。「家族が永遠に結び固められることについて述べた宣言の言葉を聞いて信じる^{おきなご}幼子は、家族関係が墓を超えて永続するための儀式が執行され、聖約が与えられる聖なる神殿に参入することを求める人生を歩み始めることでしょ。」(『家族』『リアホナ』1998年10月号, 16)

家族にとっての指針

ヒンクレイ大管長は語った。「皆さんの子育てがイエス・キリストの福音に添った、愛と高い理想に基づいたものであればあるほど、子供たちの生活に訪れる平安の度合いは大きくなります。」「(『聖徒の道』1996年1月号, 112)

宣言ははっきりと述べている。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」「(『リアホナ』2004年10月号, 49)

グアテマラのグアテマラ・シティー・マリスカルステーキ、パノラマワードのビルナ・ロドリゲスはこの宣言が混乱の世を導く指針であると教会機関誌に語った。「この宣言によってわたしたちは、様々な活動の優先順位を決め、自らの責任を知り、祝福に気づくことができます。」

台湾^{トウエン}桃園ステーキ、桃園^{トウエン}第3ワードの何李梅珍^{ホーリー・メイ・チェン}は、家族の関係が信仰や忍耐、愛といった神聖な資質を高めるのに役立つことをこの宣言が教えてくれたと言っている。「宣言に従って自分自身を高めようとするとき、ほんとうの幸福を経験することができます。」

ブリガム・ヤング大学で法学の教授を務めるリチャード・G・ウィルキンスは、この宣言に答えが見つかると話す。「実際、……家庭は男女を問わず、また子供にとっても最高の居場所なのです。家庭には問題があるもので、問題は解決されなければなりません。……家族の中でうまくいかないことにどう対処したらいいか教えてくれるのがこの宣言です。そしてこの宣言が語りかけているのは、家庭は避け所、安らぎの場となることができ、またそうなるべきであるということなのです。」

世界の指導者たちへの呼びかけ

1995年以来、この宣言は77の言語に翻訳され、数多くの世界の指導者たちに寄贈されてきた。宣言は市民と政府の指導者に家族の価値を守るように呼びかけている。「わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定



家族に関する宣言は10年間、家族はもとより世界の指導者の指針となってきた。

められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものがあります。」

「この10年の間に、〔家族を擁護する〕団体が数多く設立されました。」とドーラハイト兄弟は言う。そうした組織の多くが家族に関する末日聖徒の信条をよく知っている。ドーラハイト兄弟はさらにこう語る。「この宣言は、結婚と家族生活を支援する声明を作るための土台として、あるいは少なくとも、言葉遣いや発想のよりどころの一つとして利用されているのです。」

国連総会は2004年12月6日、2004年11月のドーハ宣言の内

容を決議した。教会の宣言の根幹となる教えの多くがドーハ宣言には盛り込まれており、結婚は対等のパートナーとして男女の間で行われるものであるという原則は両方の宣言に共通する概念の一つである。

2004年8月にスイスのジュネーブで開かれた家族に関するヨーロッパ地区対話会議では、ボニー・D・パーキン中央扶助協会会長に発言の機会が与えられた。彼女のスピーチの論拠となっていたのが「家族——世界への宣言」であった。

調査研究と擁護のための指針

七十人会長会のメルル・J・

ベイトマン長老はこう語っている。「この宣言は家族生活の手引きとしてだけでなく、家族に関する調査研究と擁護の指針としての役割も果たしています。」(“The Eternal Family”, *BYU Magazine*, 1998年冬号, 29)

世界家族方針センターの実務運営ディレクターであるウィルキンス兄弟によると、このセンターの目的は「この宣言の原則に対するしっかりした学術的なバックアップをブリガム・ヤング大学 (BYU) や世界中から得ること、さらに、それを世界の指導者に知ってもらうことです。なぜなら、宣言の価値を理解し、共感する人も多いからです。」道理にかなった論拠と話し合いによって、広く国境を越えて人々から家族に対する支援を得ることができるようになると、ウィルキンス兄弟は語る。

BYUは毎年、各国から40～50人の大使を招待して、家族をテーマにした協議会を主催している。この調査研究を主とする協議会において、それぞれの指導者にこの宣言が渡される。ウィルキンス兄弟はこう話す。「わたしたちは大使の皆さんに宗教を語ることはしません。男女の間においてのみ行われる結婚はほかに比べようのないものであり、いかなる形の関係にも勝って社会と個人に建設的な結果を生み出すものです。その点について話し合うために著名な社会学者に参加してもらうのです。」

世界への旗印

世界への宣言に関して何冊かの本を編集者あるいは共編者として出版しているドーラハ

イト兄弟はこう言っている。「胸と心を開いてこれを読む人には御霊が触れるでしょう。なぜ正しいと感じるのかは分からないかもしれませんが、しかし、ちょうど聖文を読むときと同じように、正直な心と思いを持つなら、確かに正しいと感じるのです。」

エルサルバドルでは国内全土で、教会の会員たちが学校の理事たちと連携して道徳を教えている。そのクラスの一つが家族についてであり、「家族——世界への宣言」をはじめとする教会の教材が使われている。

エルサルバドルに住む一人の教師はある教会堂のオープンハウスに出席した。学校で道徳のクラスを見たことがあったからである。彼女はこう話した。「生徒たちの生活に変化が見えました。それで『わたし自身の家族にとって助けになるものがないか、行って確かめてみよう』と考えました。オープンハウスの後、やるべきことはただ変わろうと決心することだけだと思いました。わたしの子供たちのために助けが必要ですから、宣教師を受け入れたいと思います。」(*Central America News of the Church, Liahona*, 2004年1月号, N13)

パラード長老はこう語っている。「今日、わたしは教会員に、全世界の献身的な両親、祖父母、親族の人々に、この大いなる宣言を固く守り、司令官モロナイの『自由の旗』のようにこの宣言を掲げ、その教えに従って生きる決意をするよう呼びかけます。」(今月号41ページ参照) ■

2006年ミューチャルテーマ、青少年に「立って光を放つ」よう勧める

世界中の若い男性と若い女性の2006年ミューチャルテーマは次のとおりである。「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである。」(教義と聖約115:5)

中央若い男性および中央若い女性会長会が発行した文書にはこのように記されている。「わたしたちは、主の光を生活に輝かせることによって救い主に愛を示す、勇気ある青少年に感謝しています。」

青少年を教える指導者は、このテーマをミューチャルやその他の青少年活動で強調するよう奨励されている。このテーマは青少年が話や証を準備する際にも活用でき、ダンスや音楽のイベント、ユースカンファレンス、キャンプなどの活動でも焦点を当てることができる。

中央若い男性会長会と中央若い女性会長会は、2005年に預言者ジョセフ・スミスと福音の回復を祝った経験を土台にして、青少年も指導者もこのテーマに取り組んでほしいと述べている。

前述の中央会長会からの書面にはこうある。「回復された福音に関する証が活気づけられ、強められた今、世界の人々にわたしたちの気持ち、経験、才能を分かち合うことができます。輝く模範になること、すなわち福音の標準に従って生活



2006年、世界中の青少年は「立って光を放ちなさい」というテーマに焦点を当てる。

し、人に奉仕することによって福音の回復に対する証を分かち合うことは栄えある責任です。」

青少年は、奉仕し、福音を分かち合う方法を考えたり、『若人の強さのために』に示された福音の標準に従って生活する方法を検討したりするときに、2006年のテーマを活用することができる。

文書にはこう書かれている。「主が皆さんを愛し、御自身の王国を築くために皆さんを必要としておられることを証します。皆さんは模範によって神の王国における日の栄えへと続く道を人々に示し、暗闇を退ける光になることができます。皆さんを通して主の御霊が福音の回復を証し続けられるように『立って光を放つ』てください。」 ■



「モルモン」の手により」から、模写は禁じられています

「出て来なさい」ウォルター・レーン

自由の旗を作った司令官モロナイは「民の中に出て行き……その裂いた衣を空中で打ち振り……言った。

『見よ、この地にこの旗を立てて守ろうとする者たちは皆、主の力をもって出て来なさい。

そして、主なる神から祝福を頂けるように、自分たちの権利と宗教を守るという聖約を交わそうではないか。』（教義と聖約46：19-20）

「そこで、主は彼らに言われた。

『立ってわたしのもとに来て、
あなたがたの手をわたしのわき
に差し入れ、またわたしの両手と
両足の釘の跡に触れて、わたし
がイスラエルの神であり、全地の
神であること、そして世の罪のた
めに殺されたことを知りなさい。』

……彼らは一人ずつ進み出て、
全員がこのようにし、自分の目で
見、自分の手で触れ、この御方が、
将来来られると預言者たちによ
って書き記された主であられる
ことを、確かに知って証した。」
(3ニーファイ11:13-15)

